津島九反坪遺跡

福岡県筑後市大字津島所在遺跡の埋蔵文化財調査

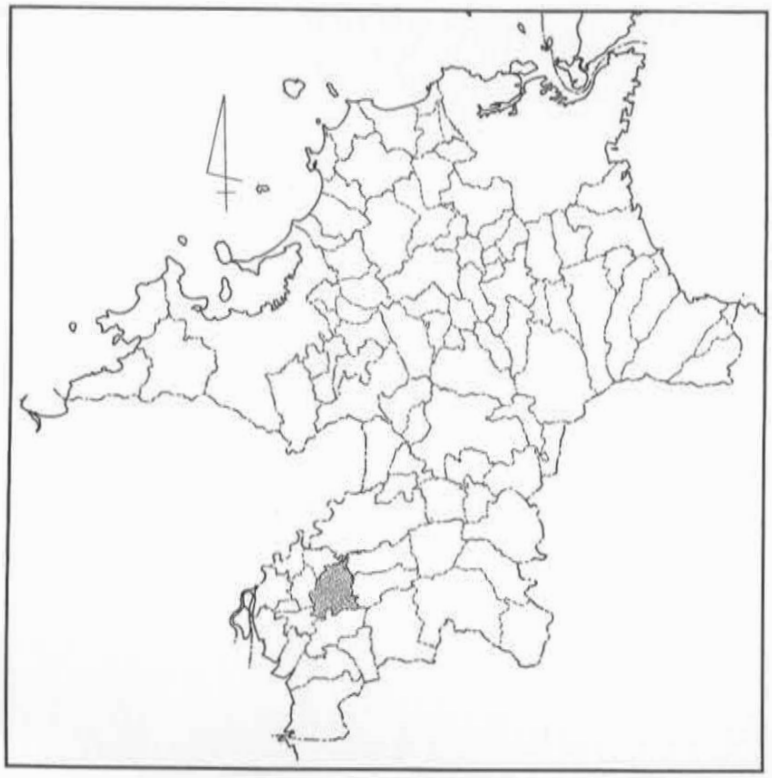
筑後市文化財報告書
第42集

2002

筑後市教育委員会

津島九反坪遺跡

福岡県筑後市大字津島所在遺跡の埋蔵文化財調査



2002

筑後市教育委員会

序

筑紫平野の中央部、矢部川中流域北岸に位置する筑後市は、古代より水稲耕作の適地として開発が進み、また交通の要衝として多くの人々が往来することにより、歴史を刻んできました。

この度報告する津島九反坪遺跡は筑後市の南部に位置し、弥生時代を中心とした遺跡であることが確認されました。特に弥生時代の溜井の確認は報道機関が伝えたように、弥生時代の低平地での農業用水の確保を考える上で、貴重な資料を提示しております。また、発掘調査から報告書作成に至るまで、福岡八女農業協同組合をはじめとする各関係機関、工事関係者、有職者各位には多大な御協力と御援助を頂きました。ここに心から感謝を表する次第であります。本書が文化財保護への理解を深める一助となり、併せて研究資料として御活用いただければ幸いです。

平成14年３月

筑後市教育委員会

教育長　牟田口　和良

例　言

1．　本書は、宅地造成に伴い、福岡八女農業協同組合の依頼を受けて、筑後市教育委員会が平成12年度に大字津島において実施した埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2．　本書使用の遺構実測図は永見秀徳・上村英士・柴田剛・立石真二・高田知恵・奥村太郎が製作し、浄書は立石、平塚あけみ、横井理恵がこれを行なった。
3．　本書使用の遺物実測図は上村・立石・平塚が製作し、浄書は平塚、横井がこれを行なった。
4．　本書使用の写真は永見・上村・柴田・立石が主に撮影した。なお遺跡の気球写真は㈲空中写真企画に依頼した。
5．　本書使用の標高は海抜高であり、方位G.N.である。
6．　本書におけるグリットはX＝19656、Y＝-47136を起点（AA1）とし、3ｍ毎に北へ2、3、4…、西へAB、AC、AD…と設定した。従ってDK51はX＝19809、Y＝-47400にあたる。
7．　本書に掲載した遺構の縮尺は1／40を基本とする。
8．　本書に掲載した遺物の縮尺は土製品・陶磁器・木製品は1/4、石製品は1/2を基本とする。
9．　本書の執筆は第3章第1節を上村、第4章1を永見、その他を立石が担当した。編集は立石が行なった。
10．　出土した木製品の一部については株式会社吉田生物研究所に保存処理を依頼した。
11．　本書に関わる図面・写真・遺物などの資料は筑後市教育委員会で保管・管理され、今後公開・活用される予定である。

目　次

第1章　調査経過と組織 …… 1
第2章　位置と環境 …… 5
第3章　調査成果 …… 7
第4章　結語 …… 119
付　　出土遺物一覧表 …… 121
図　版

第1章　調査経過と組織

1　調査に至る経過

津島九反坪遺跡は福岡県筑後市大字津島に所在する。遺跡名称は対象地区の大半を占める字九反坪の地名を取り、津島九反坪遺跡とした。ここは近年「県営担い手育成基盤整備事業西部第２地区」として圃場整備が進められており、遺跡所在地は住宅用地として計画がされていた。この住宅用地はJR船小屋駅の西南側に位置し、山門郡瀬高町大字本郷にまたがる広大なもので、筑後市側の対象面積は約38,532㎡である。

平成10年２月13日、福岡県筑後川水系農地開発事務所（以下「甲」とする）より筑後市教育委員会社会教育課社会教育係（以下「乙」とする）に対し、該当地に対する埋蔵文化財に関する申請がなされた。
平成10年３月～４月、「乙」は申請地に対し、試掘調査を行なった。
平成10年６月、「乙」は引き続き試掘調査を行ない、弥生土器等が採集された。
平成10年11月20日、「甲」より「乙」に対し、該当地に対する埋蔵文化財に関する申請がなされた。

試掘調査の結果、「乙」は対象地全域において遺構の存在を確認し、この旨を返答した。遺構は北側で地表より80～90cm、南側で160～170cmの深さであった。

平成12年５月24日、福岡八女農業共同組合（以下「丙」とする）より「乙」（平成11年度より社会教

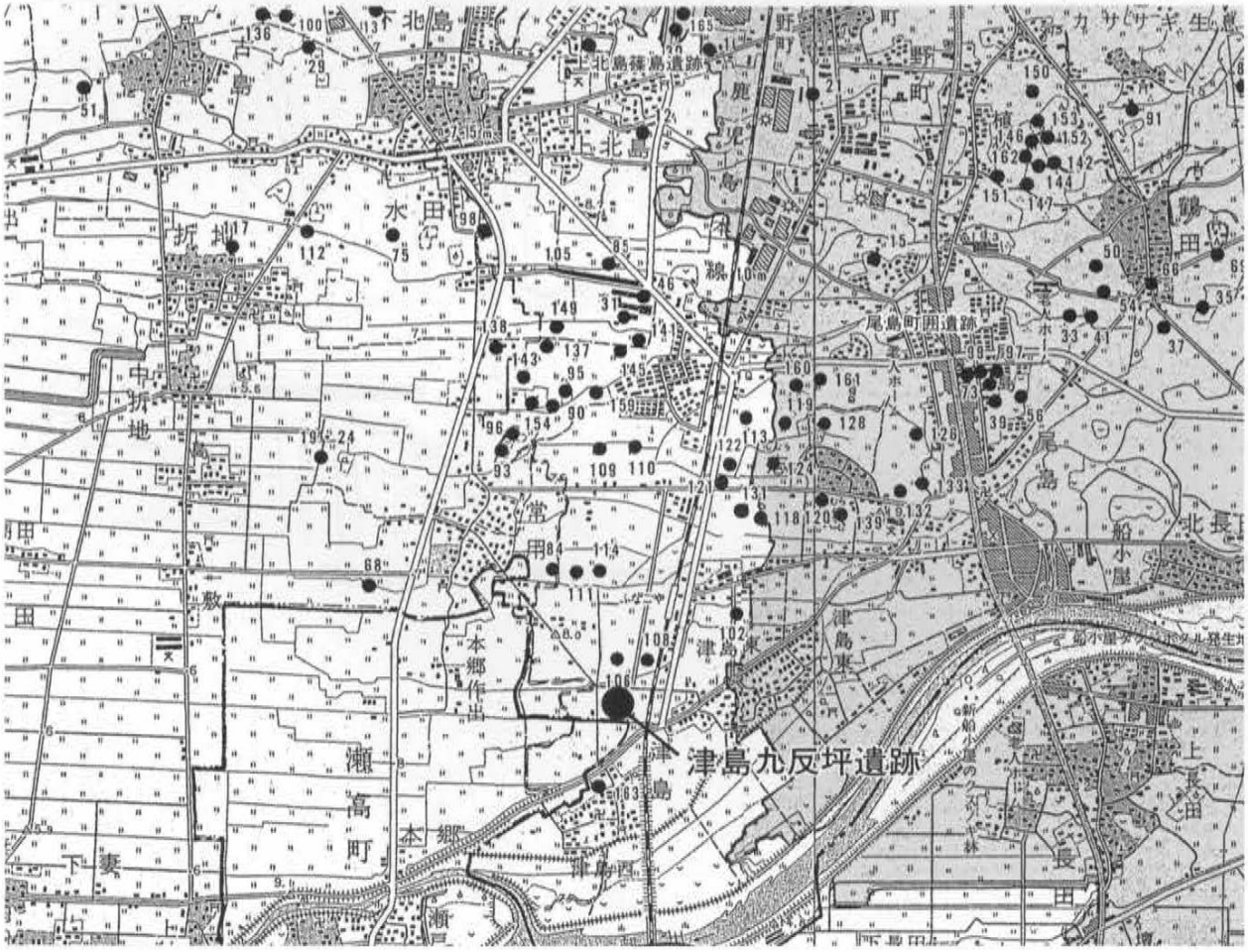


Fig.1　津島九反坪遺跡位置図（S＝1/25,000）
（遺跡番号は筑後市文化財調査報告書第34集を参照）

育係より文化係に改称）に対し、該当地の埋蔵文化財に関する申請がなされた。また、調査に至る協議の間に南側の瀬高町部分では遺構は確認されていないことを工事主体者である「甲」より聞いている。「乙」では先の試掘結果を「丙」に対し同年6月20日付で伝え、発掘調査が必要である旨を伝えた。その後両者は協議を行ない、開発地区には全面に盛り土を行なうものの、道路部分は恒久的構築物のため発掘調査が必要であるとの結論に達し、この部分の発掘調査を行なうこととなった。調査期間は平成12年4月17日から同12月28日までである。

2　調査組織

津島九反坪遺跡に関わる調査組織は以下の通りである。なお、文化関連業務は機構改革に伴い平成11年度より社会教育係から文化係が主管している。

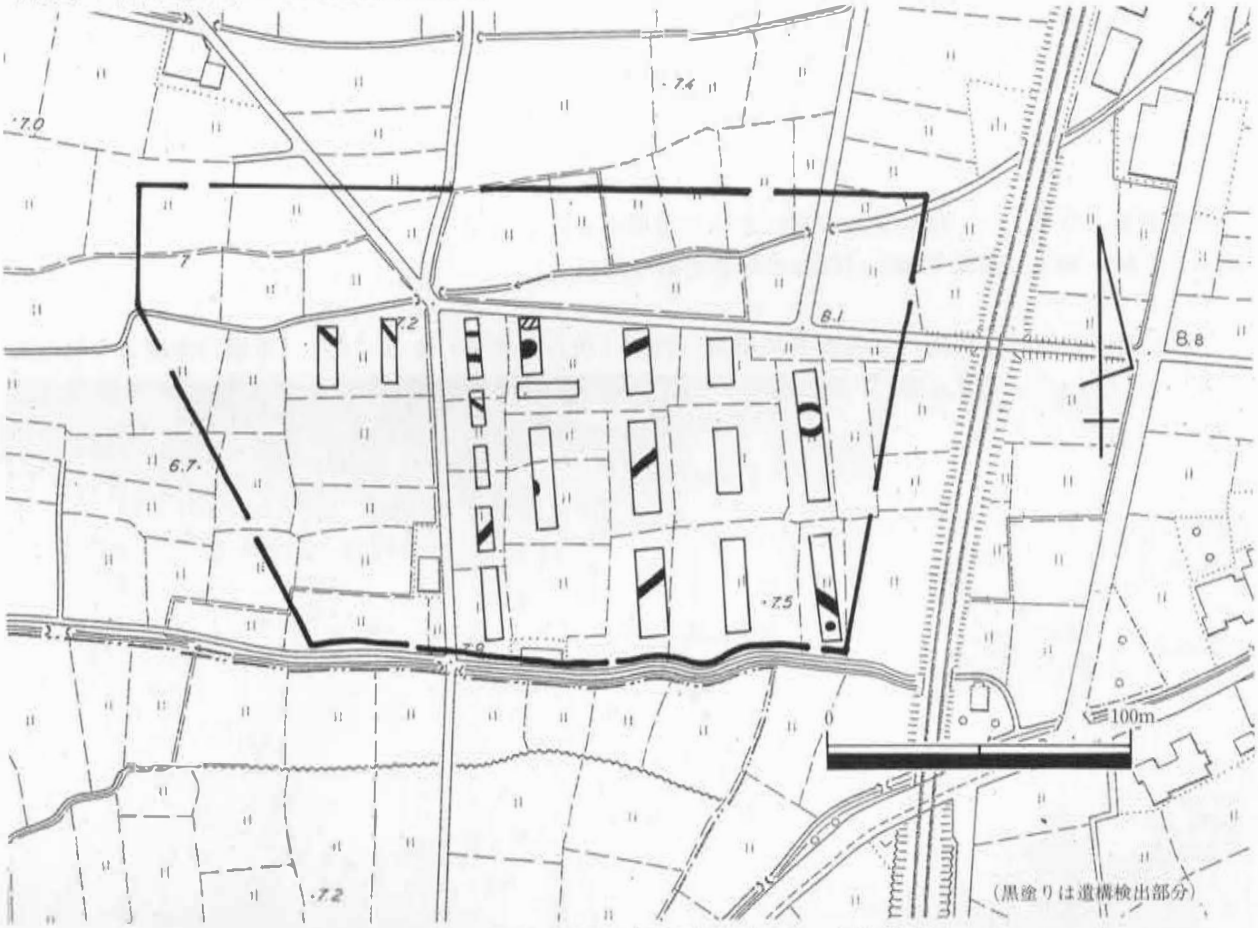


Fig.2　平成9年度試掘調査区位置図（S＝1/2,500）

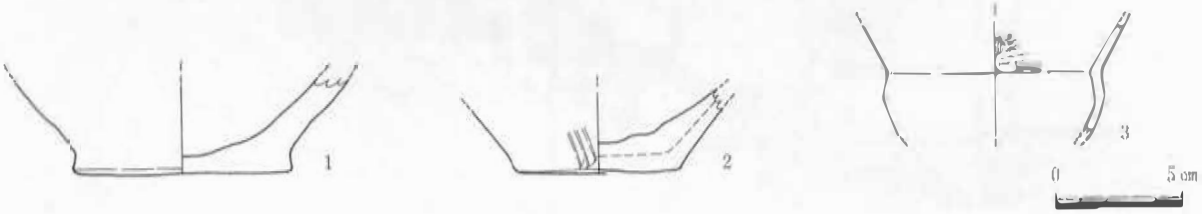


Fig.3　試掘調査出土遺物（平成12年6月出土・S＝1/3）

調査主体	筑後市教育委員会
教育長	森田　基之（～平成11年３月）
	牟田口和良（平成11年４月～）
教育部長	津留　忠義（～平成11年３月）
	下川　雅晴（平成11年４月～）
社会教育課長	山口　逸郎（～平成11年３月）
	庄村　國義（平成11年４月～平成13年４月）
	松永盛四郎（平成13年４月～）
社会教育係長	田中　清通（～平成11年３月）
文化係長	田中　傑一（平成11年４月～平成12年３月）
	成清　平和（平成12年４月～）
文化財専門職	永見　秀徳　小林　勇作　田中　剛（～平成11年３月）　上村　英士
文化財学芸員	柴田　剛　立石　真二
調査補助員	高田　知恵
調査作業	池末　桂子　石橋香代美　井上むつ子　牛島　蓉子　江崎　末廣
	江崎トシ子　小野カトリ　加藤　礼子　古賀　明美　城崎マスヨ
	角　里子　瀬戸八重子　田島ヤス子　田島　好江　田中ミドリ
	壇　ちゑ子　鶴　芳輝　富安　英子　中富　捷士　馬場　孝司
	馬場千鶴子　東　末子　平井　正芳　平井　良治　平尾　仁子
	深町スミ子　深町美智子　村上　幸子　村上美津子　本村　修一
	森山美津子　矢次　和枝　渡辺　茂喜　渡辺　泰子

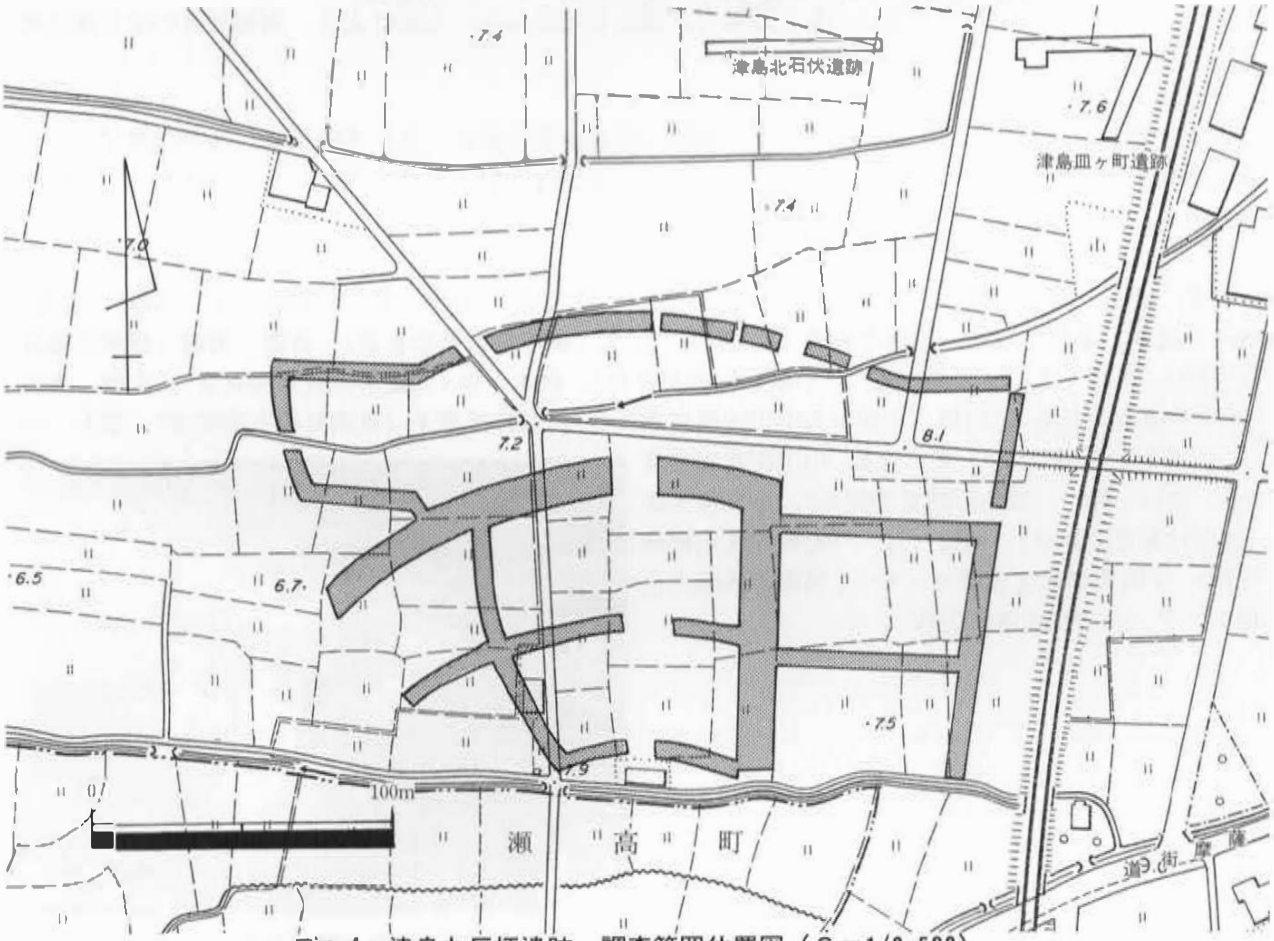


Fig.4　津島九反坪遺跡　調査範囲位置図（S＝1/2,500）

調査作業協力　奥村　太郎
整理補助員　仲　文恵　平塚あけみ
整理作業　荒巻　悦子　妹川　玲子　野口　晴香　野間口靖子　湯川　琴美
横井　理絵　福田　潤子　佐々木寿代

3　調査経過

津島九反坪遺跡において筑後市教育委員会では対象地区を東と西に２分し、調査を行なった。東区の調査は上村英士・柴田剛、西区は永見秀徳・立石真二がそれぞれ担当し、東区から調査を行なった。なお、調査後は協議の結果、業者側で埋め戻すため、調査区を開けたままで引き渡すこととなった。

東区は平成12年４月17日より重機による作業を開始し、作業員による調査は６月２日から本格的に始められた。東区の調査期間は梅雨の時期と重なり、行き場のない工区内の雨水が調査区へ流れ込んだため、排水と流入土の除去に多大な時間を割かれてしまった。

西区での作業は東区の調査終了を受けて本格的に開始された。西区は当初包含層と考えていた部分が溜井になる可能性があり、さらに掘立柱建物との切り合いが確認されたためこれらの検出、調査に多大な時間を浪してしまった。また、西区中央部の地山は軟質な青灰色粘土であり、遺構の検出・掘り下げ・記録にも苦労する有り様であった。さらにこの青灰色粘土の下層は湧水砂礫層であり、調査区の深い部分では周囲の土の重みにより粘土層が浮き上がり調査が不可能な部分も発生した。開発該当地の西端も本来は調査の予定であったが、予定区画に平行に位置する畦道を地滑りにより破壊するおそれもあったため、この部分の調査は行なわないこととなった。溜井に関しては調査の結果、国内最古例に属する可能性があったので、10月中旬にこの旨を各報道機関に発表した。調査は12月27日に終了し、平成13年１月10日、開発業者立ち会いのもと現場引き渡しを行なった。これにより、発掘調査の全日程を終了した。

なお、調査および報告書作成に際しては、福岡八女農業共同組合、[illegible]各[illegible]関係機関より多大な御協力を頂いた。また、下記の方々・各機関からは調査・整理作業に関して貴重な御教示・御指導を賜った。記して謝意を表したい（順不同、敬称略）。

水野　正好、西山　要一（奈良大学）、佐田　茂（佐賀大学）、本田　光子（別府大学）、橋口　達也、佐々木隆彦、小田　和利（福岡県教育庁）、[illegible]　[illegible]校（熊本県教育委員会）、吉留　秀敏（福岡市教育委員会）、片岡　宏二、松見　裕二（小郡市教育委員会）、白木　守（久留米市教育委員会）、大塚　恵治（八女市教育委員会）、山田　元樹（大牟田市教育委員会）、石井芙美子（夜須町教育委員会）、塚本　映子（三潴町教育委員会）、東　竜雄（山川町教育委員会）、清田　純一（城南町教育委員会）、小谷柱太郎（西原村教育委員会）、狭川　真一（元興寺文化財研究所）、守山市埋蔵文化財センター、福岡市埋蔵文化財センター、吉田生物研究所

発掘体験の様子

第２章　　位置と環境

１　地理的環境

筑後市は福岡県の南西部、筑後平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市の北部には倉目川、中央部には花宗川や山ノ井川、南部には一級河川の矢部川があり、それぞれ西流している。北部地域は耳納山地から派生した八女丘陵が西へと延び、灌漑用の溜池が点在している。一方、低位扇状地である東部や低地である南西部には各河川より派生した農業用水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部を中心とする丘陵地帯では果樹園や茶畑、東部や南西部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は市の中央部、国道に沿って形成されている。

津島九反坪遺跡は筑後市の南部、大字津島に所在する。地勢的には矢部川北岸の後背湿地付近に立地し、東側から南側にかけて矢部川支流の松永川が西流する。

２　歴史的環境

筑後市大字津島では以前は埋蔵文化財は確認されていなかったが、近年の県営担い手育成基盤整備事業筑後西部第２地区の実施に伴い遺跡が発見され、発掘調査が行なわれている。北から津島南佛生遺跡、津島南笹原遺跡、津島北石伏遺跡、津島皿ヶ町遺跡があり、これらは主に弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての遺跡である。隣接する山門郡瀬高町大字本郷でも、弥生時代後期から古墳時代中期の遺跡が確認されている。

律令体制の下では下妻郡に属し、中世には水田荘となる。遺跡の南側には津島西集落がある。旧名を今寺村といい、ここにある光明寺の境内には、鎌倉時代に作られた石造九重塔（県指定文化財）がある。

近世には遺跡の南側を薩摩街道（坊津街道）が走る。尾島町から久郎原村（津島東）を通り、今寺村へと向かっており、柳川藩との境界に位置する今寺には番所が置かれていた。

【参考文献】

田中　康信	『本郷地区遺跡』	瀬高町教育委員会	1997
近本　喜機	『坊ノ津街道をゆく』（筑後市編）	筑後市中央公民館	1997
田中　康信	『瀬高地区遺跡群Ⅱ』	瀬高町教育委員会	1998
筑後市史編さん委員会・編	『筑後市史』	筑後市史編さん委員会	1998
立石　真広	『筑後西部第２地区遺跡群（Ⅰ）』	筑後市教育委員会	1999
永見　秀徳	『筑後西部第２地区遺跡群（Ⅱ）』	筑後市教育委員会	2000

第3章　調査成果

第1節　津島九反坪　東側調査

はじめに

調査は調査区全域を東西で二分し東側調査、西側調査として発掘調査を行った。東側調査は上村英士、柴田剛が行った。報告はFig.6のとおりトレンチ状の調査区の中で、遺構が確認された部分をA区からH区に区切り報告する。区割から漏れている箇所と北側のトレンチについては明確な遺構は確認されていない。

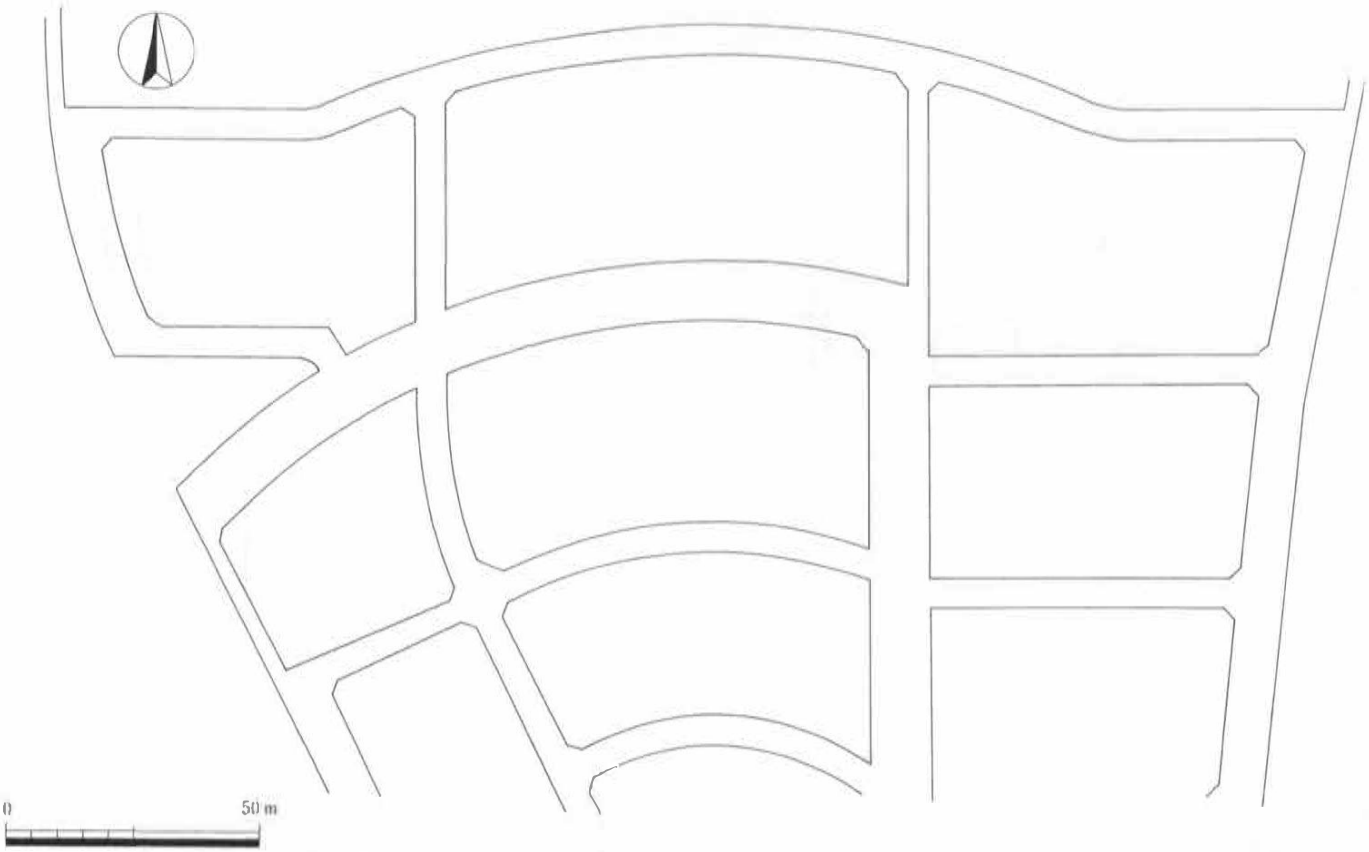


Fig.5　調査区設定全域図（1/1,500）

S番号	遺構番号	備考	調査地区	S番号	遺構番号	備考	調査地区	S番号	遺構番号	備考	調査地区
1	SD001	溝	C	16		不明		31		欠番	
2	SP002	ピット	F	17	SK017	土壙	G	32		欠番	
3	SK003	土壙	E	18	SK018	不明	H	33		欠番	
4	SP004	ピット	E	19		不明		34		欠番	
5	SK005	土壙	C	20	SD020	溝	A	35	SX035	溝状遺構	E
6	SD006	溝	G	21	SK021	土壙	H	36		欠番	
7	SD007	溝	G	22	SP022	ピット	H	37		欠番	
8		風倒木痕		23	SK023	土壙	G	38		欠番	
9		風倒木痕		24		欠番		39		欠番	
10	SD010	溝	B	25	SD025	溝	F	40	SK040	土壙	G
11	SK011	土壙	H	26		欠番		41		欠番	
12		不明		27		欠番		42		欠番	
13		欠番		28		欠番		43		欠番	
14		欠番		29		欠番		44		欠番	
15	SK015	土壙	B	30	SD030	溝	F	45	SX045	周溝状遺構	H

Tab.1　遺構番号台帳

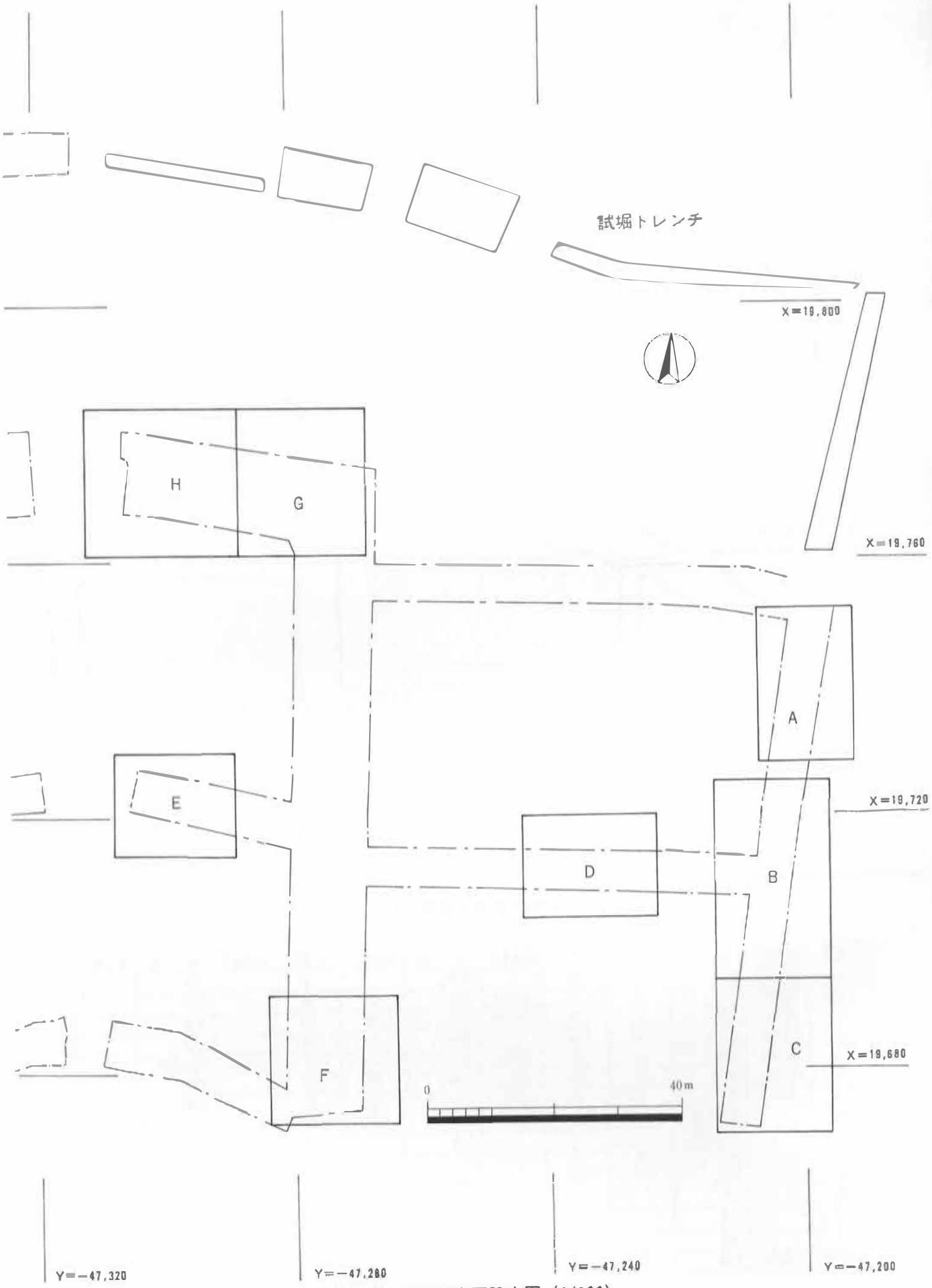


Fig.6　東側調査区設定図（1/800）

(1) 東側調査A区

A区は本調査対象地の東端に南北に設定される。調査前は1m以上の盛り土がされており、遺構面は約1m50cmから2m程下げた所で検出された。遺構面の標高は約7m程で、北に向かって下がっており、北端で落ち込みが始まる。地山は淡茶褐色土である。

検出遺構

溝

SD020 (Fig.8、PL.1)

北側で検出された溝で、軸がほぼ東西を測る。検出東西長約6.2m、幅約0.45m、深さ約0.14mを測る。断面は緩やかな逆台形状を呈しており、遺物は弥生時代と考えられる壺型土器片を出土している。

出土遺物

SD020 (Fig.9)

壺型土器 (1)　頸部から胴部にかけての破片で、頸部外面に斜方向のハケ目、内面は横方向のハケ目、胴部外面は縦方向のハケ目、内面は斜方向のハケ目が入る。胎土には小砂粒を含み焼成はやや不良で、内外面ともに淡黄白色を呈する。

Fig.8　SD020断面図 (1/40)

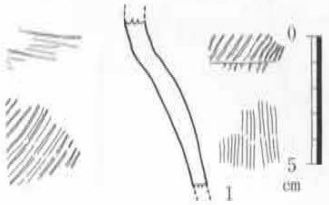


Fig.9　SD002出土遺物 (1/3)

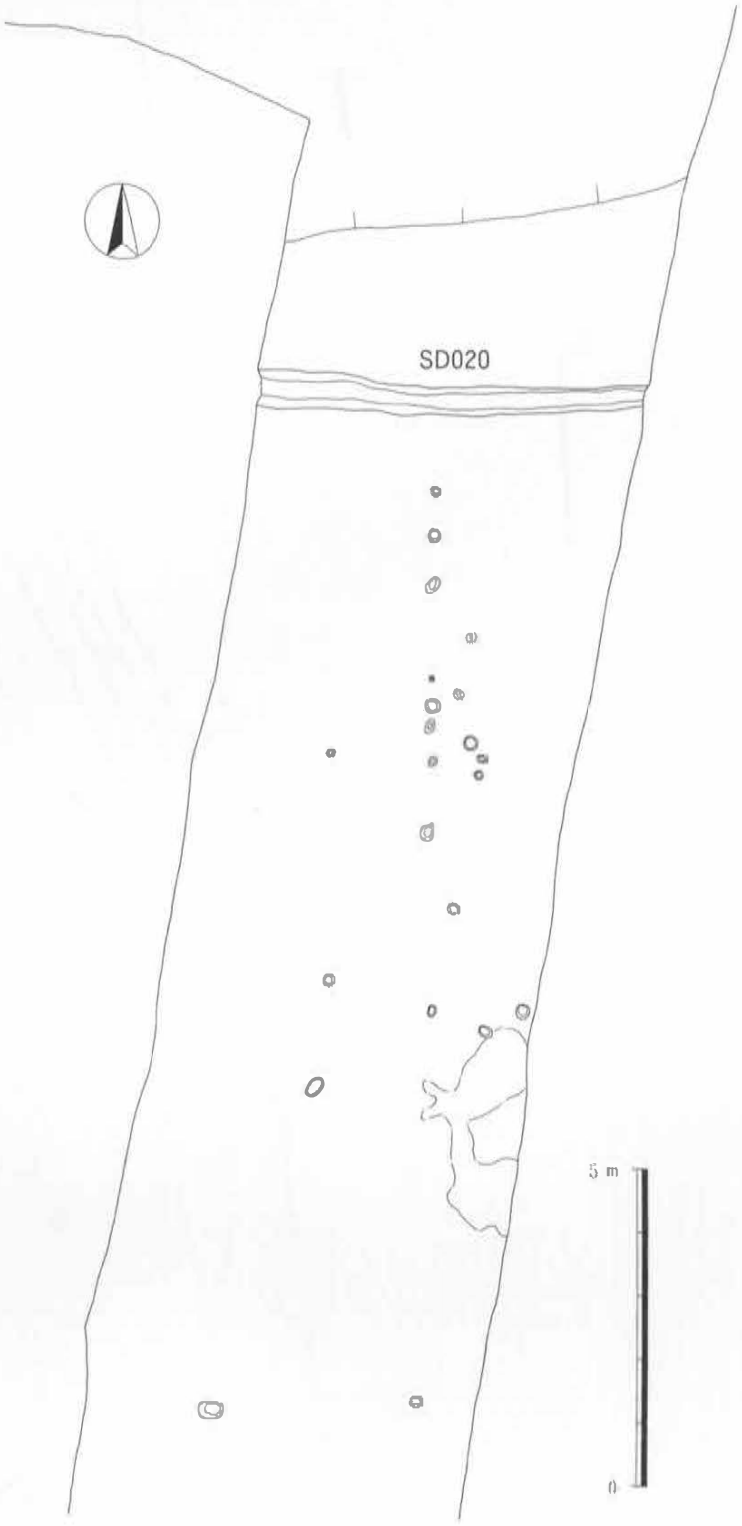


Fig.7　東側調査A区遺構実側図 (1/120)

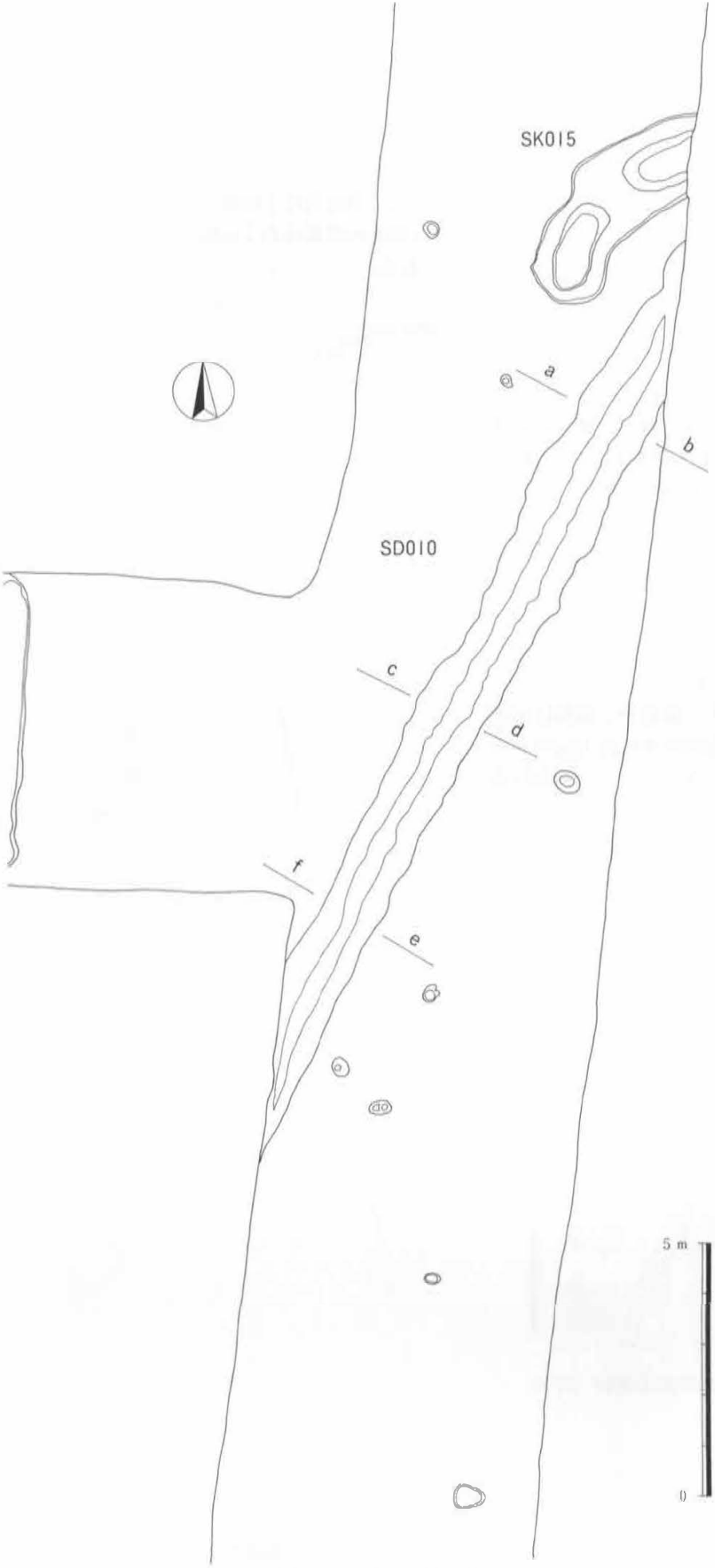


Fig.10　東側調査Ｂ区遺構実測図（1/120）

(2) 東側調査B区

B区はA区の南に続く調査区である。基本土層はA区と同様で標高は約7m程である。遺構は溝、ピット、不明遺構を検出している。

検出遺構

溝

SD010 (Fig.11、PL.2)

調査区を北東から南西に横切る溝で検出長約16.5m、幅約1.4m、深さ約0.8mを測る。溝断面は逆台形を呈している。遺物は、縄文時代のものと考えられる土器片と黒曜石剥片を出土しているが、細片のため図示していない。

土壙

SK015 (Fig.11、PL.2)

SD010の北側で検出した不明土壙で溝になる可能性もある。検出長約4.15m、幅約1.7m、最大深さ約0.32mを測る。出土遺物は皆無であった。

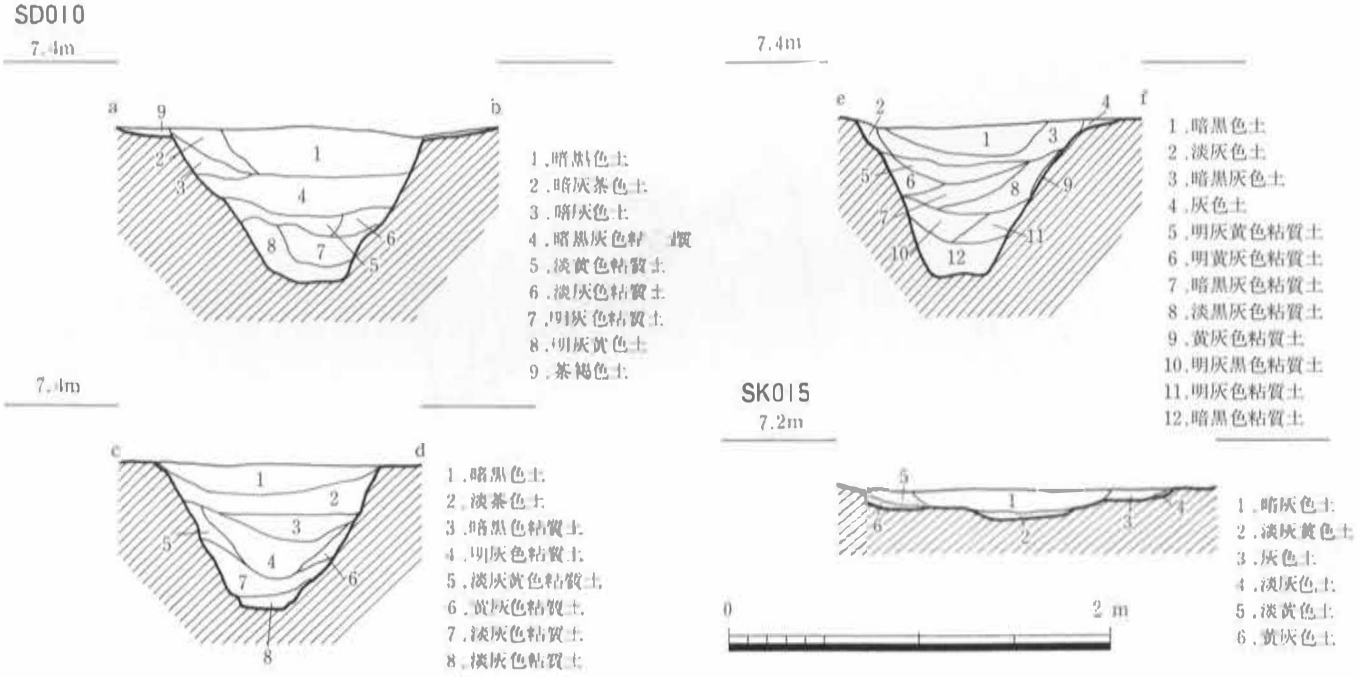


Fig.11 SD010、SK015土層観察図 (1/40)

(3) 東側調査C区

C区はB区の南側に展開する。調査区南端は瀬高町との市境になる。基本土層はA・B区と同じで標高は約7m程である。遺構はピット、土壙、溝を検出している。

検出遺構

溝

SD001 (Fig.13)

調査区内を北西から南東に走る溝で、検出長約6.75m、幅約0.3m、深さ約0.07mを測る。この溝の延長上の東側調査D区で同様の溝を確認している。溝断面は緩やかな船底状を呈する。埋土は淡茶褐色土の単一層である。出土遺物は皆無であった。

土壙

SK005 (Fig.12、PL.2)

SD001南側で検出した土壙で隅丸長方形を呈する。長軸約1.8m、短軸約0.5m、深さ約0.07mを測る。埋土は暗茶色粘質土の単一層である。遺物は土器小片を出土しているが、細片のため図示していない。

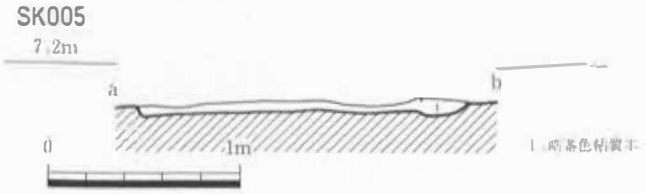


Fig.12　SK005土層観察図（1/40）

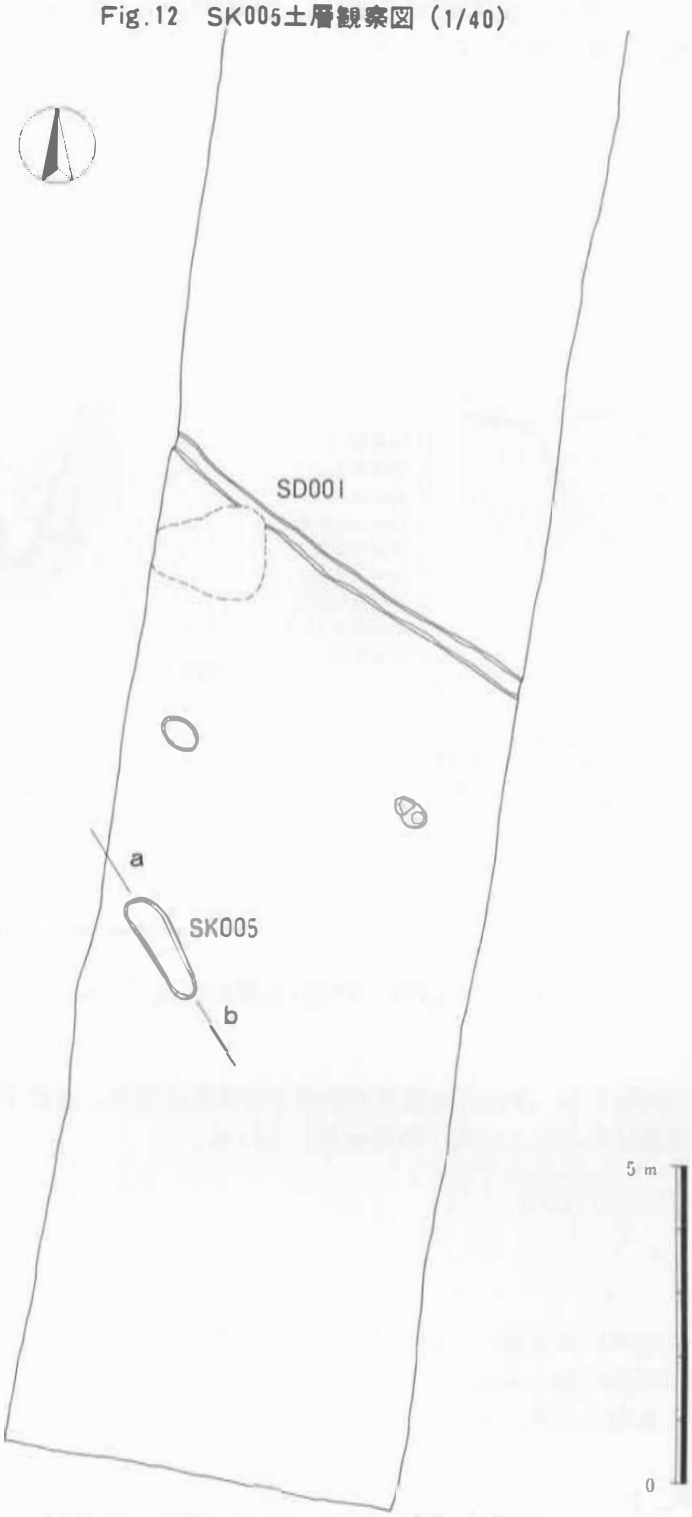


Fig.13　東側調査C区遺構実側図（1/120）

(4) 東側調査D区

D区は東側調査区中央に展開し、現況は田地であった。遺構面まで約0.3mから0.5m程であった。遺構面の標高は約6.8mから7m程である。調査区からはC区で検出された溝の延長部分とピットを検出したが遺物の出土は皆無であった。地山は淡茶褐色土で粘質土ではない。

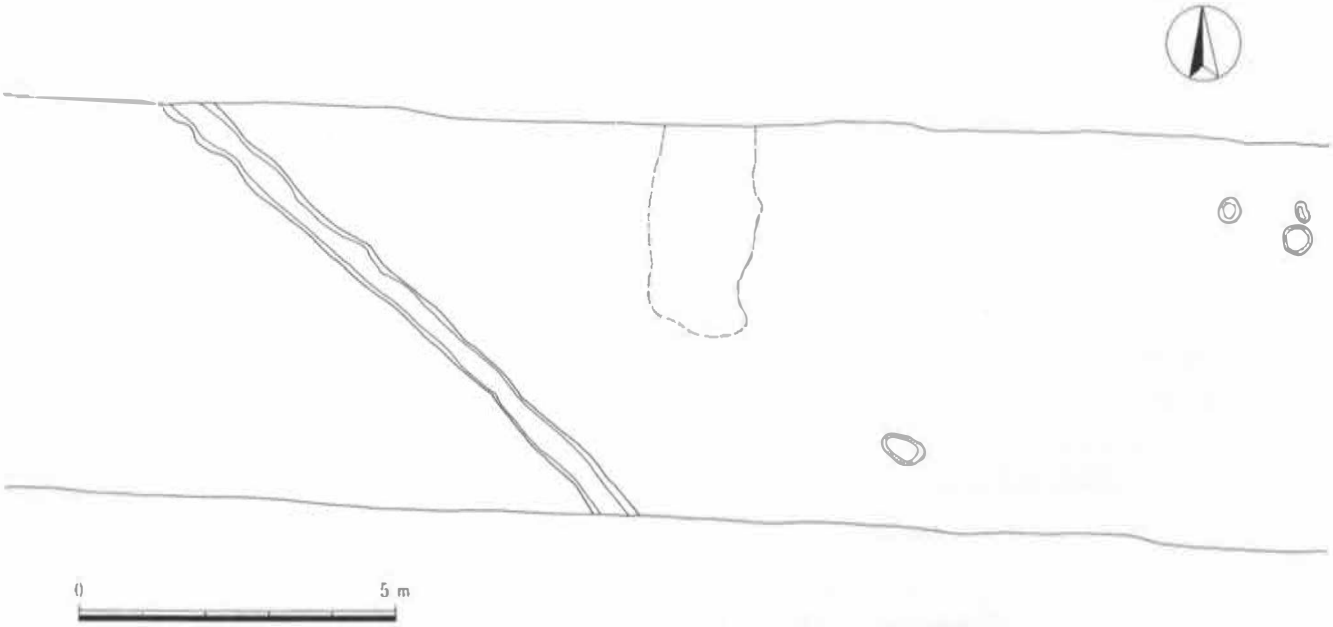


Fig.14　東側調査D区遺構実側図（1/120）

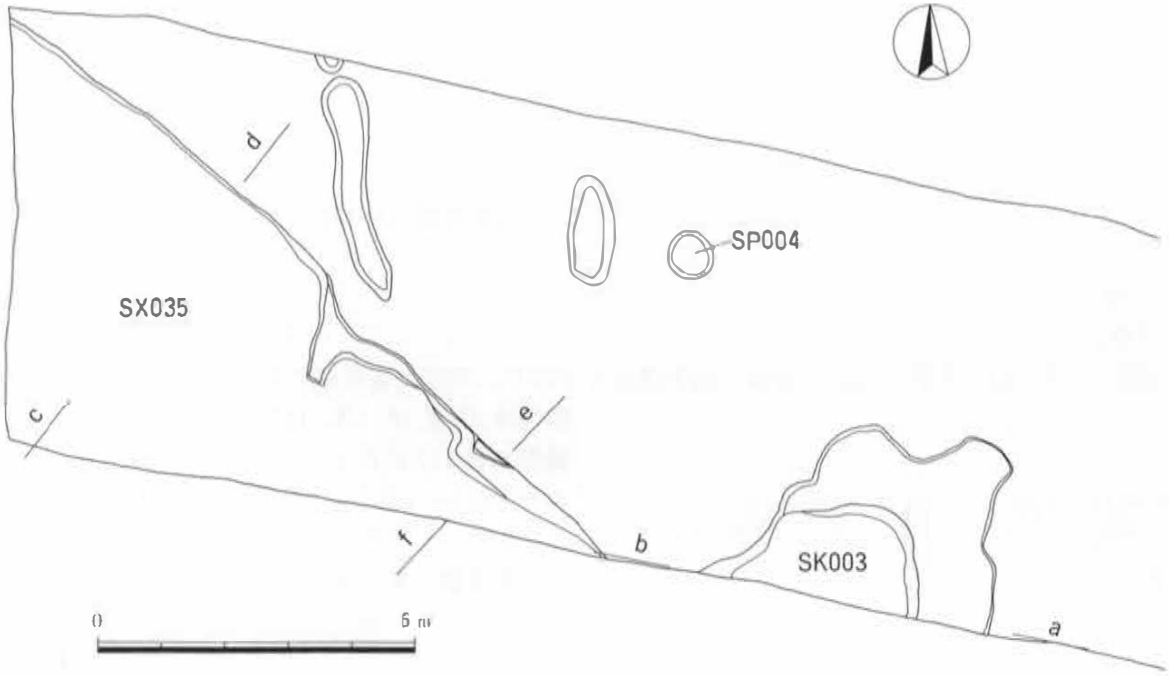


Fig.15　東側調査E区遺構実側図（1/120）

(5) 東側調査E区

E区は東側調査区中央西端に展開し、現況は田地であった。遺構面は約1.0m程度下げた部分で検出した。標高は約6.3m程である。遺構はピット、溝状遺構、不明土壙を検出している。

検出遺構

ピット

SP004 (Fig.15)

真円に近いピットで幅約0.75m、深さ約0.08mを測る。遺物は石包丁片を出土している。

土壙

SK003 (Fig.15・16)

不定形の土壙で、北側にテラスを設け、調査区外へ広がる。テラスの深さ約0.1m、壙底の深さ約0.39mを測る。遺物は弥生土器と考えられる小片を1点出土しているが図示していない。

溝状遺構

SX035 (Fig.16)

調査区西端で検出された遺構である。北西から南東にかけての遺構ラインを検出しており、調査区外へ広がると考えられ、溝になる可能性がある。検出長約12.7m、最大深さ約0.19mを測り、一部にテラスを設ける。遺物は弥生時代と考えられる甕型土器片、高坏型土器片、土師器甕片、サヌカイト製石鏃を出土している。

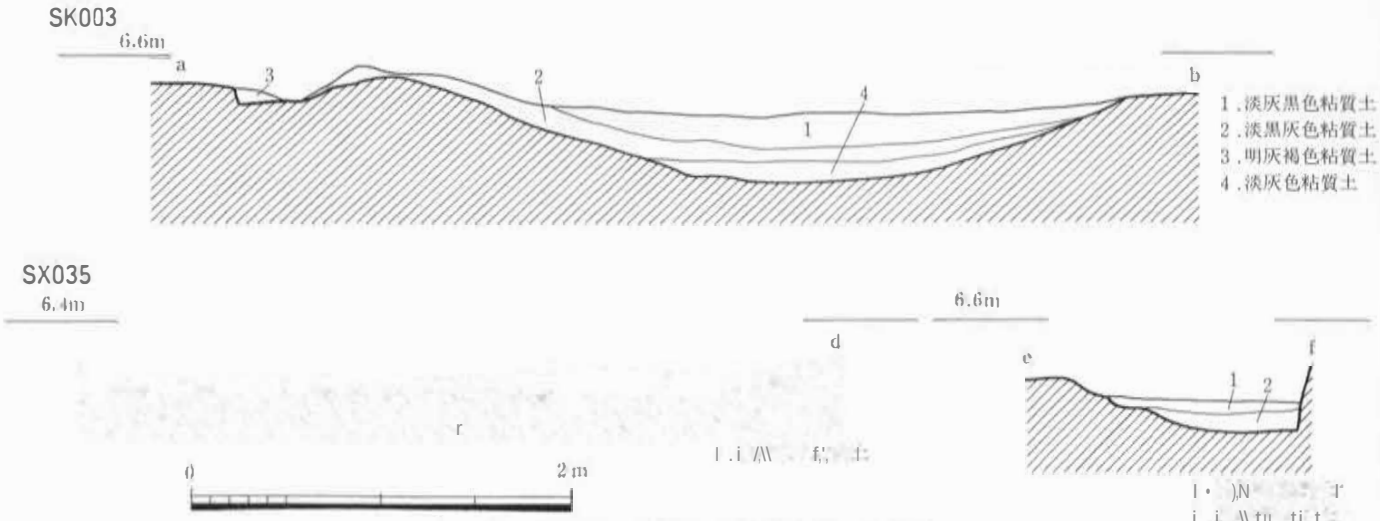


Fig.16 SK003、SX035土層観察図 (1/40)

出土遺物

SP004 (Fig.17)

石製品

石包丁 (2) 破片資料である。刃部が若干残存しており、石材は頁岩製である。

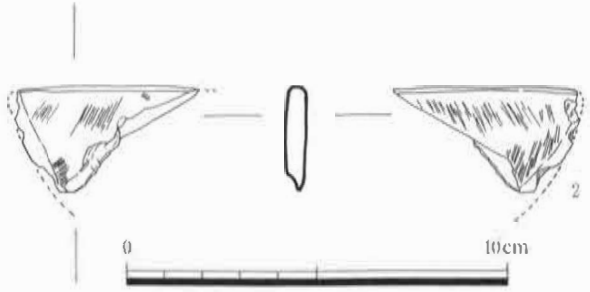


Fig.17 SP004出土遺物 (1/2)

SX035 (Fig.18、PL.15)

甕型土器 (3) 底部小片である。平底で内外面共に淡灰黄色を呈し、1mmから2mm程度の小砂粒を含み、調整は磨耗が著しく不明である。焼成不良。

高坏型土器 (4) 口縁小片である。口縁端部をつまみ出し成形する。内面は淡橙褐色、外面は淡灰黒色を呈し、3mm程の小砂粒を含み、調整は磨耗が著しく不明である。焼成不良。

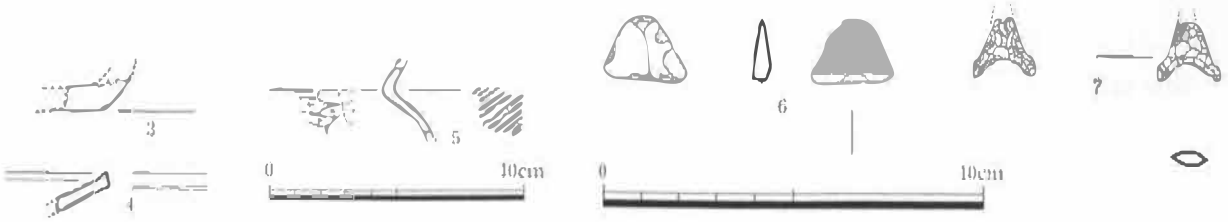


Fig.18　SX035出土遺物　土器（1/3）　石器（1/2）

土師器

高坏（5） 小甕の頸部から胴部にかけての小片である。外面を斜方向のハケ目、内面を横方向のケズリで調整する。1mm以下の小砂粒を含み焼成はやや良好である。

石製品

石鏃（6・7）共にサヌカイト製の石鏃で6は完形で刃部の加工が貧弱である。7は先端が欠損する。

(6) 東側調査F区

F区は東側調査南西端に展開し、南端は瀬高町との市境である。現況は田地で遺構面まで約0.6m程下げた所で検出し、標高は約6.8m程である。遺構はピット、溝を検出している。

Fig.19　東側調査F区遺構実側図（1/120）

検出遺構

ピット

SP002（Fig.19）

真円に近い小ピットであるが、木の根の痕跡の可能性も考えられる。幅約0.2m、深さ約0.08mを測る。遺物は土師器片を出土しているが、小片のため図示していない。

SD025（Fig.19・20）

調査区をほぼ東西に走る溝でSD030と切り合うが、前後関係は不明である。検出長約11.8m、幅約0.9m、深さ約0.1mを測る。埋土は淡黒灰色土である。遺物は土師器片を出土しているが、小片のため図示していない。

溝

SD030（Fig.19・20）

SD025の北西から南東に横切る溝でやや蛇行する。検出長約13.15m、幅約0.35m、深さ約0.1mを測る。埋土は暗黒灰色粘質土で、遺物は土師器片を出土、小片のため図示していない。

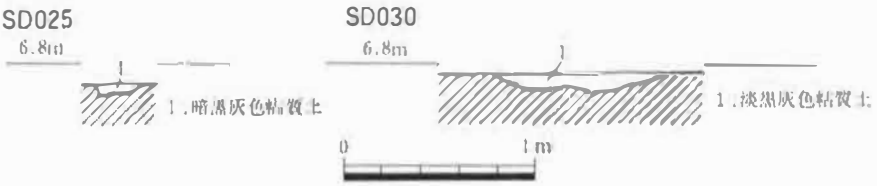


Fig.20　SD025、030土層観察図（1/40）

(7) 東側調査G区

東側調査区の北に展開し、現況は田地であった。遺構面は0.3mから0.5m下げたところで検出し、標高

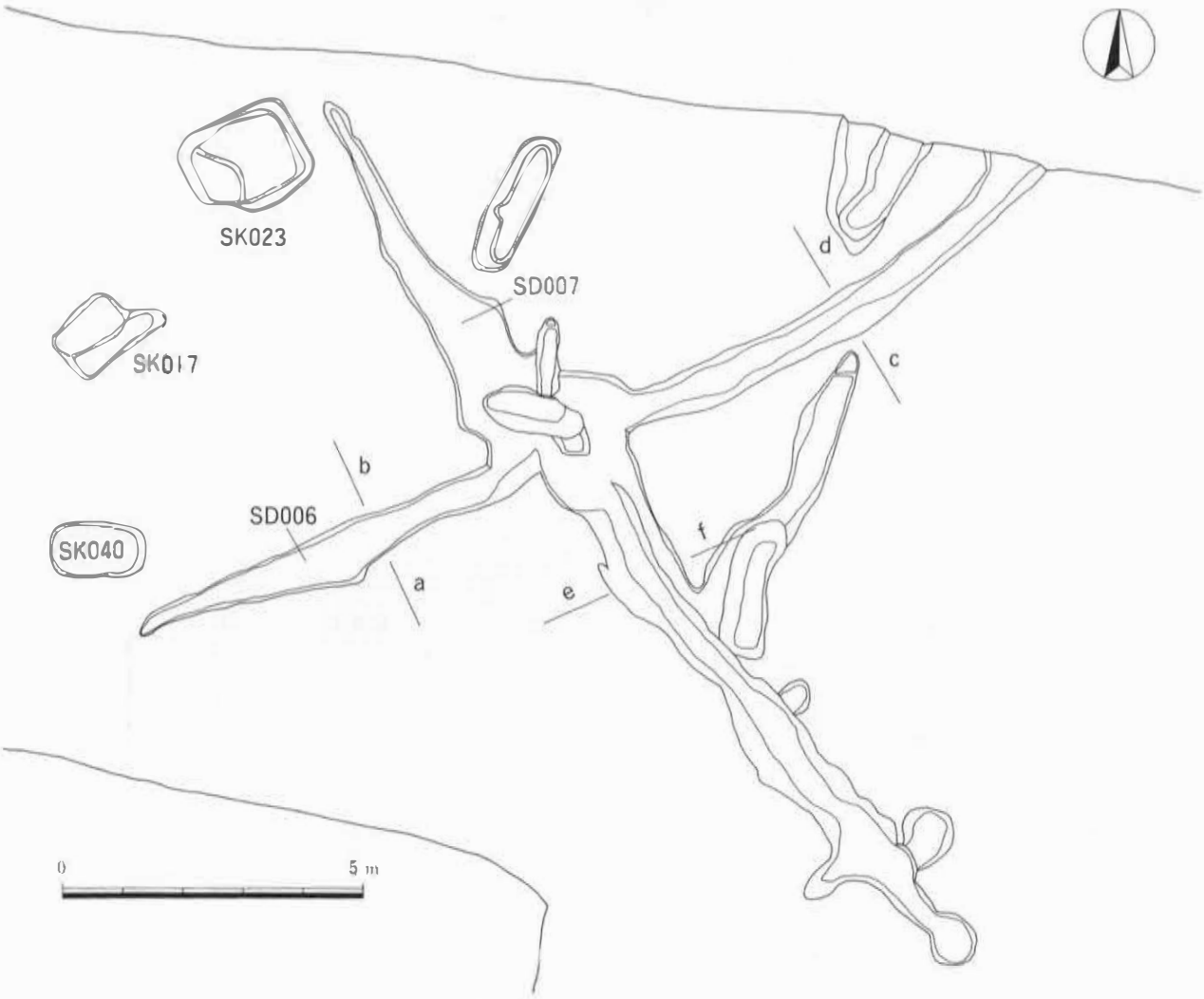


Fig.21　東側調査G区遺構実側図（1/120）

は約6.3m程である。遺構は溝、土壙、風倒木痕を検出している。

検出遺構

溝

SD006（Fig.21・22）

調査区の北東から南西に走る溝でSD007を切る。北側は調査区外へ広がると考えられる。検出長約17m、幅約0.6m、深さ約0.1mを測る。遺物は土器片を出土しているが、小片のため図示していない。

SD007（Fig.21・22）

SD006に切られる溝で検出長約17.9m、最大幅約1.25m、深さ約0.15mを測る。

土壙

SK017（Fig.21・22、PL.3）

調査区西で検出した土壙で南東側にテラスを設ける。検出長軸約1.65m、短軸約1.02m、深さ約0.62mを測る。遺物は皆無であった。

SK023（Fig.21・22）

SK017の北側で検出した土壙で南西側が一段低くなる。検出長軸約2m、幅約1.68m、最大深さ約0.57mを測る。遺物は弥生時代と考えられる甕型土器片を出土している。

SK040（Fig.21・23）

SK023の南側で検出した土壙で、検出長軸約1.6m、短軸約0.95m、深さ約0.65mを測る。遺物は皆無であった。

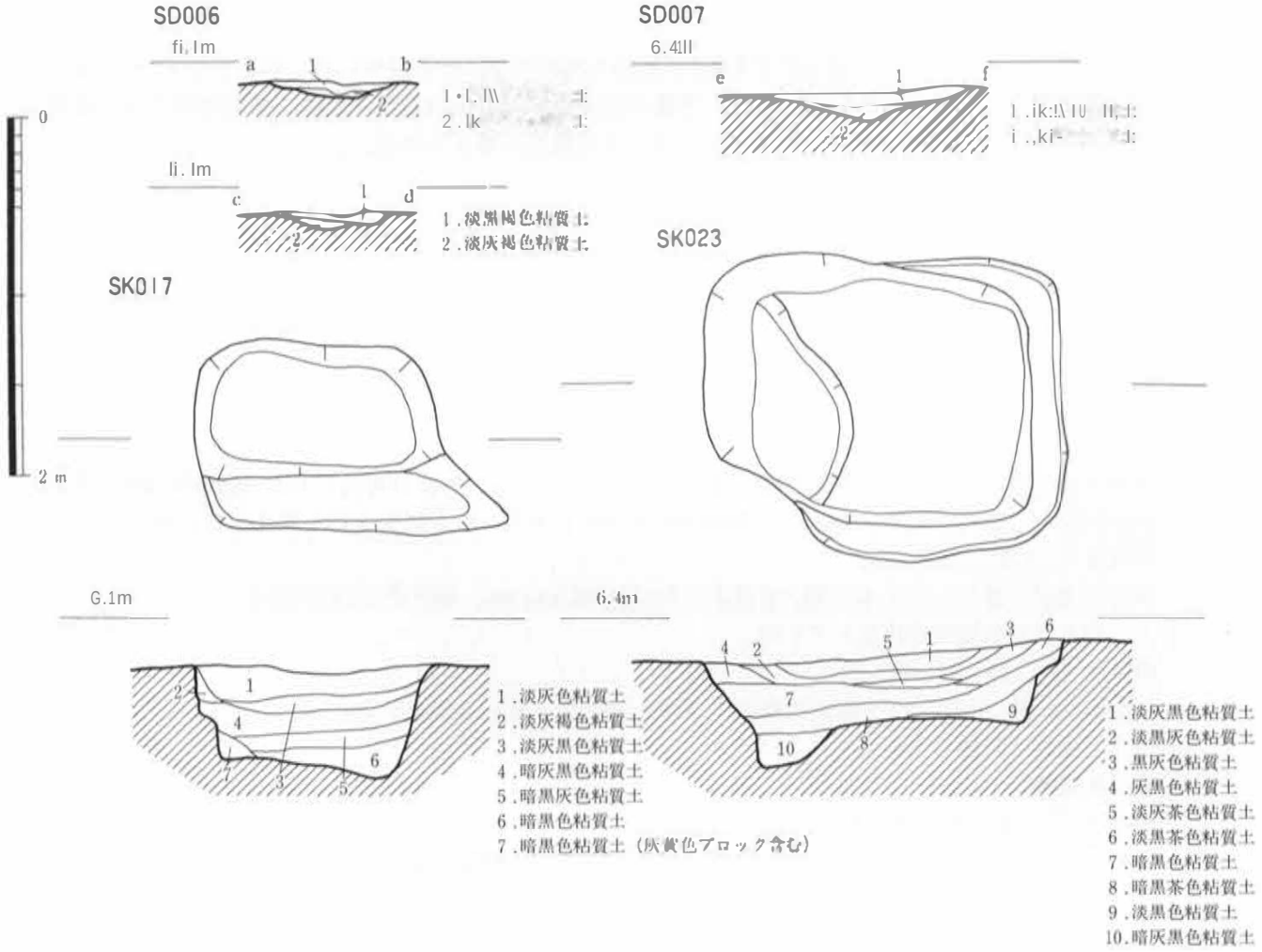


Fig.22　SD006、007、SK017、023遺構実測図（1/40）

SK040

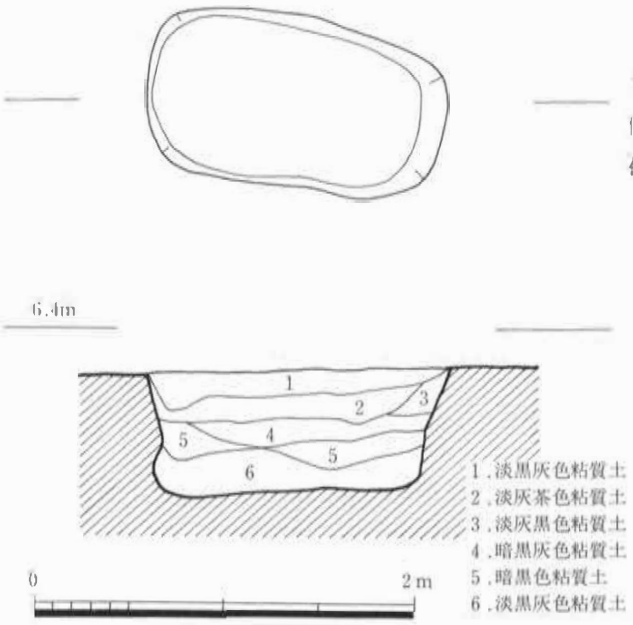


Fig.23　SK040遺構実側図（1/40）

出土遺物

SK023（Fig.24、PL.5）

甕型土器（8）胴部の破片で断面三角形の突帯が張り付くが、磨耗のため若干剥離している。外面を縦方向のハケ目、内面は磨耗が著しく不明。2mm程度の小砂粒を含み、内外面ともに淡黄白色を呈する。

SK023

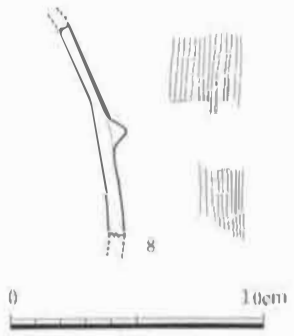


Fig.24　SK023出土遺物（1/3）

（8）東側調査H区

G区の西延長上に展開する調査区である。標高約6m程でG区から西側に行く程低くなる。検出遺構は土壙、ピット、周溝状遺構である。また、遺構のSX012・016・019については、平面でのプランは見えるが断面で遺構と判断できず、包含層の取り残しの可能性が考えられる。

検出遺構

ピット

SP022（Fig.25）

楕円に近いピットでテラスも設け、一段深くなる。検出長軸約0.9m、短軸約0.8m、テラスの深さ約0.17m、最大深さ約0.29mを測る。遺物は土師器坏片を出土しているが小片のため図示していない。

土壙

SK011（Fig.25・26、PL.3）

調査区最西端で検出した土壙で東側は遺構下端が袋状になる。検出長軸約1.1m、短軸約0.9m、深さ約0.47mを測り、壙底は北側が下がる。遺物は弥生時代と考えられる鉢型土器を出土している。

SK018（Fig.25・26）

調査区東端で検出した土壙で検出長軸約1.0m、短軸約0.9m、深さ約0.8mを測る。遺物は弥生時代と考えられる甕型土器片を出土している。

SK021（Fig.25・27、PL.3）

SP002の東側で検出した土壙で南側にテラスを設ける。検出長軸約1.7m、幅約1.55m、深さ約0.43mを測る。遺物は皆無であった。

周溝状遺構

SX045（Fig.25・27、PL.4）

調査区西北端で検出した周溝状遺構である。周溝の約1/2程度は調査区外へ広がると考えられ、円形ではなく隅丸長方形に近い形状をとる。溝の幅は最大で0.45m、最小で0.2mを測り、溝底部の一部はテラス状に段が設けられる。深さは最大で0.31m、最小で0.16mを測る。遺物は弥生時代と考えられる壺型土器片を出土している。

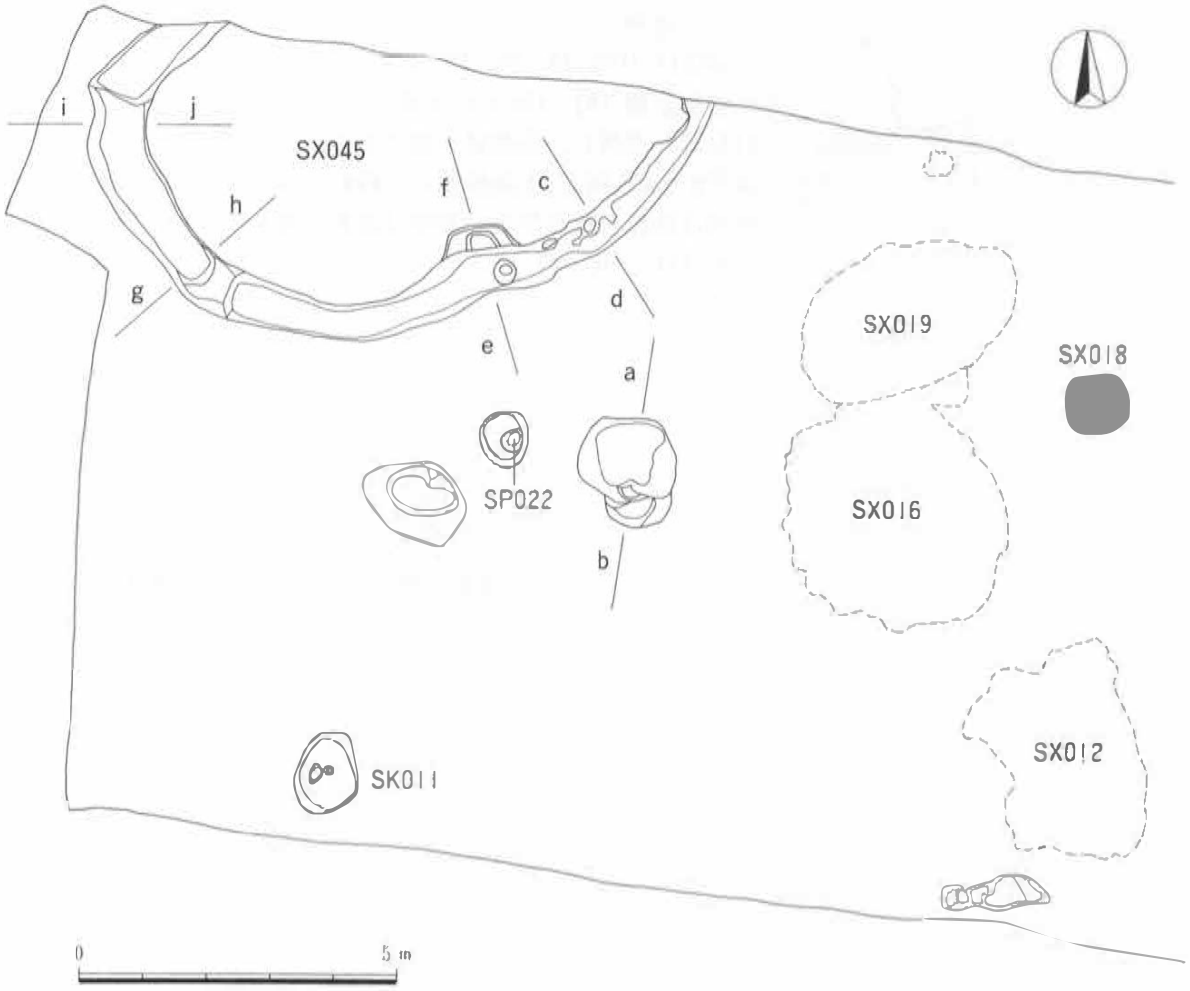


Fig.25　東側調査H区遺構実側図（1/120）

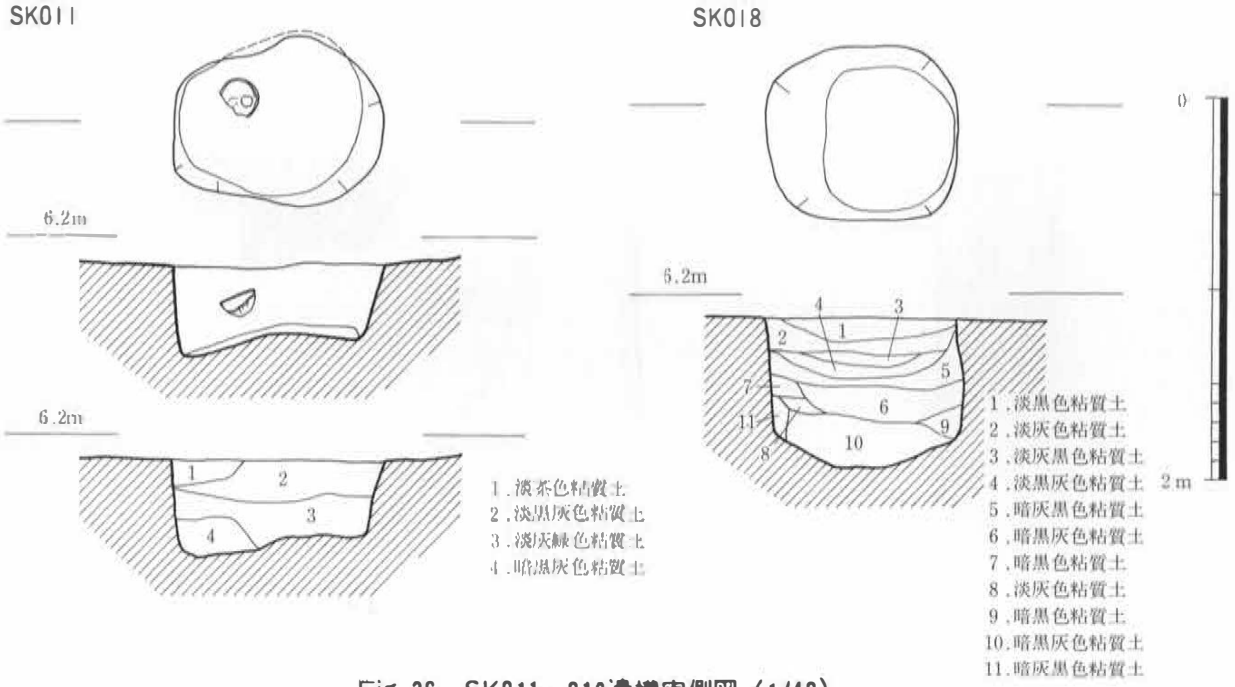


Fig.26　SK011、018遺構実側図（1/40）

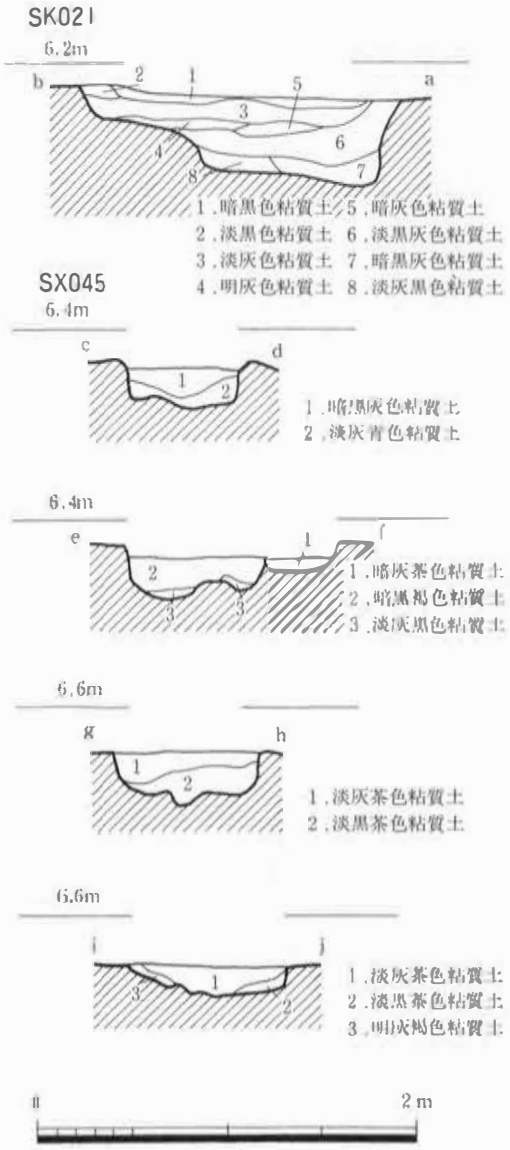


Fig.27 SK021、SX045土層観察図（1/40）

出土遺物

SK011（Fig.28、PL.5）

鉢型土器（9） 口縁から体部にかけて1/3程欠損する破片で、口縁部が内湾し、底部は平底である。口径21.6cm、器高12.7cm、底径8.6cmを測る。1mm程度の小砂粒を多く含み外面は淡黄白色、内面は淡橙白色を呈し、調整は磨耗が著しく不明。焼成不良。

SK018（Fig.29）

壷型土器（10） 長胴の甕の破片である。器壁が5mm程度と薄い。内外面を縦方向のハケ目で調整し、外面に一部黒斑が残る。1mmから2mm程度の小砂粒を含み、内外面ともに淡黄褐色を呈する。

SX045（Fig.29、PL.5）

壷型土器（11） 胴部から底部の破片である。胴部が球形で胴部中位に断面台形の突帯が付く。底径5.6cmを測り平底を呈する。胴部外面の突帯より上位が斜方向のハケ目、下位が縦方向の工具による強いナデ、内面は斜方向のハケ目で調整する。外面に黒斑が残る。

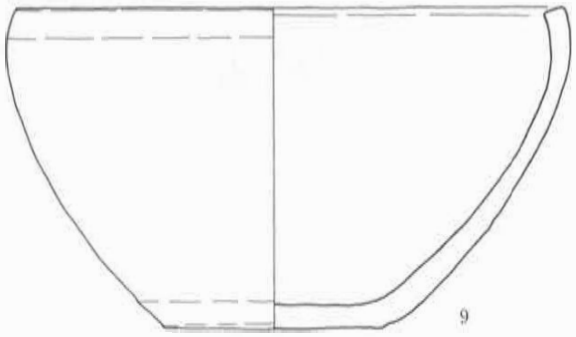


Fig.28 SK011出土遺物（1/3）

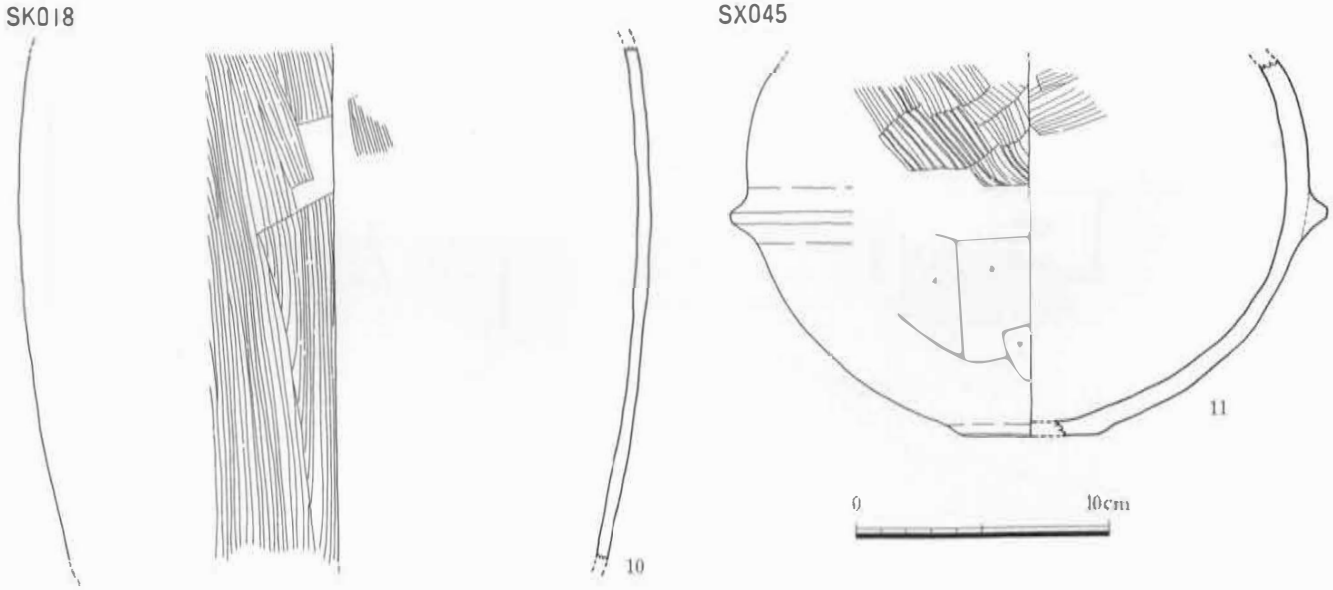


Fig.29 SK018、SX045出土遺物（1/3）

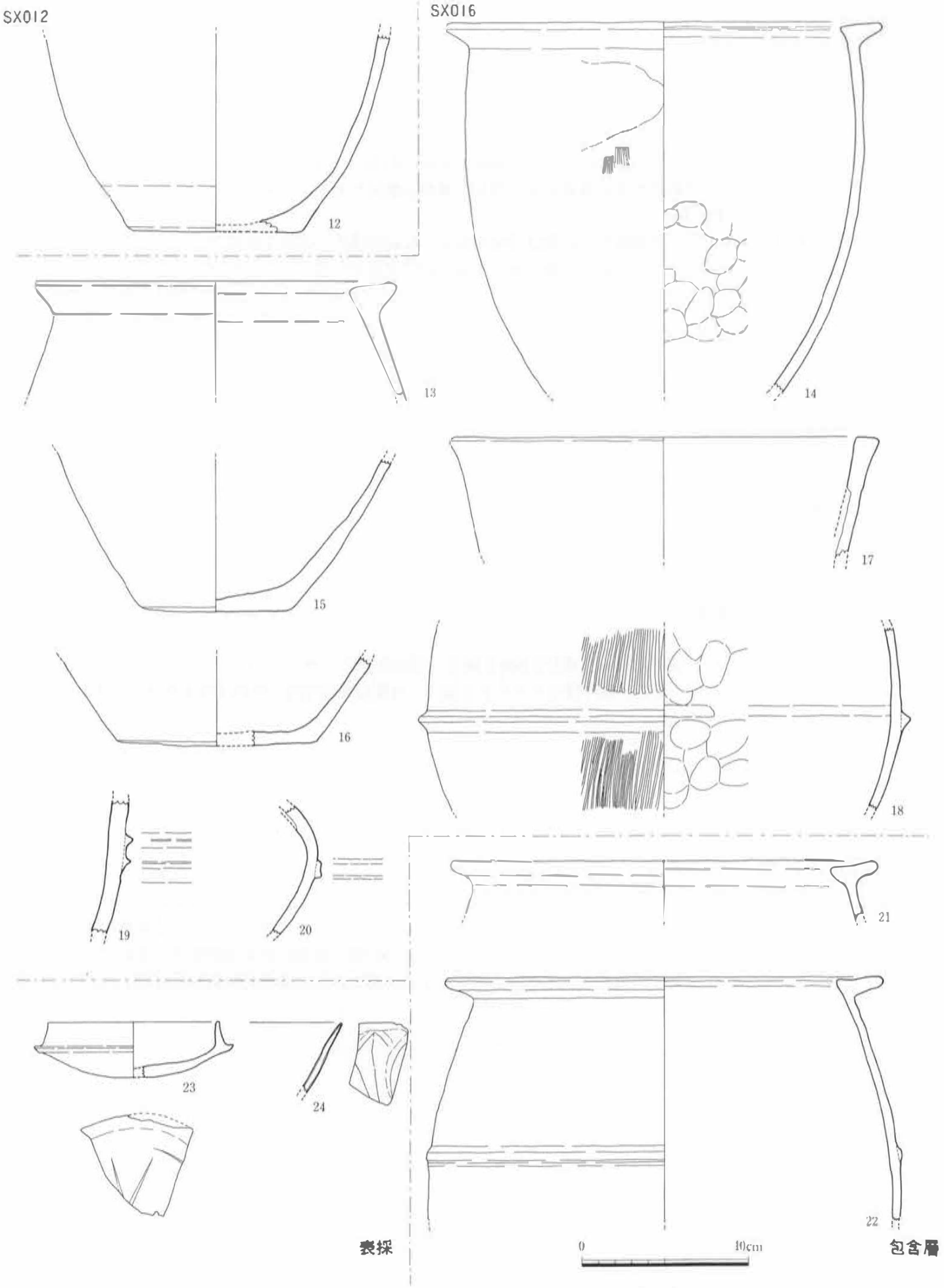


Fig.30 SX012、016、包含層、表採 出土遺物 (1/3)

SX012（Fig.30）

壺型土器（12） 胴部下位から底部にかけての破片である。底径9.8cmを測り、平底である。2㎜から3㎜程の小砂粒を含み、内外面ともに淡黄白色を呈し、調整は磨耗が著しく不明。焼成不良。

SX016（Fig.30、PL.5）

甕型土器（13～16） 13は口縁部片で口径21.7cmを測る。2㎜程度の小砂粒を含み内外面ともに淡黄白色を呈し、調整は磨耗が著しいために不明。焼成不良。14は底部が欠損する。口径26.4cmを測り、磨耗のため調整は不明であるが、内面下位に指頭痕が残り、外面には黒斑が残る。15・16は胴部下半から底部にかけての破片で共に平底で底径は15が9.0cm、16が12.0cmを測る。16は外面にナデを施す。

壺型土器（17～20） 17は直口縁の壺か鉢の可能性もある。口径25.8cmを測る。調整は内外面ともに磨耗のため不明で淡黄白色を呈する。18は胴部片で最大径部分に断面三角形の突帯が付く。外面を縦方向のハケ目、内面は指頭痕後、ナデを施す。19は胴部下位に突帯が付く破片で外面をナデ、内面は斜方向のナデを施す。焼成良好で外面は暗黒灰色（黒斑）、内面は淡黄褐色を呈する。20は胴部片で最大径やや下位に突帯が付く。磨耗が著しいために調整は不明。焼成不良で内面は淡褐灰色、外面は淡黄褐色を呈する。

包含層（Fig.30、PL.5）

甕型土器（21・22） 21は口径25.7cmを測る。調整は磨耗のため不明。内外面ともに淡黄白色を呈し、焼成不良。22は口径26.4cmを測り、胴部中位やや上に突帯が付く。調整は不明で内外面ともに淡黄白色を呈する。

表採（Fig.30、PL.5）

須恵器

坏（23） 口径10.3cm、器高3.35cm、底径2.6cmを測る。底部外面はヘラ削り後、ナデを施しヘラ記号が入る。内面は不定方向のナデ、受け部はヨコナデを施す。外面は淡赤褐色、内面は暗赤紫色を呈する。焼成・還元やや良好である。

青磁

碗（24） 龍泉窯系青磁碗片で外面に蓮弁を施す。素地はきめ細かく、釉は淡緑白色を呈する。

小結

東側調査区を全体的に概観すると西寄りに弥生時代から古墳時代にかけての遺構が点在する。北側は試掘調査で深い落ち込み（現況から2m以上下がる）を確認しており集落の本体は次節の西側調査部分に展開するものと考えられる。今回の東側調査で明確な遺構として土壙、ピット、周溝状遺構が挙げられ、遺物は弥生時代中期後半から古墳時代初頭までのものを出土している。調査区周辺では多数の遺跡の存在が認められており、今回の調査を含めて津島地区の集落の範囲や時期の変遷が限定できる資料が蓄積している。今後、広範囲での遺跡全体像を提示することが必要であり、成果の公表が待たれる。

第二節　津島九反坪　734-737工区の調査

1.西側調査　概要

津島九反坪遺跡の西側は、東側調査区の人力による調査が終了したことを受け、8月8日より調査を開始、8月11日には調査作業員による発掘作業を開始した。調査区の呼称は便宜上、開発業者が設置した測量点を利用することとし、遺構の密集している735-736工区より始め、南側の調査区へと順次移っていった。北側中央部に当たる737-738工区は器材等の搬入の関係上、最後に調査を行なうこととなった。調査にあたっては、永見秀徳が業務全般を主管し、立石真二・高田知恵がこれを補助する体制で進めることとなった。

2.734-737工区　概要

734-737工区は、筑後市大字津島字南石伏に所在する。調査区は735-736工区から始め、これを734工区、737工区へ拡張する形で行なった。調査面積は約942m²である。この調査区は表土より0.8～1m（標高6.9m前後）で弥生前期～古墳初頭にかけての遺物包含層に達したが、調査期間の関係上、時間的余裕の出来た時点で遺物を採集することとし、遺構検出面（標高6.5m前後）まで重機による掘り下げを行なった。調査の結果、弥生時代の掘立柱建物1棟、溜井状遺構2、これに伴う溝1条、古墳時代初期の溝1条、弥生時代の溝1条、時期不明の溝1条、土壙、柱穴多数を確認した。調査は8月11日から始められたが、木製品の取り上げなどに時間を取られ、12月27日にこれを終了した。

3.検出遺構

掘立柱建物

735-737工区では多くの柱穴が検出され、これらの多くから柱根、礎板が出土した。しかしながら、736-737工区では狭小な調査区に対し、溜井状遺構、古墳時代の溝状遺構などと切りあっており、検出時点では明確には確認できない状況であった。

SB350（Fig.33、PL.6）

DD50～DF52グリットにかけて確認された、1×2間の建物で、SX150を切り、SD130に切られている。柱間の幅は、P206-P208間で3.0m、P206-P140d間で約1.9m、P140d-P140a間で約2.4m。主軸の傾きはN-5°-Wを測る。柱穴は確認できたものは隅丸長方形のプランを有し、深さは標高約5.3～5.6mを測る。北側の土壙が浅く南側に向かって徐々に深くなるが、いずれも砂層や砂礫層まで掘り込まれている。柱の基礎部分はそれぞれ断面カマボコ状の礎板を有し、中央には柱根の底面と組み合わせるために切り込みが施されている。P214、P218以外のものには柱根を確認したが、良好な状態の物はP140dの1点のみである。P140dの柱根の底部は礎板と組み合わせるために「ハ」の字状に加工され、多角形状に面取りされていた痕跡が伺える。また、P214の礎板の下にはさらに4本の礎板が敷かれており、P214・P218の底面には植物遺体が確認された。これらはP140aとともに湧水砂礫層の上に設置されており、地盤沈下や出水による礎板のズレなどに対応した施設と考えられる。この遺構は近隣の類例や遺構の切り合いなどから弥生時代後期に属するものと考えられる。

溝状遺構

この調査区からは古墳時代1、弥生時代2、時期不明のもの2、4条の溝を確認した。この内、SD105は溜井状遺構に伴う施設なので後述し、ここではその他のものについて記述する。

SD130（Fig.32・34、PL.7）

試掘部分も含め、DA52～DK52グリットで検出された、東西方向に走る溝である。西側は調査区外へ走るが、東側は737-738工区のSD275となると仮定される。検出長約18m、幅約1.8m。断面は逆凸字状で、深さは上段で約0.25～0.35m、下段で約0.65～0.85mを測る。埋土の状況から、上段を形成する溝

Fig.31　734-737工区　全体図（1）　（S＝1/200）

が埋没した後に下段を形成する溝が掘り込まれたことが分かる。埋土は自然埋没であり、流水を伴ったかどうかは確認できなかった。弥生後期の組合せ式礎板を有する柱穴を多数切っており、古式土師器を多数出土したことから弥生終末期～古墳時代初頭のものと判断した。また、埋土上位においては炭化した木片などを検出している。

SD110（Fig.32・34）

DJ50～DM51グリットにかけて検出した溝で、東南東から西北西へと走る。東側でSX150、西側でSX100と切りあっている。3者の前後関係は確認できなかった。検出長約11m、幅約0.25m、断面はU字状で深さ約0.25mを測る。埋没状況は自然埋没を示している。遺物は弥生中期から後期にかけての土器、黒曜石のフレークを出土した。

SD125（Fig.31）

DT49～DV50グリットにかけて検出した溝で、南東から北西方向へ走る。両端とも調査区外へと延びており、検出長約6m、幅約2.8m、深さ約0.2mを測る。上面を734-735工区包含層と一緒に掘り上げて

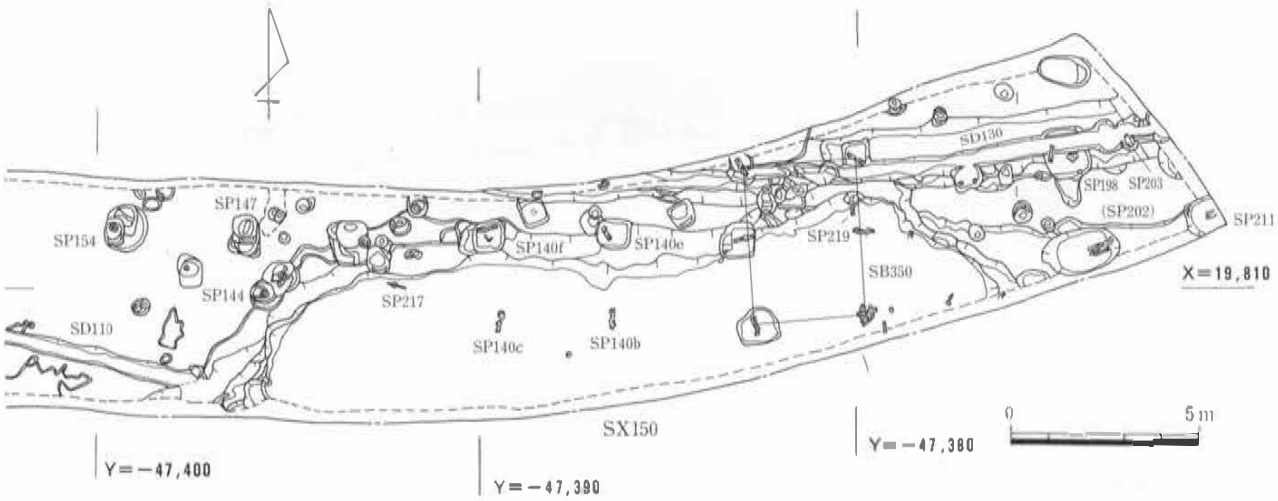


Fig.32　734-737工区　全体図（2）　（S＝1/200）

しまった為、西側および南側の残りが悪く断面形状は判然としない。遺物は弥生前期から古墳時代初頭にかけての土器を含んでいるが、時期を特定し得る資料は得られなかった。

溜井状遺構

今回の調査では2基の溜井状遺構を確認した。溜井と言っても両者の性格は大きく異なり、SX100は貯木施設を兼ねているのに対し、SX150は純粋な湧水・貯水施設として機能していると考えられる。当遺構群は調査区南側に存在する谷地形に向かって包含層土が堆積していると考えられ、遺構検出面まで重機で掘り下げられた。その為、上部にあった包含層との関係が不明となっている。

SX100（Fig.35、PL.8-2・9）

DL50～DN51～DP50グリットから検出された溜井状遺構である。調査区内で東西方向約11.2m、南北方向約4.8m、深さ約1.0m。断面はほぼ台形状となる。北東部にはSD110、北西部にはSD105が接続する。SD105には水口状の遺構が確認できた為、SX100関連の施設としたが、SD110については判然としなかった。埋土は大きく2つに分類でき、上位の暗黒灰色粘土層（II層）と下位の暗黒灰色粘土層（III層）との境目には木材が密集している。木材のうち大型のものは切り出されただけの丸太材であるが、中形の物は建築部材とみられる加工木が大半である。出土遺物はII層からは弥生後期～古墳時代初頭、III層からは弥生中期後半～弥生後期の遺物が見られた。

SX100関連遺構

SD105（Fig.32・36、PL.10）

DO51～DV51グリットから検出された溝状遺構で、SX100の北西部分に接続する。検出長は約22m、幅約0.35m、深さ約0.18m。断面形は台形状となる。東から西へ向かい緩やかに下っており、DP51グリット部分では流水を調節する為の水口と思われる石組みを検出した。ただし、遺構面は北から南側の谷地形へなだらかに下っており、調査面積の関係もあり、水田域がどこになるのかは判断できない。

SX150（Fig.33・37）

DB51～DJ50グリットにかけて検出された溜井状遺構である。この部分だけは調査前から水が溜まっており、表土・包含層を除去したのちも常に水が染み出ていた。このような状況のため、遺構の切り合いの確認に手間取り、いくつかはそのまま気付かずに掘り上げてしまったものもある。

遺構は調査区内で東西方向約23m、南北方向約4.5m、深さ約0.7m。断面形は逆台形状となる。弥生

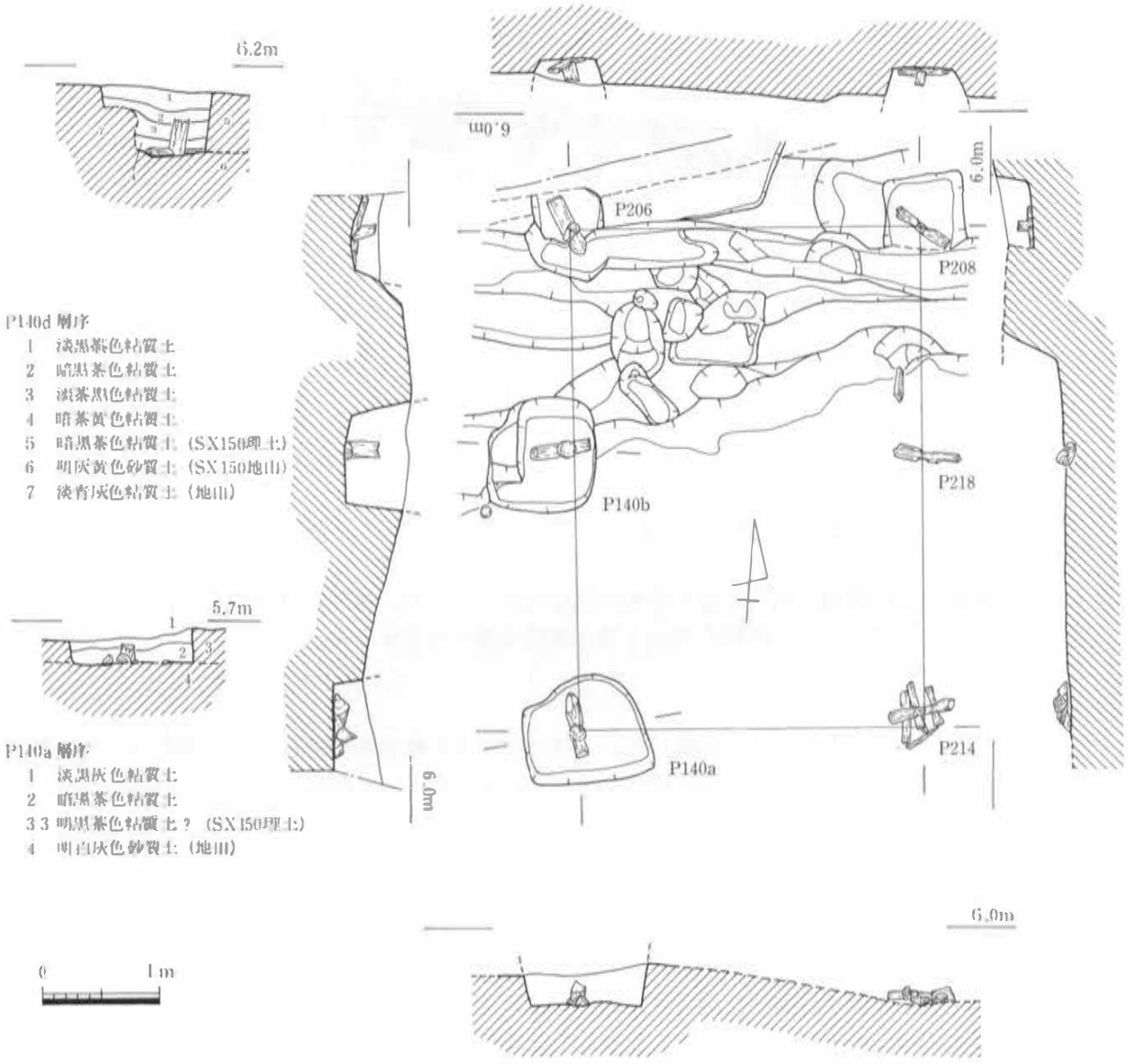


Fig.33 SB350 （S＝1/60）

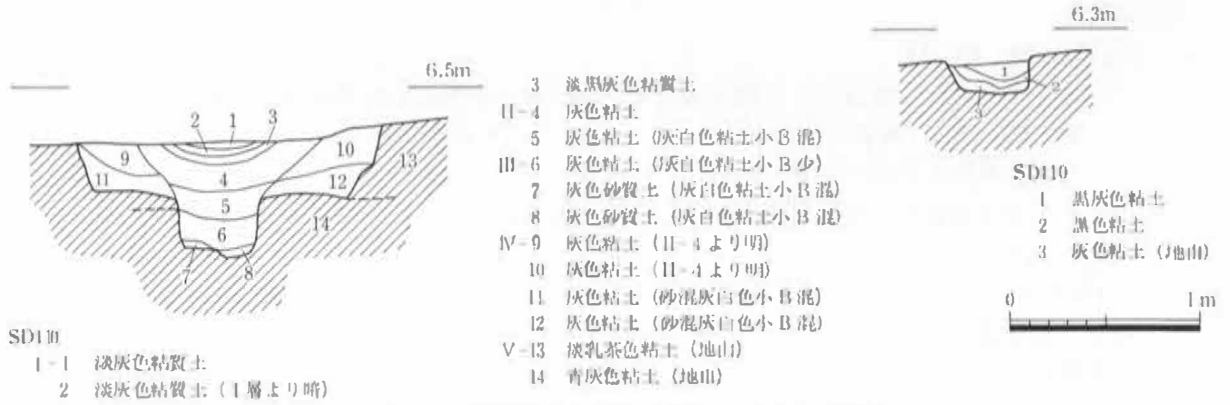


Fig.34 SD130・110土層断面 （S＝1/40）

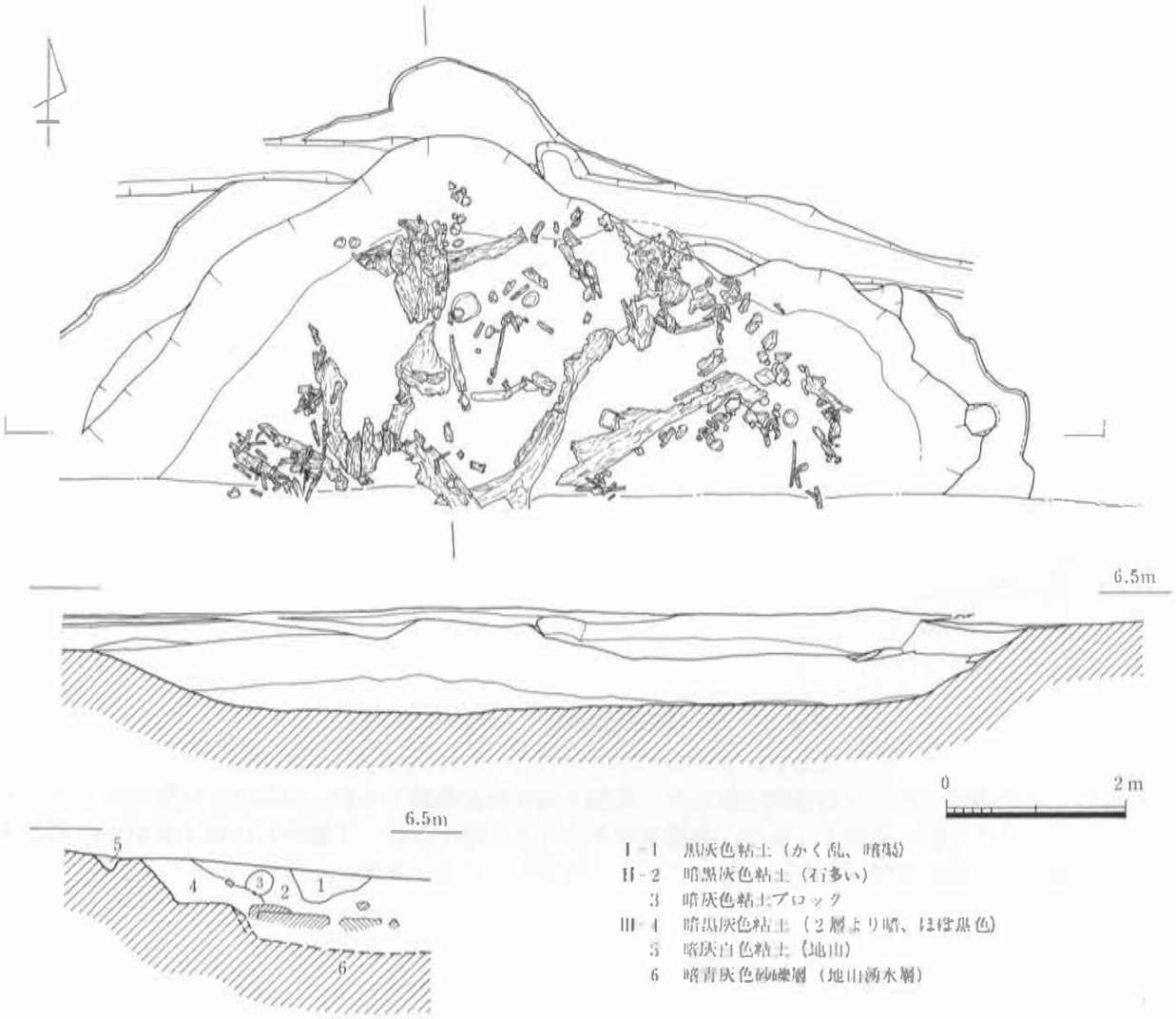


Fig.35 SX100 （S＝1/80）

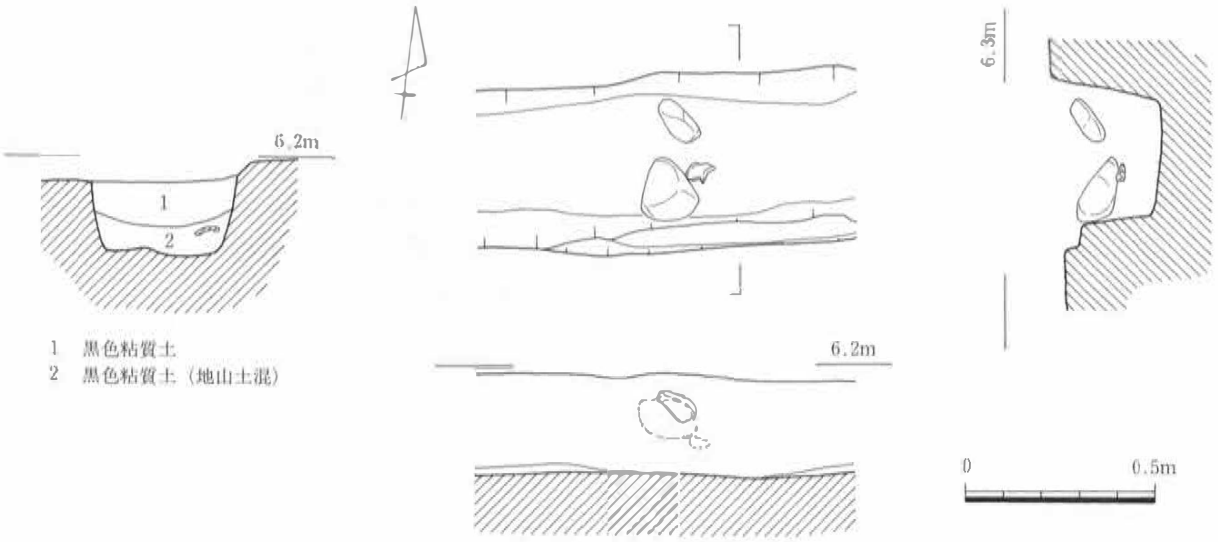


Fig.36 SD105土層断面・水口状遺構 （S＝1/20）

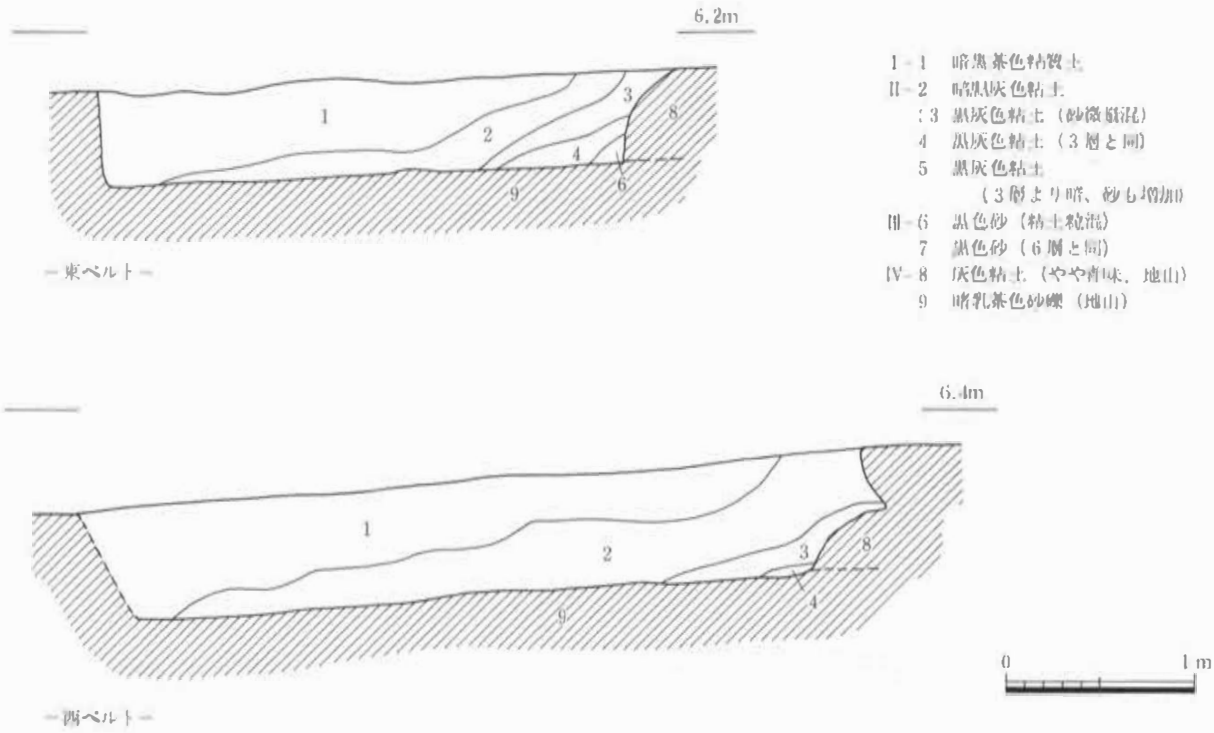


Fig.37　SX150土層断面　　（S＝1/40）

後期の組合せ式礎板を有する柱穴群に切られ、西側にSD110が接続するが、SD110との関係は不明である。埋土は大きく3層に分類できるが、遺物量の多いのはI層である。I層からは縄文後期～弥生中期前半、II層からは弥生前期の土器を出土している。III層からの出土遺物はない。

柱穴群

この調査区からは多数の柱穴を確認し、その多くから柱根、礎板を確認した。柱穴は大きくSX150周辺（調査区東側）と調査区の西側に分布し、前者は軟弱地盤が近いためか、組合せ式の物が多数であった。ここでは柱根を確認したが建物として復元できなかったものについて報告していく。

SP102（Fig.38）

DR51グリットから検出された柱穴で、隅丸方形のプランを有する。長軸約0.6m、短軸約0.55m、底部は2段構造となっており、深さは上段で約0.45m、下段で約0.55m。主軸の傾きはN-85°-Wを測る。柱根は下段にわずかに残る程度で、どのような造りでであったかは不明である。この他には弥生中期の甕を出土している。

SP106（Fig.38）

DT52グリットから検出された柱穴で、若干楕円形の平面プランを有する。長軸約0.9m、短軸約0.75m、深さ約0.6m。主軸の傾きはN-29°-Wを測る。柱根は30cm程が残っており八角形に面取られており、柱根の下からは小さな木片が出土している。この他には弥生中期の甕を出土している。

SP109（Fig.38）

DQ51グリットから検出された柱穴で、一部をSD105に切られているが、台形状の平面プランを有する。長軸約0.5m、短軸約0.4m、深さ約0.35m。東西方向に主軸を持つ。柱根は約15cmほどが残っていたがスポンジ状となっており、どのような造りであったかは不明である。この他には弥生時代の鉢を出土している。

SP144（Fig.38）

DI51グリットから検出された柱穴で、SX150・SP156を切る。隅丸長方形の平面プランを有し、長軸

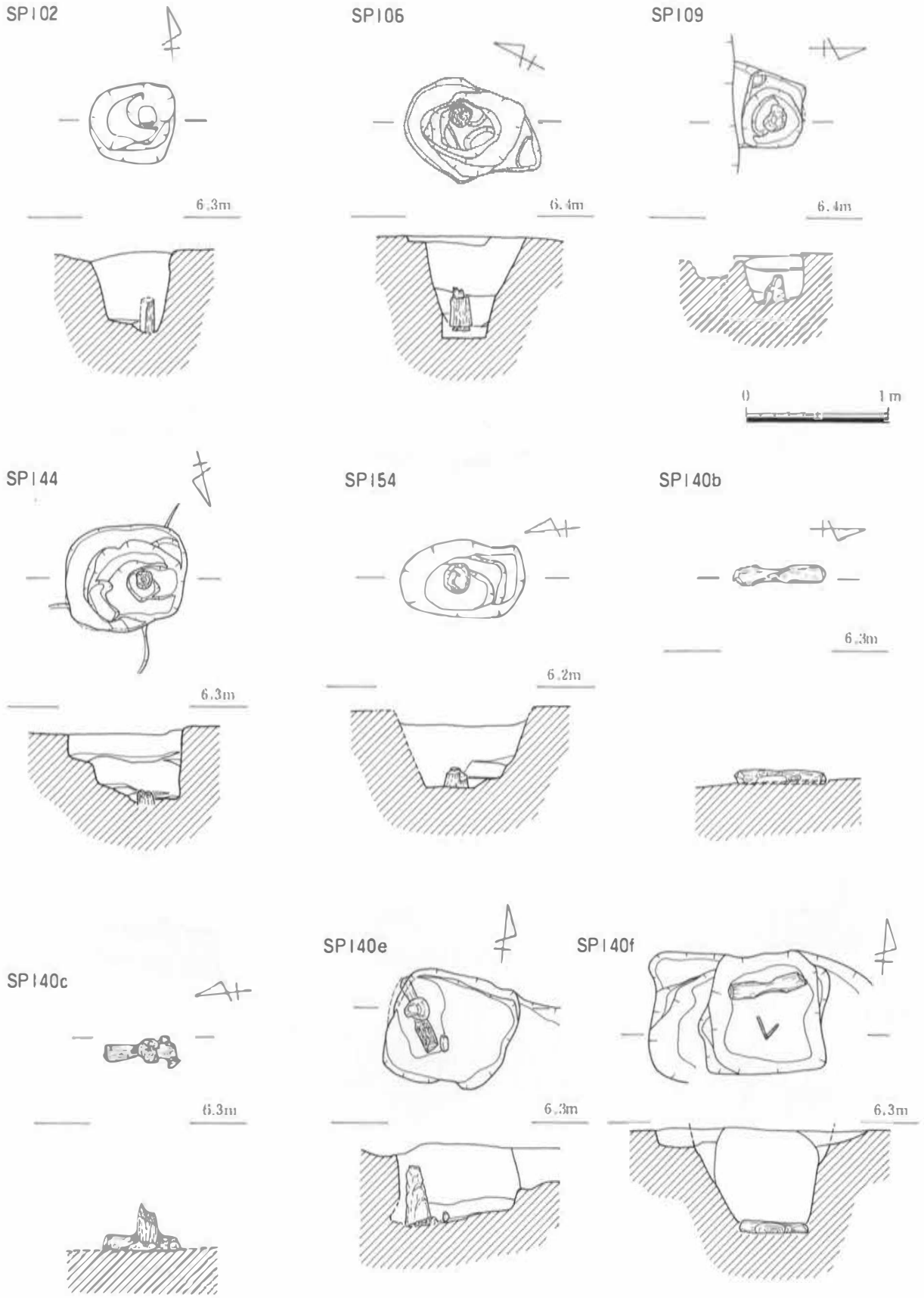


Fig.38　735-737工区　柱穴群　　(S＝1/40)

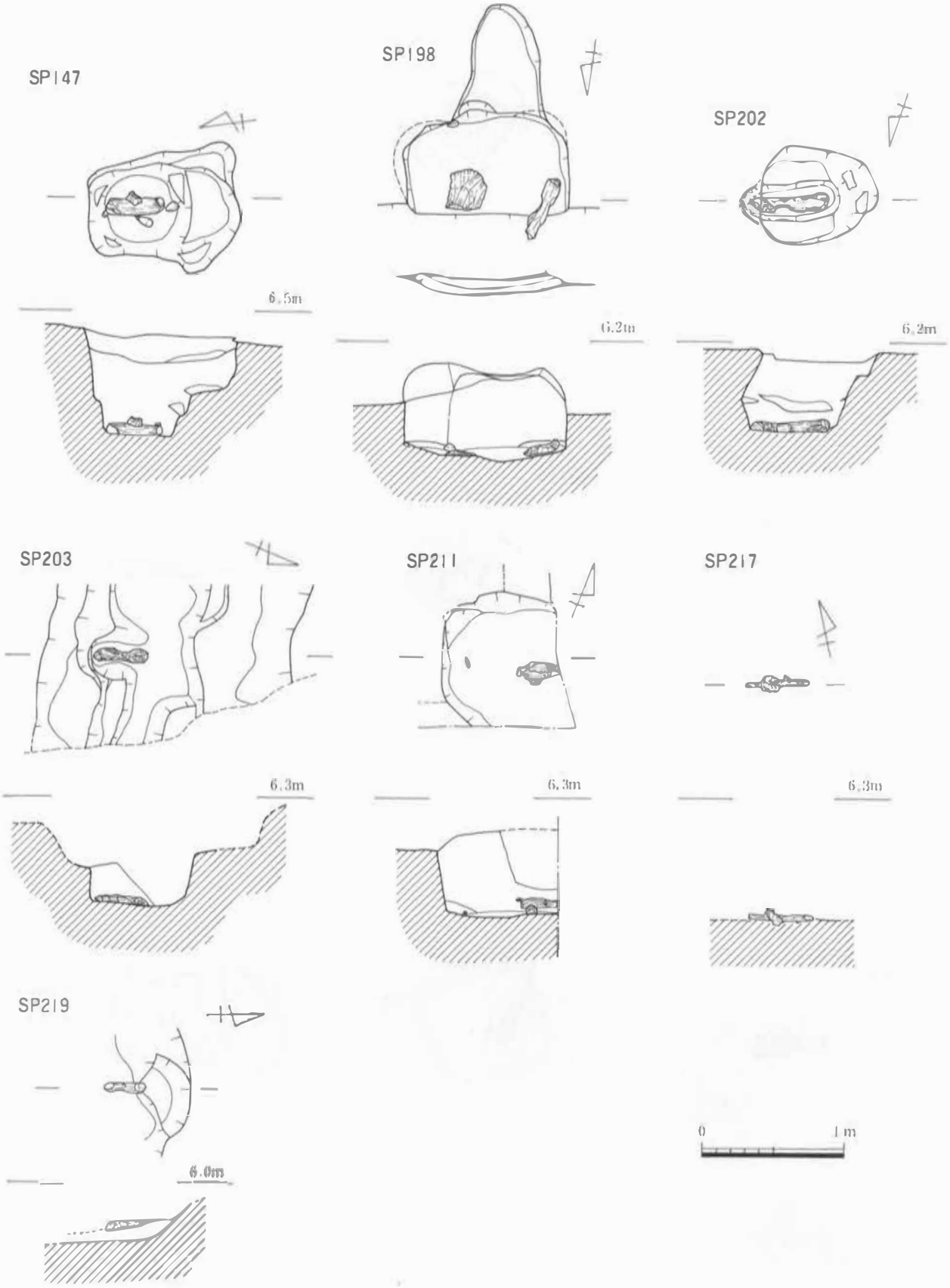


Fig.39　735-737工区　柱穴群（2）　　（S＝1/40）

約0.8m、短軸約0.65m、底部は3段になっているが深さ約0.6m。主軸の傾きはN-77°-Wを測る。柱根は約10cmほど残っていたが風化が激しく、どのような造りであったかは不明である。このほかには弥生土器を出土したが、図化しうるものではない。

SP154 (Fig.38)

DJ51グリットから検出された柱穴で、SP162を切る。ほぼ隅丸長方形の平面プランを有し、長軸約0.85m、短軸約0.55m、底部は3段となっているが深さ約0.45m。主軸の傾きはN-4°-Wを測る。柱根は約15cmほど残っていたが風化が激しく、どのような造りであったかは不明である。このほかに弥生中期の土器を出土した。

SP140b (Fig.38)

DF50～51グリットから出土した礎板である。柱穴はSX150の埋土との区別がつかなかったため掘り上げてしまい、形状などは不明。礎板の主軸は南北方向を取る。礎板の形状は断面カマボコ状で、中央の両面に切り込みを持たせたものである。柱根は確認できなかった。この他の出土遺物は前述の理由から不明である。

SP140c (Fig.38)

DG50～51グリットから出土した礎板である。柱穴はSX150の埋土との区別がつかなかったため掘り上げてしまい、形状などは不明。礎板の主軸はN-84°-Wを測る。礎板の形状は断面カマボコ状で、中央の両面に切り込みを持たせたものである。柱根は約25cmほどが残り、底部は礎板と組み合わせるために刳り貫かれており、面取りを施された痕跡を持つ。この他には弥生前期の土器があるが、混入の可能性が高い。

SP140e (Fig.38)

DF51グリットから検出された柱穴で、隅丸長方形の平面プランを有する。長軸約0.85m、短軸約0.8m、深さ約0.55m。主軸の傾きはN-84°-Eを測る。礎板、柱根は柱穴西壁寄りにあり、礎板の形状は断面カマボコ状で、中央の両面に切り込みを持たせたものである。柱根は約40cmほどが残り、底部は礎板と組み合わせるために刳り貫かれており、面取りを施された痕跡を持つ。この他には弥生中期の土器があるが、図化しえなかった。

SP140f (Fig.38)

DG51グリットから検出された柱穴で、隅丸長方形の平面プランを有する。長軸約0.85m、短軸約0.8m、深さ約0.7m。主軸の傾きはN-85°-Eを測る。礎板は柱穴北壁寄りにあり、礎板の形状は断面カマボコ状で、中央の両面に切り込みを持たせたものである。柱根は確認できなかった。また、底面中央部ではV字状に小木片が確認された。この他には弥生中期の土器、石鏃片などを出土している。

SP147 (Fig.39)

DI51グリットから検出された柱穴で、隅丸長方形の平面プランを有する。長軸約1.0m、短軸約0.8m、底面は3段構造となっており、深さは下段で約0.7m。主軸の傾きはN-84°-Wを測る。礎板の形状は断面カマボコ状だが、他の礎板と異なり中央部に切り込みを有していない。柱根は約5cmほどを確認したが遺存状態は悪く、どのような造りであったかは不明である。この他には弥生前期～中期の土器を出土している。

SP198 (Fig.39)

DB51グリットから検出された柱穴で、SD130に大きく切られているが隅丸長方形の平面プランを有すると考えられる。南側の浅い掘り込みは柱の抜き取り跡で、土層上でもこれを確認している。長軸約1.2m、短軸約1.0m、深さ約0.65m。主軸の傾きはN-81°-Eを測る。礎板は柱穴西壁寄りにあり、礎板の形状は断面カマボコ状で、中央の両面に切り込みを持たせたものである。柱根は確認できなかった。また、床面中央部で木質の植物遺体を確認したが取り上げられるようなものではなかった。この他には弥生中期前半の土器片を出土している。

SP202 (Fig.39)

DA50～DB51グリットから検出された柱穴で、卵型の平面プランを有する。内側は東側に大きくえぐ

れ、底面は二段構造となっている。長軸約0.8m、短軸約0.7m、下段で深さ約0.5m。主軸の傾きはN-61°-Eを測る。礎板の形状は断面カマボコ状で、中央の両面に切り込みを持たせたものである。この他には弥生前期・弥生終末・古墳初頭の土器片を出土している。

SP203（Fig.39）

DA52～DB52グリットにおいて検出した柱穴で、遺構自体はSD130によりほとんど残っていない。礎板の主軸はN-24°-Wを測る。礎板の形状は断面カマボコ状で、中央の両面に切り込みを持たせたものである。柱根は確認できなかった。このほかには弥生土器片・古式土師器片を出土したが図化しえるものではなかった。

SP211（Fig.39）

DA51グリットから検出された柱穴で、遺構の東部分および南壁は調査区外へと延びている。礎板もその半分しか出土していないが、おそらくは他の物と同様、断面カマボコ状で、中央の両面に切り込みを持たせたものと考えられる。柱根は確認されていない。この他には弥生中期の土器片を出土している。

SP217（Fig.39）

DH51グリットから検出された柱穴だが、柱穴はSX150の埋土との区別がつかなかったため掘り上げてしまい、形状などは不明である。礎板の主軸はN-79°-Wを測る。この礎板は他の物とは構造・規模が異なり、径5cmほどのまっすぐな枝の上に径10cm程度の貧弱な柱根を乗せている。この規模から建物を構成する主な柱ではなく、補助的な支柱であろうと考えられる。この他の出土遺物はない。

SP219（Fig.39）

DD52グリットから検出された礎板で、柱穴はSX150の埋土との区別がつかなかったため掘り上げてしまい、形状などは不明である。主軸は南北方向を取る。この礎板は他の物とは規模が異なり小型である。

この他の出土遺物は確認されていない。

4．出土遺物

この調査区からは縄文後期～古墳初頭にかけての遺物を採取した。このうち縄文時代の物は量的にも少なく、混入を示すような出土状況であった。

SB330出土遺物（PL.11-1）

土製紡錘車（Fig.40）

1はP140a裏込め土からの出土。径5.3cm、厚さ1.0cmを測り、表面にはミガキに近い工具ナデが施されている。

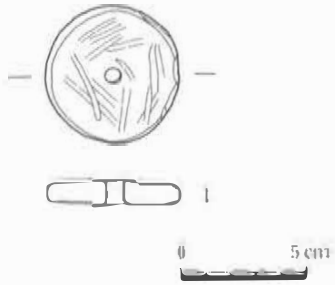


Fig.40　SB350出土遺物（1）（S＝1/3）

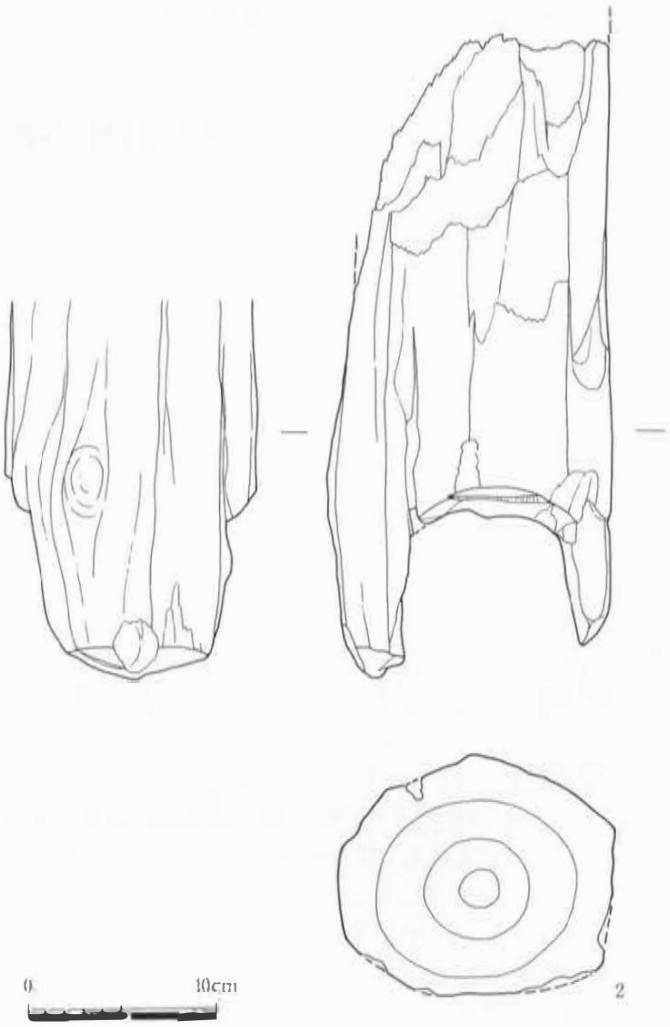


Fig.41　SB350出土遺物（2）　（S＝1/4）

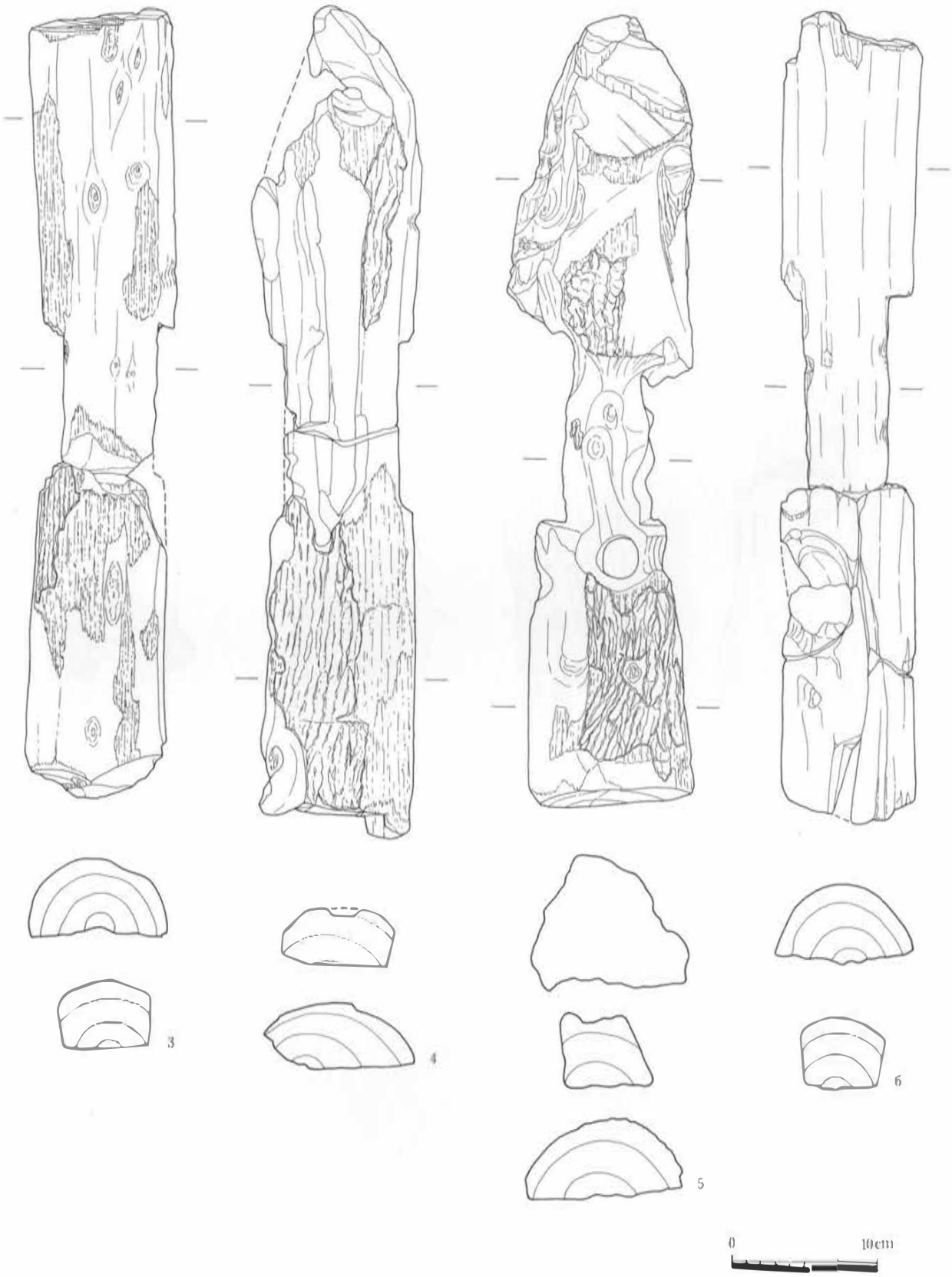


Fig.42　SB350出土遺物（3）　（S＝1/4）

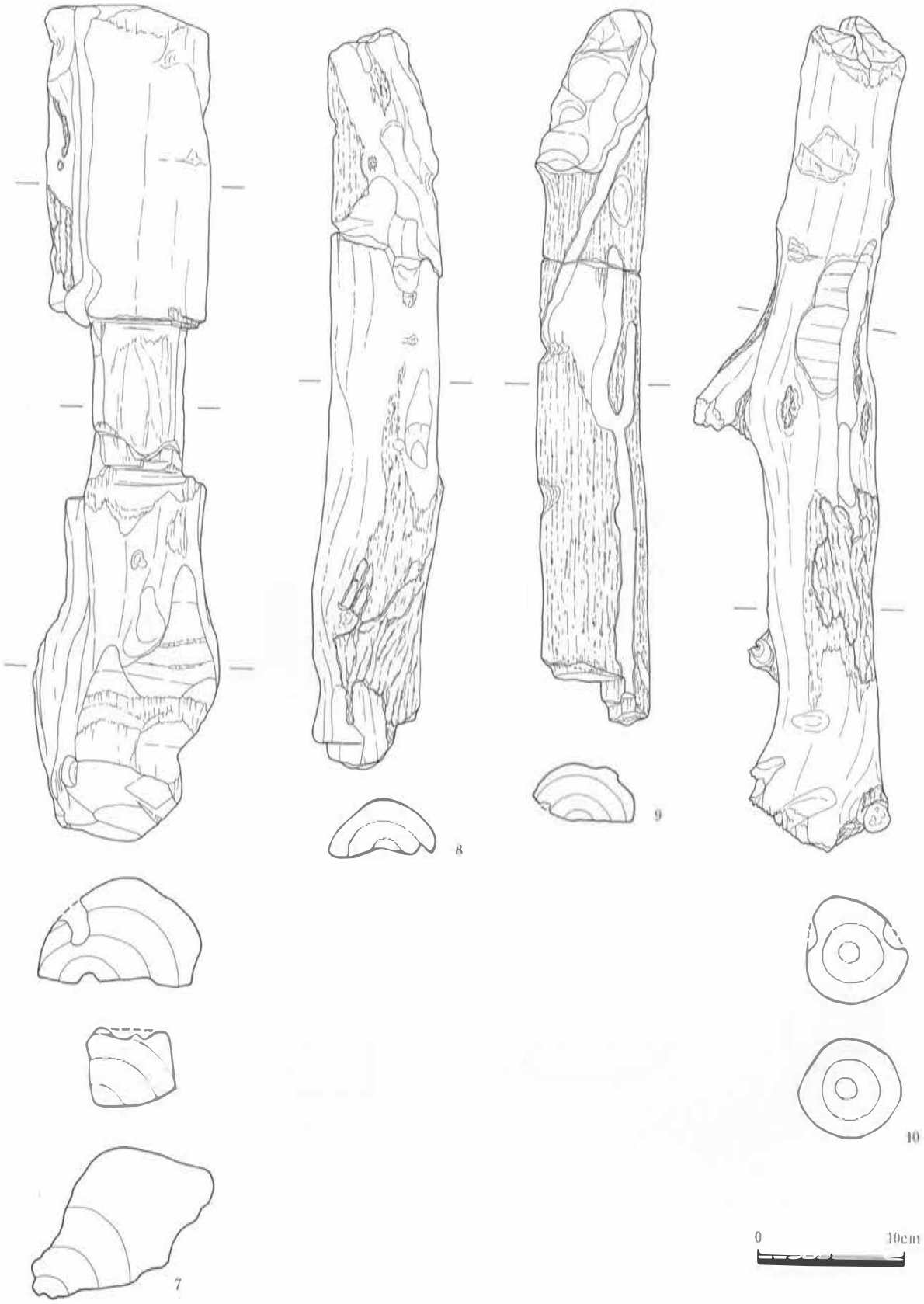


Fig.43　SB350出土遺物（4）　（S＝1/4）

柱根（Fig.41）

調査時点で柱根はP206、P208、P140a、P140dにおいて確認したが、図化しえたのはP140dの１点だけである。

２はP140dからの出土。32cmほどが残存し、中心部は腐食が進んでいる。全面に面取りが行なわれ、底部は礎板と組み合わせるために切り込みが施されている。

礎板（Fig.42-３～Fig.43-10）

全ての柱穴で礎板を確認したが、P208のものは所在不明となっている。側断面は建物の重量のために反り返るが、礎板自体の痛みが激しく、図化しえない状況である。３～７は柱根と組み合わせるため、中央両側面に切り込みを有している。切り込みは「コ」の字状に施されており、特に７は上面にも加工が施されている。８～10は７の下に置かれていたもので、加工痕などは特に確認されていない。

SD130出土遺物（PL.11-2・12）

第Ⅰ層出土遺物（Fig.44-1～2）

１は弥生土器の甕の底部小破片である。中期のもので上げ底となる。２は砂岩製の砥石の小片で、４面に使用痕跡が見られる。

第Ⅱ層出土遺物（Fig.44-3～7）

3～4は弥生土器の壺の底部である。5は弥生土器の甕の底部小破片である。中期のもので上げ底となる。６は高坏（脚付鉢？）の脚部小片で、円形の穿孔を施してある。７はミニチュアの甕で手づくね製である。

第Ⅱ～Ⅲ層出土遺物（Fig.44-8～11）

第Ⅱ層と第Ⅲ層の分層面からは多くの土器が出土したため、このグループは別個に取りあげを行なった。８～９は弥生土器の壺の口縁部である。９は後期前半の二重口縁壺だが、袋状口縁の外側端部に刻目を有している。10は弥生土器の鉢である。11は土師器の鉢と思われるが、小片のため断定できない。

第Ⅲ層出土遺物（Fig.44-12～20）

12～13は弥生土器の壺である。14は弥生土器の鉢である。15は弥生終末期の甕である。16は土師器の脚付鉢である。17は土師器の高坏である。18～19は土師器の坩である。20は不明土製品である。

第Ⅳ層出土遺物（Fig.44-21～23）

21～22は土師器の壺である。23は土師器の鉢で、完存品である。外面の調整は荒い。

その他の土器（Fig.44-24～Fig.48-96）

層位ごとに取り上げられなかった土器を報告する。24～25は縄文土器の浅鉢の小片で、晩期後半（山ノ寺～夜白期）のものと考えられる。26～36は壺で、26・30は弥生中期。27・32は弥生後期後半、28・29・31・33は終末期のものである。31は内底面中央部に刺突痕を有し、口縁部を打ち欠いた可能性がある。34～36は大型の壺の口縁部小片で、時期を特定することはできない。37～54は甕で、37は前期後半～中期前半、38は中期後半、39～51は終末期～古墳時代初頭のものである。52～54は大型品で、後期のものと考えている。55～64は鉢である。55は弥生中期前半の亀ノ甲系のもので、壺となる可能性もある。56～64は弥生後期～古墳時代初頭。65～75は土師器の坩で、古墳時代初頭。76～80は弥生後期～古墳初頭にかけての高坏である。81～82は弥生土器の蓋である。83～87は器台である。83は弥生中期、84は弥生後期後半で他地域からの流入品の可能性がある。85～87は土師器で古墳時代初頭。88～92は時期不明の土製品である。88～90は手づくねの鉢で、90の断面は二枚貝の殻のようになっている。91は小型の脚付き鉢、92は用途不明の土製品で、蓋のミニチュアか。93は炭化木材で、一方に工具痕が残る。94は敲石で安山岩。95～96は砥石で共に肌理の細かな砂岩である。

北側試掘調査区出土遺物（Fig.48-97～99、PL.8-1・12）

掘立柱建物が大型建物になるかどうかを確認するために北側を試掘したところ、SD130の続きを確認した。ここでは完存に近い土器が溝内に埋設された状況で確認された。本来ならば現状保存を行なうところであるが、工事等により破損する可能性が高かったため、特に残りの良い２点を取り上げることとなった。この際に作図などの作業は一切行なわれていない。いずれも弥生終末～古墳初頭にかけてのも

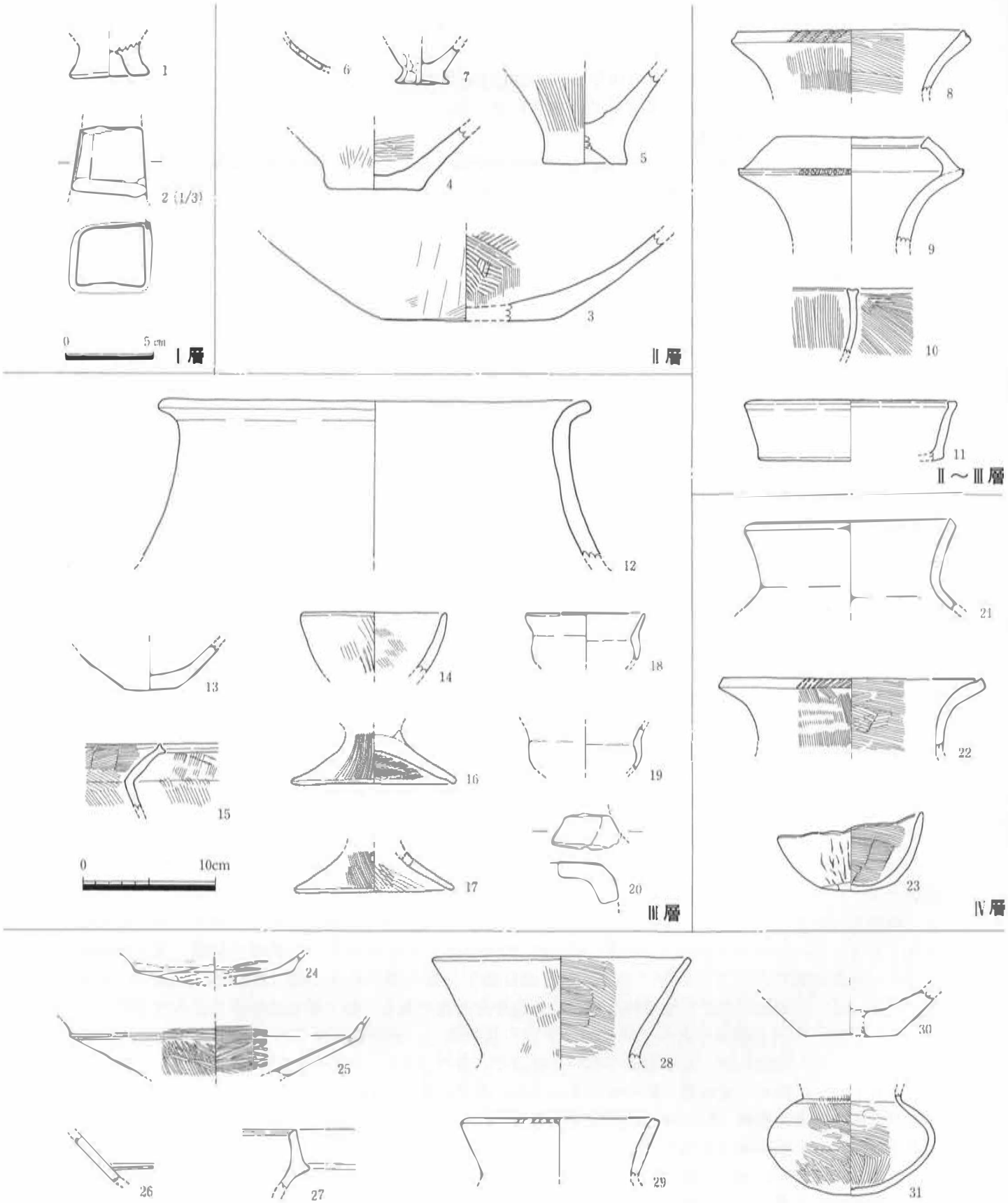


Fig.44　SD130出土遺物（1）　（S＝1/3・1/4）

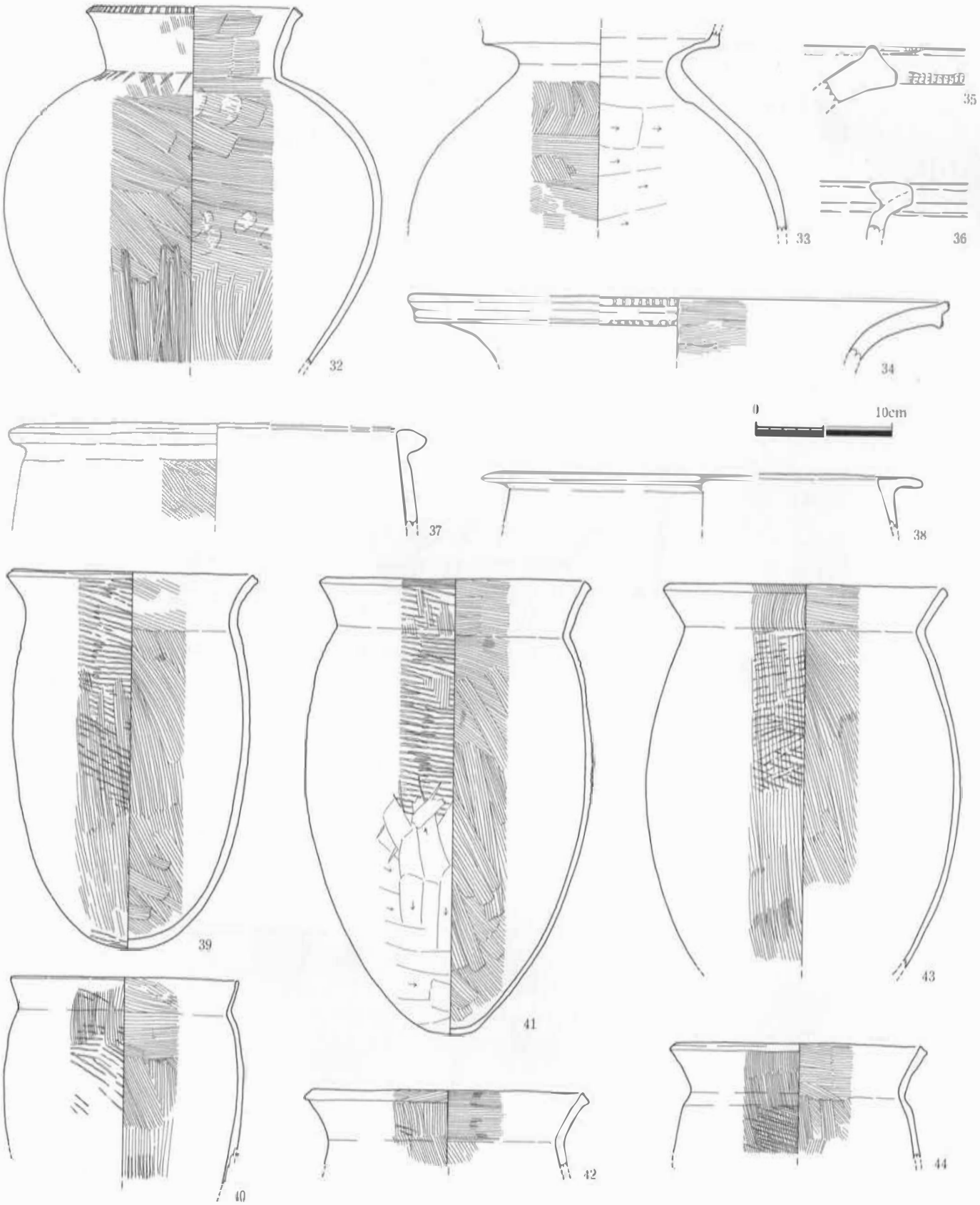


Fig.45　SD130出土遺物（2）　（S＝1/4）

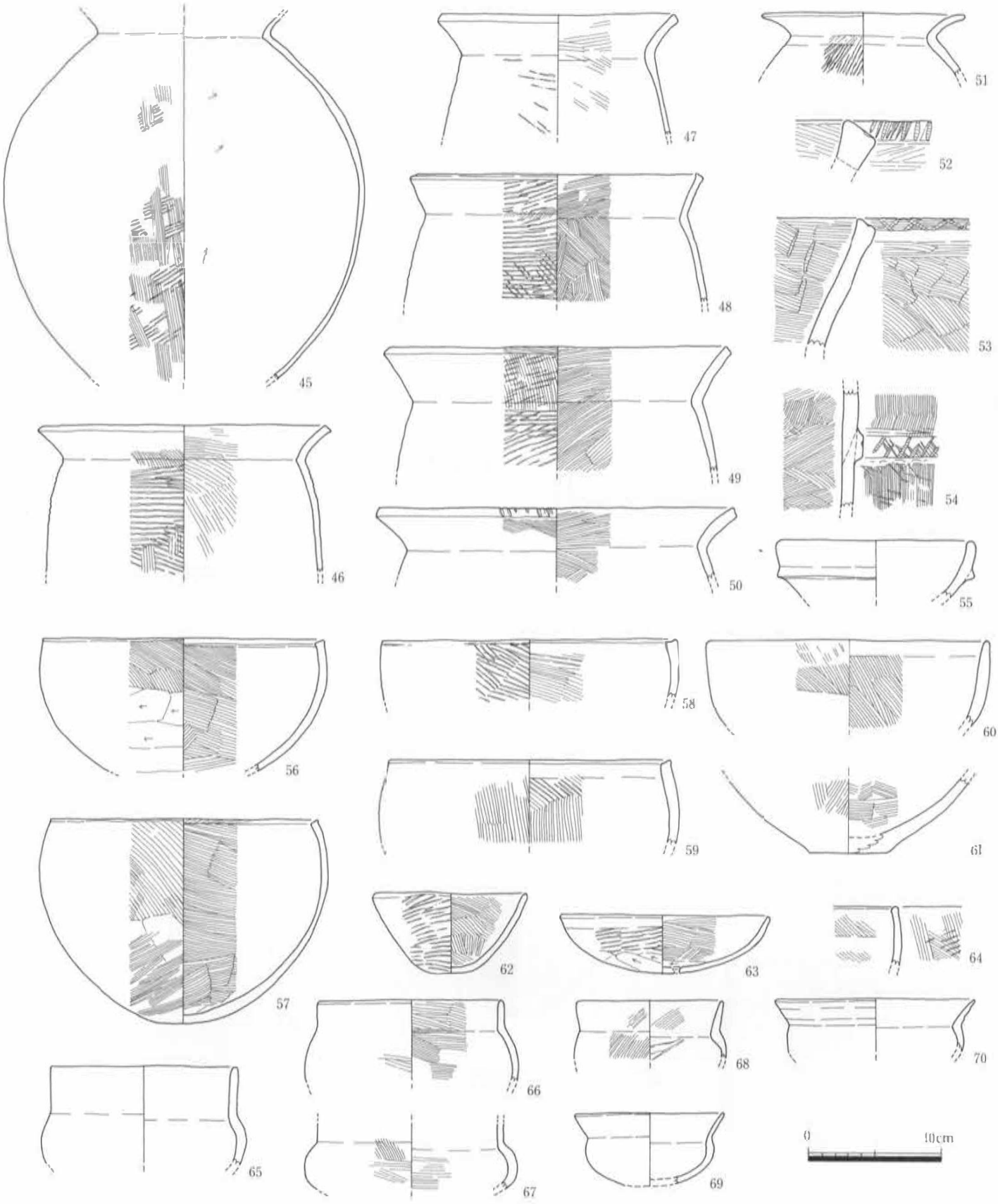


Fig.46 SD130出土遺物（3） （S＝1/4）

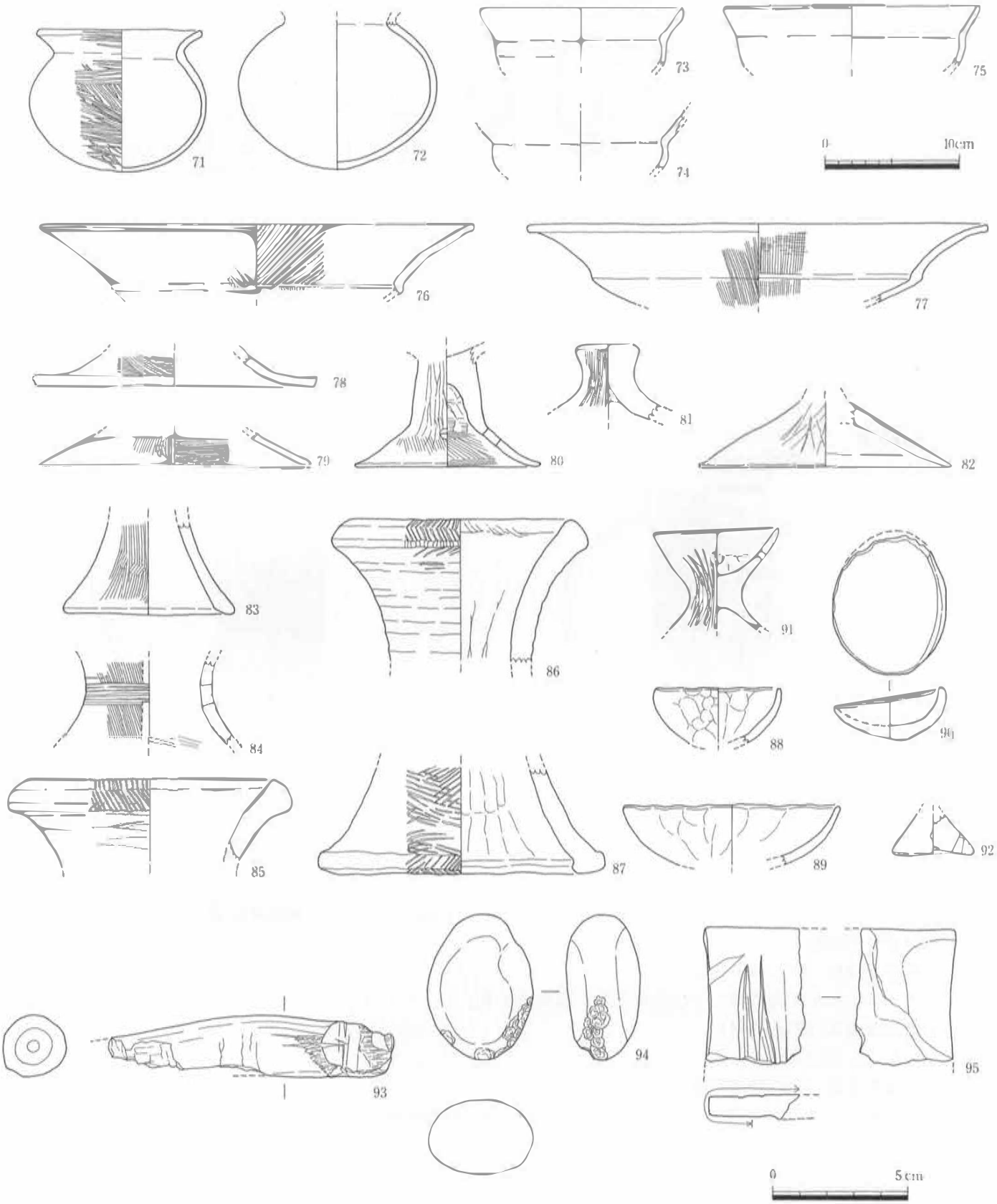


Fig.47　SD130出土遺物（4）　（S＝1/4・1/2）

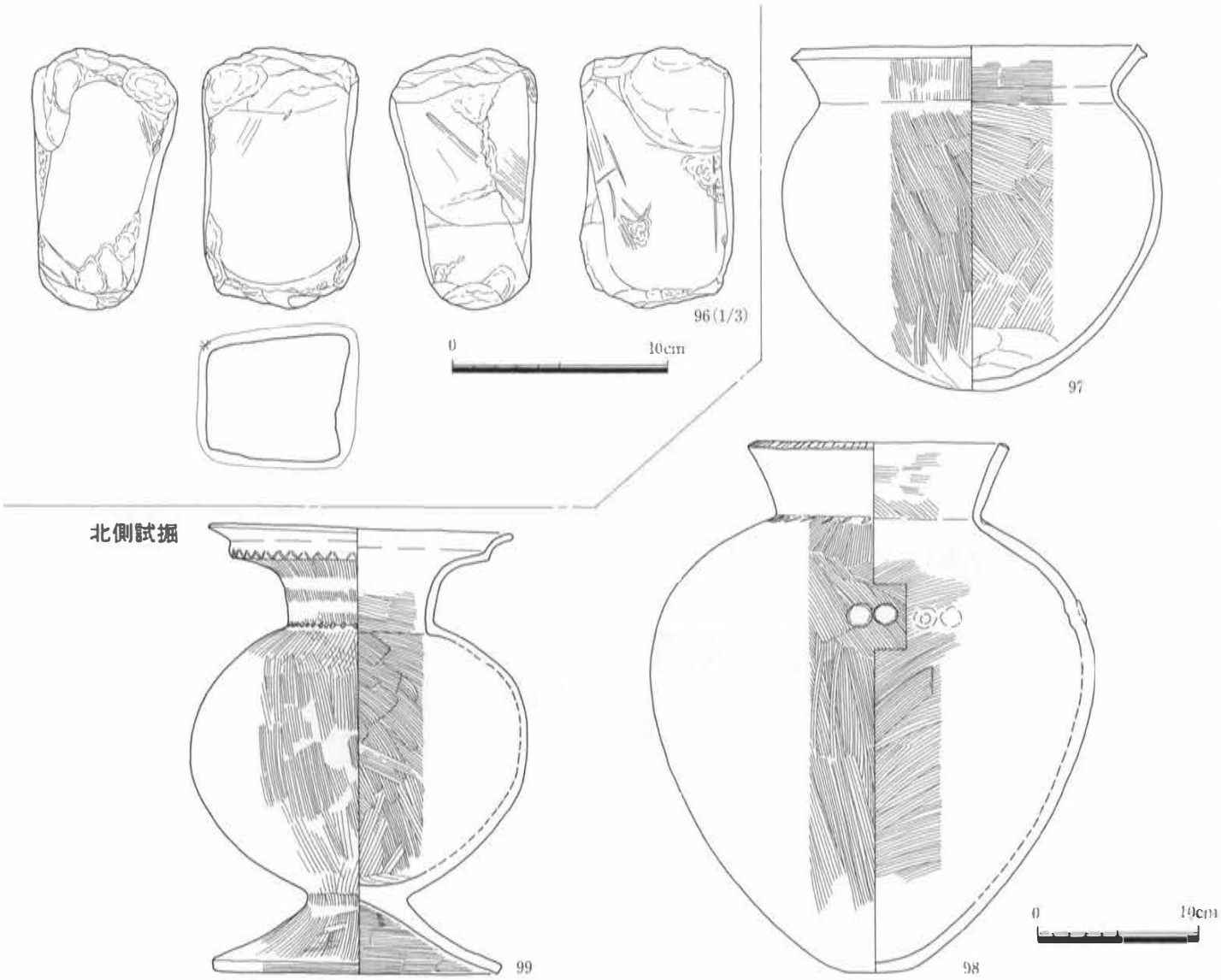


Fig.48　SD130出土遺物（5）　（S＝1/3・1/4）

のである。97は甕。98は壺で、胴部上位には一対の浮文が施されている。99は脚付壺である。

SD110出土遺物

Ⅰ層出土遺物（Fig.49-1～3）

1・3は弥生土器の壺。2は弥生土器の器台である。

Ⅱ層出土遺物（Fig.49-4）

4は弥生後期の甕である。

その他の土器（Fig.49-5～18）

5～6は弥生土器の壺のである。7～14は弥生中期～後期の甕である。15～18は弥生土器の器台である。

SD125出土遺物（Fig.50）

1・8は壺である。1は弥生終末。8は内外面にわずかにミガキの痕跡が見られる。2～7・9は甕である。5は弥生前期、その他は弥生中期のものである。

SX100出土遺物

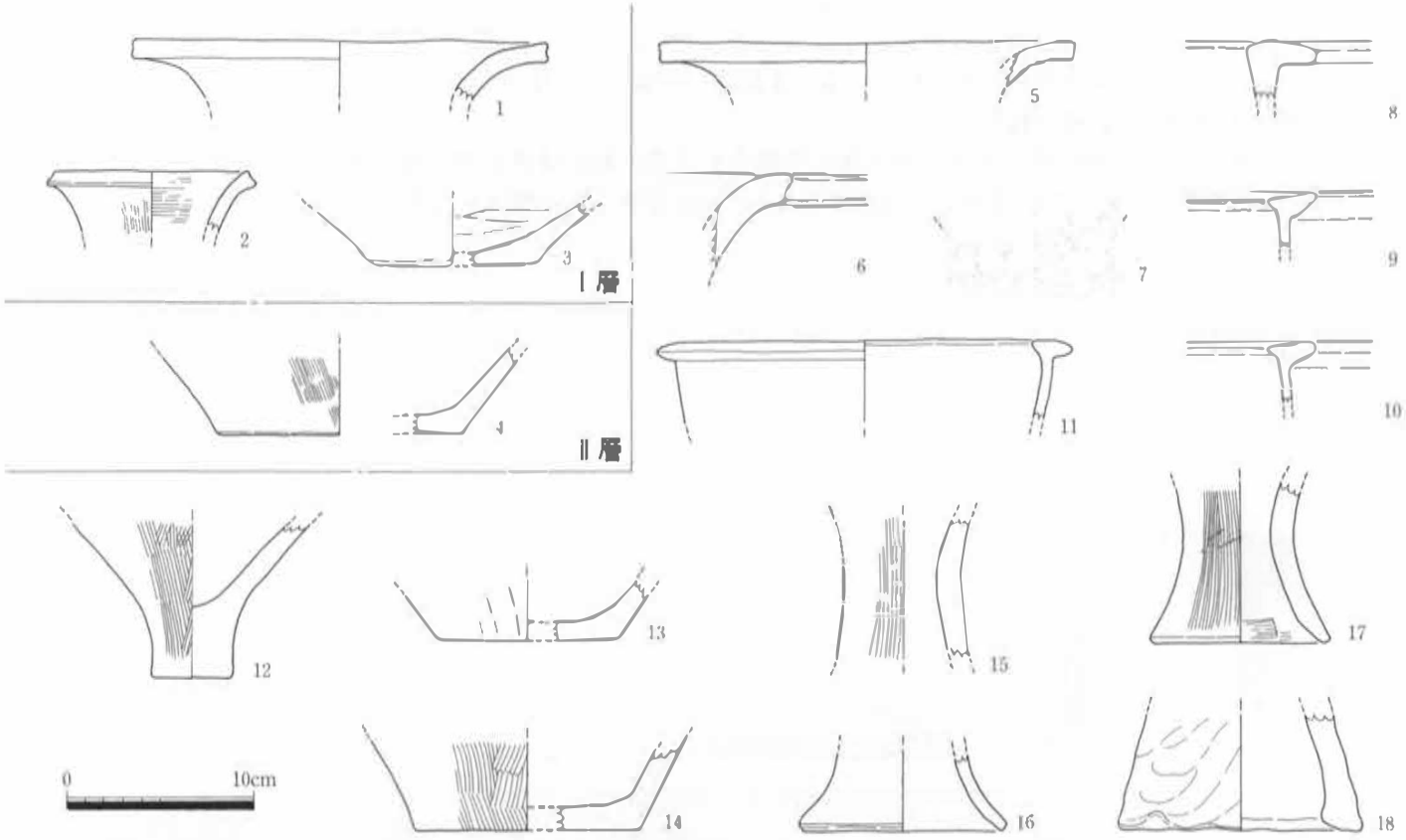


Fig.49　SD110出土遺物　（S＝1/4）

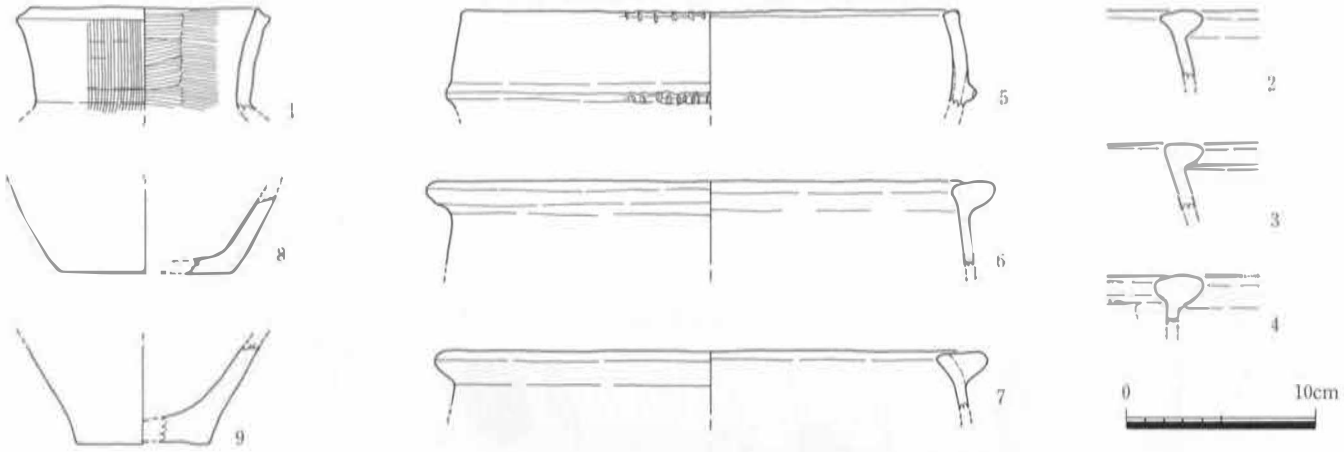


Fig.50　SD125出土遺物　（S＝1/4）

Ⅰ層出土遺物（Fig.51、PL.13-1）

1・4は壺で、1は弥生時代、4は古墳時代のものである。2～3は弥生土器の甕である。5～6は高坏で、6は弥生時代、5は古墳時代のものである。7～8は弥生時代後期の鉢で、7の底面にはハケ目が施されている。

Ⅱ層出土遺物（Fig.51、PL.13-2）

9～12は弥生土器の壺で、9～10は弥生後期後半、11～12は外面に丹塗りが施されている。13～18は

弥生土器の甕で、17の底部にはハケ目が施されている。19は弥生後期の鉢である。20は弥生土器の蓋と思われる。21は弥生土器の高坏の脚部小片である。22～23は弥生土器の器台である。24は器種は不明だが、外面には半裁竹管文が施されている。中部瀬戸内地方の弥生土器か。

Ⅲ層出土遺物（Fig.52～53）

25～29は弥生土器の壷である。25～28は中期のもので、29は後期前半。30～56は弥生土器の甕である。33は外面丹塗り。43は肥後系の口縁部である。50は中実の高い脚部を有するもので、後期に属する。

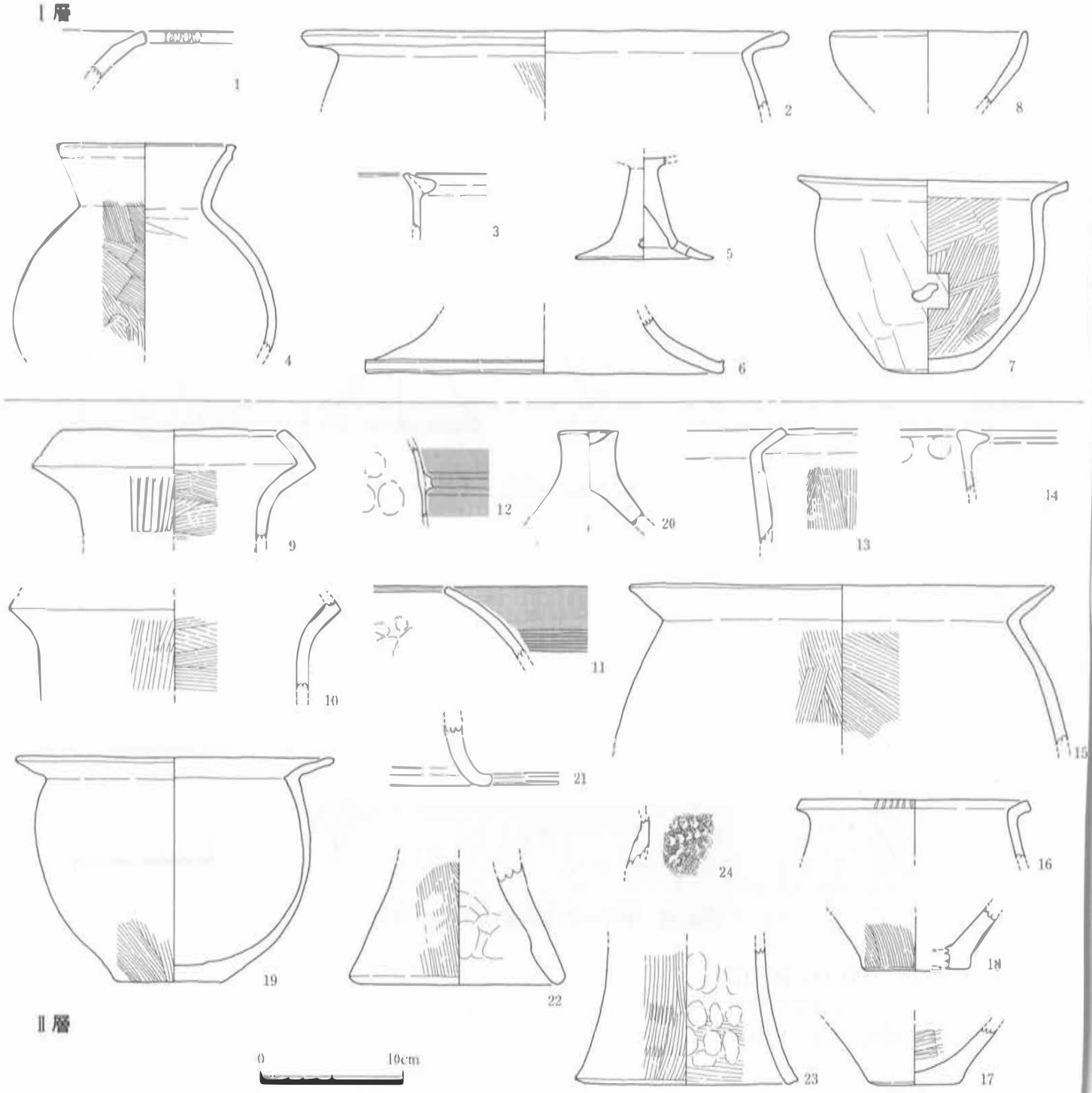


Fig.51　SX100出土遺物（1）　（S＝1/4）

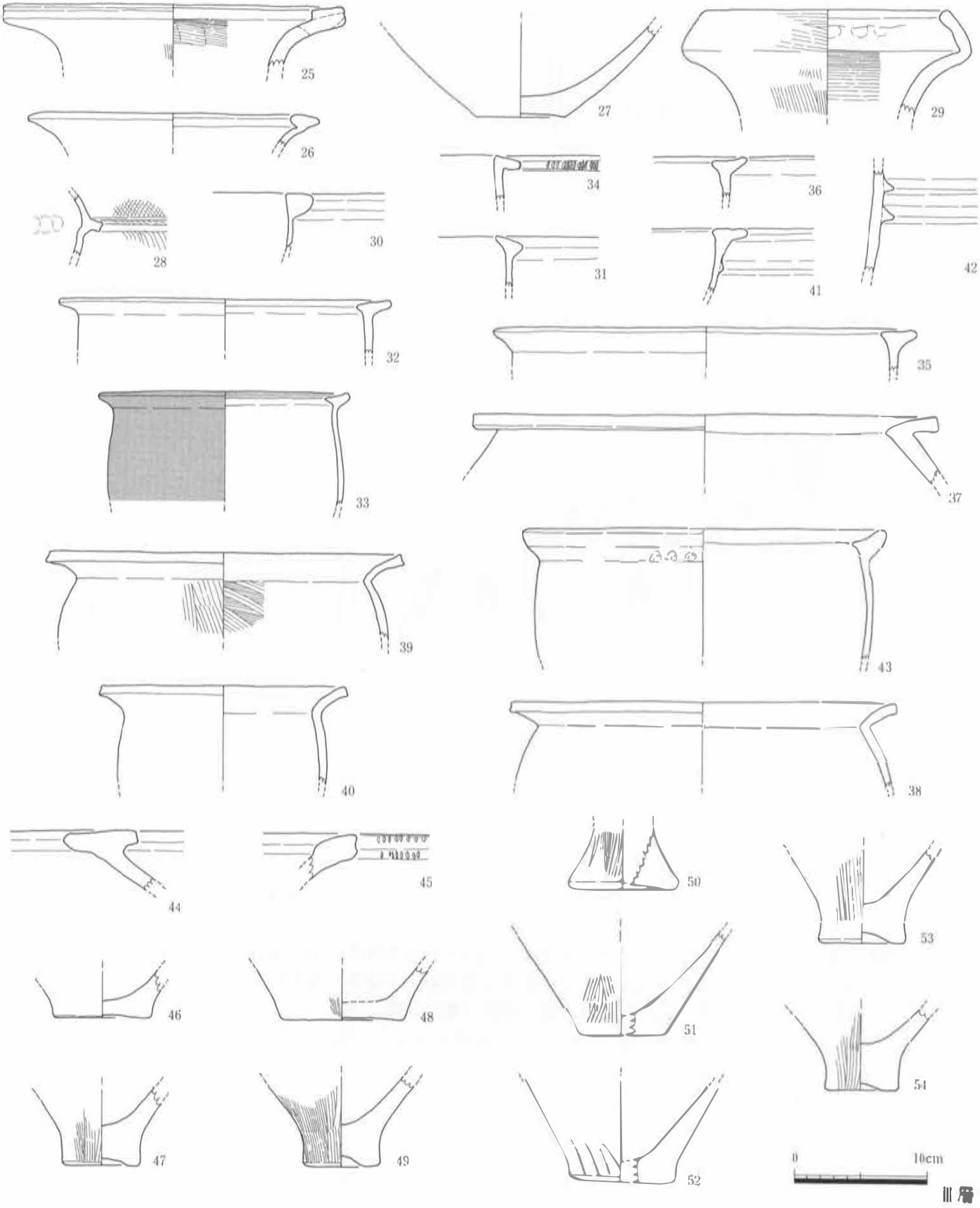


Fig.52　SX100出土遺物（2）　（S＝1/4）

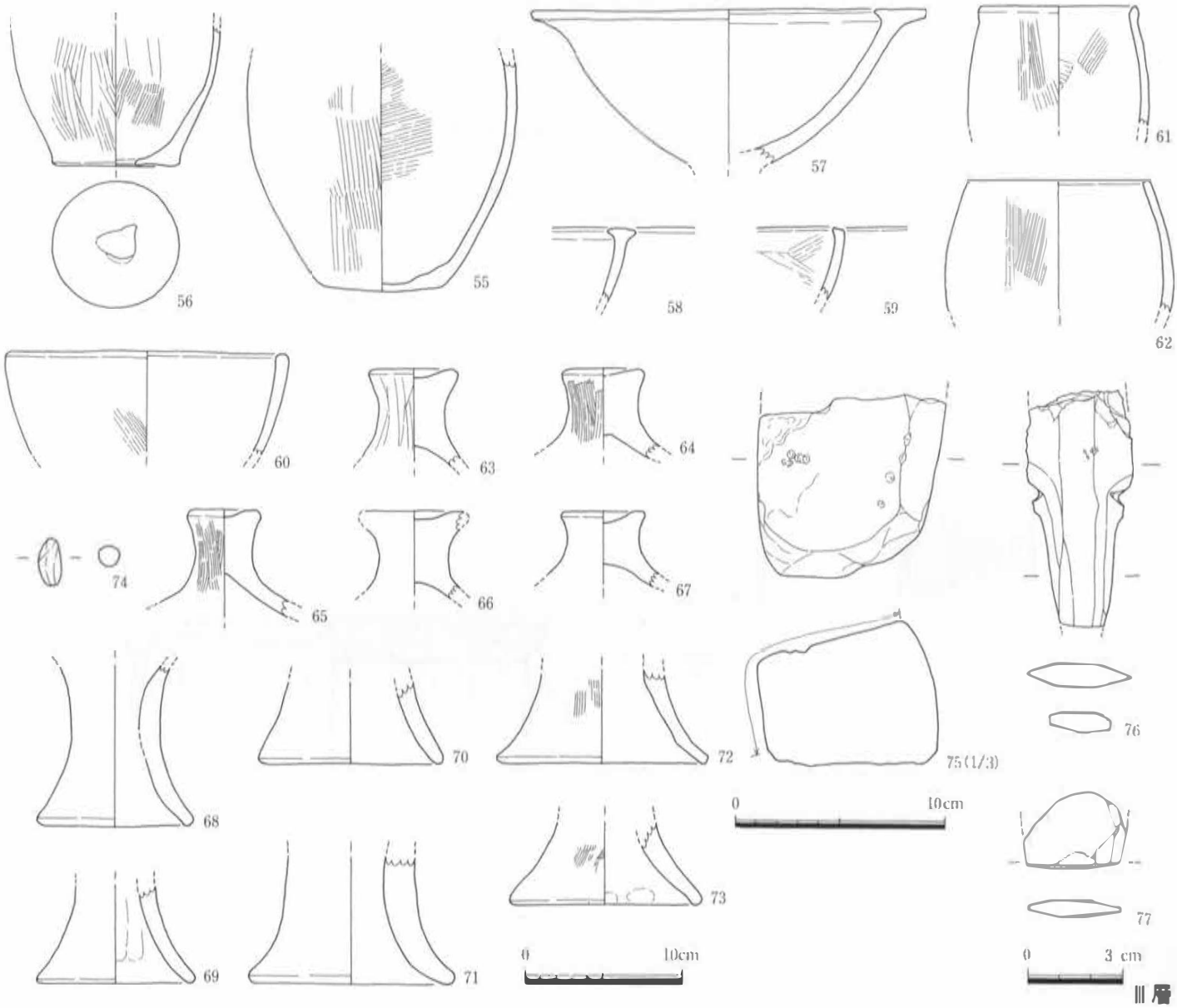


Fig.53　SX100出土遺物（3）　（S＝1/4・1/3・1/2）

56は焼成後、穿孔を施している。57は弥生土器の高坏で、弥生中期。58～62は弥生土器の鉢で弥生後期。63～67は弥生土器の蓋である。68～73は弥生土器の器台で中期～後期前半。74は土製の投弾である。75は砥石で材質は砂岩。76～77は頁岩製の磨製石剣の基部である。76は基部に抉りが施されているが、この部分に磨耗した様子は見られない。77は剥離がひどく、端部でかろうじて断面形を観察できる程度である。

東西ベルト上層出土遺物（Fig.54）

東西ベルトは調査の安全上最後に掘り下げを行なった部分である。上層遺物はII層、下層遺物はIII層に対応する。上層遺物には、包含層からの混入品の存在も否定できない状況である。78～81は弥生土器の壺で、中期から後期にかけてのものである。82～93は弥生土器の甕であり、中期のものである。94は土師器の甕で、古墳初頭のものである。95～96は弥生土器の高坏で、弥生中期。97は弥生土器の蓋である。98は弥生土器の鉢である。弥生後期か。

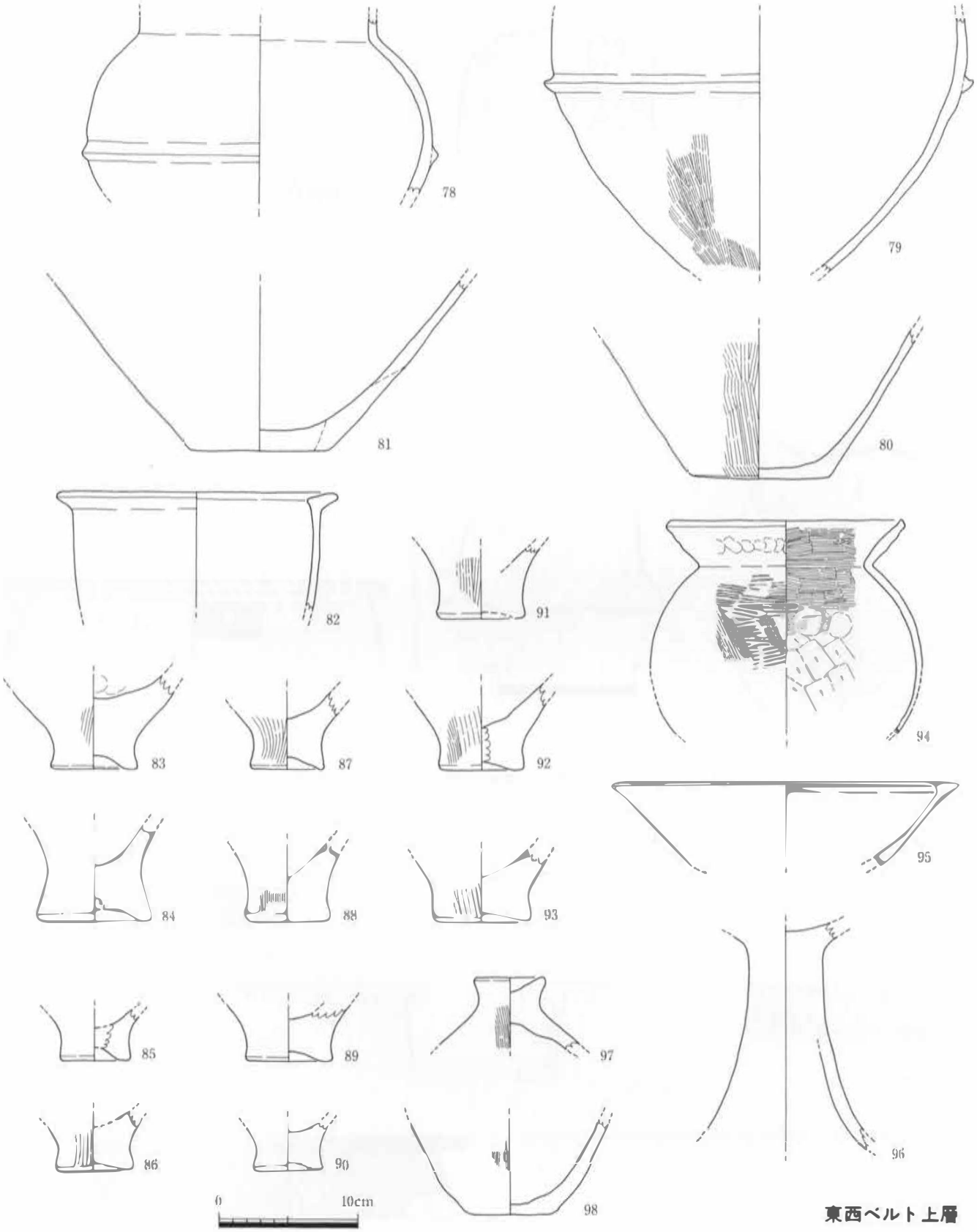


Fig.54　SX100出土遺物（4）　（S＝1/4）

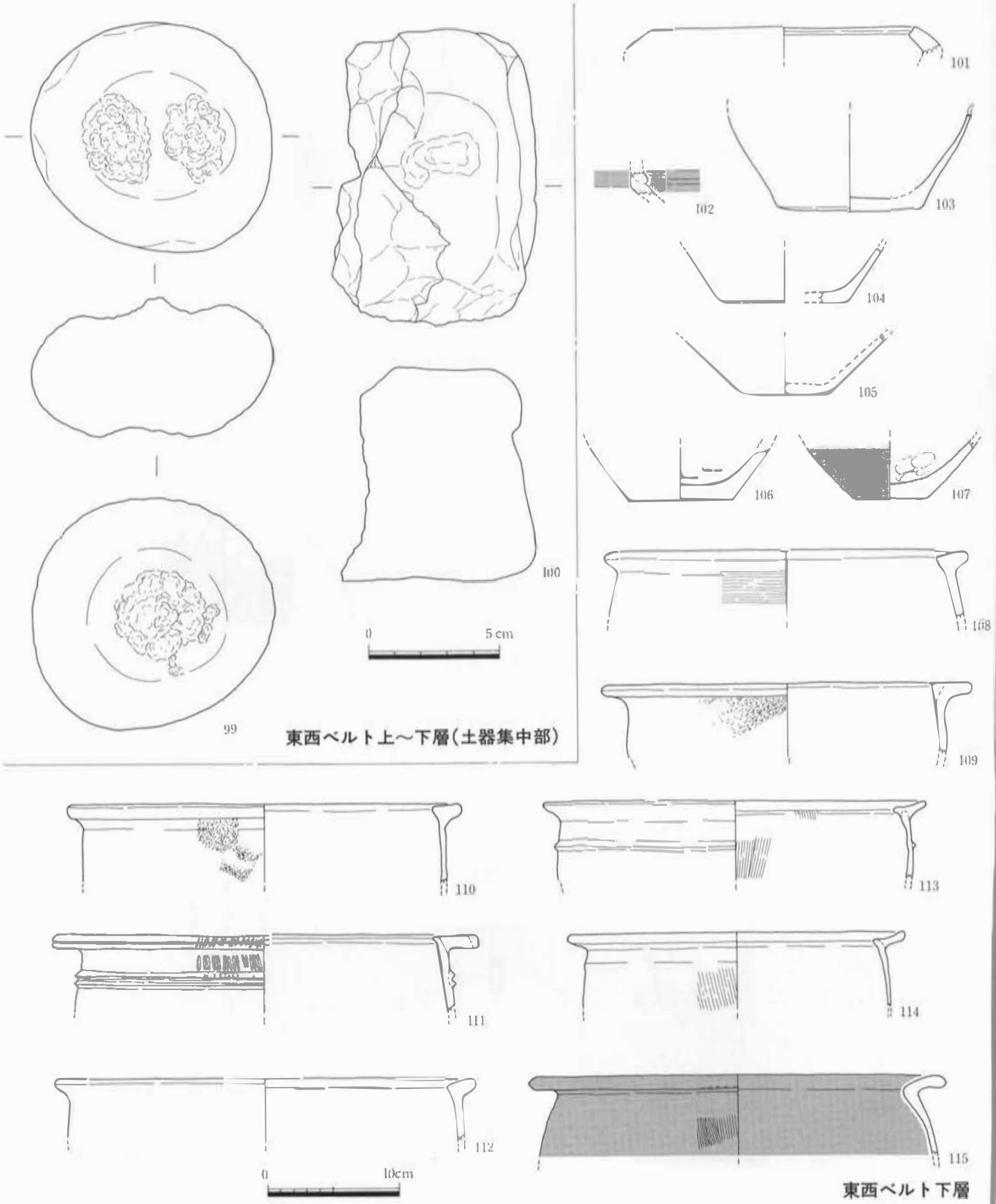


Fig.55　SX100出土遺物（5）　（S＝1/2・1/4）

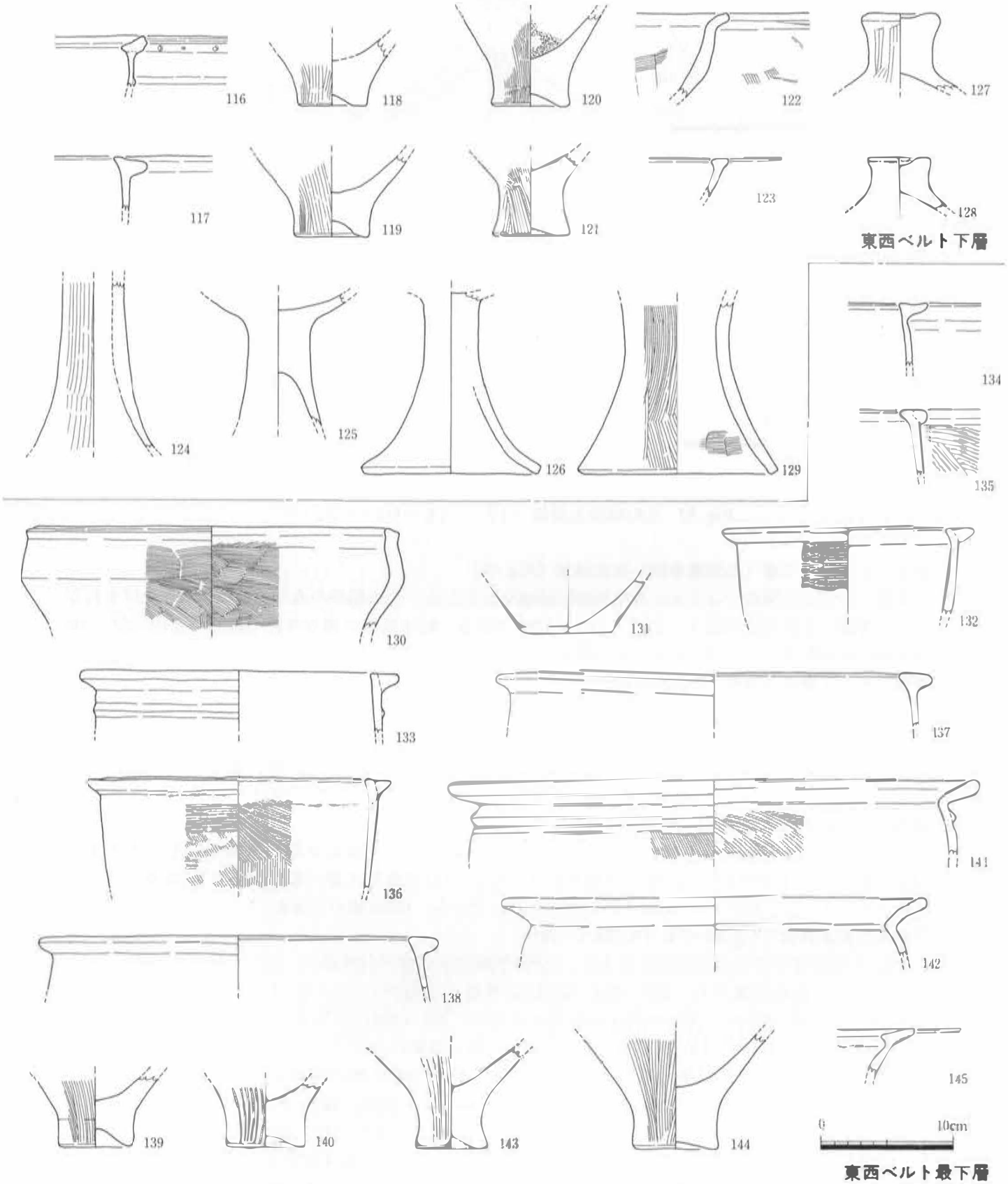


Fig.56　SX100出土遺物（6）　（S＝1/4）

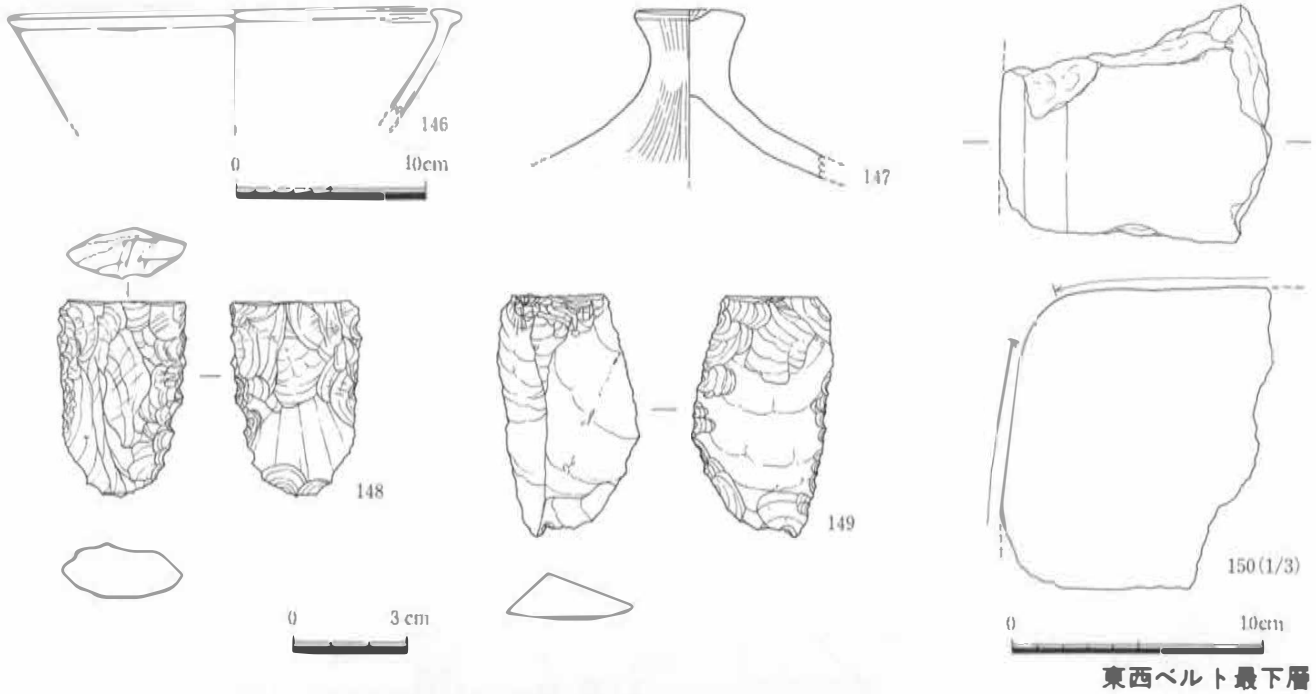


Fig.57　SX100出土遺物（7）　（S＝1/4・1/2・1/3）

東西ベルト上～下層（土器集中部）出土遺物（Fig.55）

東西ベルトの分層面では土器の集中廃棄が確認されたため、この部分のみでの遺物の取り上げを行なった。実測しえたのは石器1、石材1の2点のみである。99は両面に窪みを持つ敲石で安山岩製。100は全面に煤の付着した石材である。安山岩か。

東西ベルト下層出土遺物（Fig.55～56）

101～107は弥生土器の壺である。102・107には丹塗りが施されている。108～121は弥生土器の甕で、弥生中期から後期のものである。115には内外面とも丹塗りが施されている。122～123は弥生土器の鉢の細片である。124～126は弥生土器の高坏である。127～128は弥生土器の蓋である。129は弥生土器の器台で、後期のものである。

東西ベルト最下層遺物（Fig.56～57）

130～131は弥生土器の壺である。132～144は弥生土器の甕で、弥生中期から後期のものである。145～146は弥生土器の高坏で、弥生中期のものである。147は弥生土器の蓋である。148はサヌカイト製のスクレイパー、149はサヌカイトの二次加工剥片である。150は砥石である。

その他の出土遺物（Fig.58～74、PL.13-3・14）

151は中期前半の壺の肩部の小片である。152は中期前半の壺の口縁部か。153～166は広口壺である。158～161には暗紋が施され、157・158・162には丹塗りも施されている。153～155、157～162は弥生中期、156は弥生後期、163～166は終末期のものか。167～169は短頸壺である。169は終末期のものか。170～175は無頸壺である。174～175は弥生中期～後期にかけてのものか。176は二重口縁壺で弥生後期。177は袋状口縁壺の胴部か。弥生中期。178～186は壺の胴部破片である。178・179・182・183は無形壺の174・175と同時期のものか。186は弥生後期。187～213は壺の底部である。

214～368は甕である。214～240は弥生前期後半～中期前半。241～247、258、265は弥生中期前半。この内245は丹塗りが施されている。248～257、259～264、266～286は弥生中期～後期初頭。この内251は丹塗り、283～285、は肥後系の脚付きの甕になると思われる。288～308は弥生後期。310～321は古墳初頭で、309～315は口縁端部に若干のつまみ上げが見られる。322～358は甕の底部である。

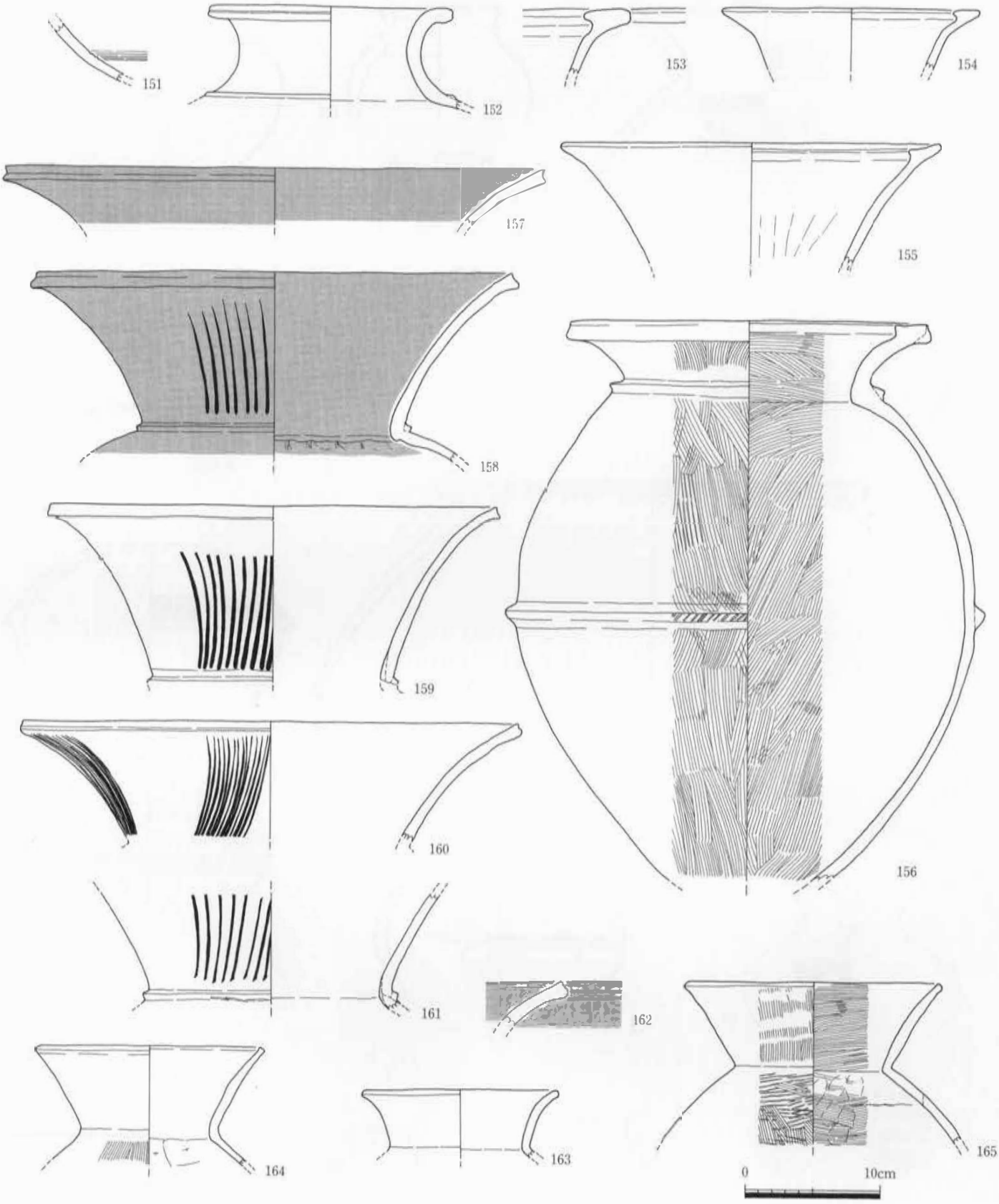


Fig.58　SX100出土遺物（8）　（S＝1/4）

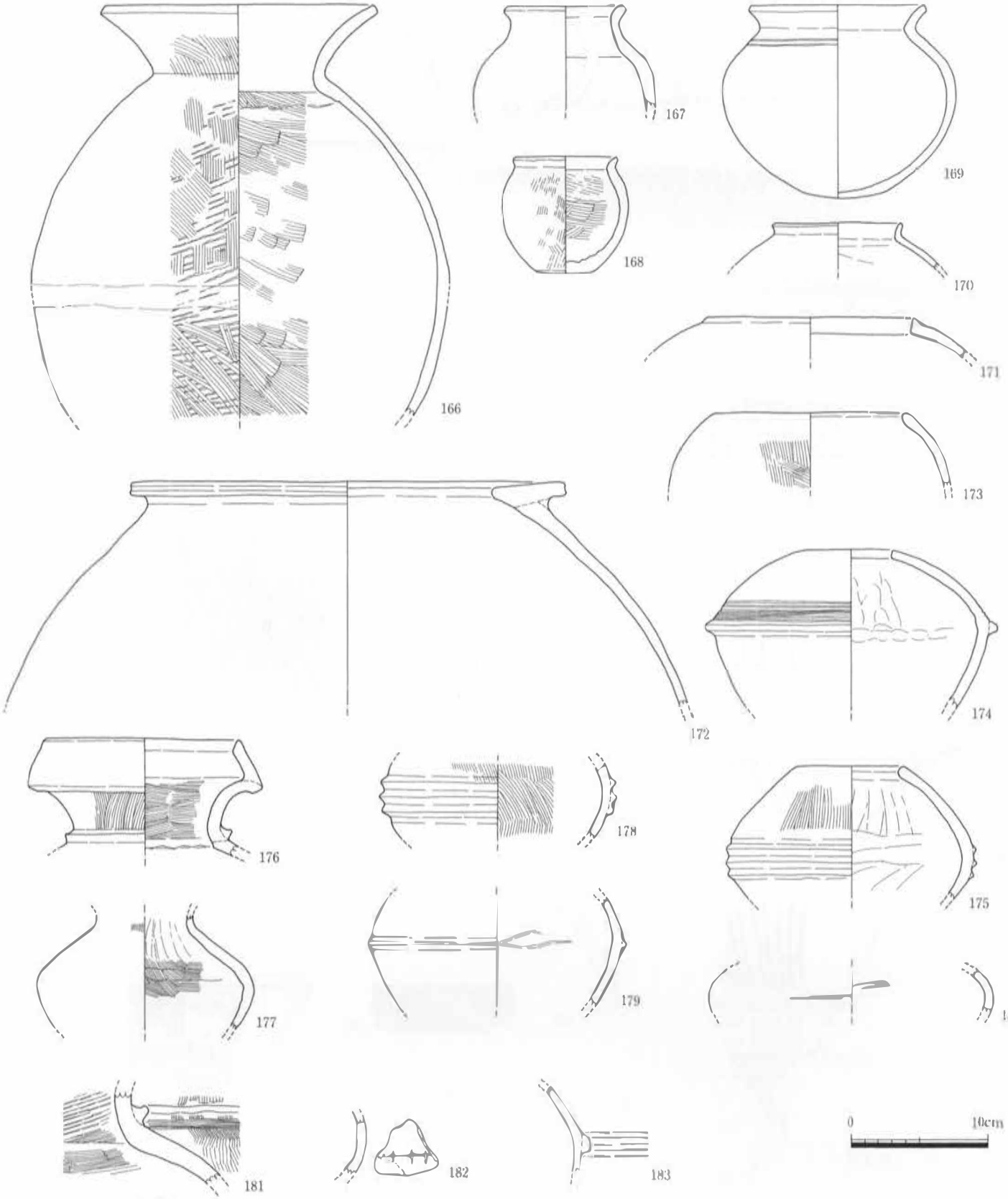


Fig.59　SX100出土遺物（9）　（S＝1/4）

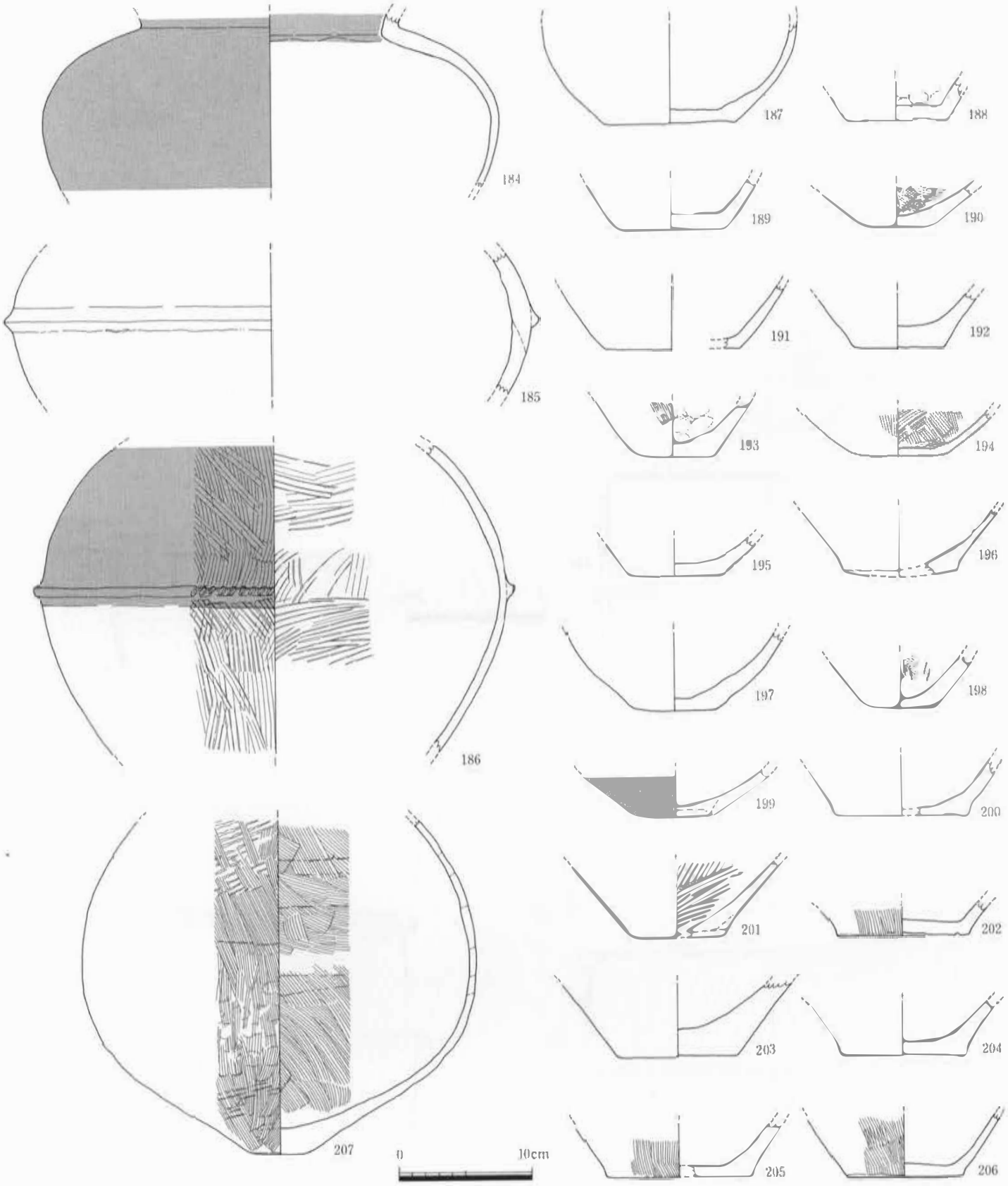


Fig.60　SX100出土遺物（10）　（S＝1/4）

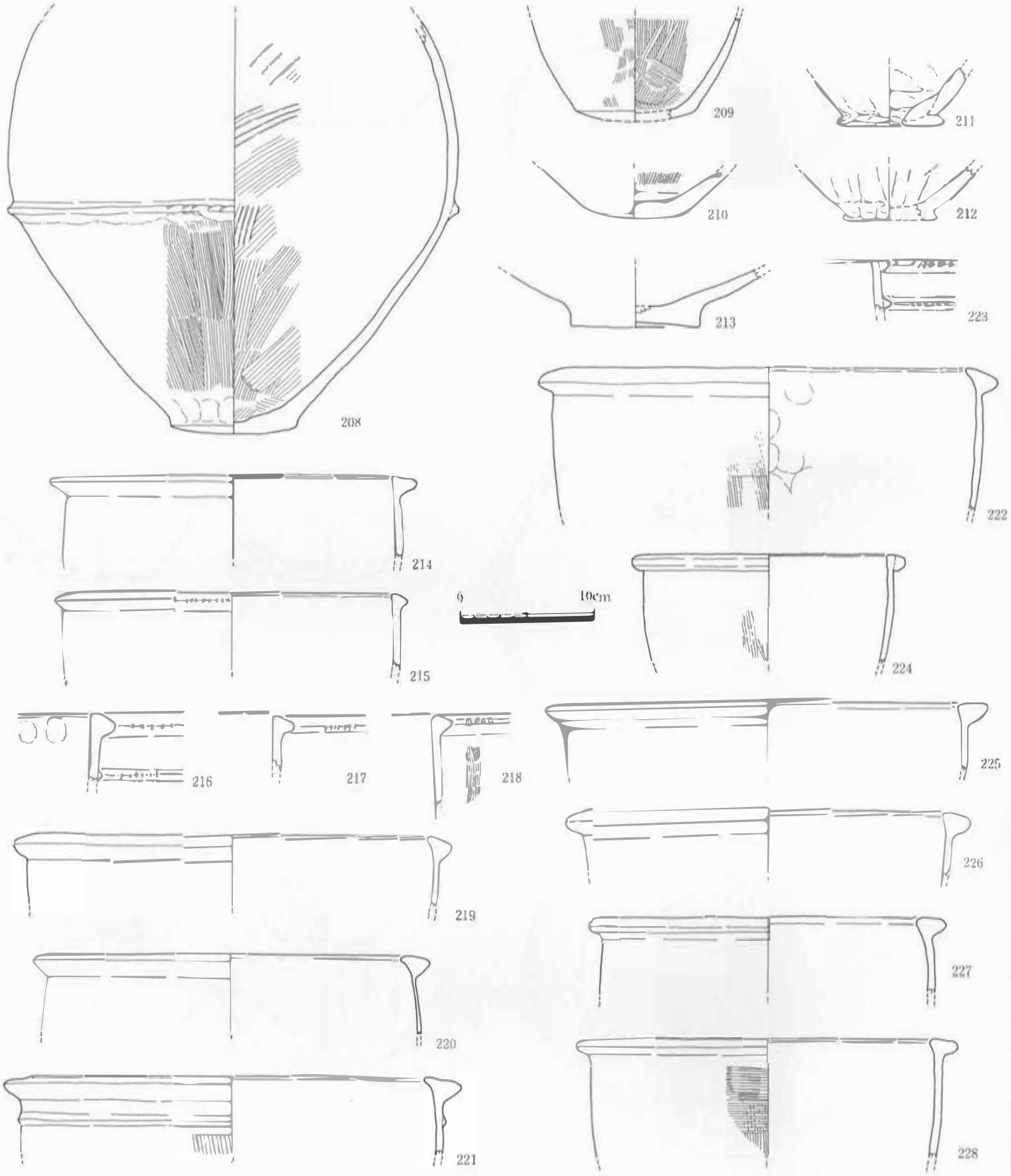


Fig.61　SX100出土遺物（11）　（S＝1/4）

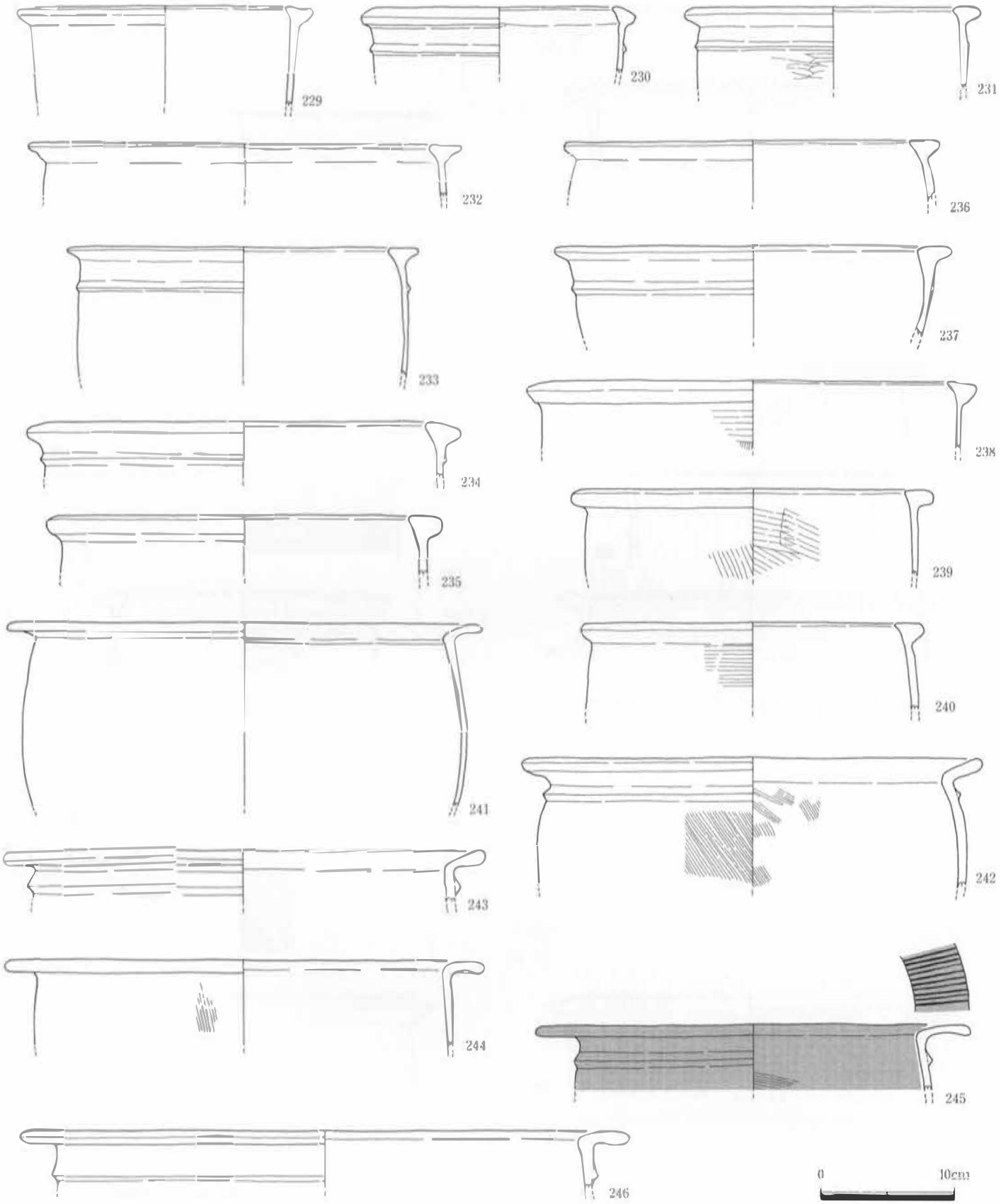


Fig.62　SX100出土遺物（12）　（S＝1/4）

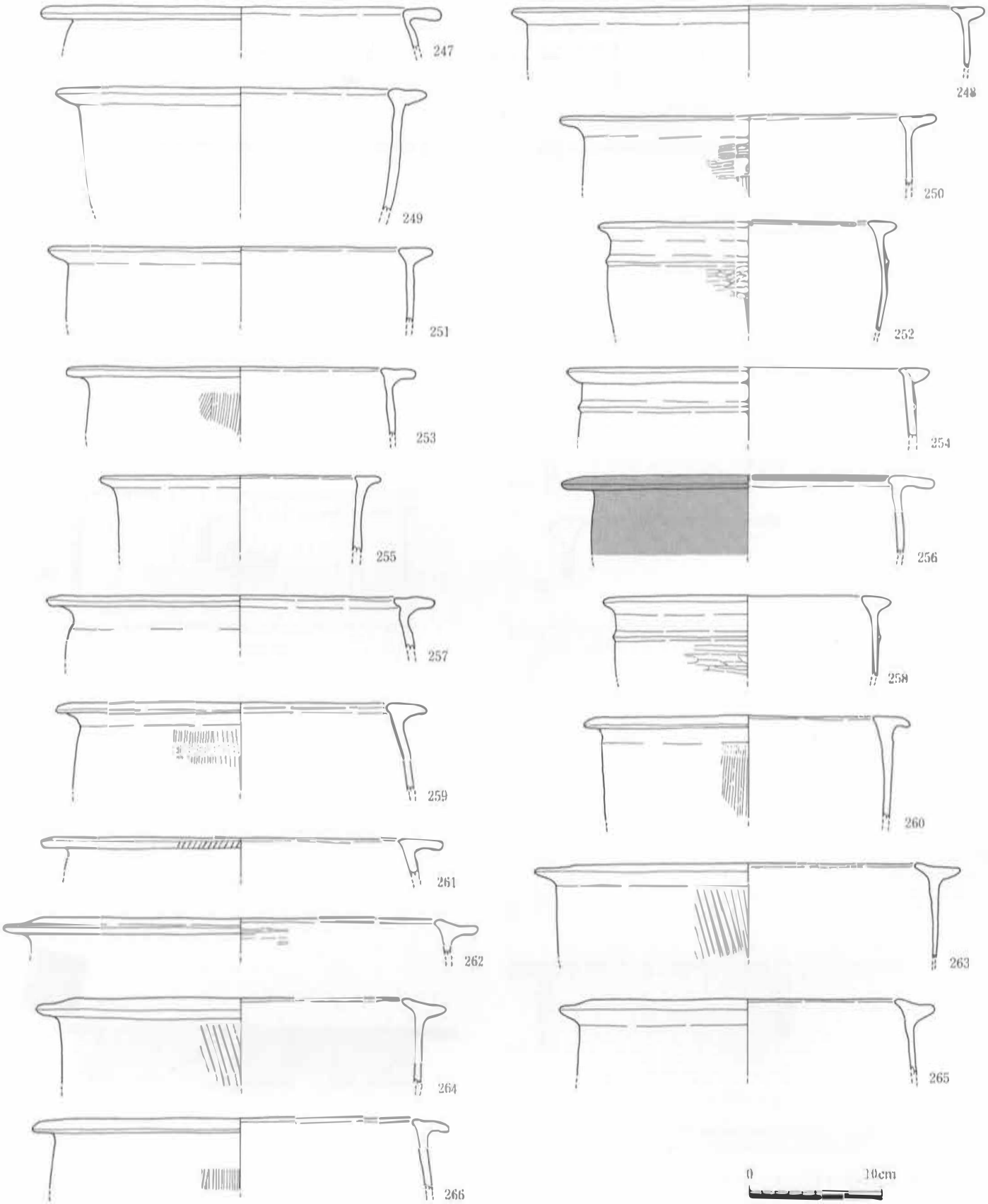


Fig.63　SX100出土遺物（13）　（S＝1/4）

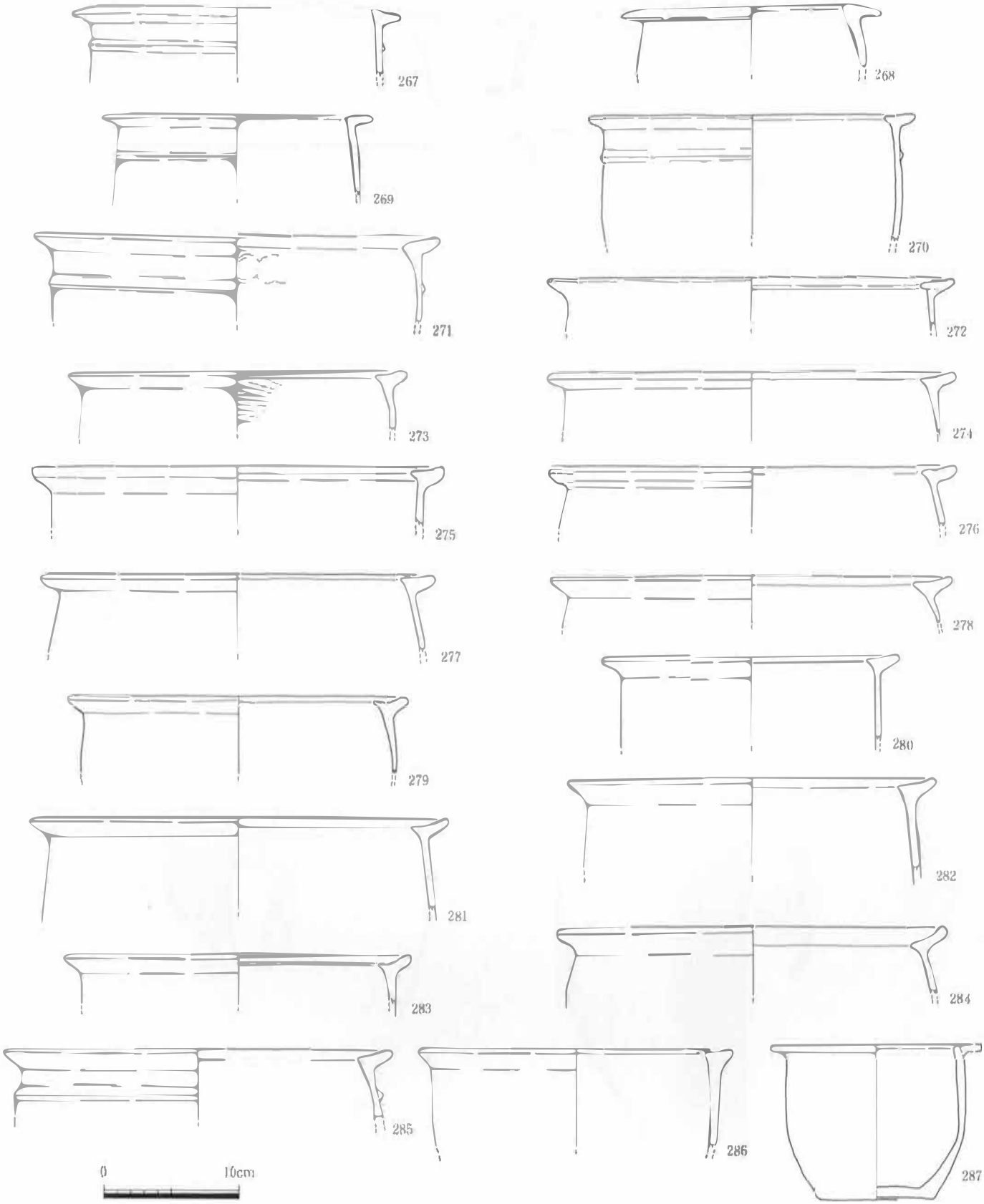


Fig.64　SX100出土遺物（14）　（S＝1/4）

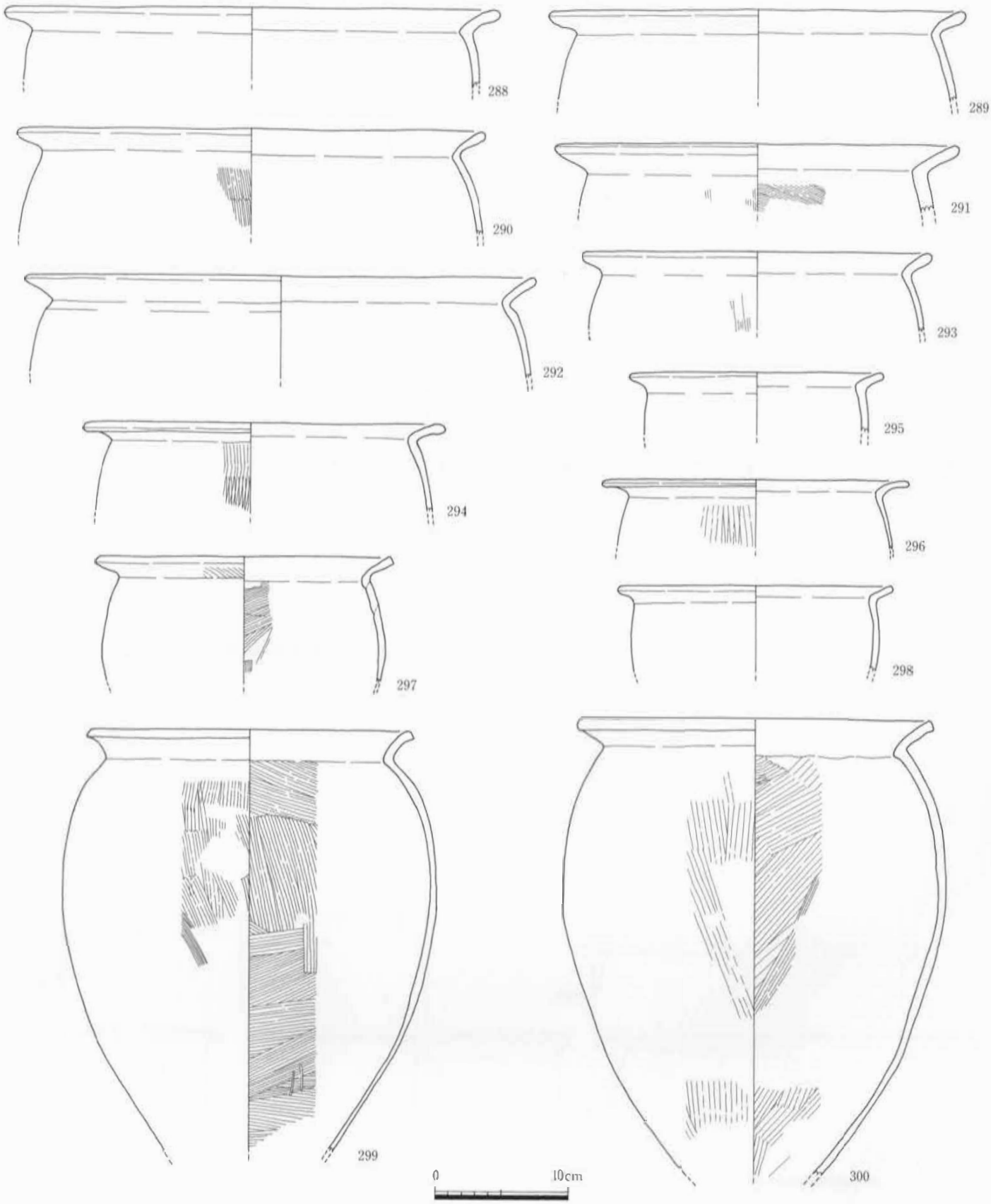


Fig.65　SX100出土遺物（15）　（S＝1/4）

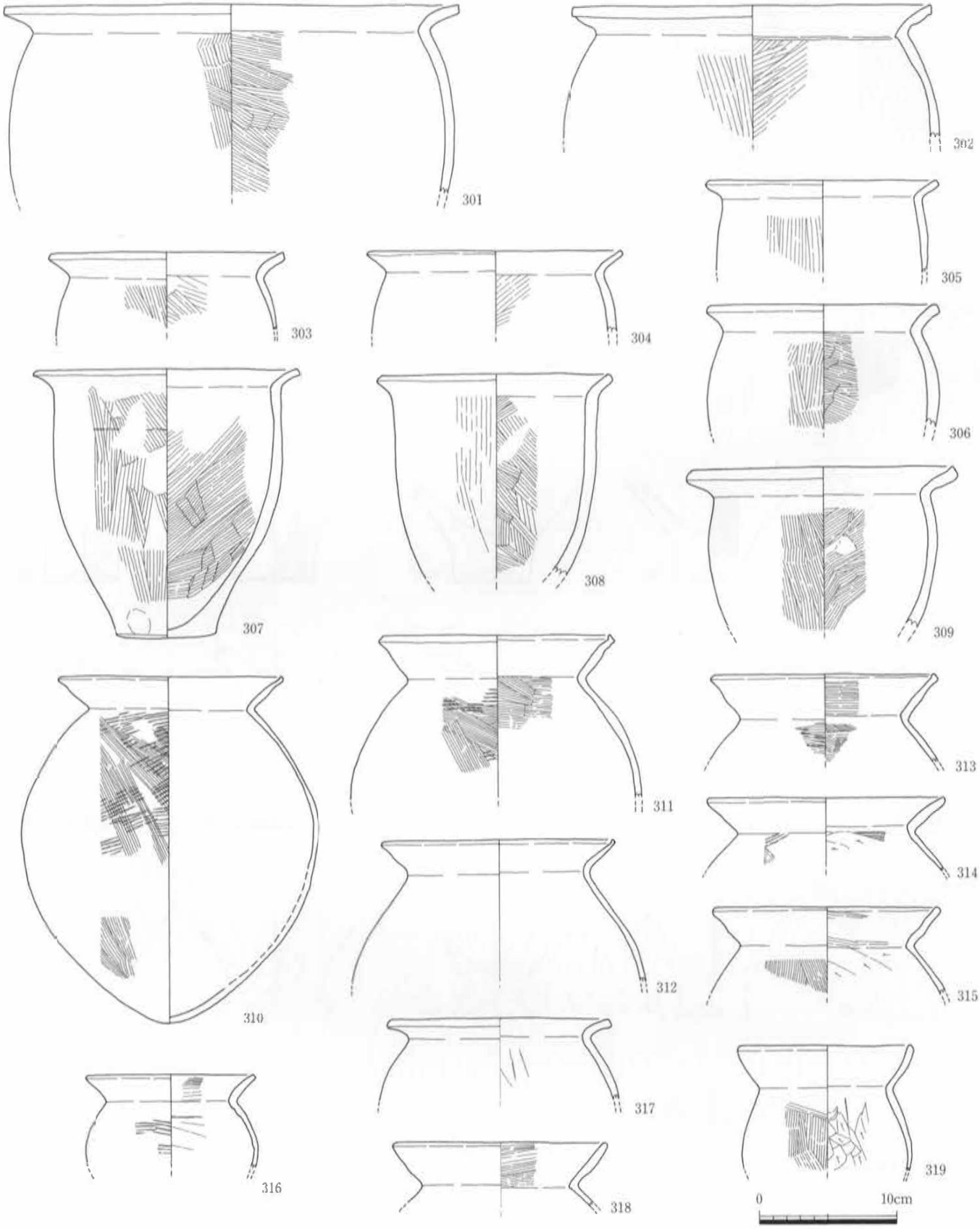


Fig.66 SX100出土遺物（16） （S＝1/4）

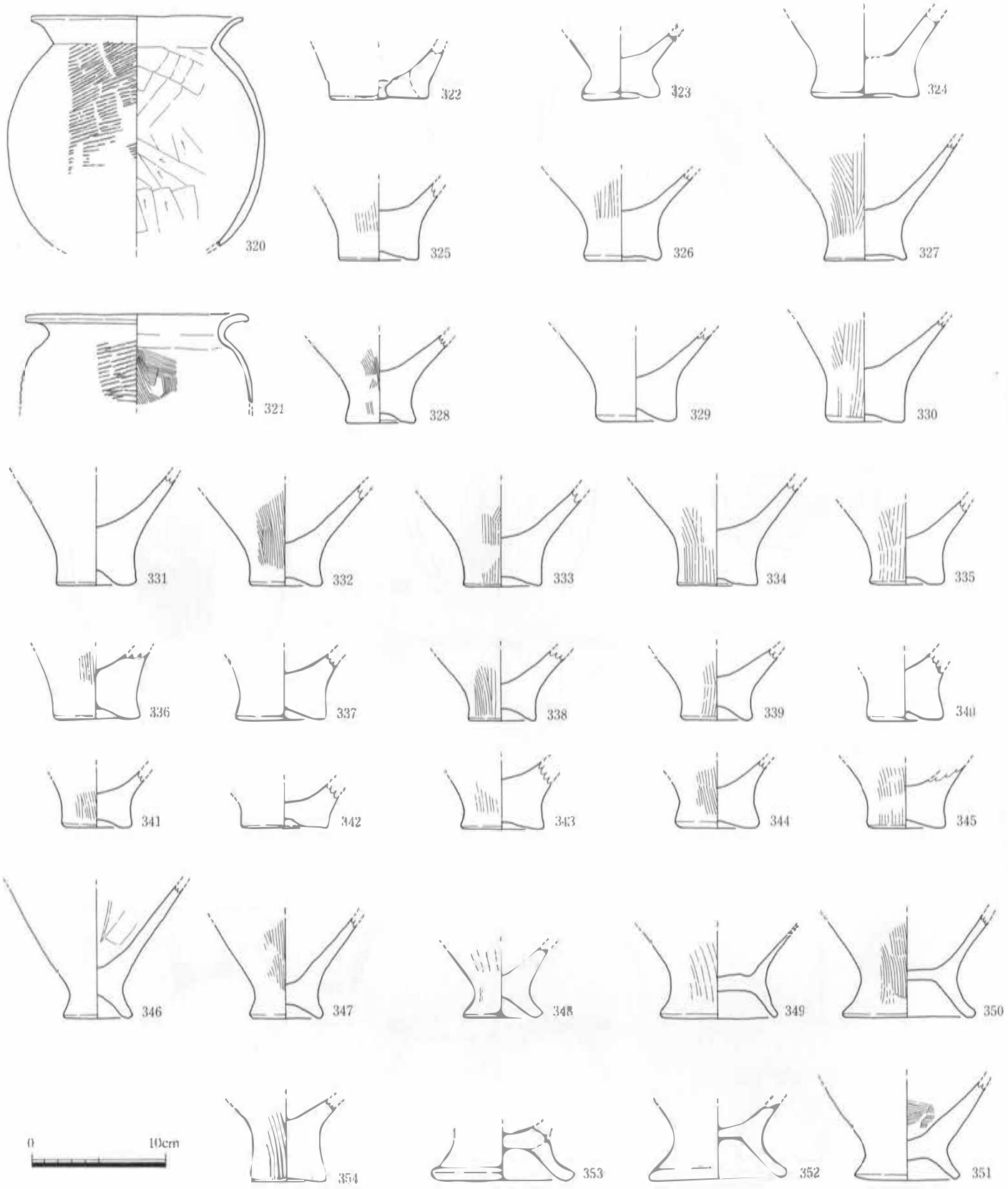


Fig.67　SX100出土遺物（17）　（S＝1/4）

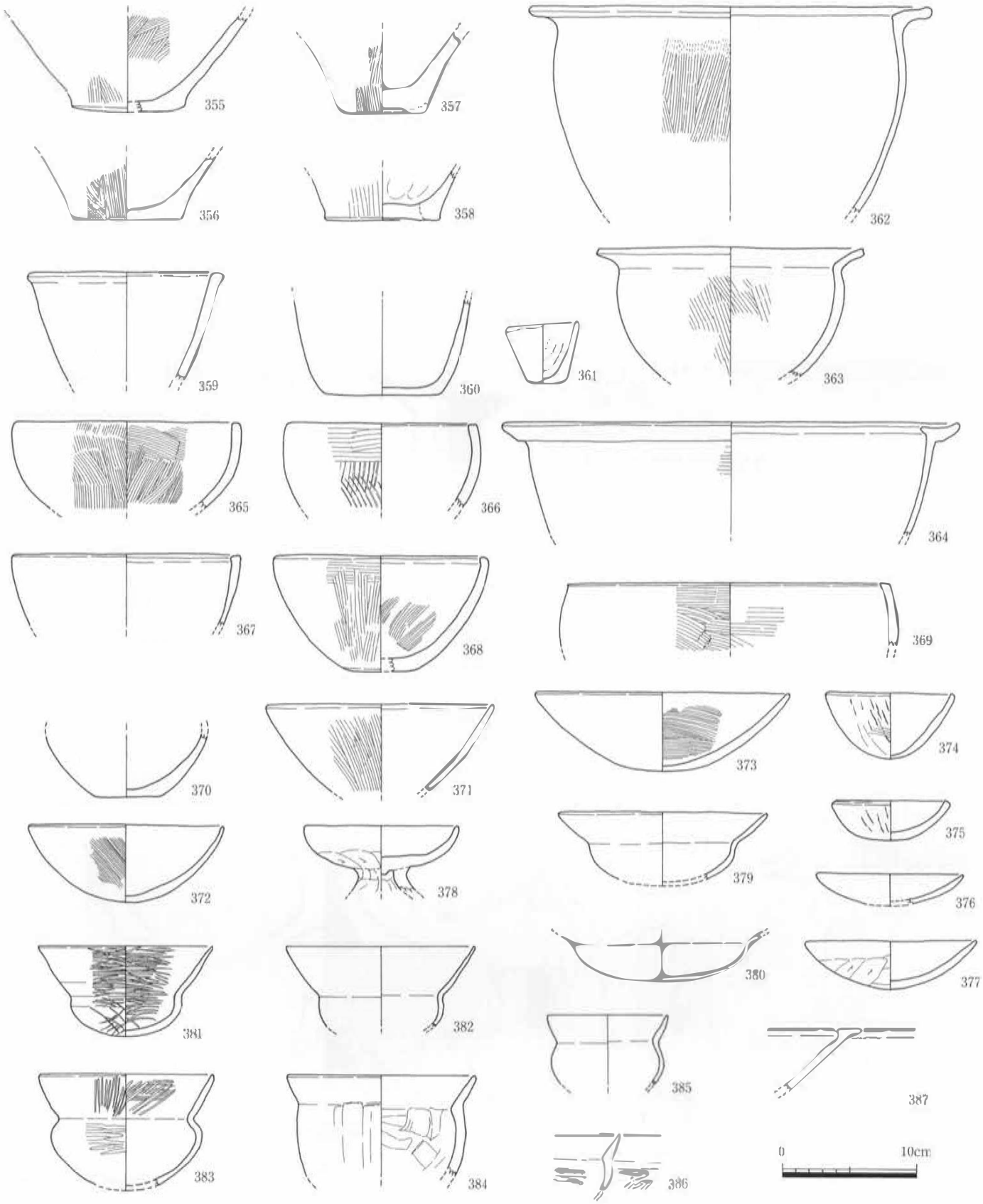


Fig.68　SX100出土遺物（18）　（S＝1/4）

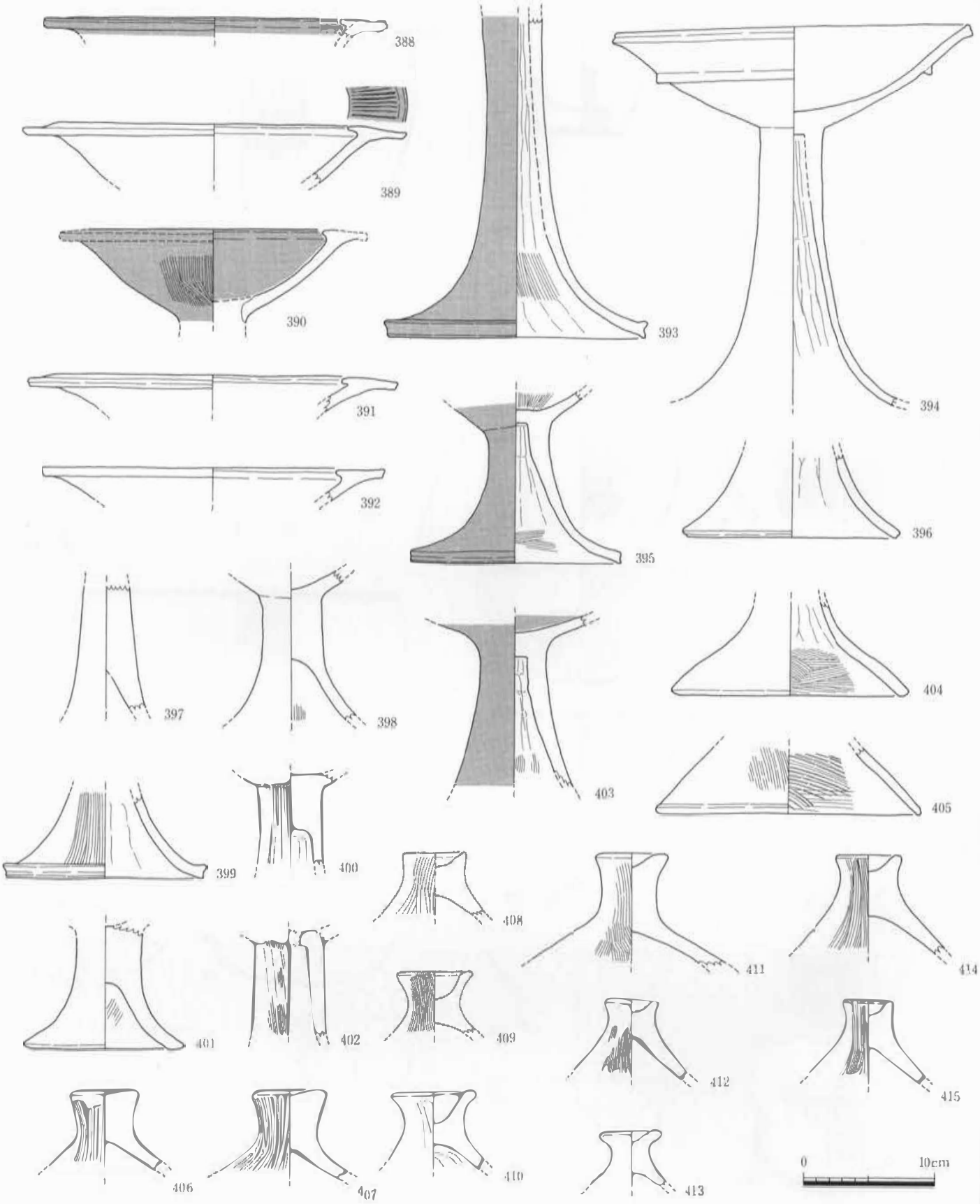


Fig.69 SX100出土遺物 (19) (S＝1/4)

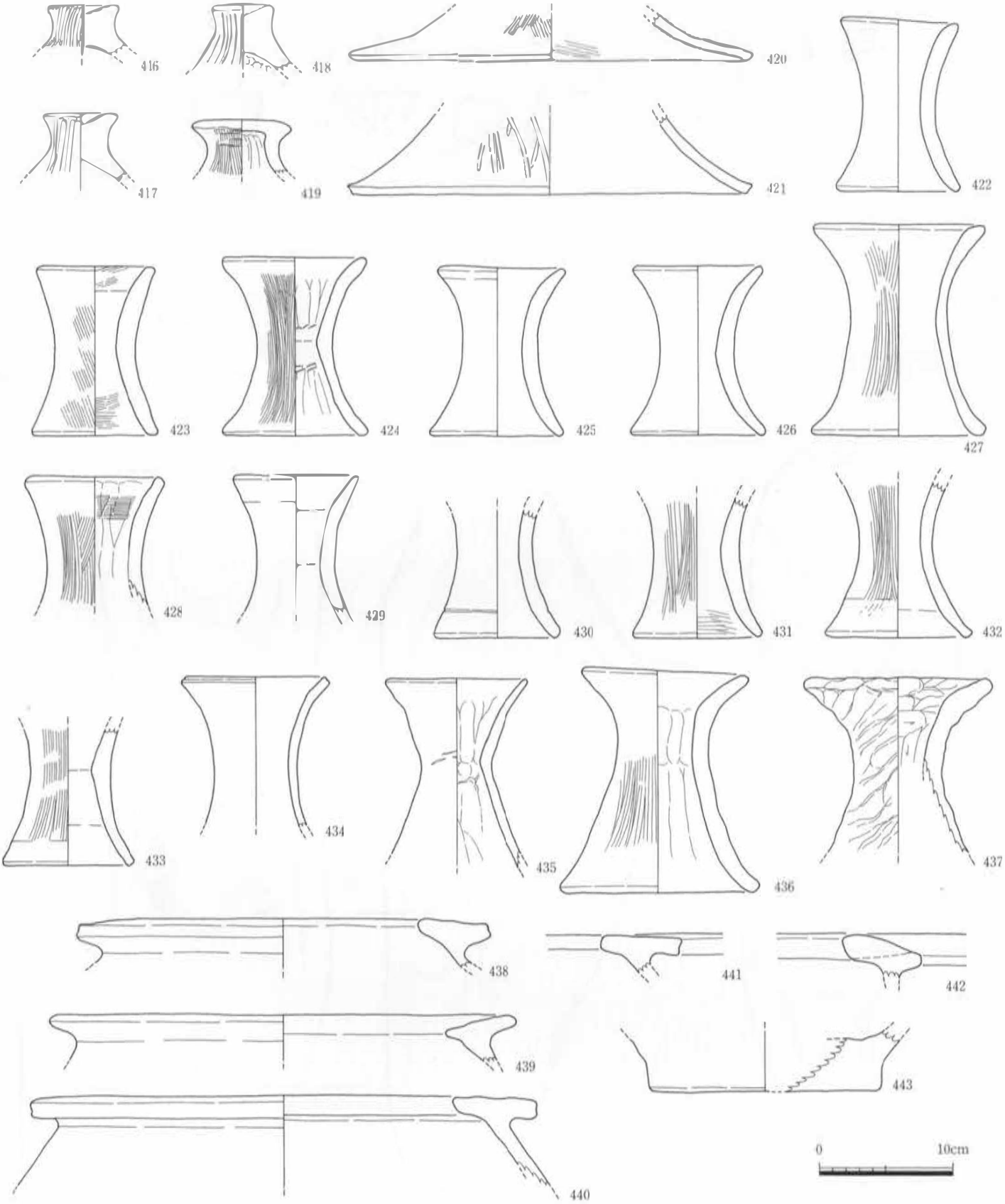


Fig.70　SX100出土遺物（20）　（S＝1/4）

Fig.71　SX100出土遺物（21）　（S＝1/4・1/3）

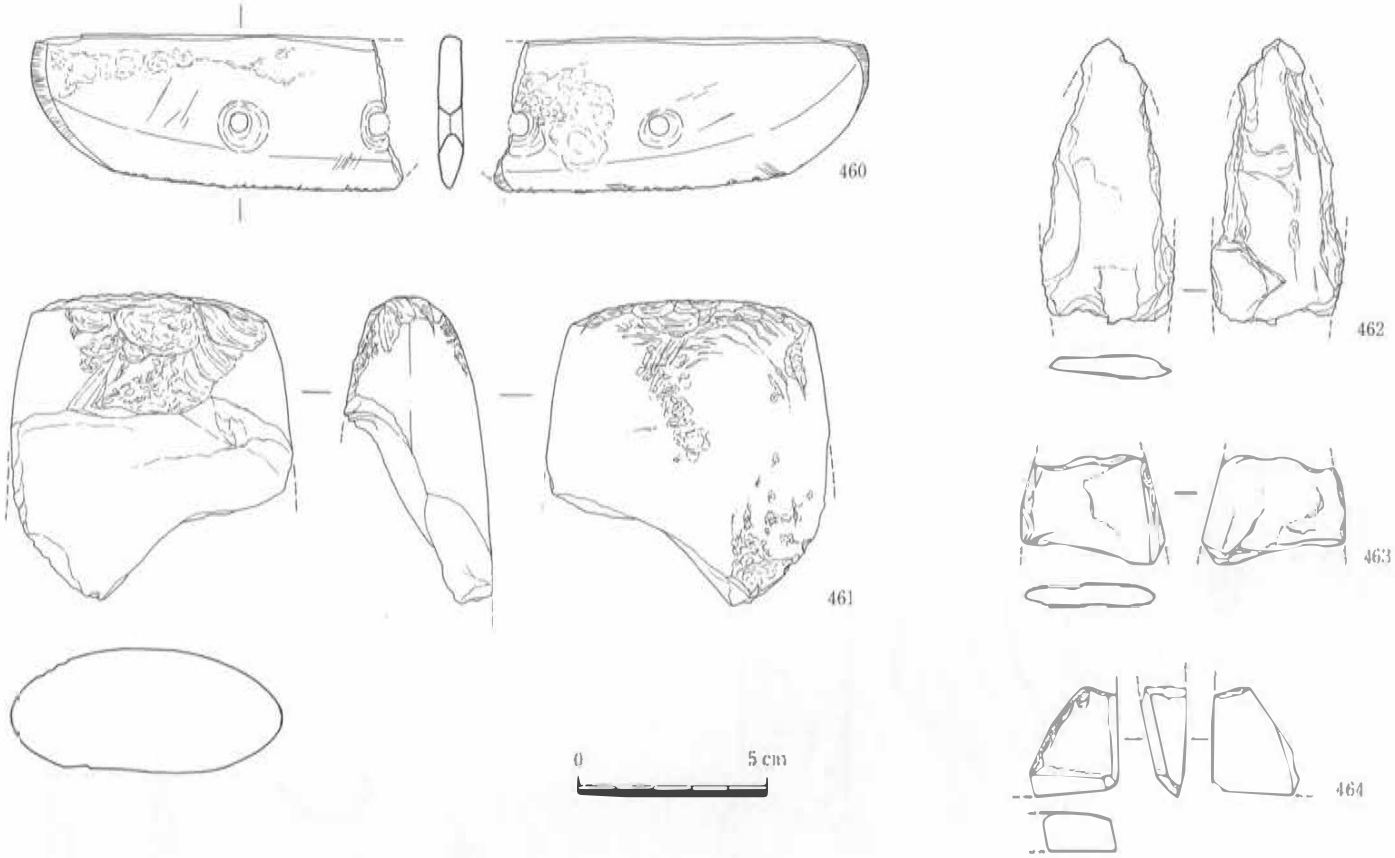


Fig.72　SX100出土遺物（22）　（S＝1/2）

322は底部を焼成後穿孔。323～348は上げ底のもので、弥生前期後半～弥生中期。349～353は脚付きのもので、弥生後期前半の肥後地方からのものか。354は弥生後期前半の南筑後地方に見られる中実高脚のものである。355～358は弥生後期のものである。

359～380は鉢である。この内361は手づくねの、364は肥後系の反り返った口縁を有している。377は底部ケズリ。378は脚付きのものである。

381～386は坩である。

387～405は高坏である。388、393、395は丹塗り、389は暗文が施され、丹塗りの痕跡が見られる。

406～421は蓋である。406～418は中実、419は中空のつまみ部分である。

422～437は器台である。422～433は弥生中期、434～437は弥生後期。

458～464は大型壷（甕）の小片である。

445～458は土製の特殊品である。445は小型の壷で、表面を沈線文で飾っている。446は一対の円形浮文を有する壷の小片である。SD130-98と同時期か。447～448は無形壷もしくは鉢のミニチュアである。449～451は鉢のミニチュアで、451は脚付きである。452は高坏のミニチュアの軸部である。453は皿のミニチュアか。454は沈線で飾られた土器の小片である。455は鉢もしくはジョッキ型の土器である。456は表面に丹塗りの痕跡の残る土器片である。457は把手で丹塗りが施されている。458は粘土塊である。

459～464は石製品である。459は大型の砥石。460は中期～後期にかけての石包丁で輝緑凝灰岩製。461は磨製石斧の基部破片。462～463は片岩製の石剣破片。464は片刃石斧である。

465～468は木製品である。出土木には伐採痕が残るものが多かったが、ここでは加工を施されたものだけを紹介する。465は木杭である。466～468は加工木で、いずれも組み合わせるための切り込みが施

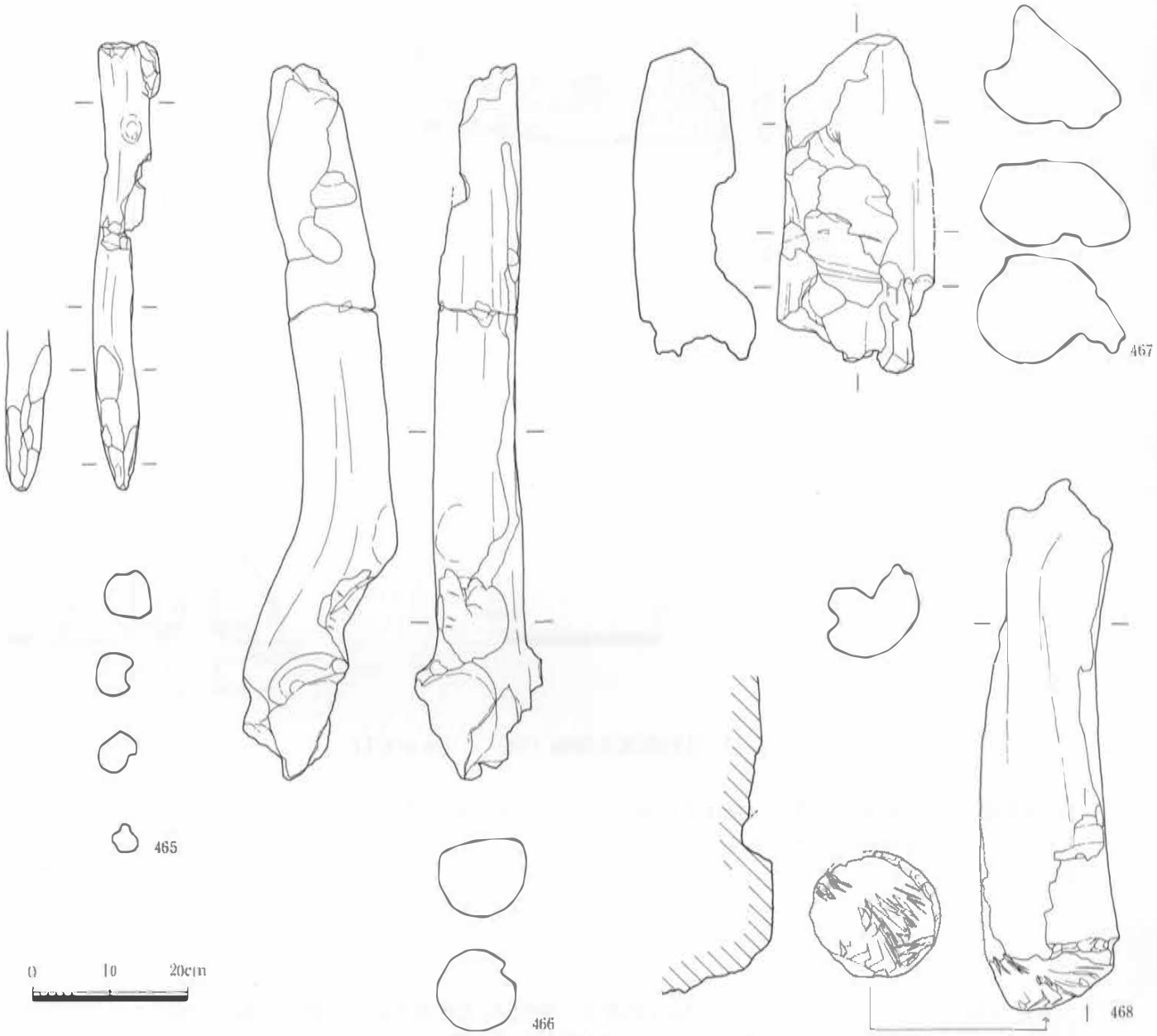


Fig.73　SX100出土遺物（23）　（S＝1/8）

されている。建築部材か。469はイヌガヤ製の椀である。刳物、柾目で、細かなノミ痕を持つ。470は桃の種子であるが、両側にエグリを持つ。小動物によるものか人為的な加工であるかは不明だが、浮子として利用可能なため掲載した。このような桃の種子は他にも数点出土している。

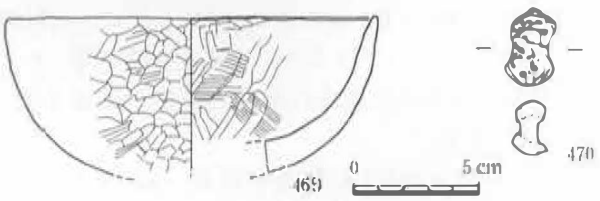


Fig.74　SX100出土遺物（24）　（S＝1/3）

SD105出土遺物

1層出土遺物（Fig.75-1～4）

1～2は弥生土器の壺である。1は弥生後期。3は弥生土器の甕である。弥生中期。4は弥生土器の高坏である。弥生後期。

Ⅲ層出土遺物（Fig.75-5）

5は亀ノ甲タイプの甕である。弥生中期前半。

水口状遺構出土遺物（Fig.75-6～8）

6～7は弥生土器の甕である。弥生中期。8は砂岩製の砥石である。

その他の出土遺物（Fig.75-9～20）

9～10は弥生土器の壺で、9は丹塗りが施されている。11～20は弥生土器の甕である。11～16、20は弥生中期、17～19は弥生後期である。

SX150出土遺物

Ⅰ層出土遺物（Fig.76～77、PL.15-1）

1～2は縄文土器の深鉢で、2は内外面に刺突文が施されている。後期。3～12は弥生土器の壺で、弥生前期後半～中期初頭にかけてのものである。13は土師質の壺で、時期不明。14～40は弥生土器の甕で、15は弥生前期前半、21は弥生中期後半、36は弥生後期、それ以外のものは弥生前期後半のものである。41は蓋。42はミニチュアの鉢。43は土製の紡錘車である。44は砂岩製の砥石である。

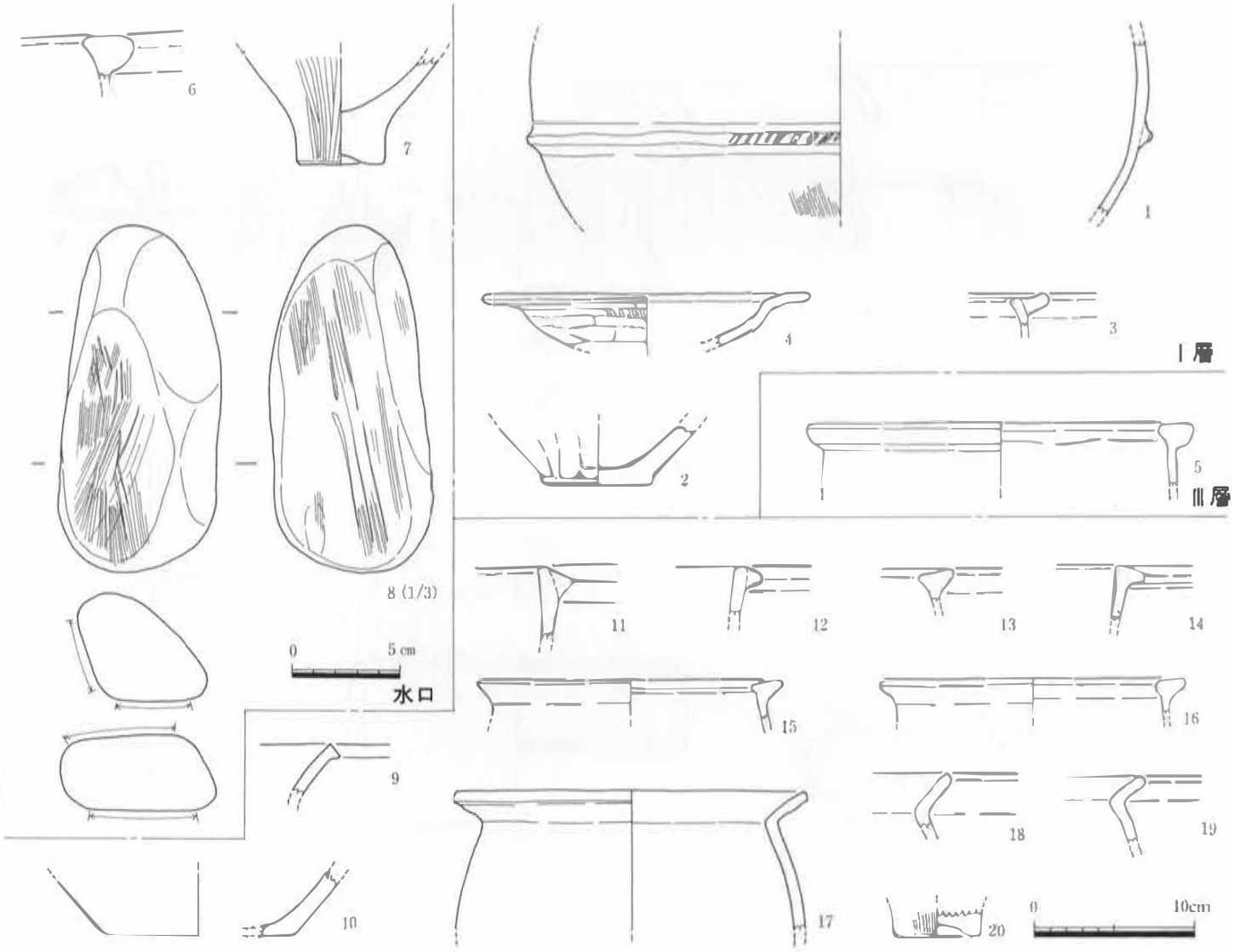


Fig.75　SD105出土遺物　（S＝1/4・1/3）

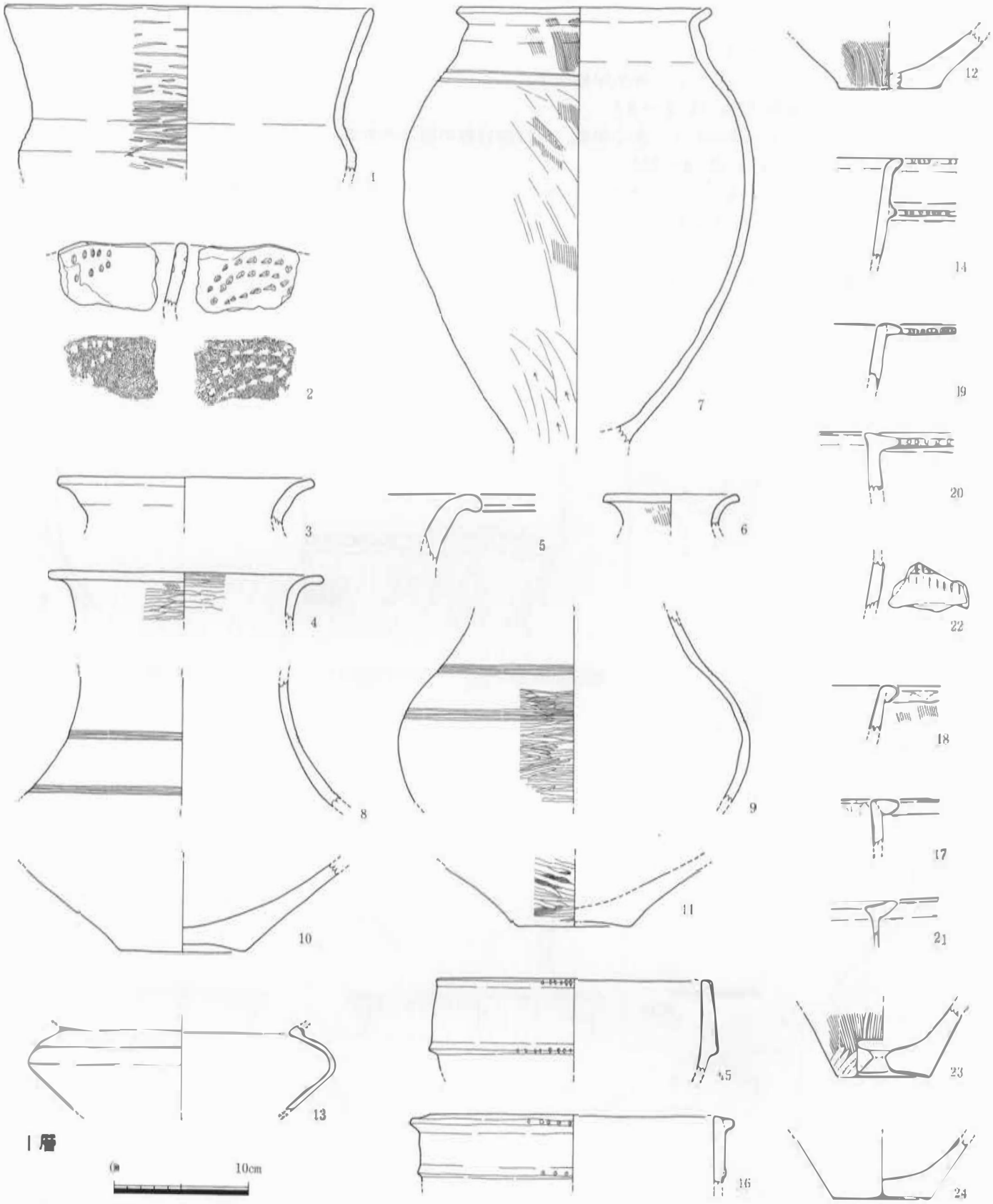


Fig.76　SX150出土遺物（1）　（S＝1/4）

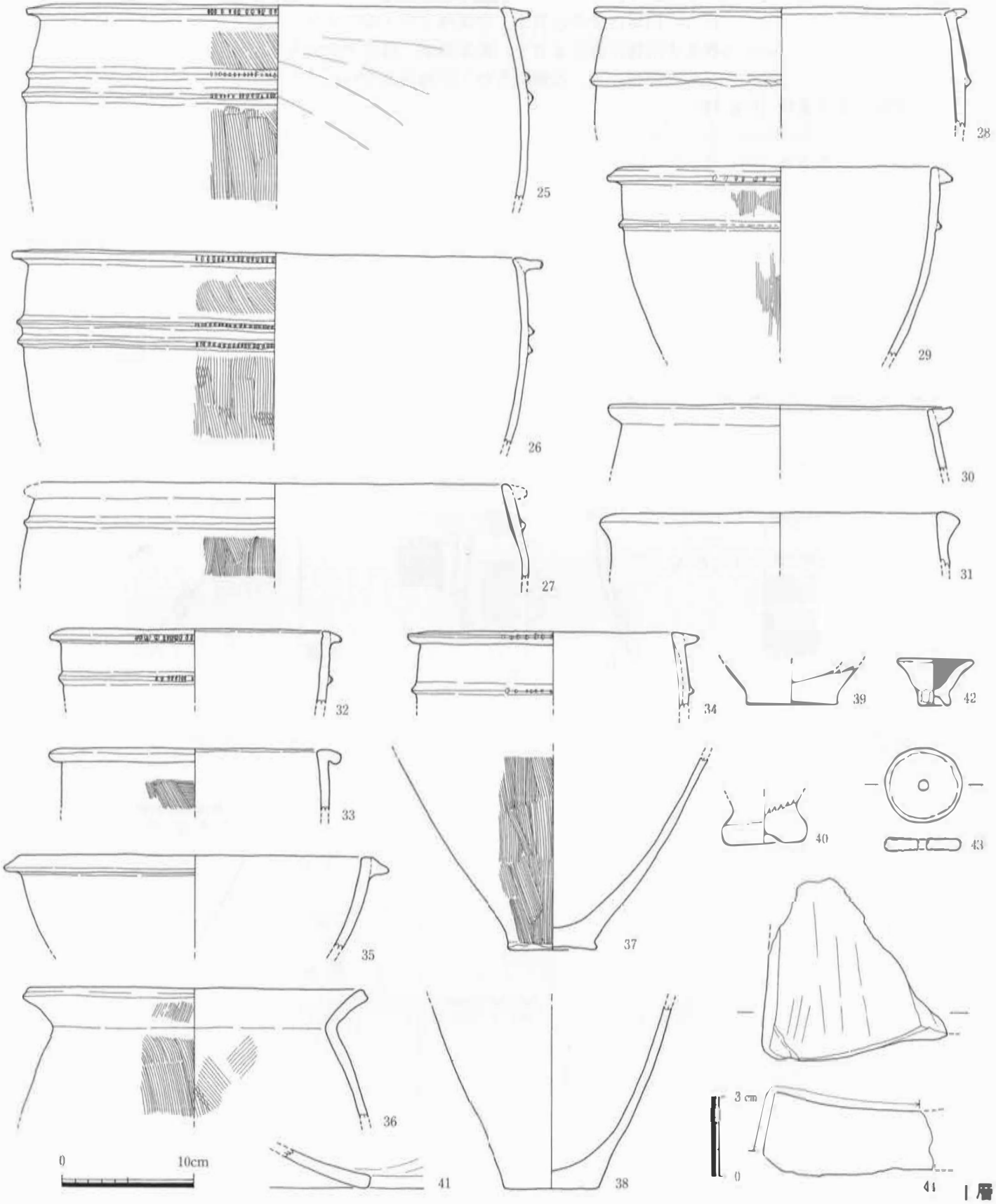


Fig.77　SX150出土遺物（2）　（S＝1/4・1/2）

Ⅱ層出土遺物（Fig.78）

45は弥生土器の壺の口縁で、内面に突帯を有す。中国地方の土器の影響か。弥生前期。46～47は弥生土器の甕である。46は口唇部と突帯に刻目を有す。弥生前期。47は小片であり、時期の特定にはいたらない。48は弥生土器の高坏の脚部細片で、外面に丹塗りが施されている。

底部直上出土遺物（Fig.78）

49は弥生土器の高坏の小片である。

その他の出土遺物（Fig.78～81、PL.15-2）

50～52は縄文土器である。50～51は縄文後期の鐘ヶ崎式の鉢の小片、52は晩期の壺の口縁か。53～78は弥生土器の壺である。53～54は板付系の口縁で前期、55～61は城ノ越系の口縁で前期後半～中期前半、67は二重口縁壺の口縁で後期のものである。79～118は弥生土器の甕である。79は夜臼系の口縁、

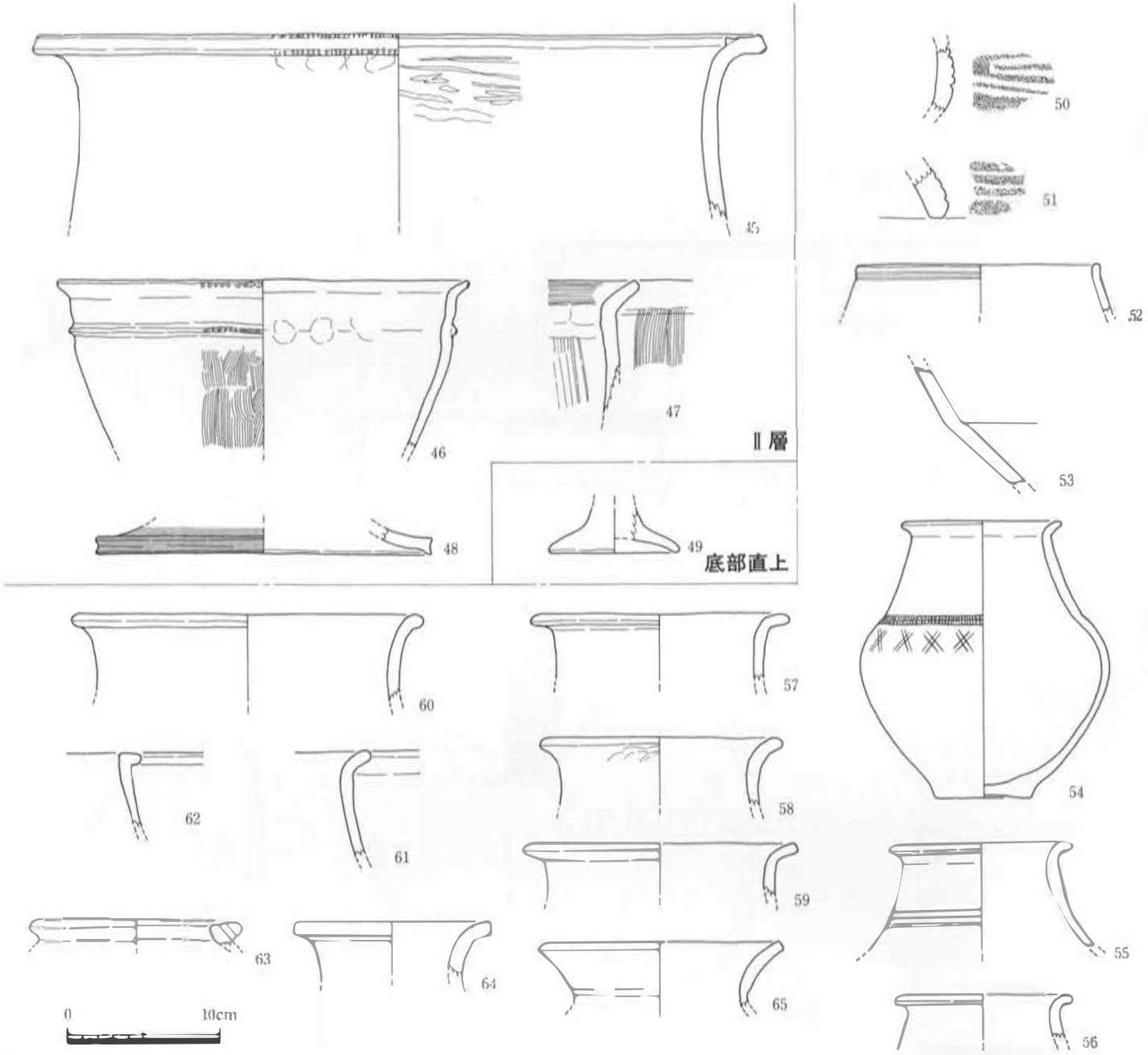


Fig.78　SX150出土遺物（3）　（S＝1/4）

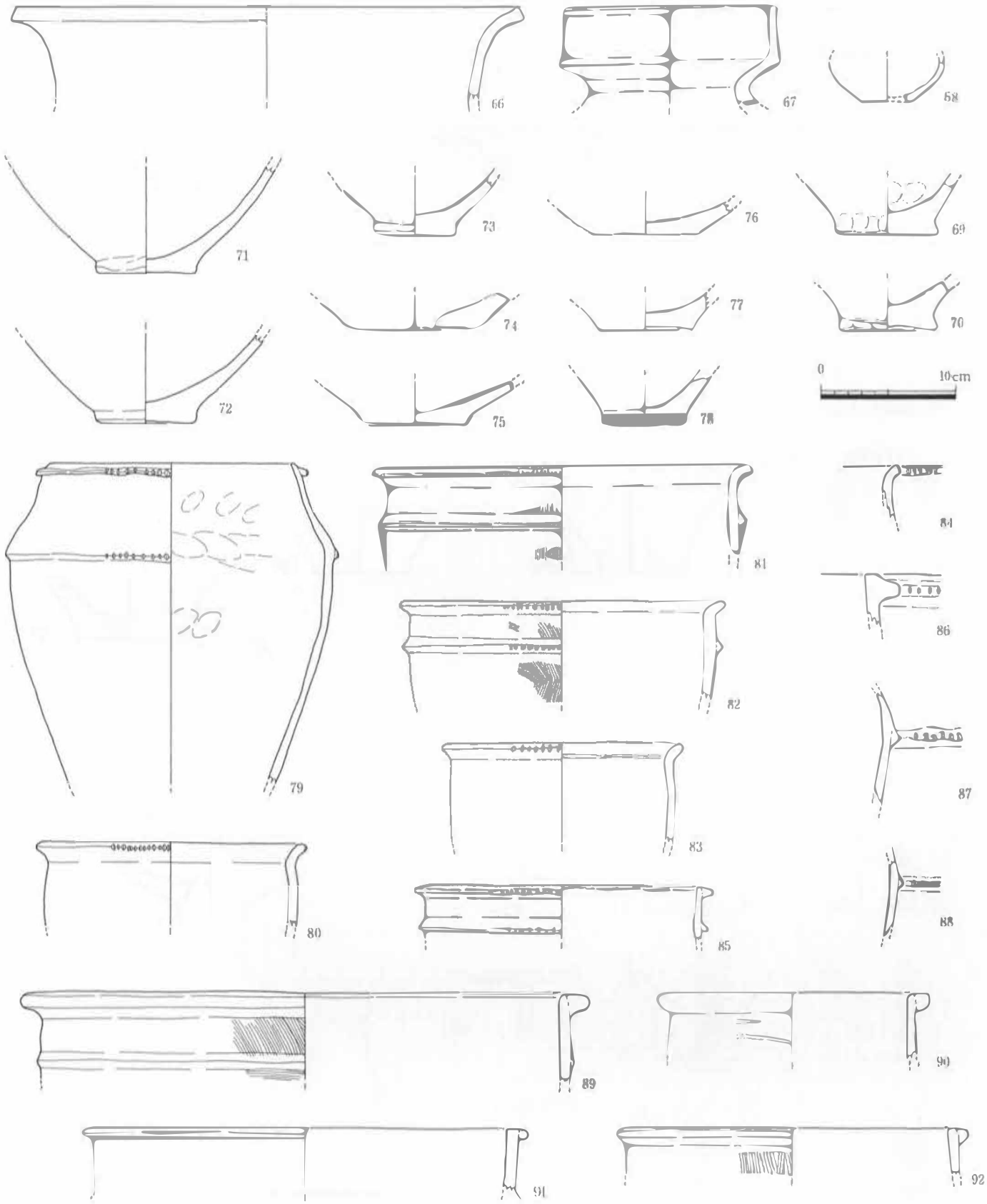


Fig.79　SX150出土遺物（4）　（S＝1/4）

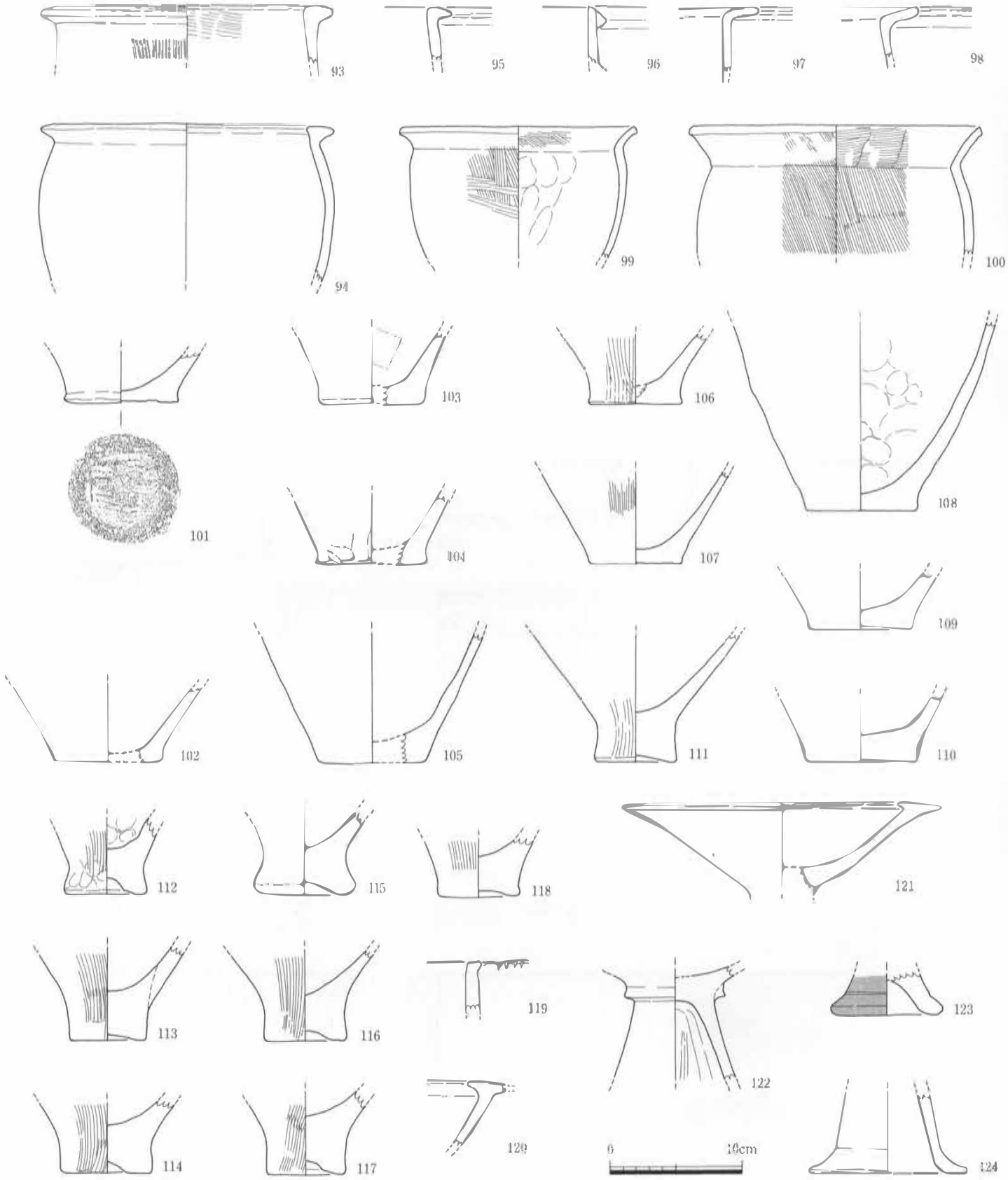


Fig.80　SX150出土遺物（5）　（S＝1/4）

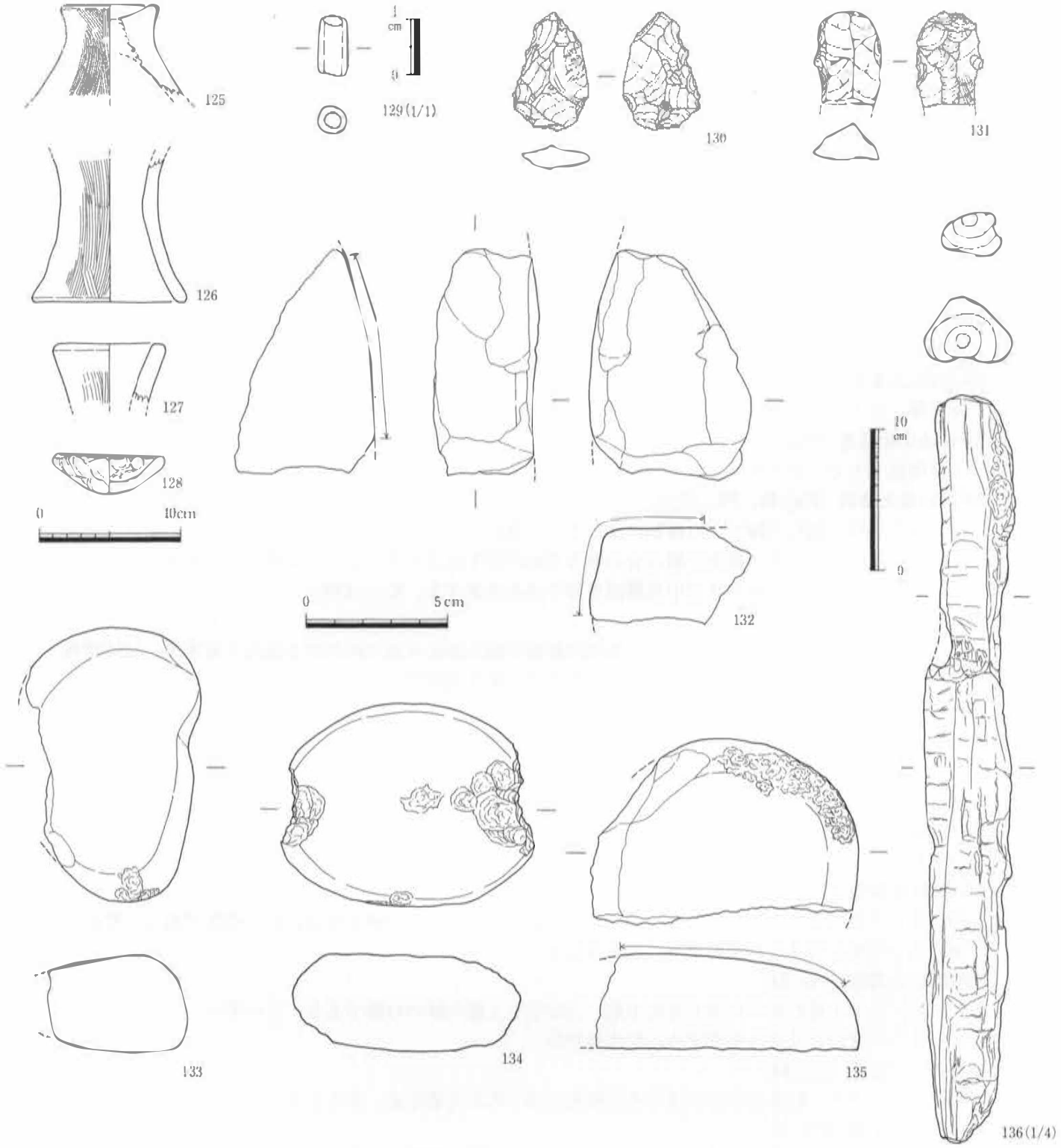


Fig.81　SX150出土遺物（6）　（S＝1/4・1/1・1/2）

80～84は板付系の口縁でともに弥生前期、85～86、89～96は亀ノ甲系の口縁で前期後半～中期前半、97～98は城ノ越系で中期前半、99～100は高三潴式で後期のものである。甕の底部は大きく平底（101～108）と上げ底（109～118）に分かれる。101の底部には製作時に使われた敷物らしき痕跡が残る。119

は弥生土器の鉢と思われる小片で、口唇部に刻目を有している。120～124は弥生土器の高坏で、123は外面に丹塗りが施されている。125は弥生土器の蓋の小片である。126～127は弥生土器の器台である。128はミニチュアの手づくね鉢である。129は碧玉製の管玉で摩滅が激しい。130は石鏃の未製品でサヌカイト製。131は二次加工剥片でサヌカイト製。132は砥石で、風化が激しい。砂岩製。133は安山岩製の石錘か。134は安山岩製の石錘である。135は安山岩製の磨石である。136は木製の杭である。

柱穴群出土遺物

SP102出土遺物（Fig.82）

1～2は弥生土器の甕の口縁である。2は裏込め土からの出土。ともに弥生中期後半。

SP106出土遺物（Fig.82）

3は弥生土器の甕の口縁である。弥生中期。4は柱根で痛みが激しい。5は柱根の下から出土した木材である。柱根断面が斜めとなるため、安定させるために入れたものか。

SP109出土遺物（Fig.82）

6は弥生土器の鉢の口縁部小片である。弥生後期か。

SP154出土遺物（Fig.82）

7は亀ノ甲タイプの甕の口縁、8は城ノ越式の甕の口縁である。共に弥生中期前半。

SP140b出土遺物（Fig.82、PL.16-1）

9は礎板である。断面カマボコ状で中央両側面に切り込みを持つ。弥生後期か。

SP140c出土遺物（Fig.82、PL.16-2）

12は弥生土器の甕の口縁で、口縁部にはわずかに刻目が残る。弥生前期か。10は柱根で、周囲は面取りを施された痕跡があり、底面に組み合わせるための切り込みを有する。11は礎板で、底面は「ハ」の字状になるが、断面カマボコ状で中央側面を切り込みを有する。弥生後期か。

SP140e出土遺物（Fig.83）

13は柱根で、周囲は面取りを施され、底部は礎板と組み合わせるための切り込みを有する。14は礎板で、断面カマボコ状で中央側面に切り込みを有する。弥生後期か。

SP140f出土遺物（Fig.83、PL.16-3）

15は弥生土器の短頸壺で、外面および内面上部に丹塗りが施されている。16は弥生土器の甕の口縁部小片である。共に弥生中期。17は礎板で、底面が「V」字状になるが、断面カマボコ状で中央に切り込みを有する。弥生後期か。

SP147出土遺物（Fig.83）

18は礎板で、半裁された木材の上部を平坦に加工している。

SP198出土遺物（Fig.84）

19は弥生土器の壺の小破片である。20は弥生土器のミニチュアの鉢である。21は礎板である。断面カマボコ状で中央に切り込みを有する。弥生後期か。

SP202出土遺物（Fig.84）

22～23は弥生土器の甕の口縁で弥生中期。24は弥生土器の鉢の口縁である。25は礎板である。断面カマボコ状で中央に切り込みを有する。弥生後期か。

SP203出土遺物（Fig.84）

26は礎板である。断面カマボコ状で中央側面に切り込みを有する。弥生後期か。

SP211出土遺物（Fig.84）

27は弥生土器の短頸壺の口縁である。28は弥生土器の甕の脚部で、弥生後期。29は弥生土器の鉢の口縁部小片である。礎板は安全上取り上げることはできなかったが、断面カマボコ上で中央側面に切り込みが施されていた。弥生後期か。

SP217出土遺物（Fig.84）

30は礎板である。枝打ちされた太めの枝をそのまま利用しており、加工を施した痕跡は特に見受けられない。

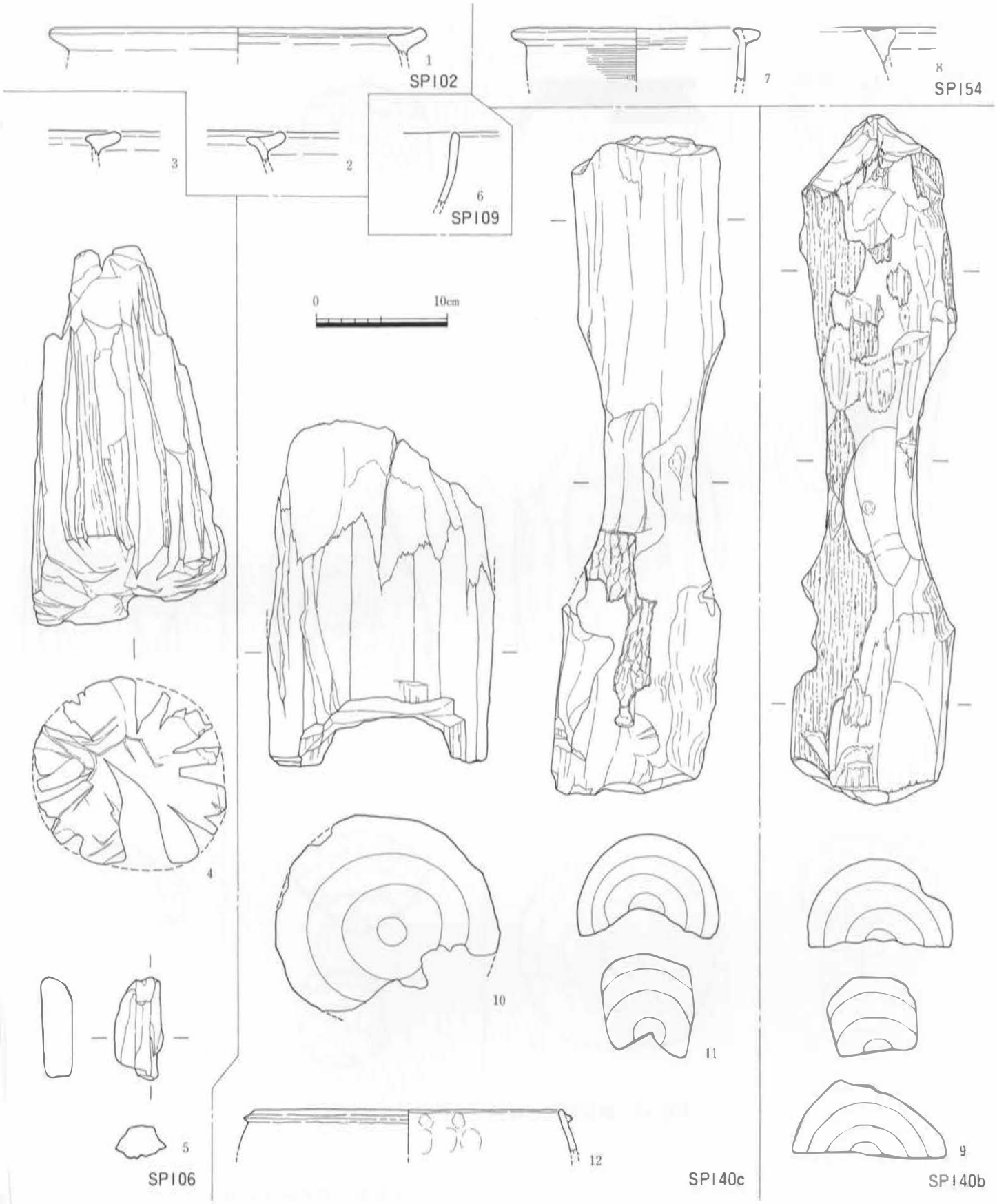


Fig.82 柱穴群出土遺物（1） （S＝1/4）

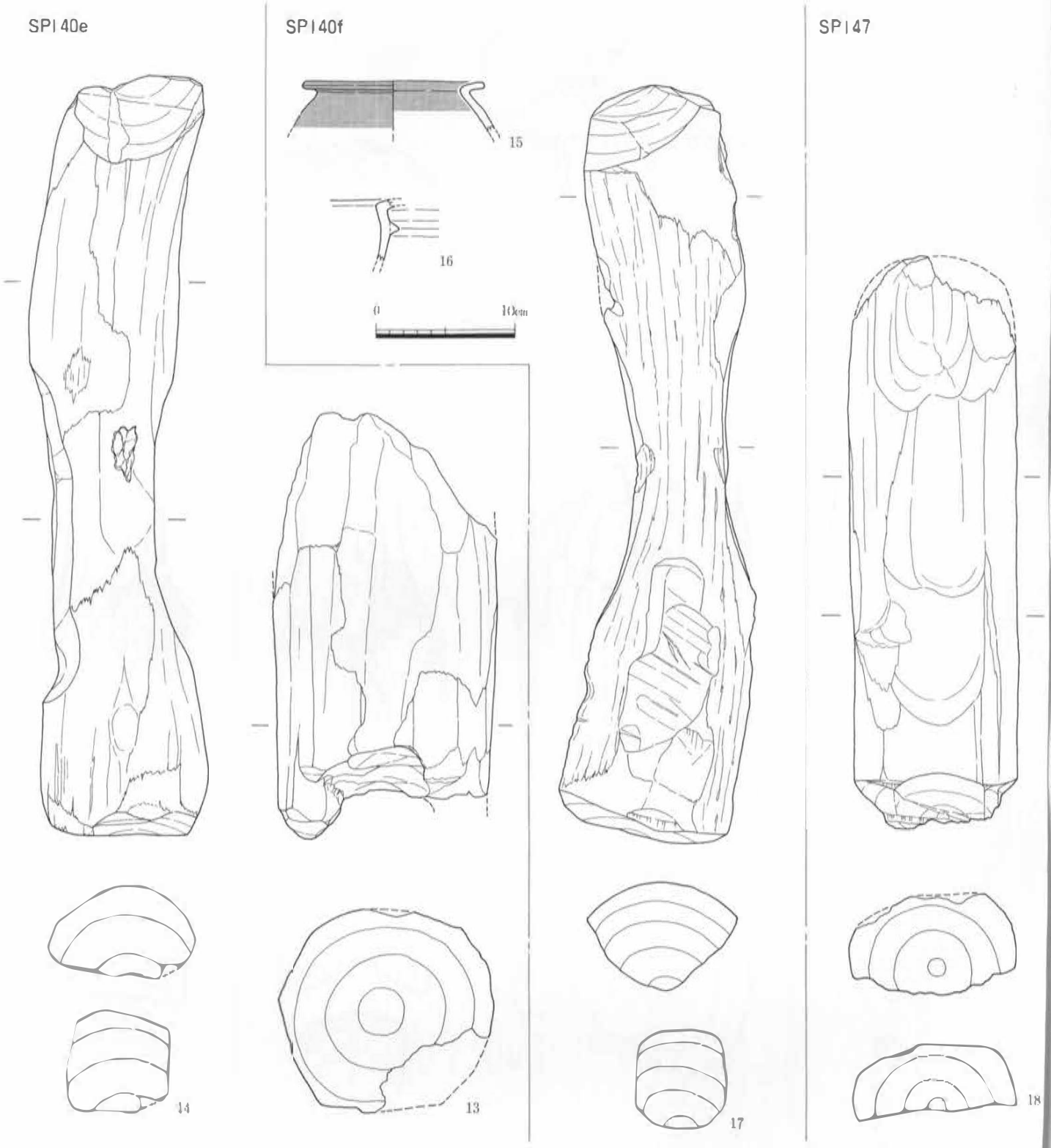


Fig.83　柱穴群出土遺物（2）　（S＝1/4）

SP219出土遺物（Fig.84）

31は礎板である。柱根と組み合わせるために中央上面および両側面に切り込みが施されている。弥生後期か。

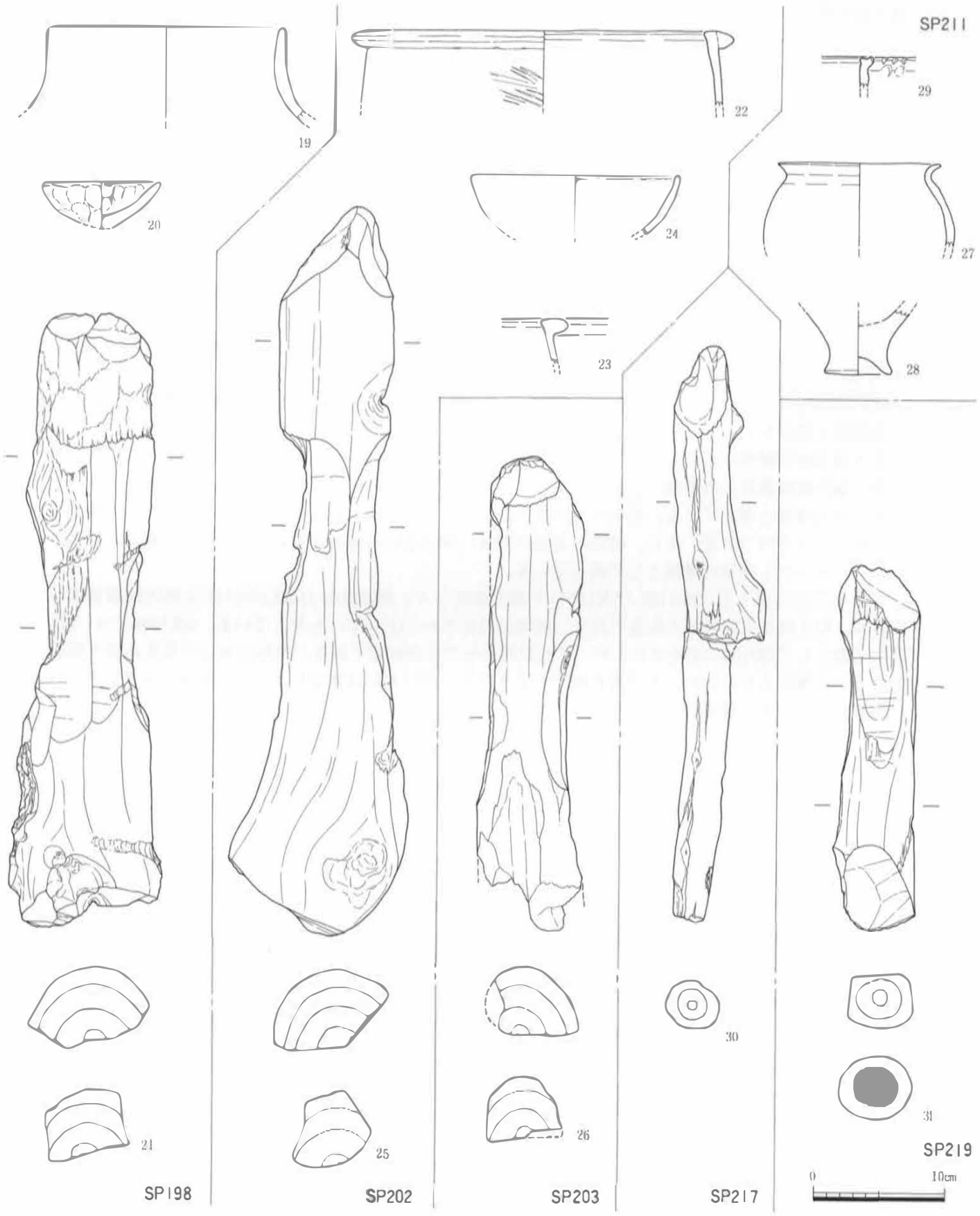


Fig.84 柱穴群出土遺物（3） （S＝1/4）

遺物包含層

今回の調査区には遺構面上に多くの遺物を含んだ包含層が確認されている。遺物の報告は今回は出来ないが、どのような遺物を採集したのかを報告しておく。

734-735工区

主に中期の弥生土器、古式土師器、石製品を採取した。特に土師器にはジョッキ型土器の把手と思われる破片が見られた。

735-736工区

主に中期～後期の弥生土器、古式土師器、石製品などを採集した。石製品には砥石、石包丁、磨製石斧、石剣等が見られる。

736-737工区

主に弥生土器、古式土師器、石製品などを採集した。弥生土器は時期幅は広く、縄文晩期と言えそうなものも含まれる。石製品には石剣などが見られた。

5．小結

734-737工区の調査では、調査前に想定されていたよりも多くの成果を得ることが出来たが、いくつかの課題も残されている。

組み合わせ式礎板はSX150周辺の、特に湿気の多い東側を中心に確認することが出来た。これは『西部第2地区遺跡群II』の考察で詳しく述べられており、津島九反坪遺跡のものも時期的にはこれと同じく弥生時代後期と考えている。建物の規模を確認するために北側を試掘したが切り合いが多く、建物群の規模などは不明である。また、礎板の有無が遺構の築造年代の差からくるのか、地盤の湿気、硬軟の差からくるのかも今後の課題として残っている。

今回溜井状遺構としてSX100、SX150の2基を報告した。時期的にはSX150は弥生時代前期後半、SX100は弥生時代中期後半の築造であり、同時に利用されてはいないと考えている。SX100については導水施設としてSD105が想定されたが、これ以外のものは未確認である。周辺において弥生水田を確認したという報告もないため、水の流れがどのようになっているかは想定しにくい。今後、水をどのように利用していたかを確認することが残されている。

第3節　737-738工区の調査

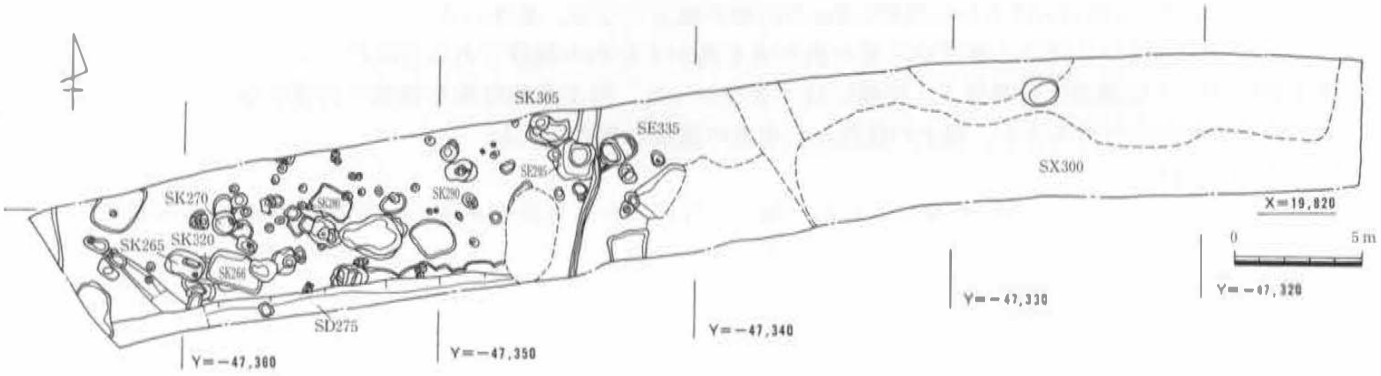


Fig.85　737-738工区　全体図（S＝1/300）

1.概要

737-738工区は、筑後市大字津島字皿ヶ町に所在する。調査面積は約300㎡である。調査は全体を遺構検出面まで掘り下げ、東側の溜まり部分（SX300）については、時間の都合上ある程度まで重機により掘り下げてから調査を行なった。調査の結果、中世と思われる井戸2基とこれらに附随する溝1条、弥生終末～古墳時代初頭の溝1条、弥生時代の土壙多数、時期不明の落し穴1基、ピット多数を確認した。調査は12月11日から始められ、12月27日にこれを終了した。

2.検出遺構

井戸

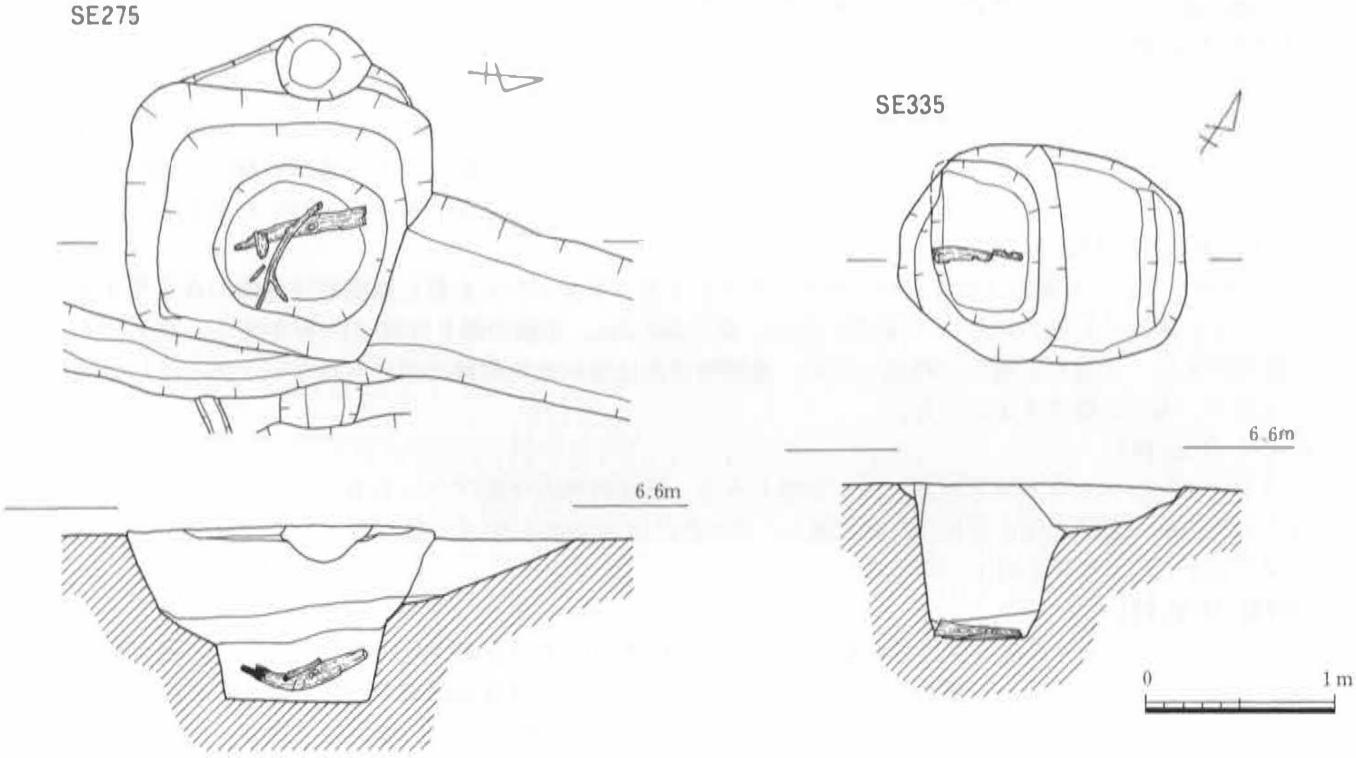


Fig.86　SE295・335（S＝1/40）

SE295（Fig.86、PL.17-2）

CR55グリットから確認された井戸である。平面形は幅東西約1.3m、南北約1.6mの隅丸方形。上部は擂鉢状に広がり、約0.6mほどから径約0.8mの円形の堀方となる。全体の深さは約0.9mである。北東部のコーナーから延びる溝は、井戸から溢れ出た水を逃がすための施設である可能性が高い。北側に接続する溝については調査区の関係上、明確にはできなかった。出土遺物は弥生後期～古墳初頭の土器・石器、時期不明の木材であるが、埋土の状況から中世の遺構と考えられる。

SE335（Fig.86）

CQ55～CR55グリットにかけて検出された土壙で、井戸になる可能性が高い。平面形は東北-南西間で約1.5m、北西-南東間で約1.2mの隅丸長方形。断面形は上方にわずかに開き、東側は約0.2mほどのテラス状となる。全体の深さは約0.8mである。南側に接続する溝との関係は明確に出来なかった。出土遺物には弥生後期の土器、時期不明の木材がある。埋土の状況から中世の遺構と考えられる。

溝状遺構

SD275（Fig.85）

CS53～CX53グリットから検出された遺構で、736-737工区のSD130と一連のものとも考えられる。約15.8m分を確認した。東側は攪乱により破壊され、南側・西側は調査区外へと続いている。断面形は逆台形状となり、深さは約0.5mを測る。SD130のような二段掘りの痕跡は認められなかった。出土遺物は弥生後期～古墳初頭の土器を出土している。

土壙

SK265（Fig.87、PL.18-1）

CW53～54グリットから検出された土壙で、東側のSK320を切っている。隅丸長方形の平面プランを有し、長軸約1.5m、短軸約1.0m、深さ約0.5m。主軸の傾きはN-77°-Wを測る。埋土は不規則的な埋没をしており、3・4層中に若干の炭化物を含み、さらに3層には焼土が見られた。遺構壁面には焼かれた痕跡は認められない。遺物は弥生中期前半の土器片、サヌカイト製のスクレイパーを出土した。

SK266（Fig.87）

CV53～CW54グリットから検出された土壙で、東側のSK285に切られ、西側のSK320に切られている。基本的には隅丸長方形の平面プランを有し、長軸約2.1m、短軸約1.5m、深さ約0.35m。主軸の傾きはN-68°-Wを測る。埋土は自然埋没であり、4層中に黄茶色の焼土を確認したが、遺構壁面には焼かれた痕跡は認められない。出土遺物は弥生中期前半の土器片、サヌカイト製のスクレイパーを出土した。

SK280（Fig.87、PL.18-2）

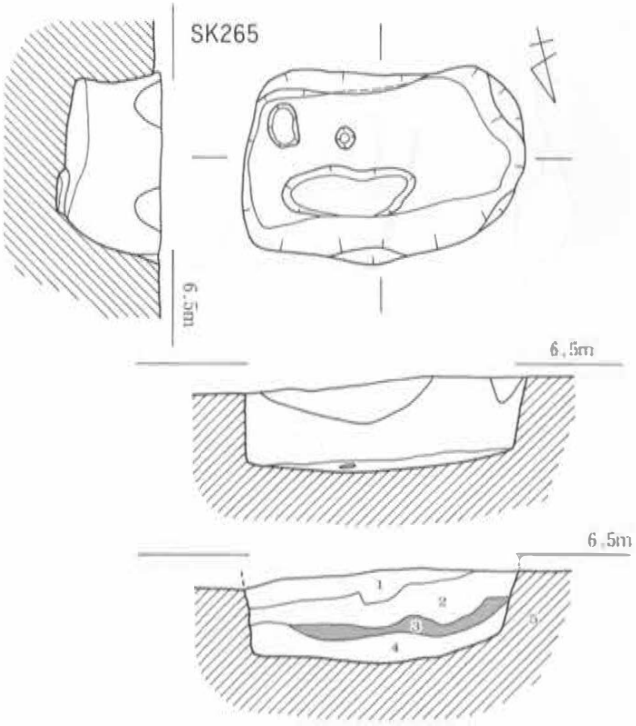
CU54グリットから検出された土壙である。隅丸長方形の平面プランを有し断面形は南側のみフラスコ状となる。法量は長軸約1.5m、短軸約1.05m、深さ約0.3m。主軸の傾きはN-61°-Wを測る。埋土は自然埋没であり、4層中に焼土を確認したが、遺構壁面には焼かれた痕跡は認められない。出土遺物は縄文土器片、弥生土器片を出土した。

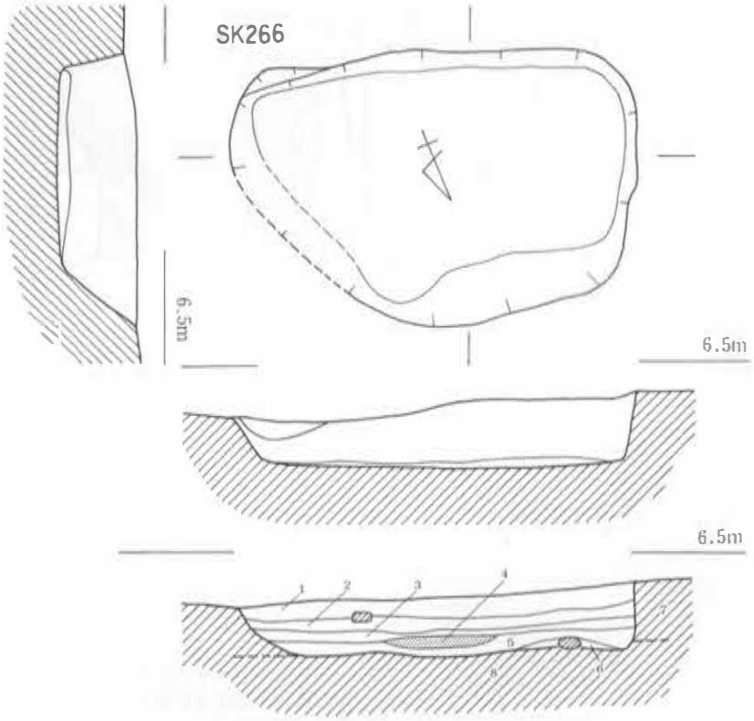
SK270（Fig.88）

CU54～CV54グリットから検出された土壙である。ほぼ円形の平面プランを有し、径約0.8～0.95m、深さ約0.35m。主軸の傾きはN-53°-Eを測る。埋土的には人為的な埋没と思われる。遺物は弥生前期～中期前半までの土器片を出土している。

SK305（Fig.88）

CR55～CS55グリットから検出された土壙で、南東側のコーナーをSK295に切られている。隅丸長方形の平面プランを有するが、断面は北西側のコーナーに向かって擂鉢状に落ち込んでゆく。北西コーナー部はピット状に一段低くなっている。法量は長軸約1.7m、短軸約1.1m、深さは北西コーナー部分で約0.4m。主軸の傾きはN-77°-Wを測る。埋土は切り合いの可能性を示すものではなく、人為的な埋没と思われる。出土遺物は弥生土器の小片がある。



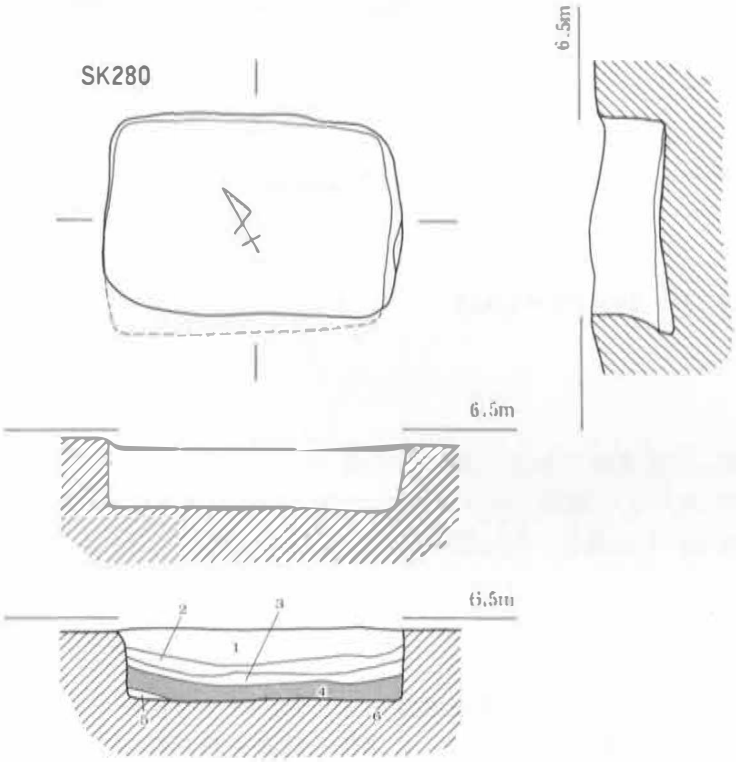


SK265

I－1　暗灰色粘質土（地山土多く混入）
　　2　暗灰色粘質土（地山土多量混入）
II－3　赤橙色粘質土（炭化物少量、焼土多量に混入）
III－4　黒色粘質土（地山ブロック混入）
IV－5　白灰色シルト（地山）

SK266

I－1　黒茶色粘質土（7層土混入）
　　2　黒茶色粘質土（1層より茶色は淡、7層土混入）
　　3　淡黒茶色粘質土（7層土混入）
II－4　淡赤灰色粘土（黄茶色焼土多く混入）
III－5　淡灰色粘質土（7層土混入）
　　6　淡灰色粘質土（7層土混入）
IV－7　淡茶灰色粘質土（地山）
　　8　暗淡灰色シルト（地山）



SK280

I－1　暗黒茶色粘質土（6の地山粒子含む）
　　2　暗黒茶色粘質土
　　（1層より黒味強、6の地山粒子含む）
II－3　黒色粘質土（6の地山粒子を微量含む）
III－4　暗黒灰色粘質土（焼土を多量に含む）
IV－5　淡黒茶色粘質土（6の地山粒子含む）
V－6　淡茶灰色粘質土（地山）

Fig.87　SK265・266・280（S＝1/40）

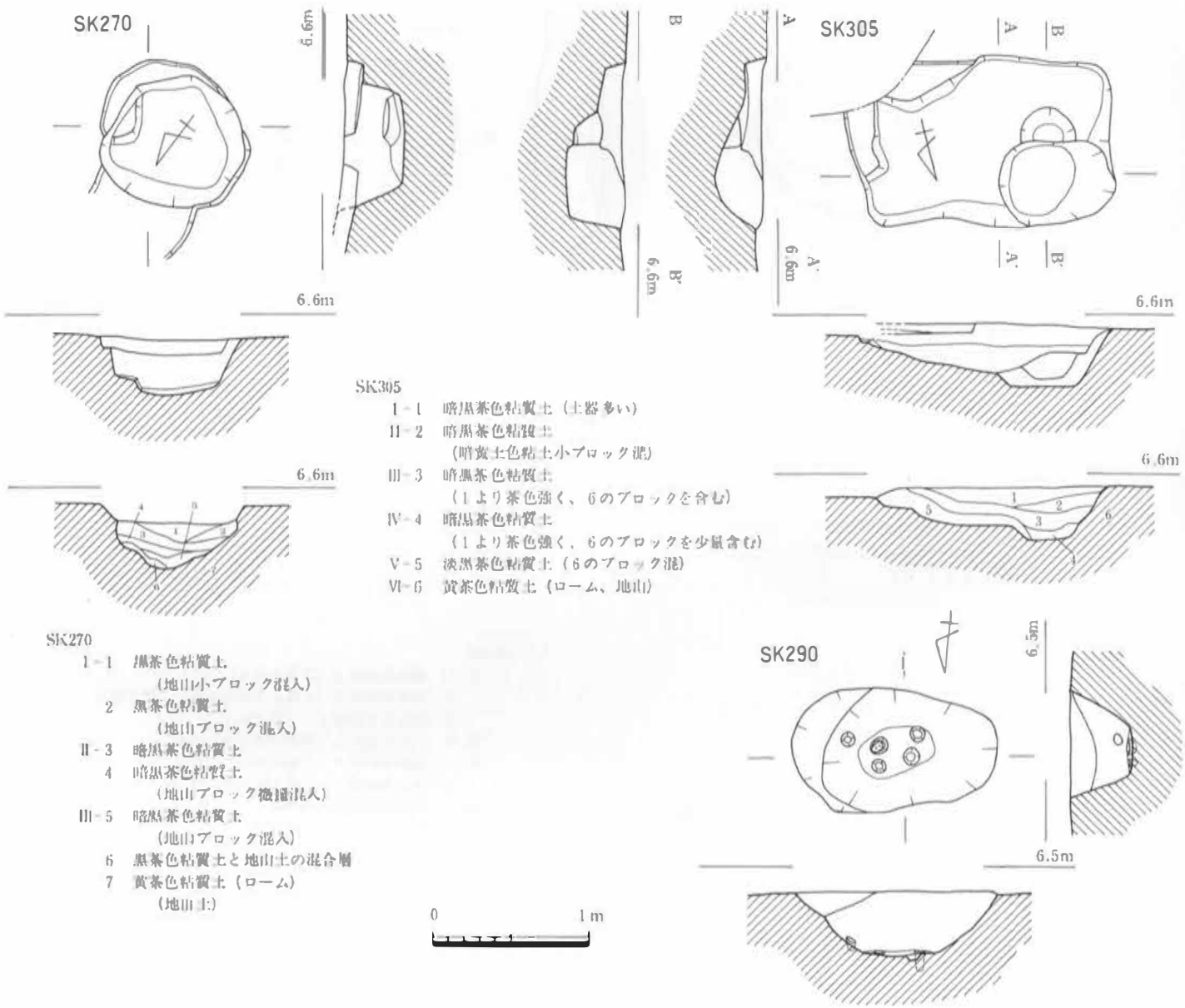


Fig.88 SK270・305・290（S＝1/40）

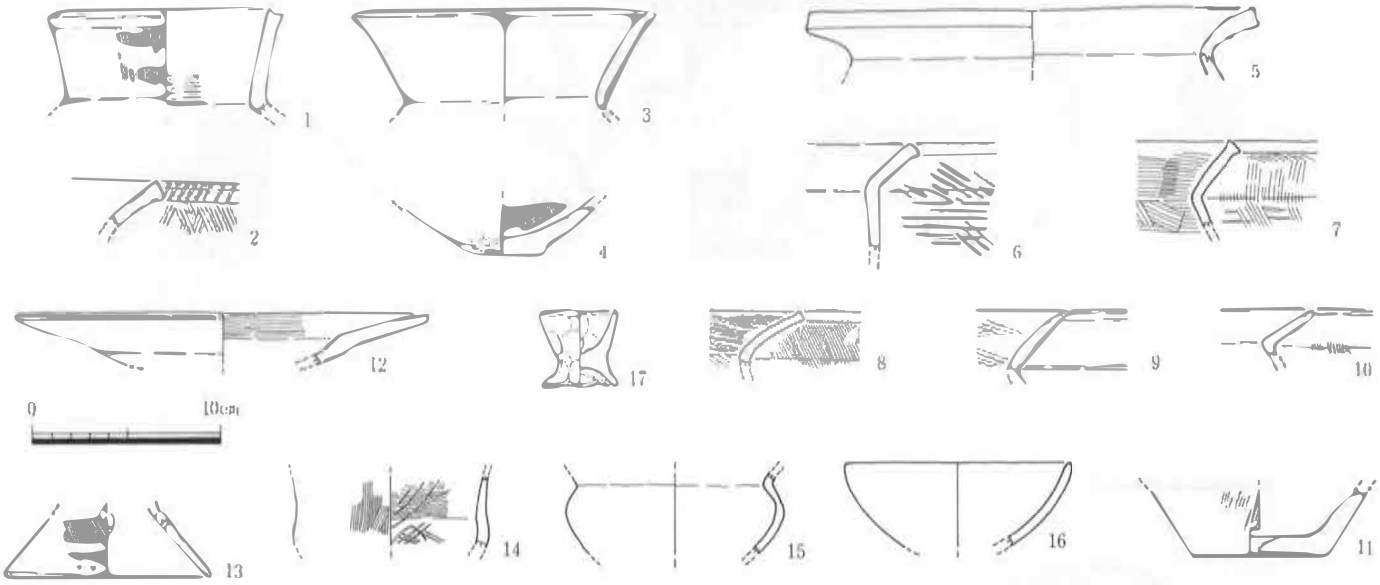
SK290（Fig.88）

CS55～CT55グリットにかけて検出された落し穴状遺構である。卵型の平面プランを有し、断面形は擂鉢状で上方に広く開いており、純然たる落し穴として機能したとは考えにくい。法量は長軸約1.3m、短軸約0.8m、深さ約0.4m。主軸の傾きはN-82°-Eを測る。出土遺物には弥生中期の土器片がある。

不明遺構

SX300（Fig.85、PL.19）

CR54グリット以東で確認された、地形の落ちに伴うものである。北東側は調査対象地外まで続いている。当初は湧水地でもあり、土器を多く出土したため遺構としていたが、人為的な痕跡を持たないため自然地形であると判断した。土器は弥生後期～古墳初頭にかけてのものであり、西側の落ち込み付近からの出土が大半である。この他の出土遺物には木材、石器などがある。



3．出土遺物

この調査区からは弥生土器、土師器を多く出土した。弥生土器の多くは遺構から、土師器の出土はSX300からの出土が主である。

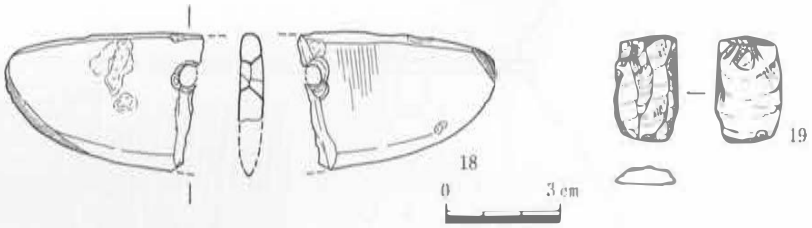


Fig.89　SE295出土遺物（S＝1/4・1/2）

SE295出土遺物（Fig.89、PL.20-1）

1～4は弥生土器の壺で、弥生後期～終末期のものである。5～10は甕の口縁部の破片で、5は弥生後期、6～7は弥生終末期、8～10は古墳時代初頭のものである。11は弥生土器の甕の底部で、底の部分には焼成後、穿孔が施されている。12～13は高坏で、12は弥生時代後期、13は古墳時代のものである。14～15は土師器の坩である。16は弥生土器の鉢である。17はミニチュアの脚付き鉢である。18は石包丁の破片で粘板岩製。19はスクレイパーで黒曜石製である。

SD275出土遺物（Fig.90～91）

1～5は弥生土器の壺の口縁部～肩部にかけての破片で、弥生後期～古墳初頭。6は弥生土器の壺の底部である。7～15は弥生土器の大型壺の口縁部である。8・13・14は二重口縁、その他は広口の壺である。16は弥生土器の小型壺である。17～24は甕の口縁部である。17は弥生中期。18～20は弥生終末。21～24は古墳時代初頭。25～27甕の底部で、25～26は弥生中期、27は弥生終末期。28は弥生土器の大型甕である。29～31は弥生後期～古墳初頭にかけての鉢である。32は鉢のミニチュアである。34は土師器の高坏である。

SK265出土遺物（Fig.92）

Ⅰ層出土遺物

1は弥生土器の壺である。2～4は弥生土器の甕の口縁部で、弥生時代中期前半。6は弥生土器の甕の底部である。58は弥生土器の短頸壺で、弥生中期。7はサヌカイト製のスクレイパーである。

Ⅱ層出土遺物

8は弥生土器の甕の口縁部小片で、弥生中期前半。

Ⅲ層出土遺物

9は弥生土器の甕の口縁で、弥生中期前半。

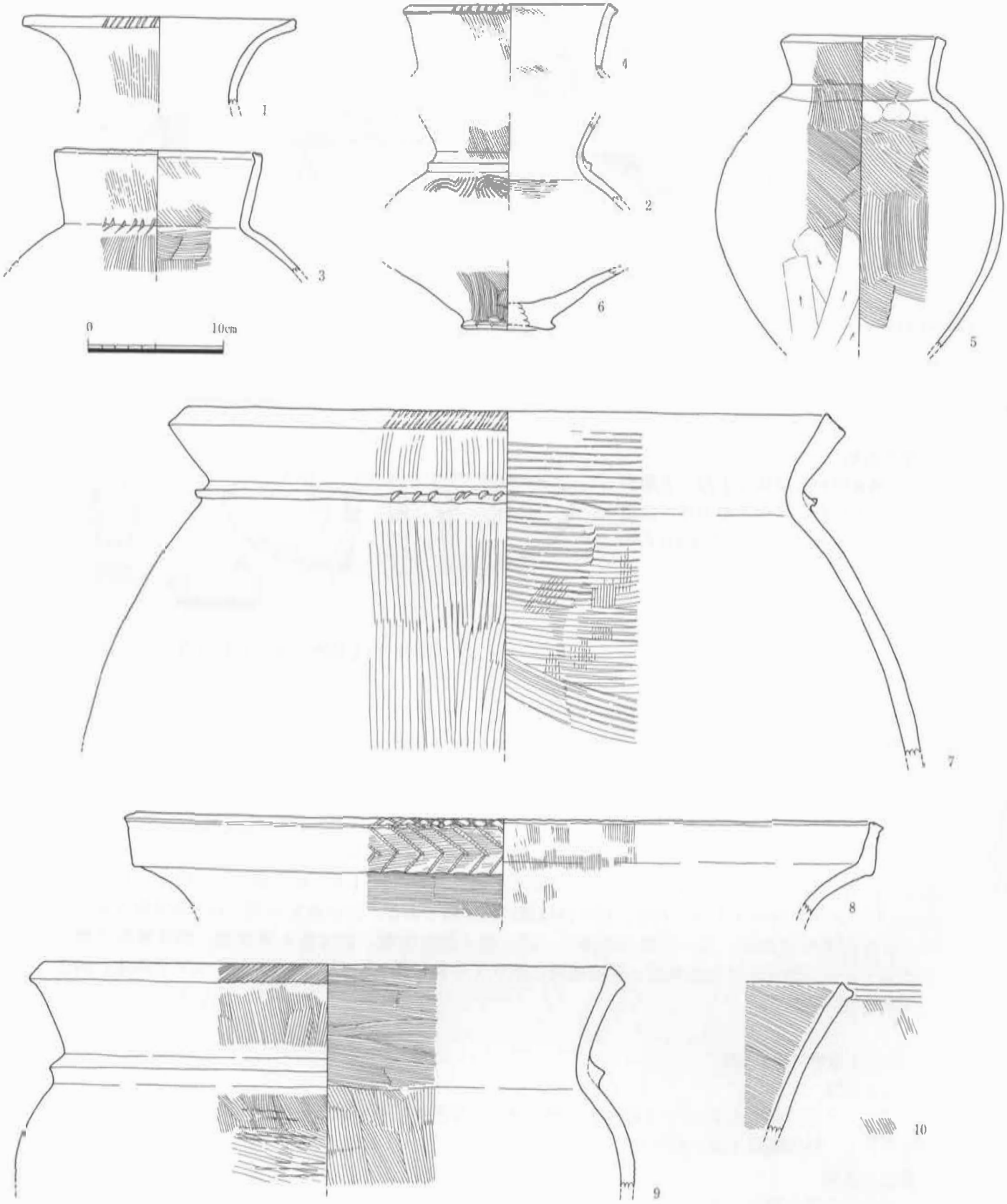


Fig.90　SD275出土遺物（1）　（S＝1/4）

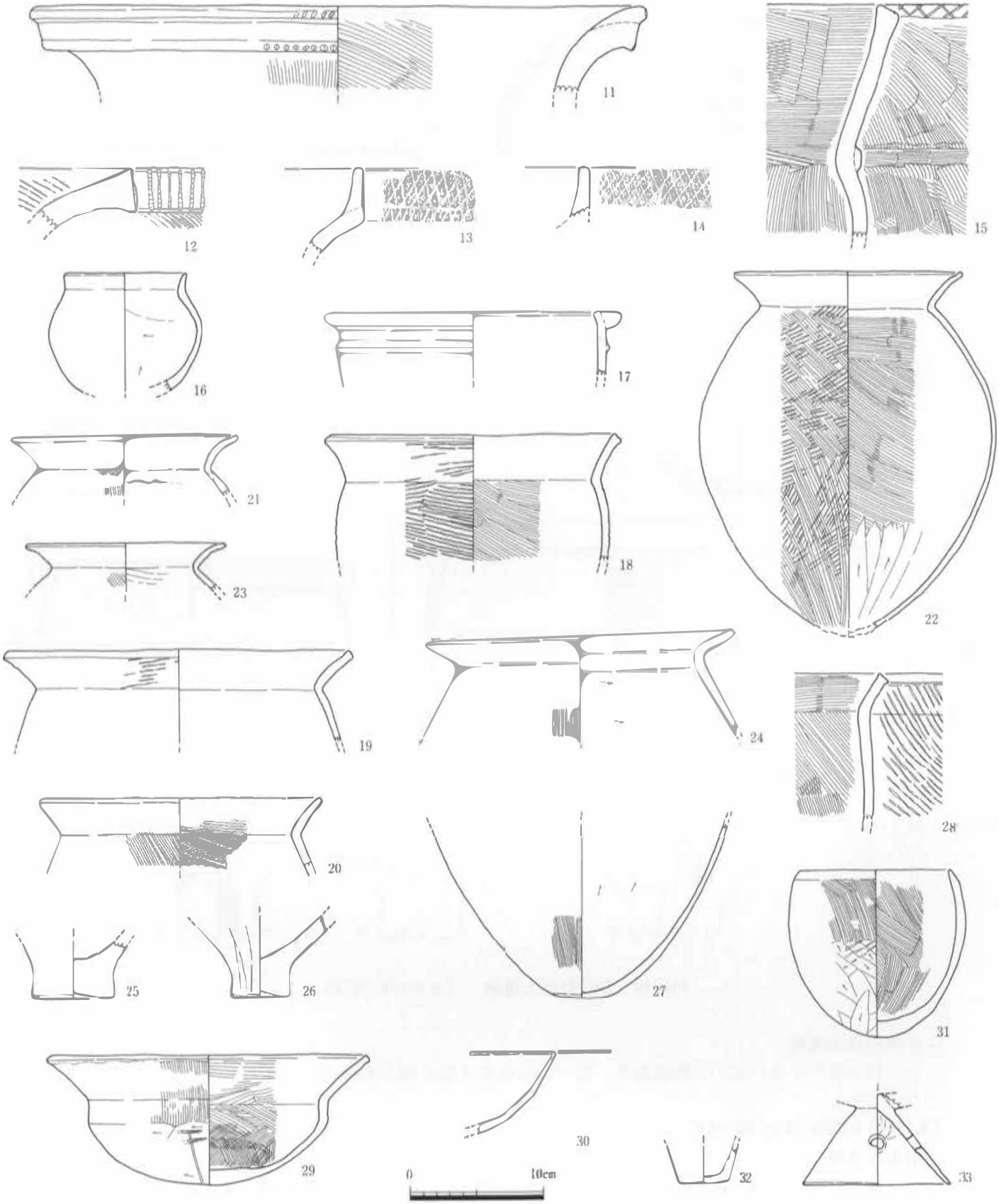


Fig.91　SD275出土遺物（2）　（S＝1/4）

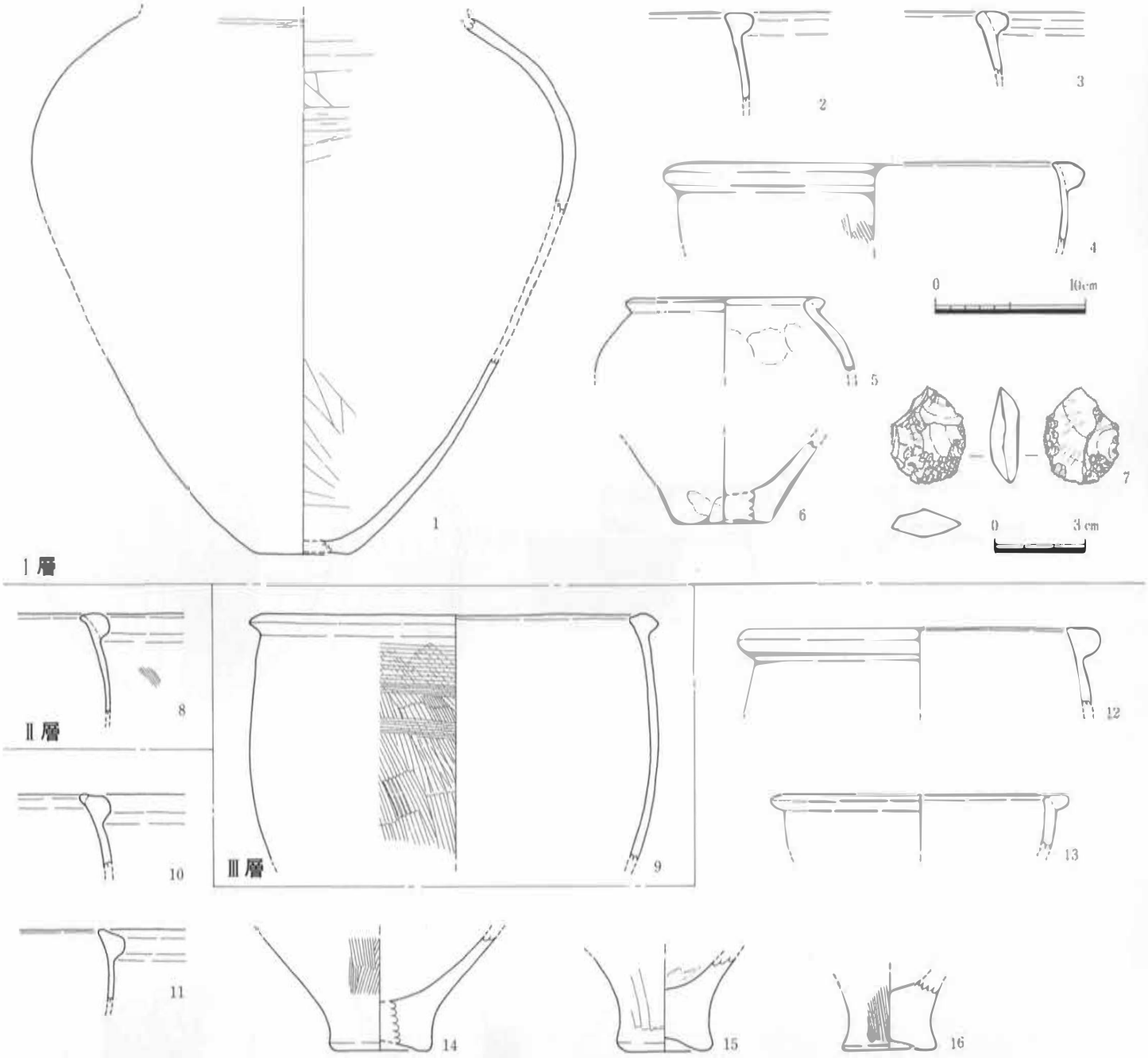


Fig.92　SK265出土遺物　（S＝1/4・1/2）

この他の出土遺物

10～13は弥生土器の甕の口縁部破片、14～16は弥生土器の甕の底部で、いずれも弥生時代中期前半のものである。

SK266出土遺物（Fig.93～94）

Ⅰ層出土遺物

1は弥生土器の壺の口縁部である。2は弥生土器の壺の底部である。3～11は弥生土器の甕の口縁部で、弥生中期前半。12～13は弥生土器の甕の底部で弥生中期。14～15は弥生土器の鉢で、14は三角形にせり出した口縁部分に孔を設けている。

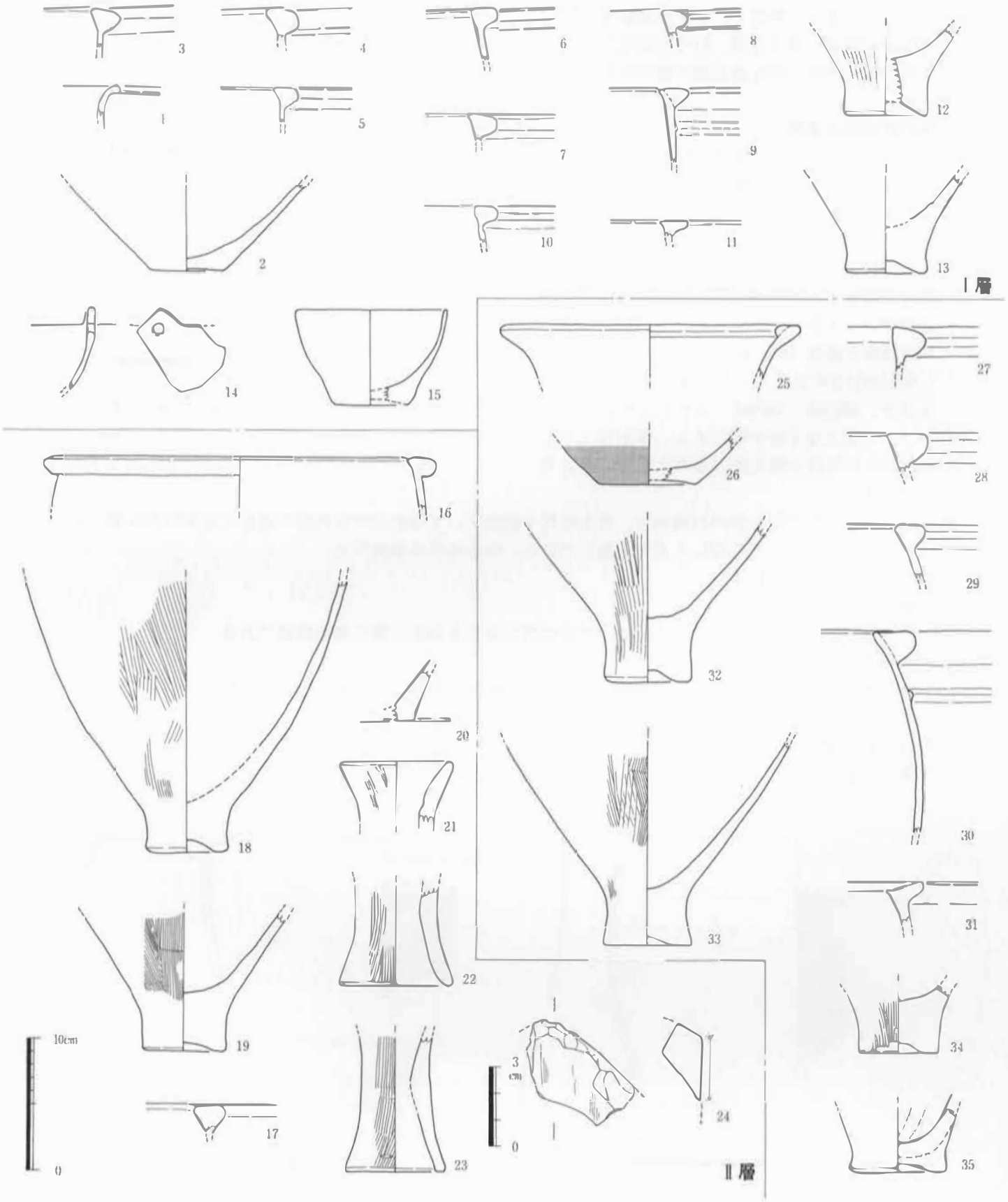


Fig.93　SK266出土遺物（1）　（S＝1/4・1/2）

Ⅱ層出土遺物

16～17は甕の口縁部で、弥生中期前半。18～20は甕の底部で弥生中期。21～23は弥生土器の器台で弥生中期。24は砂岩製の砥石の破片である。

その他の出土遺物

25は弥生土器の広口壺の口縁部で、弥生時代中期中頃。26は弥生土器の壺の底部で、外面の一部に丹塗りが残っている。27～31は弥生土器の甕の口縁部で、弥生時代前期後半～中期後半。32～36は弥生土器の甕の底部で、弥生時代中期。37～38は弥生土器の器台で、弥生時代中期。39はサヌカイト製のスクレイパーか。

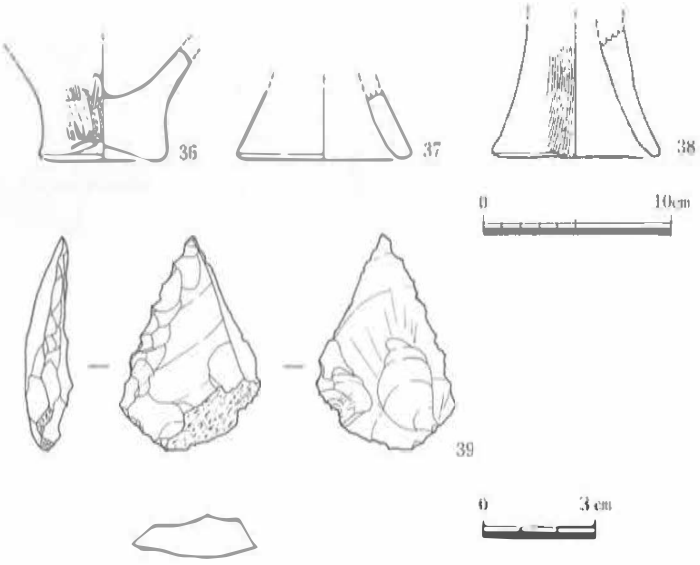


Fig.94　SK266出土遺物（2）　（S＝1/4・1/2）

SK320出土遺物（Fig.95）

SK320はCW53グリットで検出された土壙であるが、SK265、SK266により大半を失われ、プランや埋土などは不明である。推定復元ではSK265と同規模の隅丸長方形の土壙であると考えられる。

1～3は弥生土器の甕の口縁部で、弥生時代中期前半。4は弥生時代の甕の底部で弥生時代中期。5は弥生土器の鉢で、内外面にミガキを施している。弥生時代中期前半か。

SK280出土遺物（Fig.96）

Ⅰ層出土遺物

1は弥生土器の壺の底部である。2は刻目突帯を有する弥生土器の甕の胴部である。

その他の出土遺物

3は縄文土器で、口唇部に刻目突帯を有する鉢の破片である。4は弥生土器の胴部破片で、三角突帯を有している。5は弥生土器の甕の底部で、弥生時代前期。

SK270出土遺物（Fig.96）

Ⅰ層出土遺物

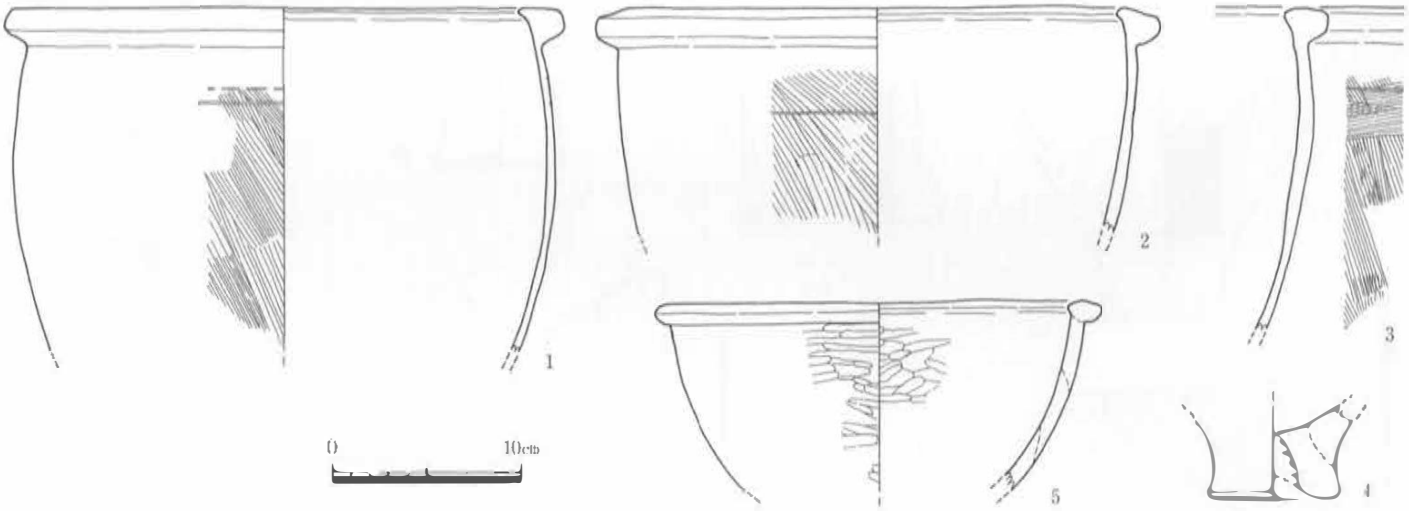


Fig.95　SK320出土遺物　（S＝1/4）

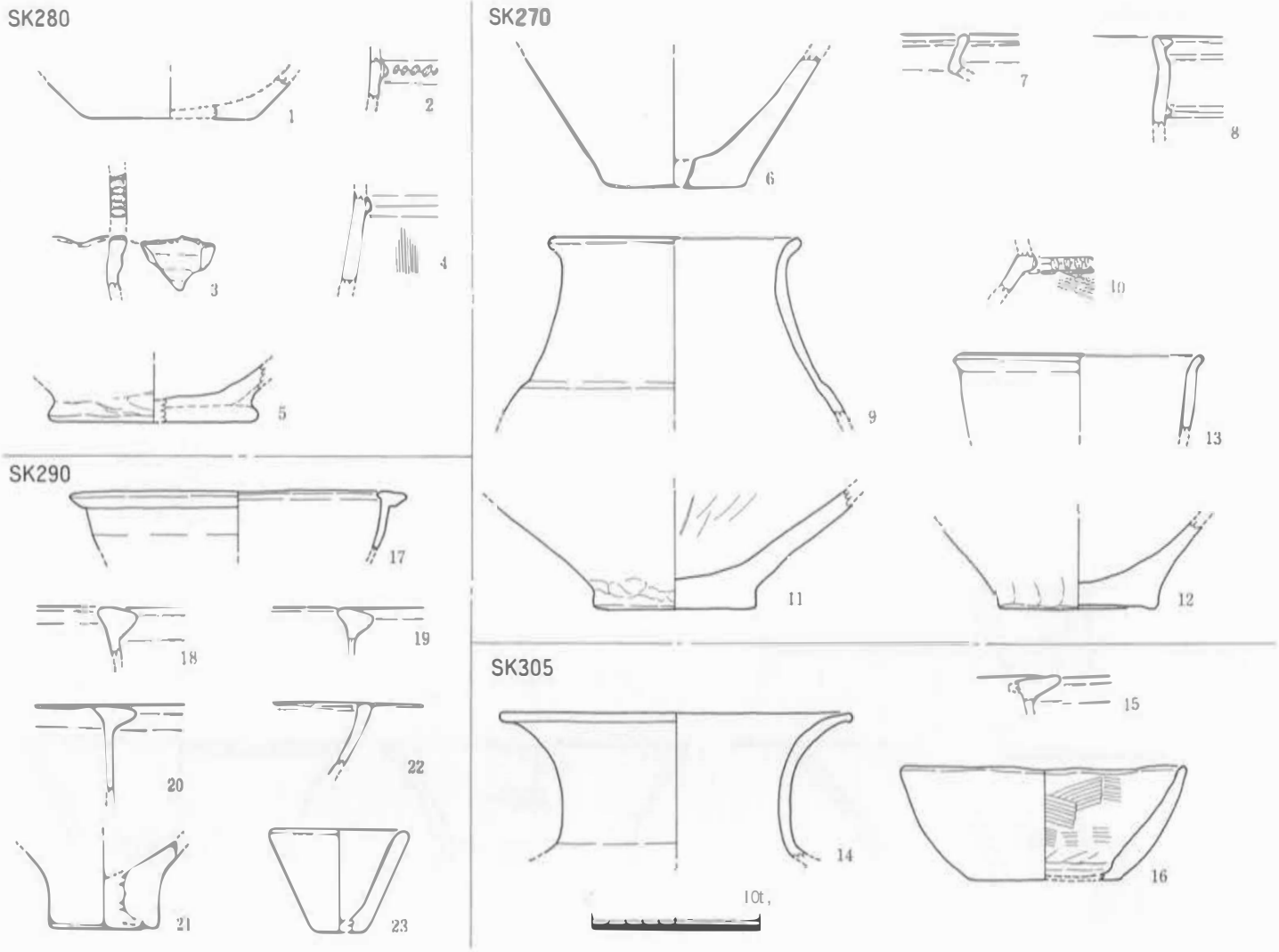


Fig.96　SK280・270・305・290出土遺物　（S＝1/4）

6は弥生土器の甕の底部である。

Ⅱ層出土遺物

7は口縁部破片で、内外面に1条の沈線を施している。弥生土器の壺か。8は弥生土器の甕の口縁部である。

その他の出土遺物

9は弥生土器の壺の口縁部で、肩部に弱い段を残す。弥生前期前半。10は弥生土器の胴部小片で、張り出した部分に刻目突帯を有する。11～12は弥生土器の壺の底部で、弥生時代前期。13は弥生時代の甕の口縁部で、弥生前期。

SK305出土遺物（Fig.96）

Ⅰ層出土遺物

14は弥生土器の広口壺。15は弥生土器の甕の口縁部で弥生中期。

その他の出土遺物

16は弥生土器の鉢である。

SK290出土遺物（Fig.96）

17～20は弥生土器の甕の口縁部で弥生時代中期前半～中頃。21は弥生土器の甕の底部で、弥生時代中期か。22～23は弥生土器の鉢である。

SX300出土遺物（Fig.97～103、PL.20-2）

1～2は弥生土器の壺の肩部で、1は弥生中期か。2は弥生後期。3は弥生土器の広口壺の口縁部である。4～5は弥生終末期の壺の口縁部である。6～13は弥生終末～古墳初頭の壺の口縁部である。14～15は弥生終末～古墳初頭の壺の肩部である。16～17は古式土師器の壺の口縁部である。18は古式土師器の壺の口縁部か。19～24は弥生土器の壺の底部である。25は土師器の壺の底部である。26は弥生土

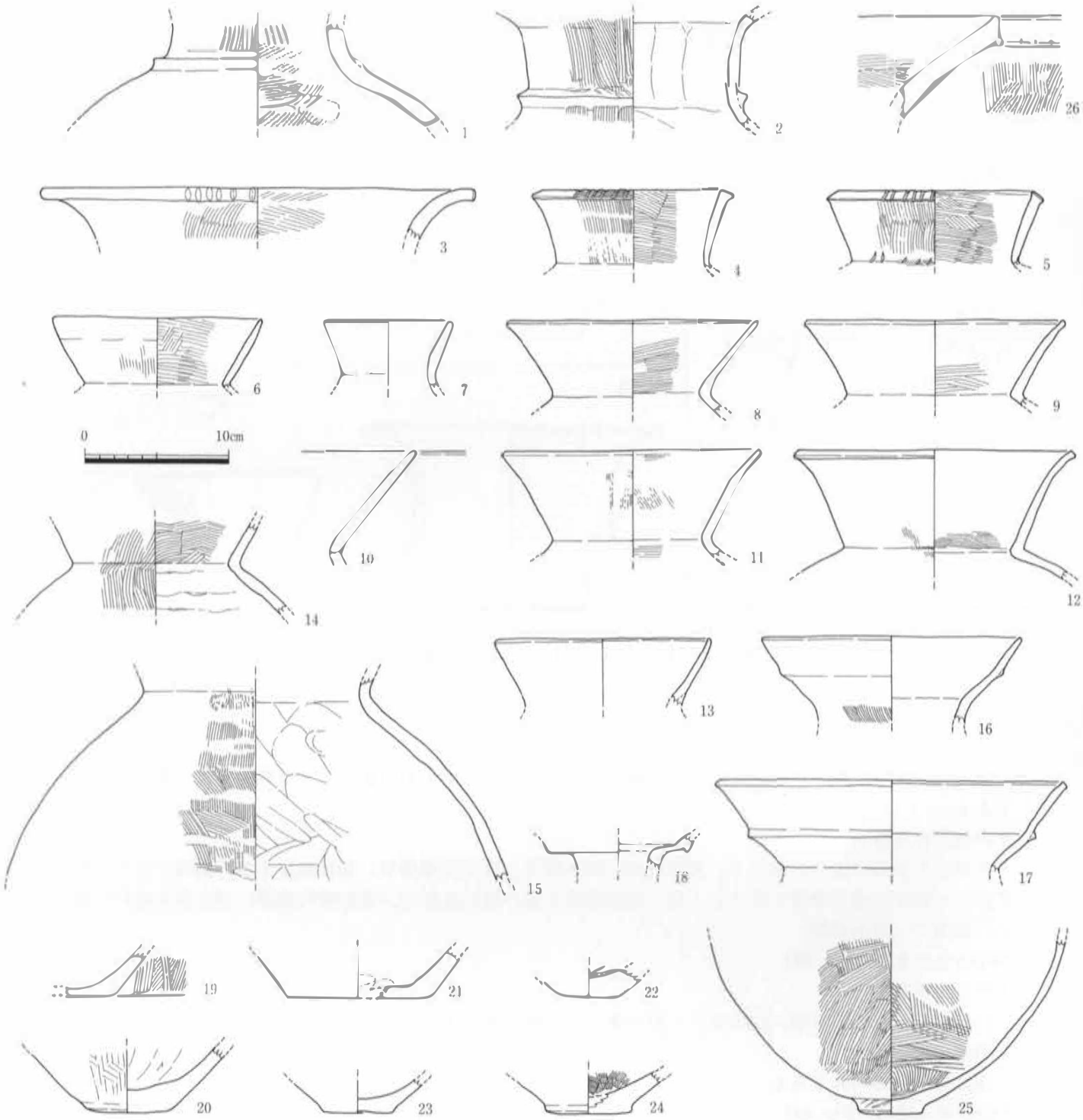


Fig.97　SX300出土遺物（1）　（S＝1/4）

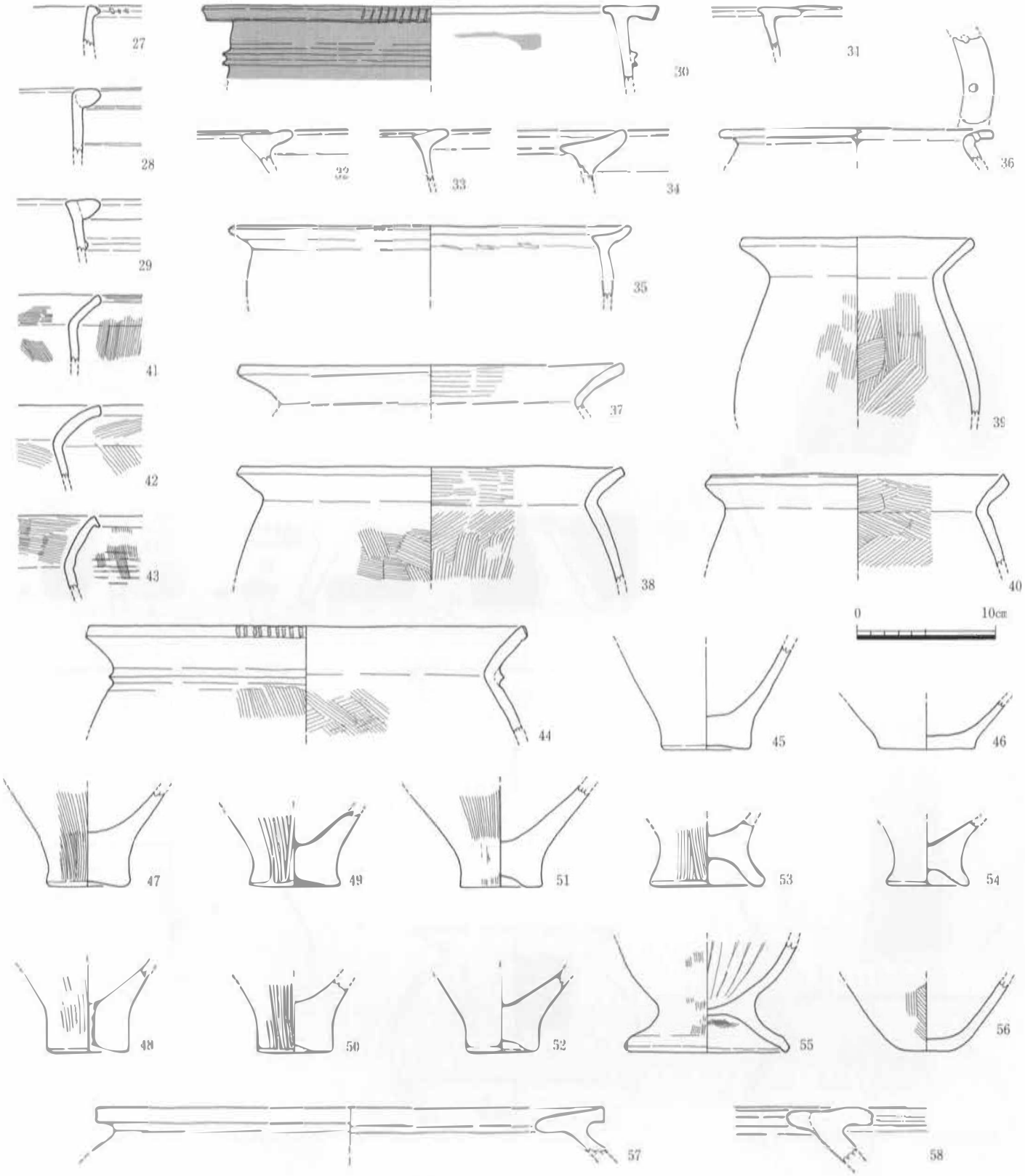


Fig.98 SX300出土遺物（2） （S＝1/4）

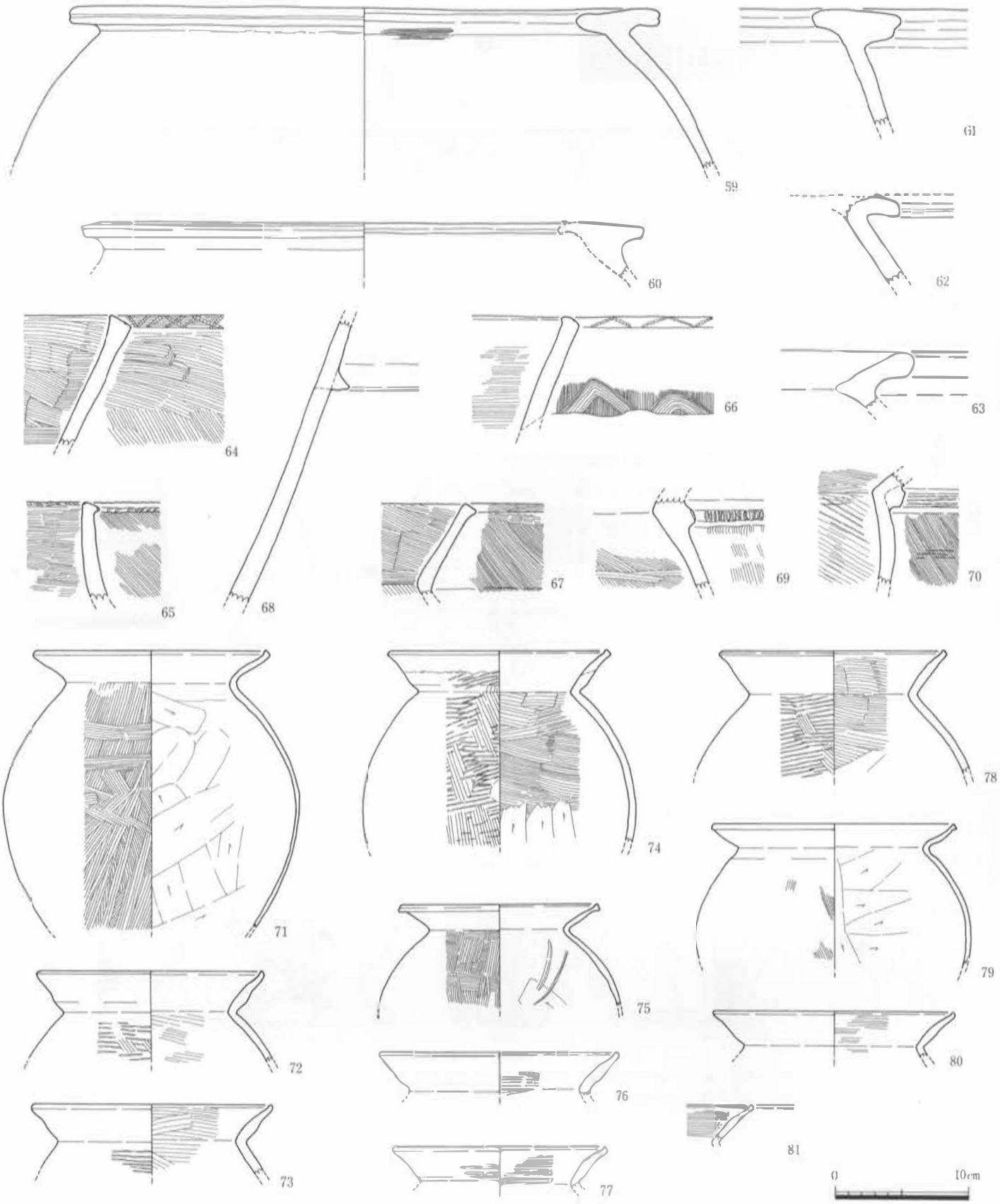


Fig.99　SX300出土遺物（3）　（S＝1/4）

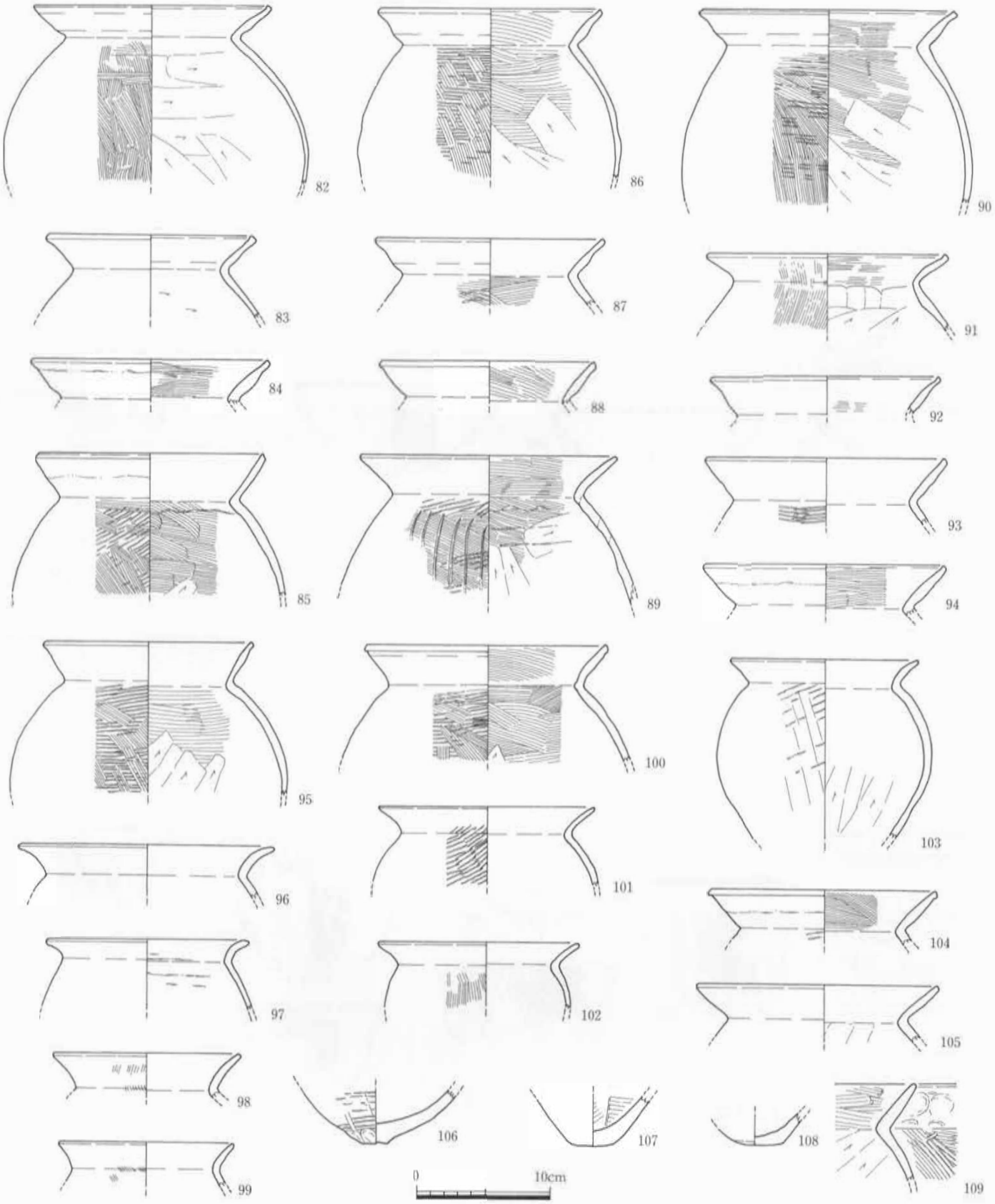


Fig.100　SX300出土遺物（4）　（S＝1/4）

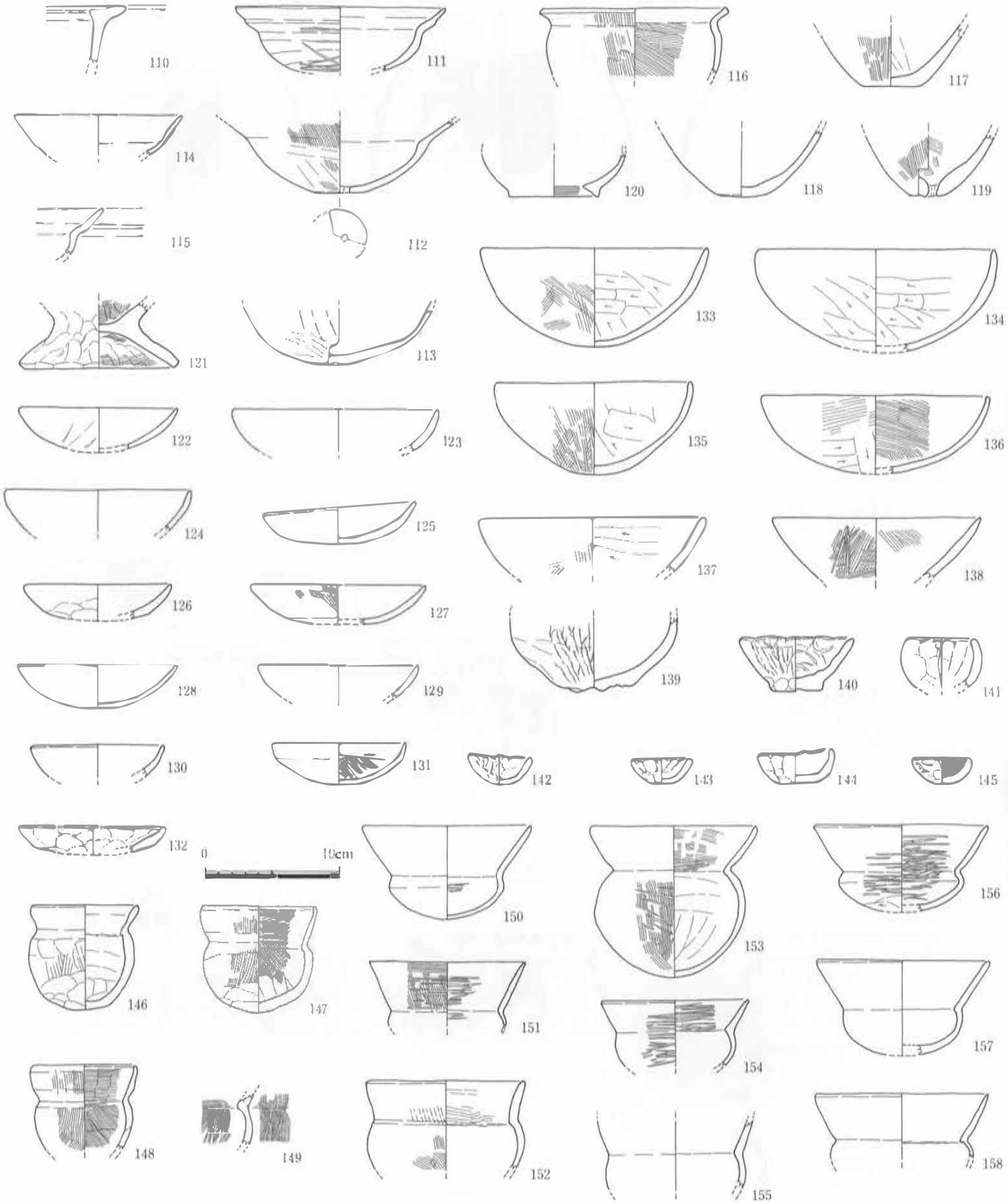


Fig.101　SX300出土遺物（5）　（S＝1/4）

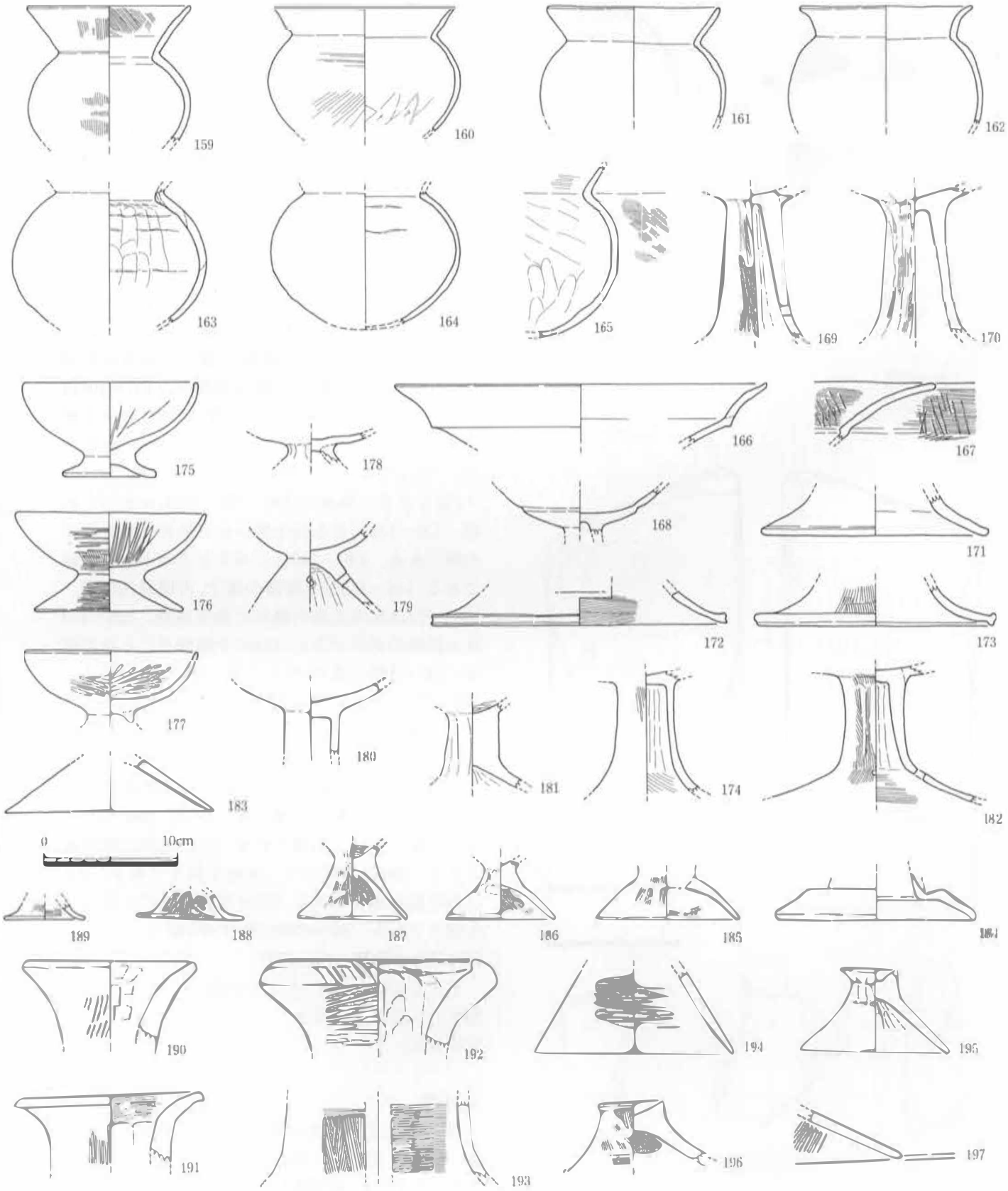


Fig.102　SX300出土遺物（6）　（S＝1/4）

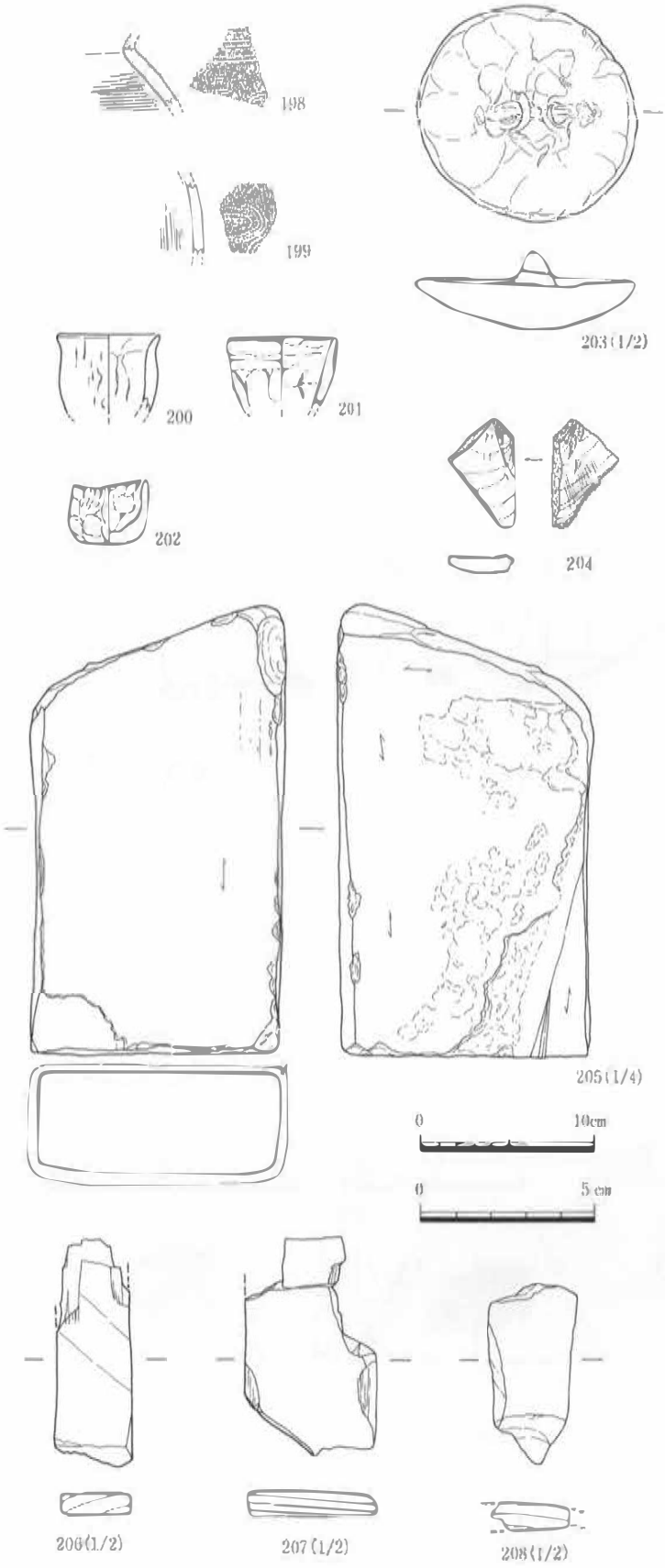


Fig.103　SX300出土遺物（7）　（S＝1/4・1/2）

器の大型壺である。27～42は弥生土器の甕の口縁部である。27は弥生前期か。28は弥生前期後半。29は弥生時代中期前半。30～33は弥生時代中期中頃。34～35は弥生時代中期後半。36は口縁部の二ケ所に孔を確認した弥生中期の短頸壺である。37～42は弥生時代後期。43～44は弥生時代終末期である。45～56は弥生土器の甕の底部である。45～46は弥生前期。47～52は弥生中期。53～55は弥生中期後半～弥生後期前半で、肥後系統のものか。56は終末期のものである。57～67は大型の甕の口縁部で、57～63は鋤先口縁系、64～67は「く」の字形口縁系のものである。68は甕棺の胴部破片である。69～70は大型甕の肩部破片である。71～105・160～165は古式土師器の甕で、古墳時代初頭。106は古式土師器の甕の底部か。107～108は弥生時代後期の甕の底部か。110～120は弥生土器の鉢である。111・119は底部穿孔。120は底部欠落。121は弥生土器の脚付き鉢か。弥生後期。122～132は古式土師器の浅鉢（皿）で132は手づくね品。133～139は弥生終末期から古墳初頭にかけての鉢である。140～145はミニチュアの手づくね鉢である。146～159は土師器の坩で、古墳時代初頭。166～174は弥生土器の高坏で弥生後期。175～183は土師器の高坏である。184は中国地方からの影響か。185～189は高坏のミニチュアと思われる。190～191は弥生中期の器台である。192は弥生終末期の器台である。193～194は土師器の器台で、193の胴部中央には透かしが施されている。195～197は弥生土器の蓋である。198～199は弥生土器の胴部片で、沈線文が施されている。200～202は弥生土器の手づくね甕である。201は土製の模造鏡である。204は黒曜石の二次加工剥片である。205は砂岩製の砥石である。206は木製のヘラと思われる破片である。207～208は板材の小破片である。

SD272出土遺物（Fig.104）

1～2は弥生土器の甕の口縁部で、1は弥生中期前半、2は弥生中期後半。3はアメリカ式石鏃か。黒曜石製。

4．小結

737-738工区は当初北側に位置する津島北石伏遺跡、津島皿ヶ町遺跡と同時期の遺跡と考えて調査を行なってきたが、時期的にこれらより遡る弥生中期の遺構群を検出した。規模は明確にはできなかったが、津島地区にも常用遺跡と同時期に人々が活動し

ていた痕跡を確認したことは734-737工区の溜井状遺構の検出と共に大きな成果である。

特殊な遺物としてはSD272出土のアメリカ式石鏃がある。この石鏃は本調査区の北に所在する水田杉ノ本遺跡でも数点出土している。遺構自体の残りは悪いがこの遺構の出土遺物は弥生中期であり、水田杉ノ本遺跡のものと時期的にもほぼ一致する。水田杉ノ本遺跡（常用遺跡）の人々の生活を復元するための一助と成り得るかは今後の周辺調査の実施を待つしかない。

今調査における問題点としてはSX300の出土遺物の解釈がある。時間的な制約上、埋土を重機により掘り上げての遺物採集という手法をとったが、土製模造鏡やミニチュアの手づくね品などが数多く出土し、水辺祭祀が行なわれていた可能性が出てきている。今後この地区で調査が行なわれる際にこの点を確認しなければならない。

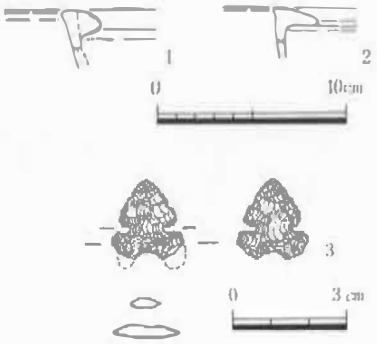


Fig.104　SD272出土遺物
（S＝1/4・1/2）

第４節　732-734工区の調査

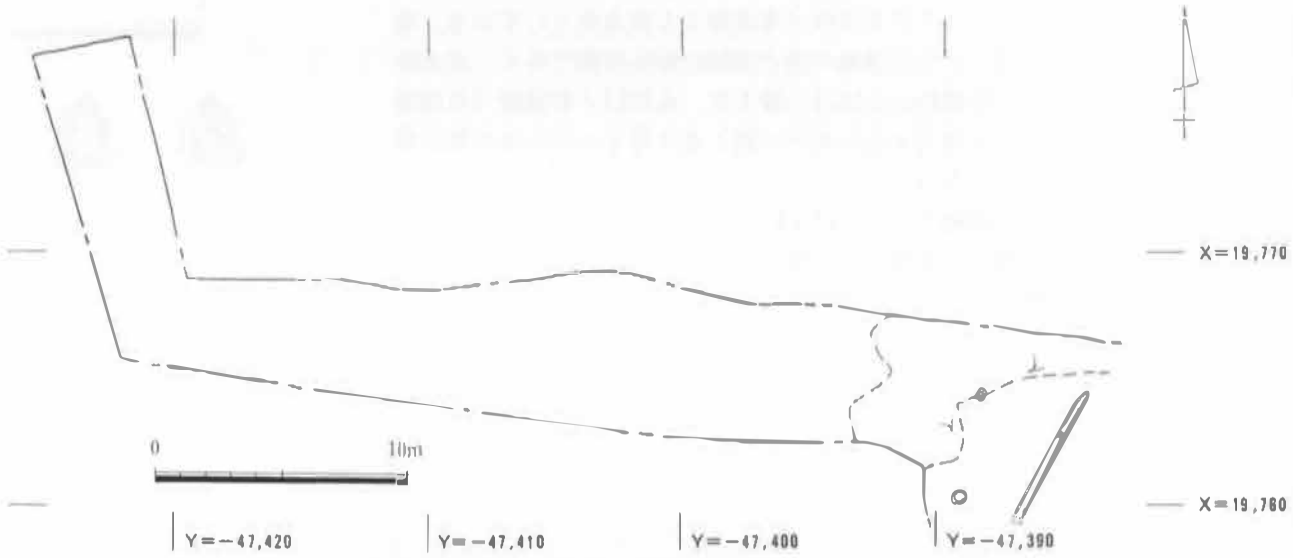


Fig.105　732-734工区　全体図（Ｓ＝1/300）

１．概要

732-734工区は、筑後市大字津島字大曽里に所在する。調査面積は約190m²である。調査は初めに重機により遺構面まで掘り下げ、溝状遺構を２条確認した。遺構面は灰色の砂混じりの粘土で、遺構の埋土は黒色粘土である。しかし、遺構面である層が薄く、基盤層である砂礫層からの湧水によりこれが剥離、さらに周囲からの土圧により作業前に波状に変型してしまった。このため遺構埋土を含む粘土を重機により除去、その後測量を行ない、周囲に危険が及ぶ範囲を早急に埋め戻すこととなった。調査は８月25日に開始、９月７日に測量を行ない、翌日より危険箇所の埋め戻しを行ない、これの終了をもって調査を終了した。

２．小結

この調査区は調査がほとんど行なえなかったが、海抜５ｍ前後という深さから遺構を確認できた。調査主管者によると、この埋土は弥生時代の遺構の埋土に似ているが、重機により掘り上げた埋土の中からは遺物の採集はなかったとのことである。この遺構の性格付けは今後の調査を待たねばならない。

第5節　766-767工区の調査

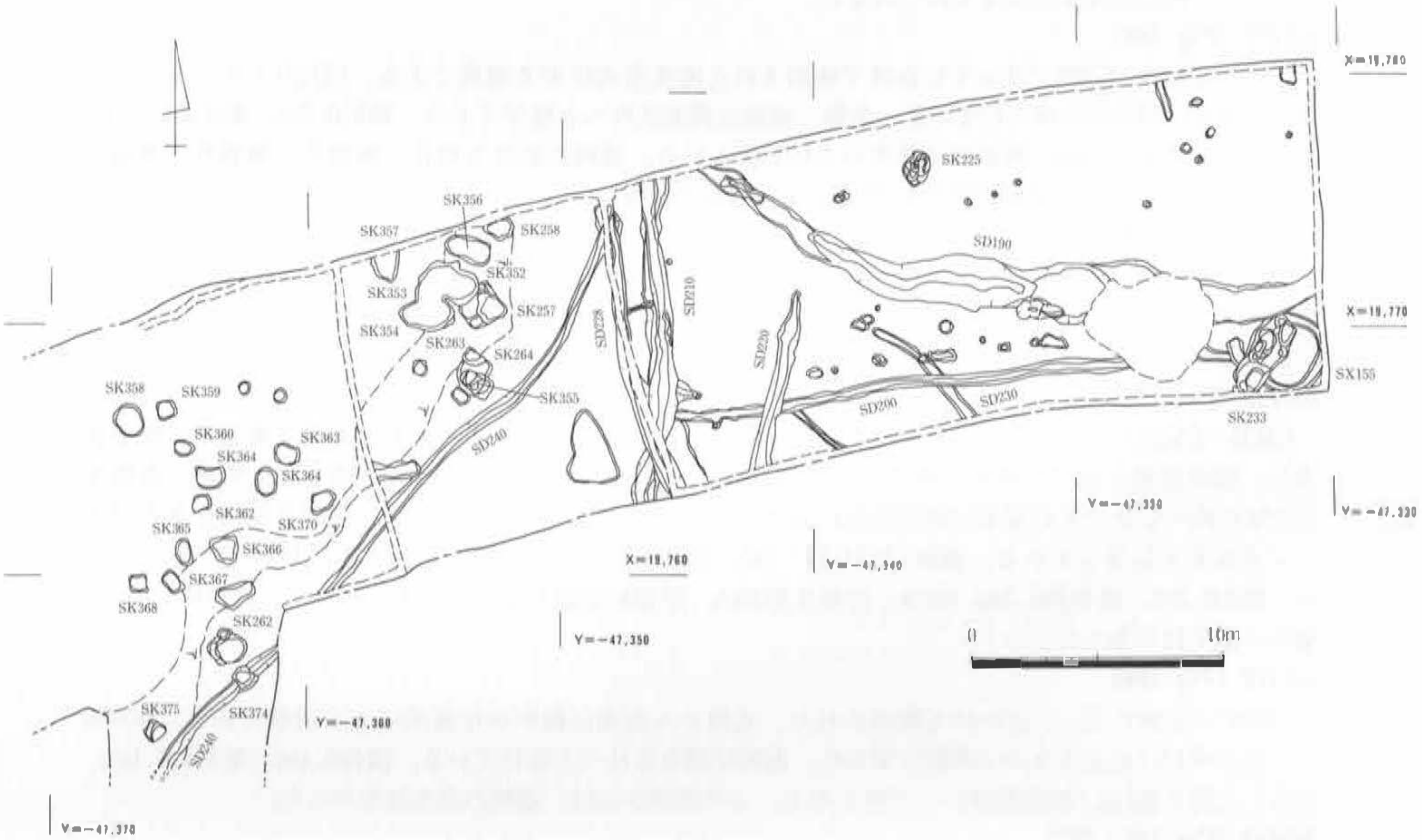


Fig.106　766-767工区　全体図　（S＝1/300）

1．概要

766-767工区は、筑後市大字津島字大曽里に所在する。調査面積は約1435m²である。調査は重機の都合上東側部分および西側部分を先に掘り下げ、南側の調査区の作業終了後、中央部分を掘り下げることとなった。調査当初は東側調査[illegible]の[illegible]地区と隣接することから弥生時代の遺構の存在が想定されたがこの時期の遺構は意外に少なく、調査の結果、溝7条、土壙24基以上、周溝状遺構1基を検出した。調査は10月6日より始められ、12月18日にこれを終了した。

2．検出遺構

溝状遺構

SD190（Fig.106・107、PL.22-2）

CJ38～CR40グリットにかけて検出された、東から北西へと弧状に走る遺構で、途中を近代の大きな撹乱坑により切断される。また、弥生時代のSK233、SX 155を切っており、時期は決定できないが、弥生時代よりは新しい遺構である。幅約2.1m、深さ約0.35m、検出した長さ約25m。東側へ向かう程浅くなり、[illegible]区の境[illegible]下場線[illegible]確認できない程になるが、西側で観察すると、断面は緩やかなU字状となる。埋土は自然堆積であるが、流水の痕跡は確認できなかった。この遺構か[illegible]らは縄文時代のものと思われる石鏃と弥生土器片を出土している。

SD200（Fig.106）

CM37～CR36グリットにかけて検出された、東から西へと走る遺構で、東側を大規模な近代撹乱坑に、

西側をSD210・220に切られており、西側ではこの続きとなりそうな遺構は確認されていない。幅約0.5m、深さ約0.1m、検出した長さ約17.5m。断面形は逆台形状となる。遺物は弥生土器片、黒曜石片を出土したが、時期の特定に至るものではない。

SD210（Fig.106）

CS39～CR38～CS35グリットにかけて検出された南北方向に走る遺構である。SD351をなぞるように切っており、SD228に切られている。北側、南側は調査区外へと延びており、幅約0.5m、深さ約0.2m、検出した長さ約12.5m。断面形は緩やかなU字状となる。遺物は弥生土器片、陶器片、磁器片、黒曜石片などを出土したが、時期の特定に至るようなものではない。

SD220（Fig.106）

CQ36～CQ38グリットにかけて検出された、北北東から南南西に走る遺構である。SD200を切り、南側は調査区外へと走る。幅約0.6m、深さ約0.15m、検出した長さ約7m。断面形は緩やかなU字状となる。遺物は黒曜石片を出土したが時期の特定に至るものではない。

SD228（Fig.106）

CR35～CS39グリットにかけて検出された南北方向に走る遺構である。当初は北側と南側の一部を検出し、別の遺構としていたが、調査区の拡張に伴い一連の遺構であることが確認されたため、名称をSD228に統一した。それ以前に調査区脇に排水の為の溝を掘削しており、結果、遺構自体に大きなダメージを与えてしまっている。遺構はSD220・240、SX160を切り、北側、南側は調査区外へと延びている。幅約0.5m、深さ約0.2m、検出した長さ約12m。断面形は緩やかなU字状となる。この遺構からは、遺物の出土はなかった。

SD230（Fig.106）

CO36～CP38グリットにかけて検出された、北西から南東に緩やかな弧状に走る遺構である。SD200とこれに平行に存在する小土壙群に切られ、南側は調査区外へと延びている。幅約0.4m、深さ約0.1m、検出した長さ約7m。断面形はレンズ状となる。この遺構からは、遺物の出土はなかった。

SD240（Fig.106・107）

CT39～CW34グリット、CX33グリットからCY32グリットにかけて検出した、北東から南西に走る遺構で、北側をSD228に、南側の一部を土壙により切られている。幅約0.4m、深さ約0.2m、検出した長さは途中で切れる部分もあるが約25m。断面形は緩やかなU字状となる。出土遺物には弥生後期の土器片、土師器片、陶器片があるが、時期の特定に至るものではない。

水さらし土壙群

水さらし土壙群は、調査区の西側にあたる谷地形の落ち込み部分、水の湧き出る青灰色粘土に掘り込まれ、堆土も地山土がわずかに変色している程度であった。このため遺構検出は困難を極め、周辺より

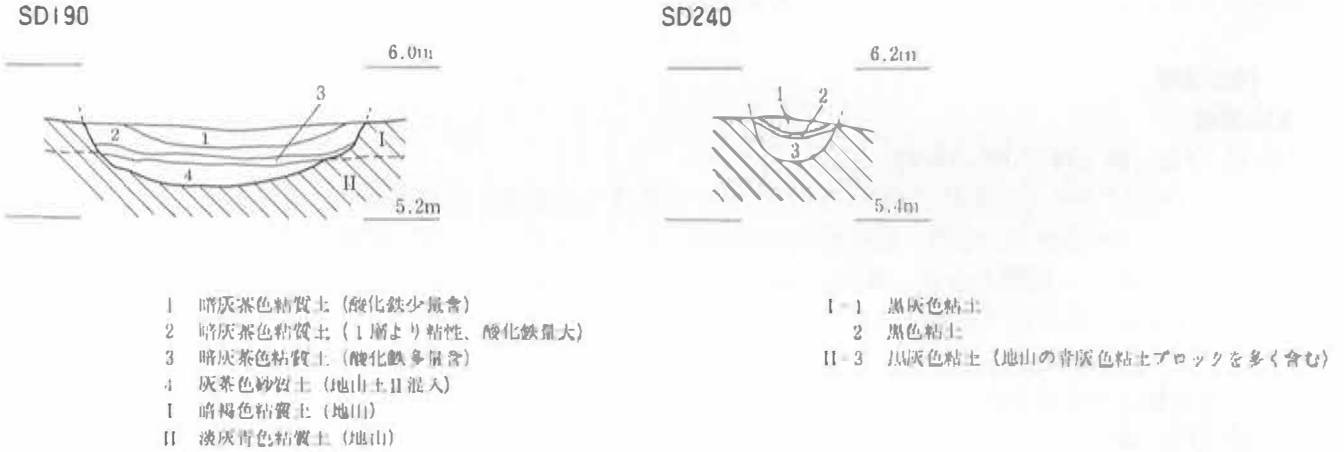


Fig.107　SD190・240土層断面図（S＝1/40）

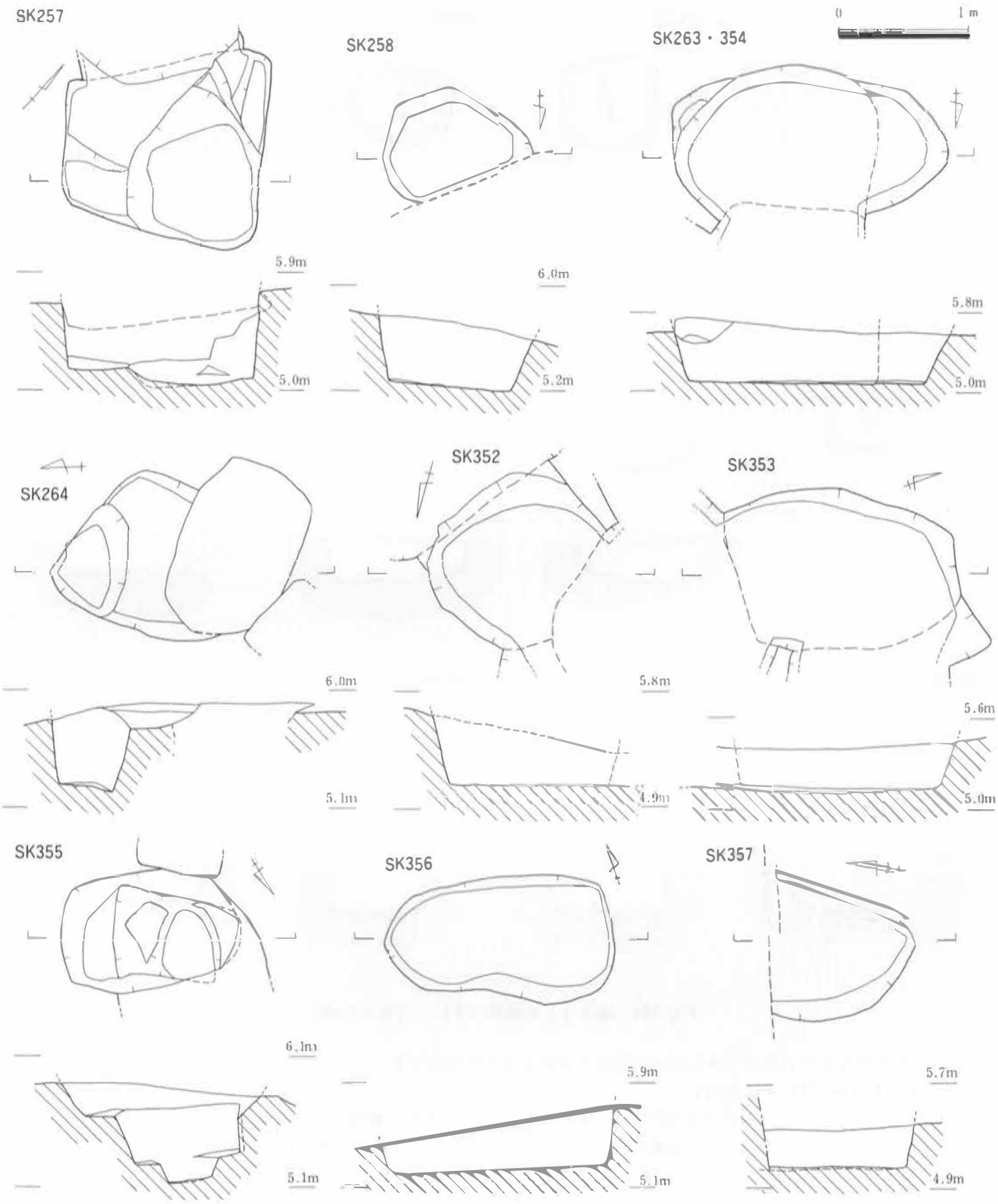


Fig.108　水さらし土壙群（1）　（S＝1/40）

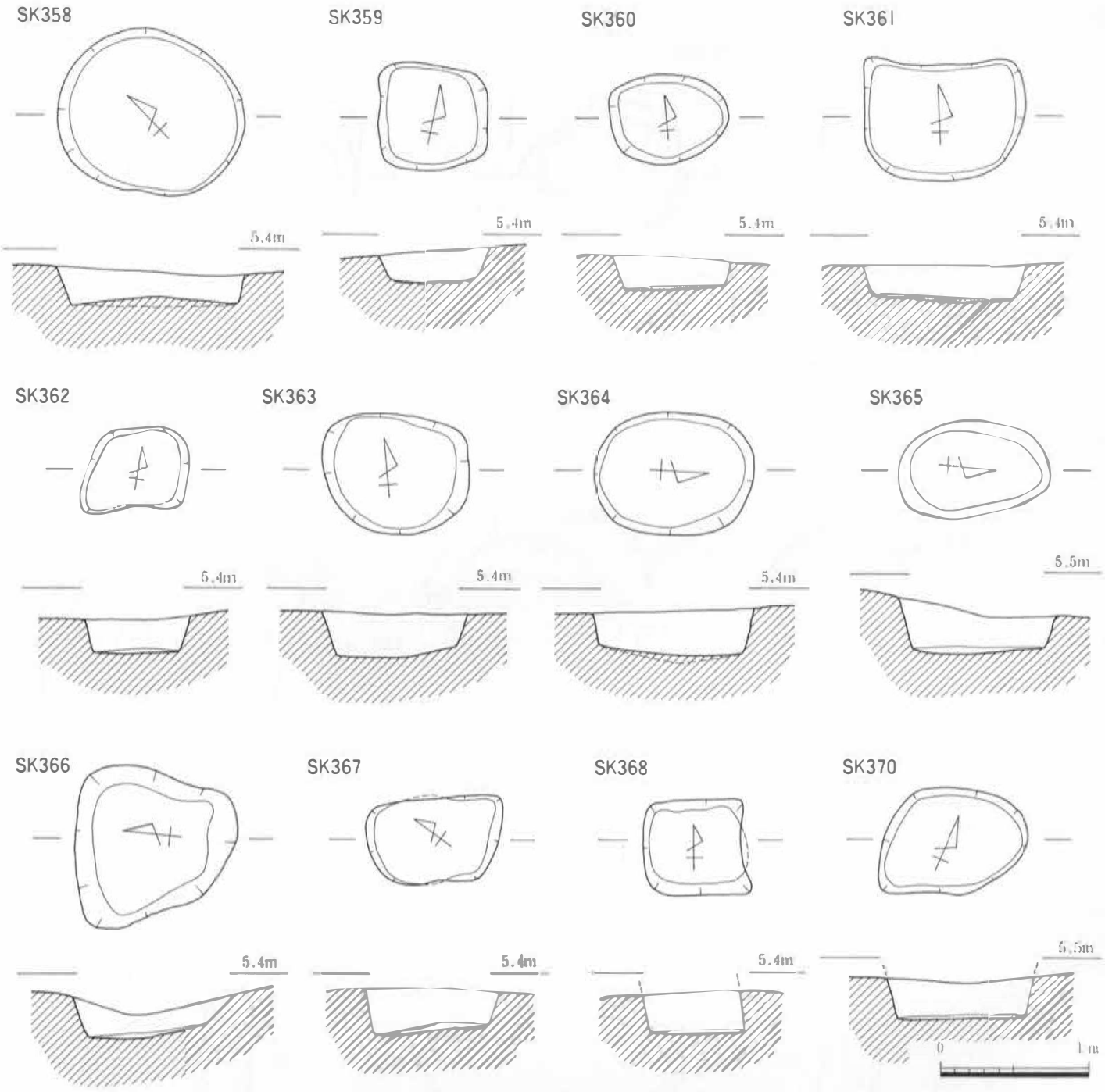


Fig.109　水さらし土壙群（2）　（S＝1/40）

も粘土が柔らかい部分を捜し出して作業を進めるような状況であった。

SK257（Fig.108、PL.22-1）

CU38グリットから検出された隅丸台形の平面プランを有する土壙で、グリットから北西側をSK352に切られている。長軸約1.5m、短軸0.9～1.5m、床面は最も下がる部分で深さ約0.65m。主軸の傾きはN-50°-E。壁面はほぼ垂直に立っている。この遺構からは弥生土器が出土している。

SK258（Fig.108）

CU39グリットから検出された土壙で、上部北側が調査区外に走るが、ほぼ楕円形の平面プランを有す

ると思われる土壙である。調査時点での法量は長軸約1.15m、短軸約0.8m、深さ約0.5m。東西方向に主軸を持ち、断面形は逆台形状となる。この遺構からは弥生土器が出土している。

SK263（Fig.108）

CU38グリットから検出された楕円形の平面プランを有すると思われる土壙で、西側のSK354を切り、北側のSK353に切られている。検出時点の状況を含めての法量は長軸約1.5m、短軸約1.1m、深さ約0.5m。東西方向に主軸を持ち、断面形は逆台形状となる。この遺構からは弥生土器が出土している。

SK264（Fig.108）

CU37グリットから検出された不定型の平面プランを有する土壙で、南側のSK355を切る。長軸約7m、短軸約1.2m。床面は南側はSK355に破壊され不明だが、中央部分は浅く深さ約0.2m、北側は落ち込んでおり深さ約0.6mを測る。主軸は南北方向に持つ。この遺構からは弥生土器が出土している。

SK352（Fig.108）

CU38グリットから検出された土壙で、北側をSK353に、南側をSK257ら切られている。残存部分での長軸約1.15m、短軸約1.2m、深さ約0.5m。主軸の傾きはN-75°-E。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK353（Fig.108）

CU38グリットから検出された不定型の平面プランを有する土壙で、東側のSK352、南側のSK263を切っている。長軸約1.7m、短軸約1.2m、深さ約0.3m。主軸の傾きはN-20°-E。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK355（Fig.108）

CU37グリットから検出された楕円形の平面プランを有する土壙で、北側のSK264に切られている。長軸約1.4m、短軸約0.8m、深さ約0.7m。主軸の傾きはN-58°-W。断面形は逆凸字状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK356（Fig.108）

CU38～39グリットから検出された楕円形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.8m、短軸約1.0m、深さ約0.4m。主軸の傾きはN-71°-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK357（Fig.108）

CV38グリットから検出された土壙で、北側は調査区外へと延びている。調査部分での長軸約1.1m。短軸約1.1m、深さ約0.3m。主軸の傾きはN-12°-W。断面形は逆台形状になると思われる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK358（Fig.109）

CZ36～DA36グリットにかけて検出された円形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.3m。短軸約1.1m、深さ約0.25m。主軸の傾きはN-47°5′-W。断面形は上方に開く逆M字状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK359（Fig.109）

CZ36～CZ37グリットにかけて検出された隅丸方形の平面プランを有する土壙である。長軸約0.7m、短軸約0.6m、深さ約0.2m。主軸の傾きはN-77°-E。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK360（Fig.109）

CZ36グリットから検出された楕円形の平面プランを有する土壙である。長軸約0.8m、短軸約0.6m、深さ約0.2m。主軸の傾きはN-86°-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK361（Fig.109）

CX36～CY37グリットにかけて検出された不定型の平面プランを有する土壙である。長軸約1.1m、短軸約0.8m、深さ約0.25m。東西方向に主軸を持ち、断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

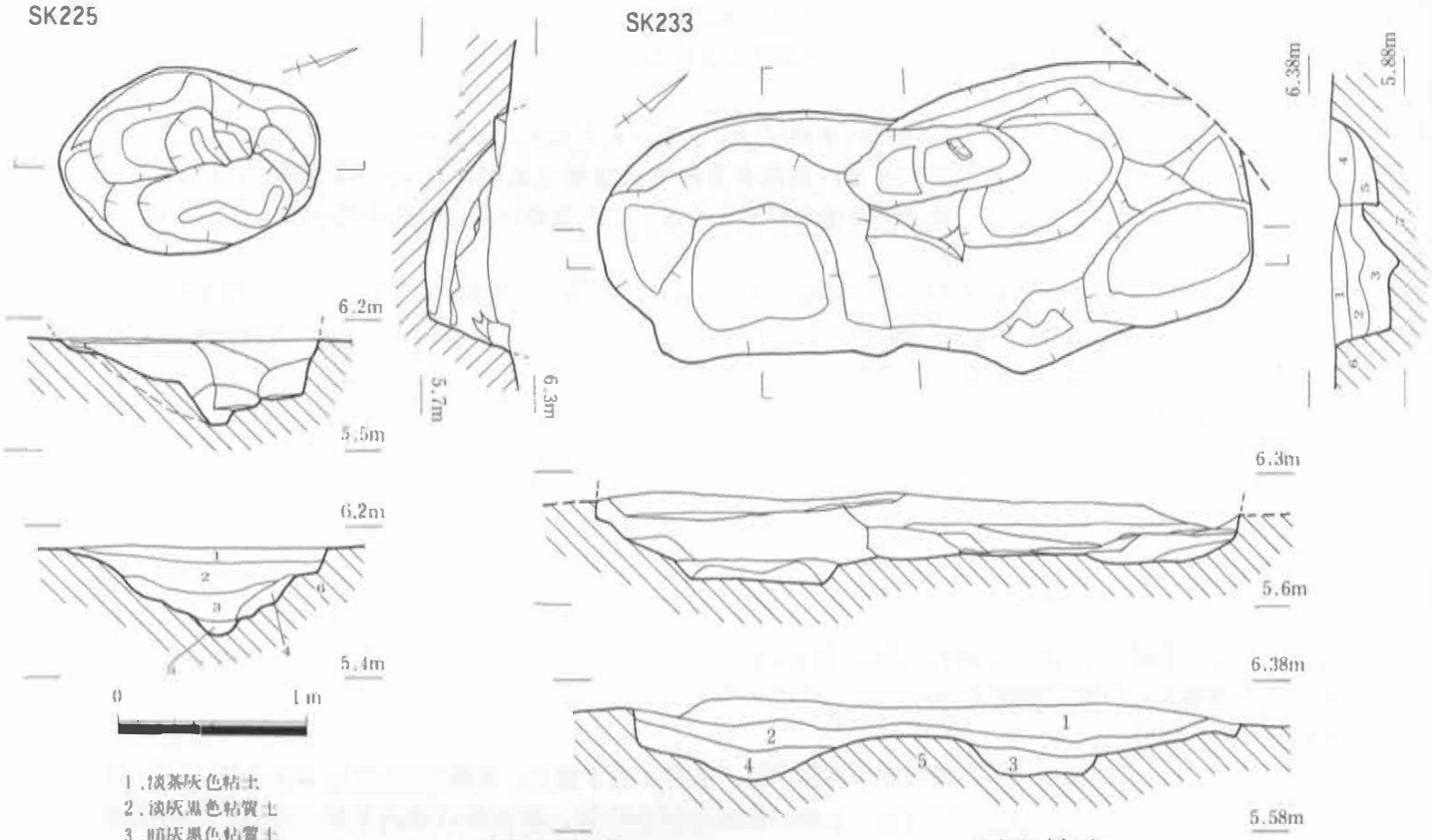


Fig.110 SK225・233（S＝1/40）

SK362（Fig.109）

CX36～CY36グリットにかけて検出された不定型の平面プランを有する土壙である。長軸約0.7m、短軸約0.5m、深さ約0.2m。主軸の傾きはN-79°-E。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK363（Fig.109）

CW36～CX36グリットにかけて検出された楕円形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.0m、短軸約0.8m、深さ約0.3m。主軸の傾きはN-84°-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK364（Fig.109）

CX35～CX36グリットにかけて検出された楕円形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.0m。短軸約0.8m、深さ約0.3m。主軸の傾きはN-4°-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK365（Fig.109）

CY34～CY35グリットにかけて検出された楕円形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.0m。短軸約0.6m、深さ約0.4m。主軸の傾きはN-5°5′-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺

物はなかった。

SK366 (Fig.109)

CY35グリットから検出された不定型の平面プランを有する土壙である。長軸約1.1m、短軸約1.1m、深さ約0.3m。主軸の傾きはN-6°-W。断面形は上方に大きく開く逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK367 (Fig.109)

CY34グリットから検出された隅丸長方形の平面プランを有する土壙である。長軸約0.9m、短軸約0.6m、深さ約0.3m。主軸の傾きはN-37°-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK368 (Fig.109)

CY34グリットから検出された隅丸方形の平面プランを有する土壙である。一片約0.65m、深さ約0.3m。東西方向に主軸を持ち、断面形は平行四辺形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK370 (Fig.109)

CW35グリットから検出された不定型の平面プランを有する土壙である。長軸約1.0m、短軸約0.7m、深さ約0.3m。主軸の傾きはN-67°-E。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

その他の土壙

SK225 (Fig.110)

CO40グリットから検出された楕円形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.4m。短軸約1.0m、深さ約0.6m。主軸の傾きはN-18°-E。断面形はほぼ擂鉢状となるが、床面は小さな段差が多い。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK233 (Fig.110、PL.21-2)

CJ37～CK38グリットにかけて検出された不定型の平面プランを有する土壙である。北側の一部をSD190に切られているが、長軸約3.5m、短軸約1.6m、深さ約0.45m。主軸の傾きはN-36°-Eを測る。断面形は長軸、短軸ともに擂鉢上となる。当初は廃棄土壙として調査を進めたが、北側と南側に分割できそうな感触もあり、性格を明確にはできなかった。この遺構からは石鏃が1点出土している。

周溝状遺構

SX155 (Fig.111、PL.23-1)

CJ37を中心に検出された遺構で、西側をSK233により大きく破壊されている。現状で長軸約3.1m。深さは北側で0.05m、南側で0.2m。主軸の傾きはN-29°-Eを測る。この遺構からの出土遺物はなかった。

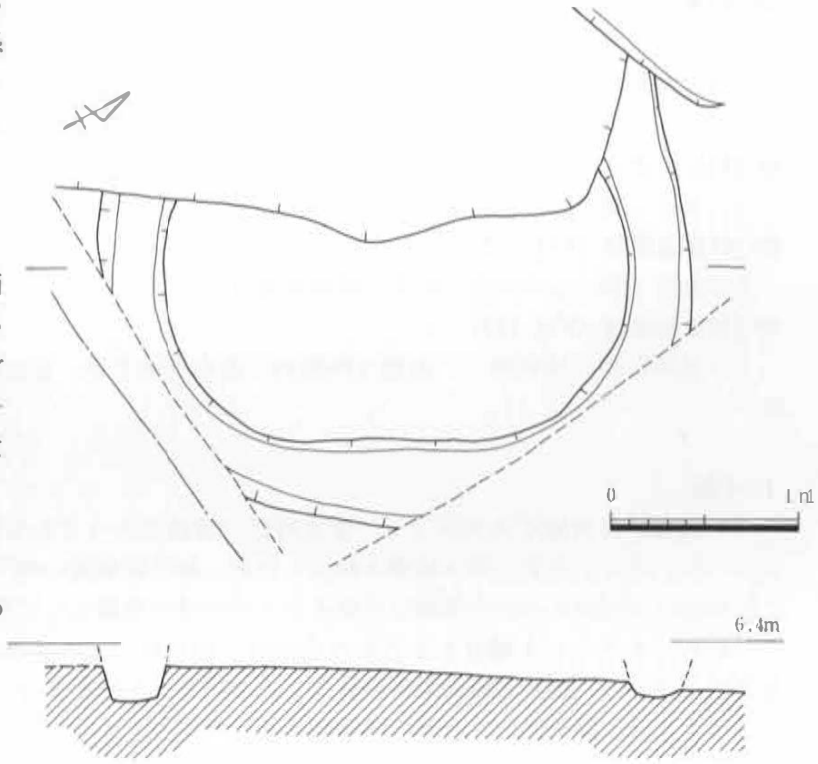


Fig.111　SX155 (S＝1/40)

3.出土遺物

この調査区は削平を受けているためか出土遺物は少ない。

SD190出土遺物 (Fig.112)

1はサヌカイト製の長脚鏃である。脚部が若干鋤型となる。縄文時代のものか。

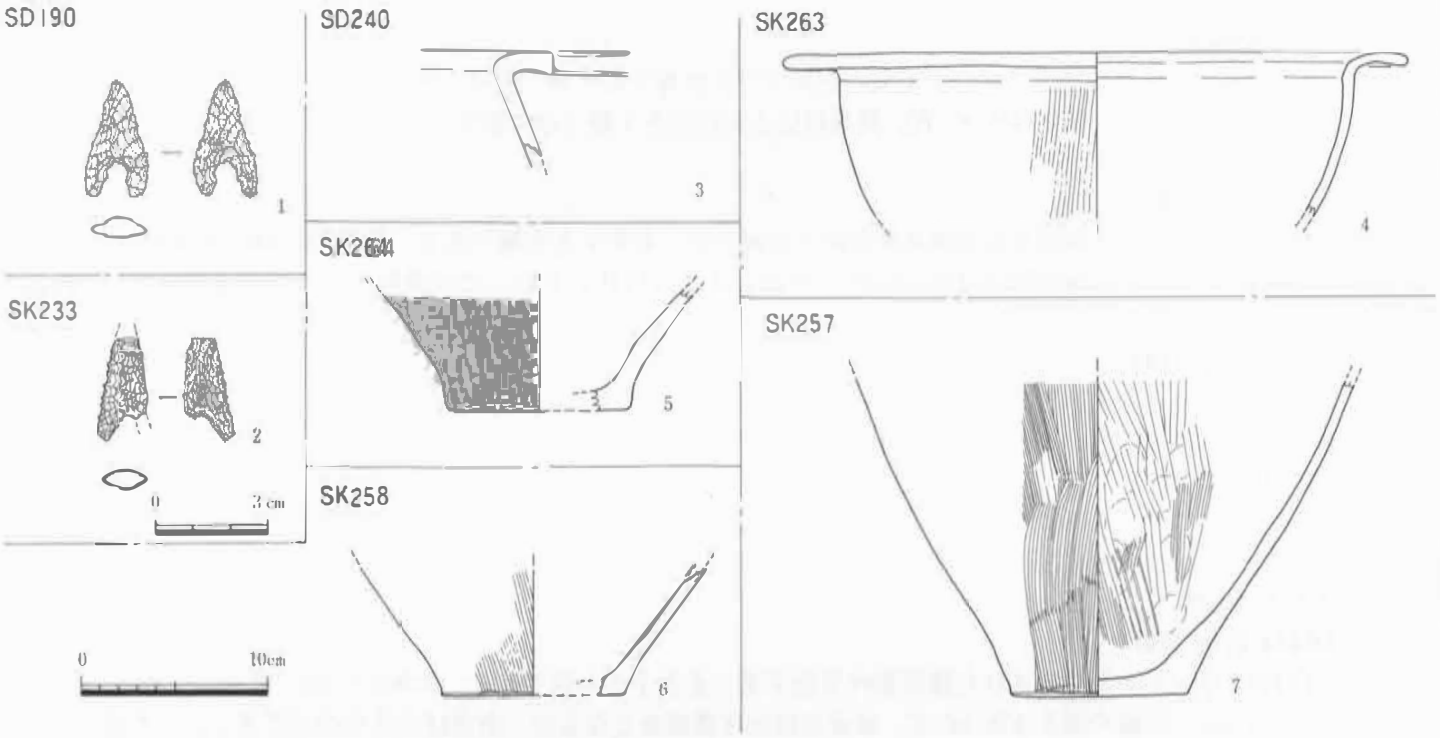


Fig.112　766-767工区　出土遺物（S＝1/2・1/4）

SD240出土遺物（Fig.112）

3は弥生土器の口縁部小片である。中期頃のものか。

SK257出土遺物（Fig.112・P.L.23-2）

7は弥生土器の甕の底部である。弥生後期。

SK258出土遺物（Fig.112）

6は弥生土器の甕の底部である。弥生後期。

SK263出土遺物（Fig.112）

4は弥生土器の鉢の口縁部である。弥生後期か。

SK264出土遺物（Fig.112）

5は弥生土器の壺の底部である。外面丹塗り。

SK233出土遺物（Fig.112）

2は黒曜石製の鋸歯鏃で、先端と脚部の一方を欠損する。石は佐世保周辺のものか。縄文後期～晩期か。

4．小結

この調査区は遺物が大変少なく、弥生時代の遺構であっても東側調査のH地区との関係は明確に出来なかった。また、多数の溝状遺構を検出したが、圃場整備前の地形と一致するようなものは何一つなく、これらがいつ頃のものかを明確にさせることが今後の課題として残されている。

本報告で水さらし土壙群とまとめた遺構は、湧水量の多い部分を選んで掘り込まれているが堅果類などの出土はなく、調査主管者も可能性として挙げているにすぎない。

このように本調査区は、今後への課題を多く残すこととなった。

第6節　767-769工区の調査

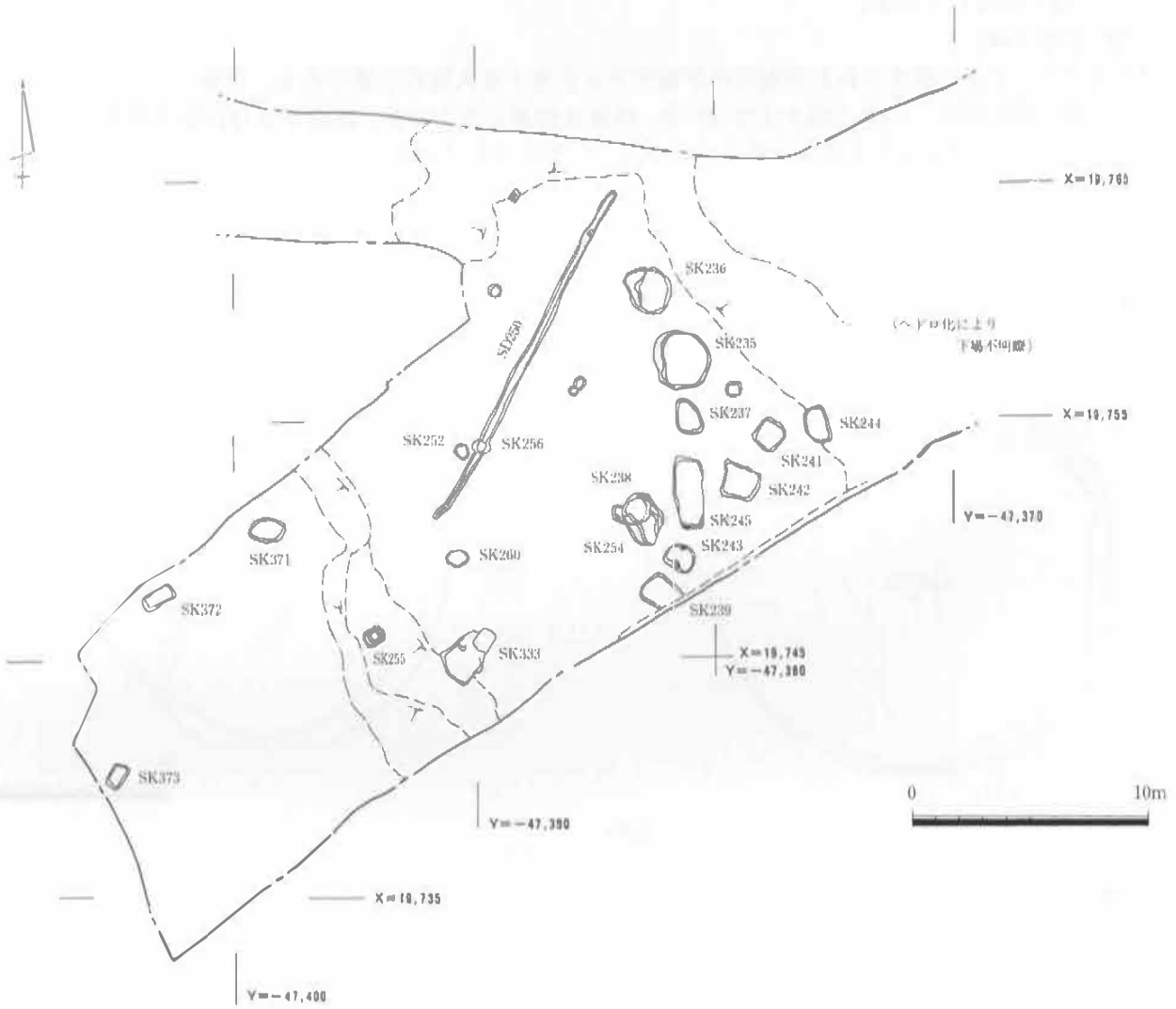


Fig.113　767-769工区　全体図　（S＝1/300）

1.概要

767-769工区は、筑後市大字津島字大曽里に所在する。調査面積は約520㎡である。調査の結果、南から舌状に延びる台地上で溝状遺構1条、土壙20基、ピット4基を、西側の砂礫層から土壙3基を確認した。調査は10月16日に開始し、12月24日にこれを終了した。

2.検出遺構

溝状遺構

SD250（Fig.113）

DE36～DH31グリットにかけて検出された、北から南に走る遺構で、SX256を切る。幅約0.4m、深さ約0.2m、全長約15.5m。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

土壙

SK235（Fig.114）

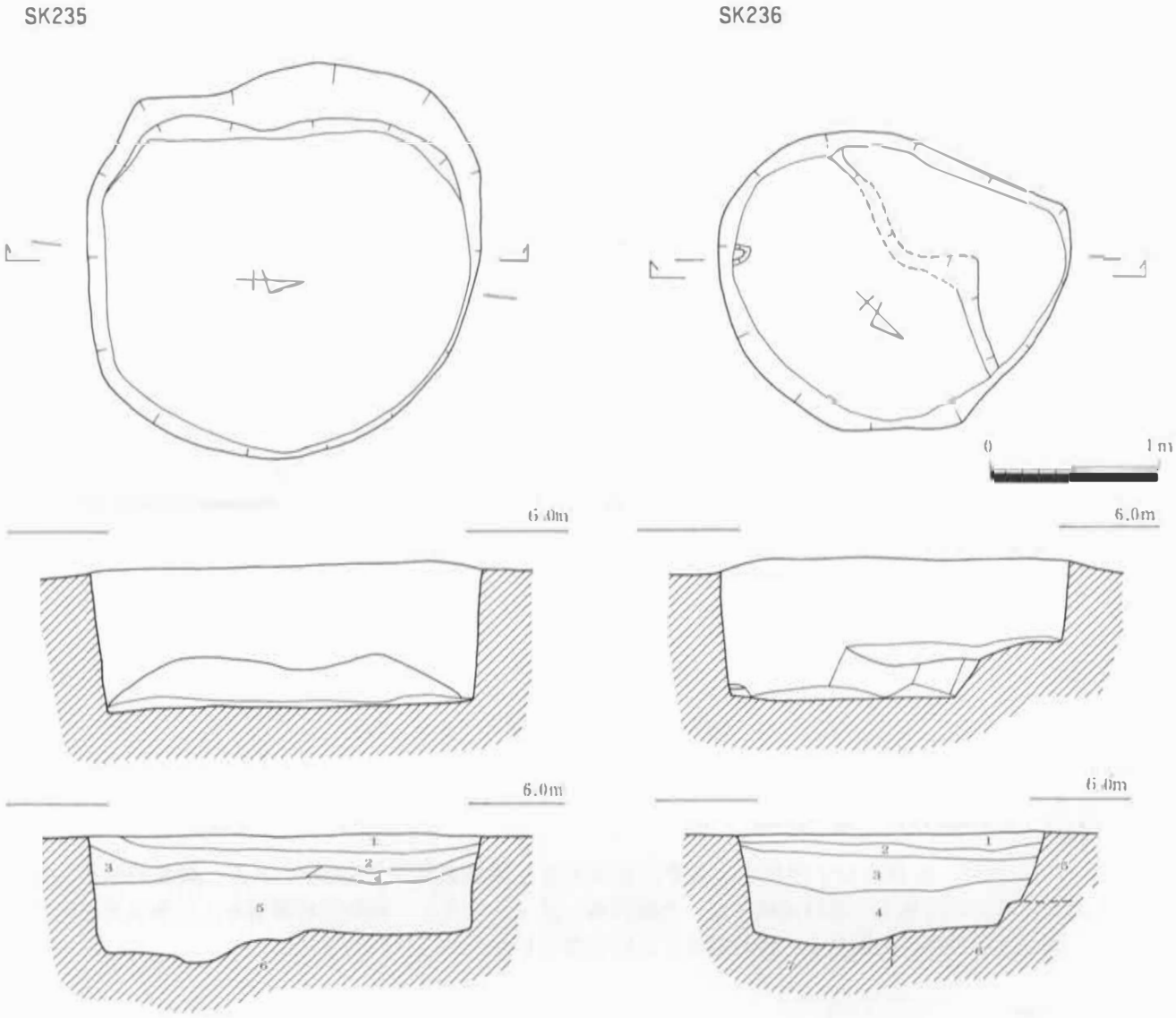
DD33～DE33グリットにかけて検出された、不定型の平面プランを有する大型の土壙である。長軸約2.3m、短軸2.3m、深さ約0.85m。主軸の傾きはN-2°5′-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からは弥生土器が出土している。

SK236 (Fig.114)

DE34グリットから検出された不定型の平面プランを有する大型の土壙である。長軸約2.1m、短軸約1.8m、深さ約0.85m。主軸の傾きはN-45°-E。床面に段差を有するが、断面形はほぼ逆台形状となる。この遺構からはⅠ層よりサヌカイト製のスクレイパーが出土している。

SK237 (Fig.115)

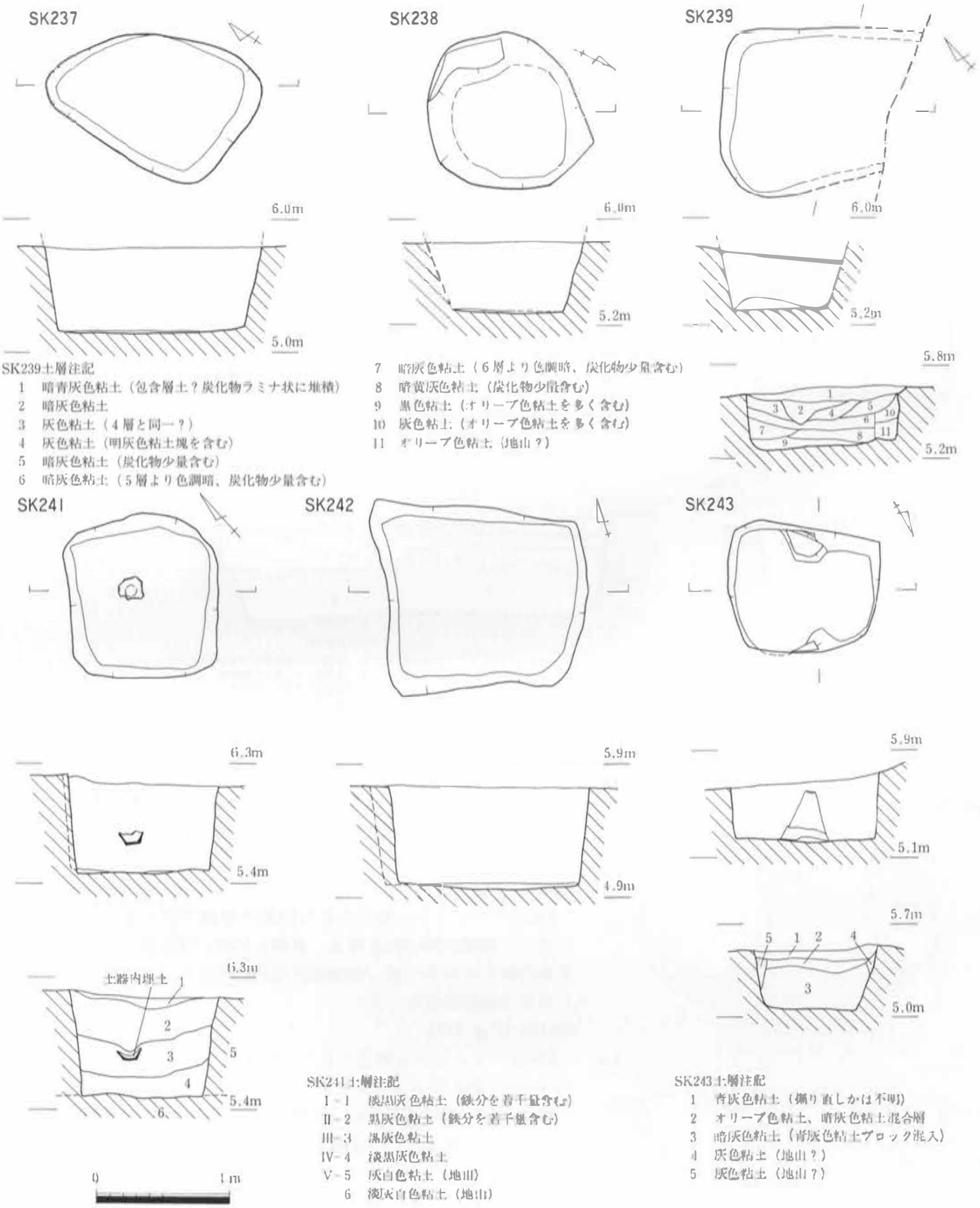
DD32～DD33グリットから検出された不定型の平面プランを有する土壙である。長軸約1.6m、短軸約



Ⅰ-1　暗灰白色粘土（着干の鉄分を含む）
　2　暗灰白色粘土（Ⅰ層より色調淡い）
Ⅱ-3　淡黒灰色粘土
　4　暗灰白色粘土
Ⅲ-5　淡黒灰色粘土（3層より色調暗い、地山小ブロック混）
　6　灰白色粘土（地山）

Ⅰ-1　暗灰色粘土（着干の鉄分を含む）
　2　黒灰色粘土
Ⅱ-3　暗灰白色粘土（7の小ブロックを少量含む）
　4　淡黒灰色粘土（7の小ブロックを少量含む）
Ⅲ-5　淡灰白色粘土（地山）
　6　淡灰色粘土（鉄分多い、地山）
　7　灰白色粘土（地山）

Fig.114　SK235・236　(S＝1/40)



SK239土層注記

1 暗青灰色粘土（包含層土？炭化物ラミナ状に堆積）
2 暗灰色粘土
3 灰色粘土（4層と同一？）
4 灰色粘土（明灰色粘土塊を含む）
5 暗灰色粘土（炭化物少量含む）
6 暗灰色粘土（5層より色調暗、炭化物少量含む）
7 暗灰色粘土（6層より色調暗、炭化物少量含む）
8 暗黄灰色粘土（炭化物少量含む）
9 黒色粘土（オリーブ色粘土を多く含む）
10 灰色粘土（オリーブ色粘土を多く含む）
11 オリーブ色粘土（地山？）

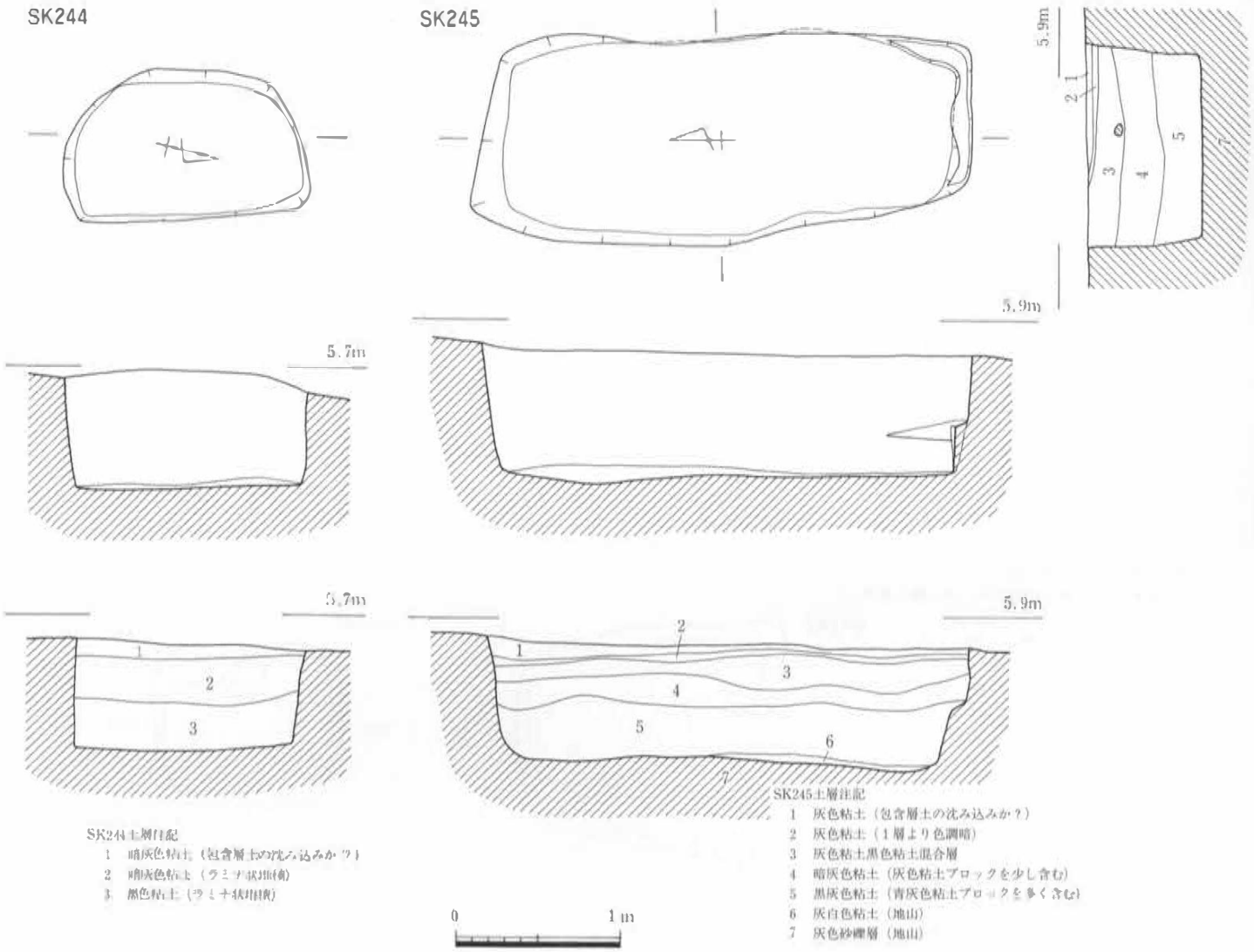
SK241土層注記

I－1 淡黒灰色粘土（鉄分を若干量含む）
II－2 黒灰色粘土（鉄分を若干量含む）
III－3 暗灰色粘土
IV－4 淡黒灰色粘土
V－5 灰白色粘土（地山）
6 淡灰白色粘土（地山）

SK243土層注記

1 青灰色粘土（掘り直しかは不明）
2 オリーブ色粘土、暗灰色粘土混合層
3 暗灰色粘土（青灰色粘土ブロック混入）
4 灰色粘土（地山？）
5 灰色粘土（地山？）

Fig.115 SK237・238・239・241・242・243 （S＝1/40）



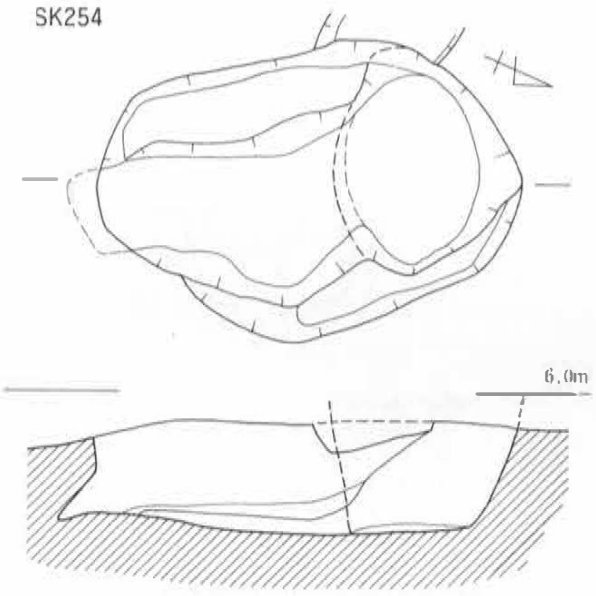


Fig.116 SK244・245・254 （S＝1/40）

1.1m、深さ約0.65m。主軸の傾きはN-34°5′-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からは弥生土器の鉢が出土している。

SK238（Fig.115）

DE31グリットから検出された円形の平面プランを有する土壙で、南側のSK254を切る。直径1.15m、深さ約0.55m。主軸の傾きはN-27°-W。断面形は逆台形となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK239（Fig.115）

DE30グリットから検出された、隅丸長方形の平面プランを有すると思われる土壙である。調査時点での長軸約1.25m、短軸約1.3m、深さ約0.4m。主軸の傾きはN-45°-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からは弥生土器の器台が出土している。

SK241（Fig.115、PL.24-2）

DC32グリットから検出された、隅丸方形の平面プランを有する土壙である。主軸の幅約1.1m、深さ約0.8m。主軸の

傾きはN-47°5′-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からは、III層の埋土中に弥生後期の甕の底部が据えられた形で出土した。手違いから内容物を掘り出してしまい詳しいことは不明であるが、土器内には植物遺体が見られ、土層観察の結果、土器に施された植物性の蓋が腐ったため、上部の埋土が陥没したと思われる痕跡が見られた。これらのことから、調査主管者はこれを、土壙の廃絶時に行なわれた祭祀に利用された遺物と見ている。この他には弥生土器の甕が出土している。

SK242（Fig.115）

DC31～DD32グリットから検出された隅丸方形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.5m、短軸約1.4m、深さ約0.8m。主軸の傾きはN-72°-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からは弥生土器の鉢が出土している。

SK243（Fig.115）

DD30～DE31グリットから検出された楕円形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.25m、短軸約1.0m、深さ約0.5m。断面形は逆台形状となるが、土層観察からは袋状土壙となる可能性もある。この遺構からの遺物の出土はなかった。

SK244（Fig.116）

DB32～DC33グリットから検出された楕円形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.5m、短軸約0.9m、深さ約0.7m。主軸の傾きはN-13°-W。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK245（Fig.116）

DD31～DD32グリットから検出された、隅丸長方形の平面プランを有する大型土壙である。長軸約2.9m、短軸約1.25m、深さ約0.8m。主軸の傾きはN-1°-W。断面形はほぼ逆台形状となる。この遺構からの遺物の出土はなかった。

SK254（Fig.116）

DE31グリットから検出された不定型の平面プランを有する土壙で、北側をSK238に切られている。調査時点での長軸約1.2m、短軸約1.5m、深さ約0.6m。主軸の傾きはN-21°5′-W。断面形は短軸部分はほぼ逆台形状、長軸側では南壁が大きく抉れている。この遺構からは弥生土器が出土している。

植物遺体出土土壙

この調査区では西側の段落ち際で植物遺体を人為的に敷き詰められたと考えられる土壙が2基確認された。どのような植物が何のために敷き詰められたのかは不明である。

SK255（Fig.117、PL.25）

DH29～DI30グリットにかけて検出された隅丸長方形の平面プランを有する土壙である。長軸約0.8m、短軸約0.6m、深さ約0.25m。主軸の傾きはN-52°-E。断面形は逆台形状となる。この遺構からは目の大きな編み物状の植物遺体が確認され、その下からさらに2面の植物遺体層を確認した。これらは人為的に敷き詰められたものと考えているが、埋土である粘土と密着しており、全体像を確認するには至らなかった。この遺構からは他の遺物は確認されなかった。

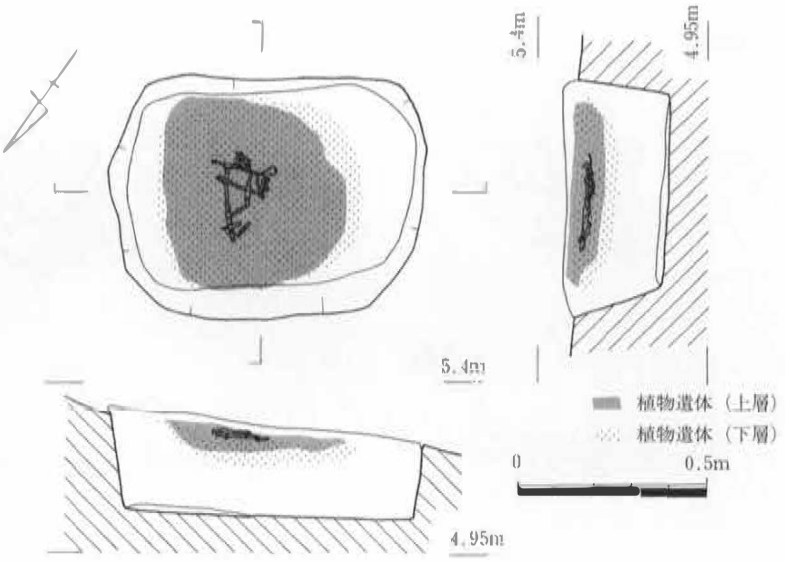


Fig.117　SK255　（S＝1/20）

SK333

DG29～30グリットにかけて検出された隅丸長方形の平面プランを有する土壙である。この遺構からは交互に敷き詰めら

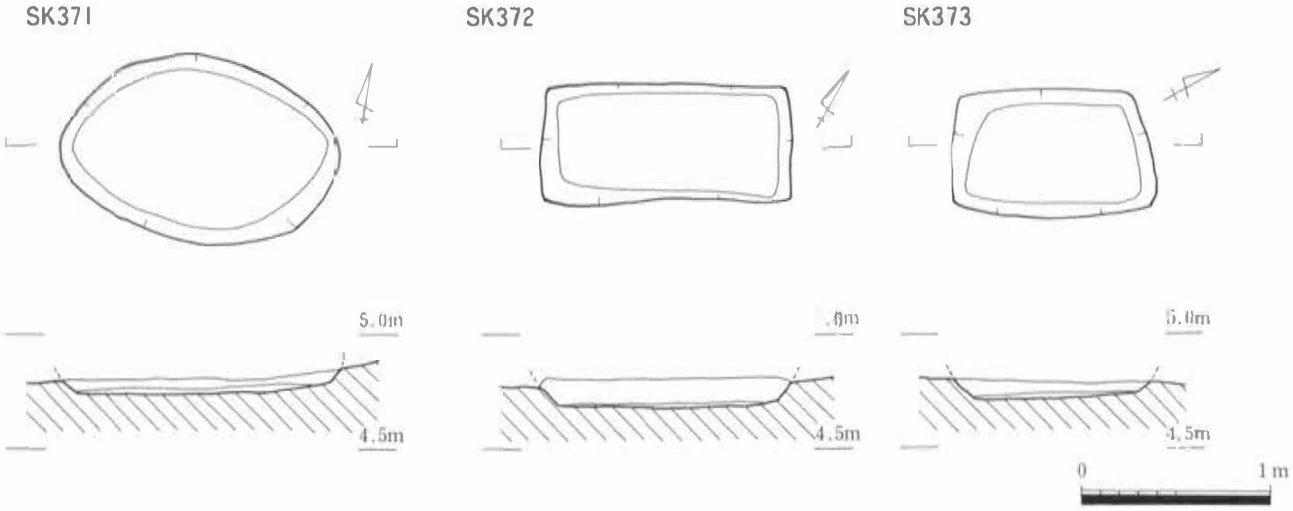


Fig.118　水さらし土壙群　（S＝1/40）

れた植物遺体を出土したが、SK255と同様の理由によりその全体図は不明である。この遺構からは他の遺物は確認されなかった。

水さらし土壙群（Fig.118）

本調査区の西側は浅い谷地形であり、地山は湧水砂礫層である。東側の谷地形の地山が水の染み出る灰色粘土層であるのとは対照的である。ここからは土壙が3基ほど確認された。調査主管者はこれらを76767工区の西側で確認された土壙群と同様、水さらしの為の遺構と考えている。しかし、台地の東側に当たる灰色粘土の地山部分ではこのような遺構は確認されなかった。

SK731（Fig.118）

DJ31グリットから確認された楕円形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.5m、短軸約1.0m、深さ約0.1m。主軸の傾きはN-10°-E。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK372（Fig.118）

DK30～DL30グリットにかけて検出された長方形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.3m、短

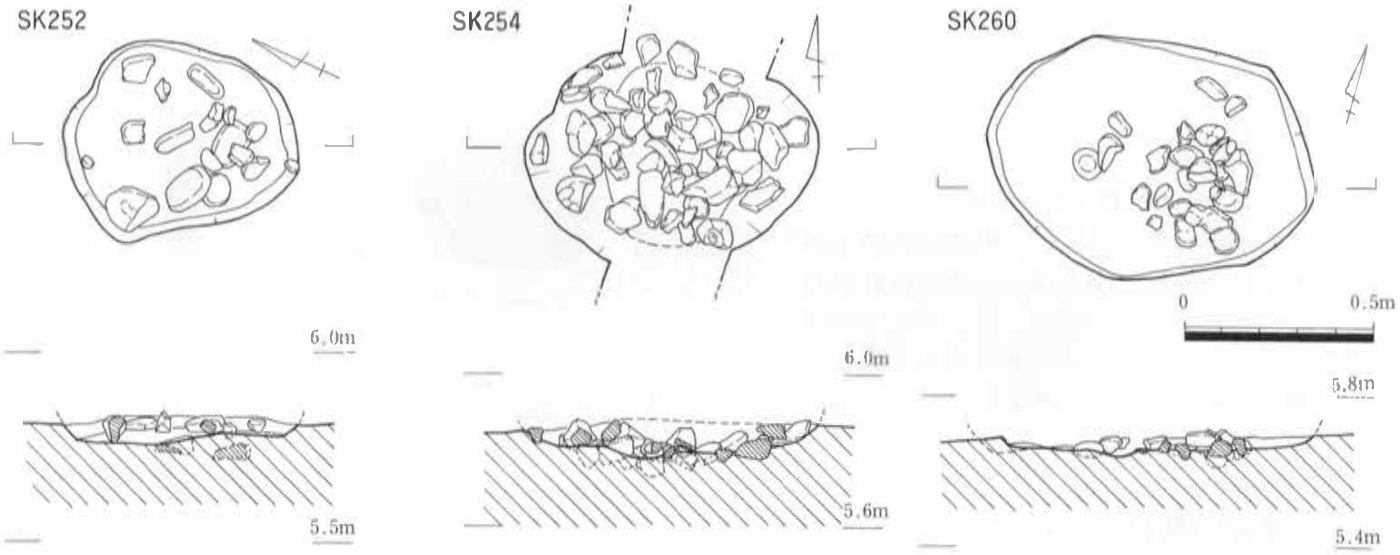


Fig.119　集石遺構　（S＝1/20）

軸約0.6m、深さ約0.15m。主軸の傾きはN-30°-E。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK373（Fig.118）

DL27～DL28グリットにかけて検出された台形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.1m、短軸約0.7m、深さ約0.1m。主軸の傾きはN-61°-E。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

集石遺構

この調査区からは石組み炉と思われる集石遺構が3基確認された。埋土は周囲の地山土がわずかに変色している程度で検出しにくい状況であった。

SK252（Fig.119、PL.26-1）

DG32グリットから検出された、不定型の平面プランを有する石組炉である。長軸約0.6m、短軸約0.5m、深さ約0.05m。主軸の傾きはN-66°5′-W。断面形は変型した逆台形状となる。石材は周辺河川に多く見られる安山岩が主で、火を受けたことにより赤色化したものが見られた。この遺構からは弥生土器が出土している。

SK256（Fig.119）

DG32グリットから検出された、楕円形の平面プランを有する石組炉で、中央部をSD250に切られている。長軸約0.75m、短軸約0.55m、深さ約0.1m。主軸の傾きはN-3°-W。断面形は皿状となる。石材は周辺河川に多く見られる安山岩が主で、火を受けたことにより赤色化したものが見られた。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK260（Fig.119、PL.26-2）

DG31～DH31グリットにかけて検出された楕円形の平面プランを有する石組炉である。長軸約0.9m、短軸約0.65m、深さ約0.05m以下。主軸の傾きはN-15°-E。断面形は皿状となる。石材は周辺河川に多く見られる安山岩が主で、火を受けたことにより赤色化したものが見られた。この遺構からの出土遺物はなかった。

3．出土遺物

SK235出土遺物（Fig.120、PL.27-1）

6は弥生土器の甕の底部である。弥生後期。

SK236Ⅰ層出土遺物（Fig.120）

13はサヌカイト製のスクレイパーである。時期不明。

SK237出土遺物（Fig.120）

2は弥生土器の甕の口縁部である。弥生後期。

SK239出土遺物（Fig.120）

12は弥生土器の器台、もしくは高坏の脚部で、時期の特定はできない。

SK241出土遺物（Fig.120）

4は弥生土器の鉢の口縁部である。弥生中期。5は弥生土器の甕の底部であり、遺構内に埋設されていたものである。上部を人為的に打ち欠いたか否かは不明。弥生後期。

SK242出土遺物（Fig.120）

1は弥生土器の鉢の口縁部である。弥生中期。

SK252出土遺物（Fig.120）

7は弥生土器の壺の口縁部小片である。弥生後期のものか。8は弥生土器の小型の甕の口縁部である弥生中期。9は弥生土器の壺の肩部破片である。時期不明。10は古式土師器の甕の胴部破片である。11は高坏の脚部破片である。弥生後期か。

SK254出土遺物（Fig.120）

3は弥生土器の壺の胴部破片である。弥生後期か。

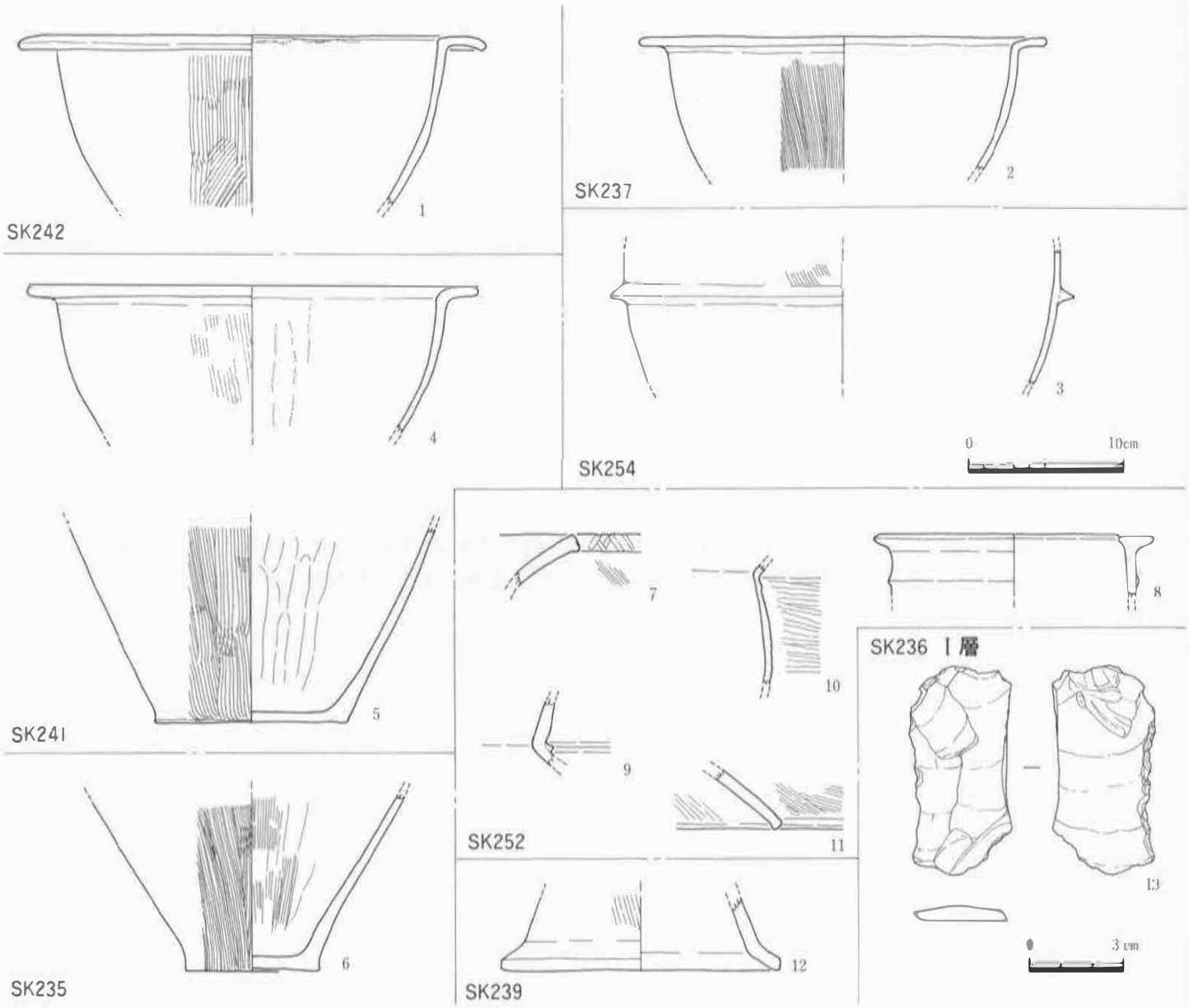


Fig.120　767-769工区　出土遺物　（S＝1/4・1/2）

4.小結

この調査区からは大型の土壙群を検出したが、遺物量も少なくその性格は不明確である。しかしながらその中のSK241において廃絶時の祭祀と思われる痕跡が見られたことから、当時の生活において重要な施設であった可能性も残されている。調査主管者は湧水量の多さなども考慮して、作業用の「野井戸」の可能性を指摘している。

植物遺体を出土した2基の土壙についてだが、出土状況など明確に出来なかった部分も多く、結論が出ない。植物資料はバインダー処理の後、筑後市教育委員会にて保存されている。

今回検出された石組炉は、筑後市内では最も低い標高で検出されたものである。調査主管者は周辺事例と合わせて縄文時代早期のものと見ているが、周囲での縄文早期遺物の出土がなく、断定するには至っていない。

本調査は問題点を多く残したが、低湿地遺跡の理解について一つの方向を得た貴重なものでもあった。

第7節　770-772工区の調査

1．概要

770-772工区は、筑後市大字津島字大曽里に所在する。調査面積は約295m²である。調査の結果、調査区の北側で土壙3基、溝状遺構1条、ピット数基を確認した。この内溝状遺構は766-767工区のSD240と同一のものである。調査は12月6日に始められ、12月26日にこれを終了した。

2．検出遺構

土壙

SK262（Fig.122）

CX33グリットから検出された楕円形の平面プランを有する土壙で、北側の一部をピットに切られている。長軸約1.5m、短軸約1.1m、深さ約0.6m。主軸の傾きはN-8°-E。断面形は西側にテラスを有しているが、上方にわずかに開いている。この遺構からは弥生土器が出土している。

SK374（Fig.122）

CX33グリットから検出された楕円型の平面プランを有する土壙で、検出時点ではSD240を切っている。図上での長軸約0.9m、短軸約0.75m、深さ約0.5m。主軸の傾きはN-38°-W。断面形は南から西側へかけてテラスを有するものの上方にわずかに開いている。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK735（Fig.122）

CY32グリットから検出された不定型の平面プランを有する土壙である。長軸約0.8m、短軸約0.8m、深さ約0.4m。主軸の傾きはN-52°-W。断面形は南東側に袋状に広がり、北西側にテラスを有するものの両壁ともこの方向に向かって開いている。この遺構からの出土遺物はなかった。

3．出土遺物

SK262出土遺物（Fig.123、PL.27-2）

弥生土器の甕の底部である。底部外面に横方向のケズリが見られる。弥生前期か。

4．小結

本調査区では北側にのみ遺構を確認した。これらの遺構は本来ならば766-767工区の遺構群と同じグループのものであろう。しかしながら、766-767工区の西側に展開している「水さらし遺構」とは性格は異なるものである。この遺構群の中で時期を特定し得るのはSK262のみであり、他は明確にしえないものである。

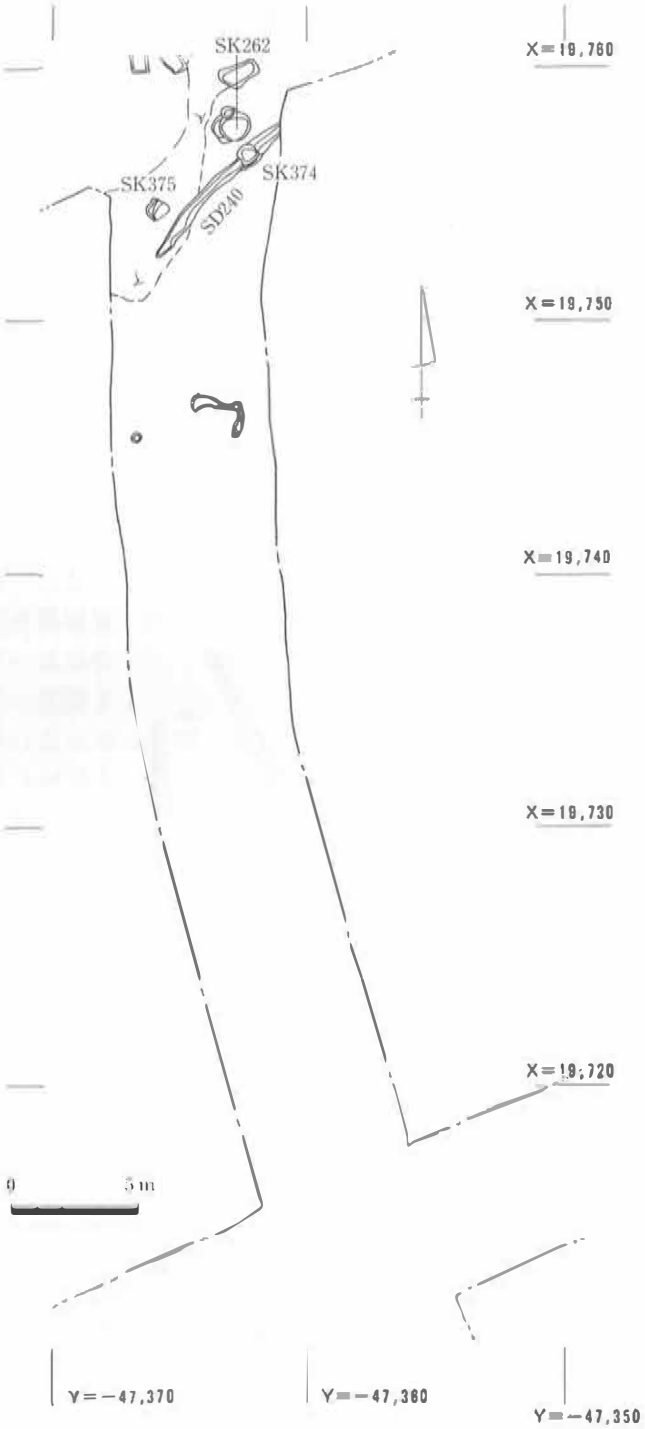


Fig.121　770-772工区　全体図　（S＝1/300）

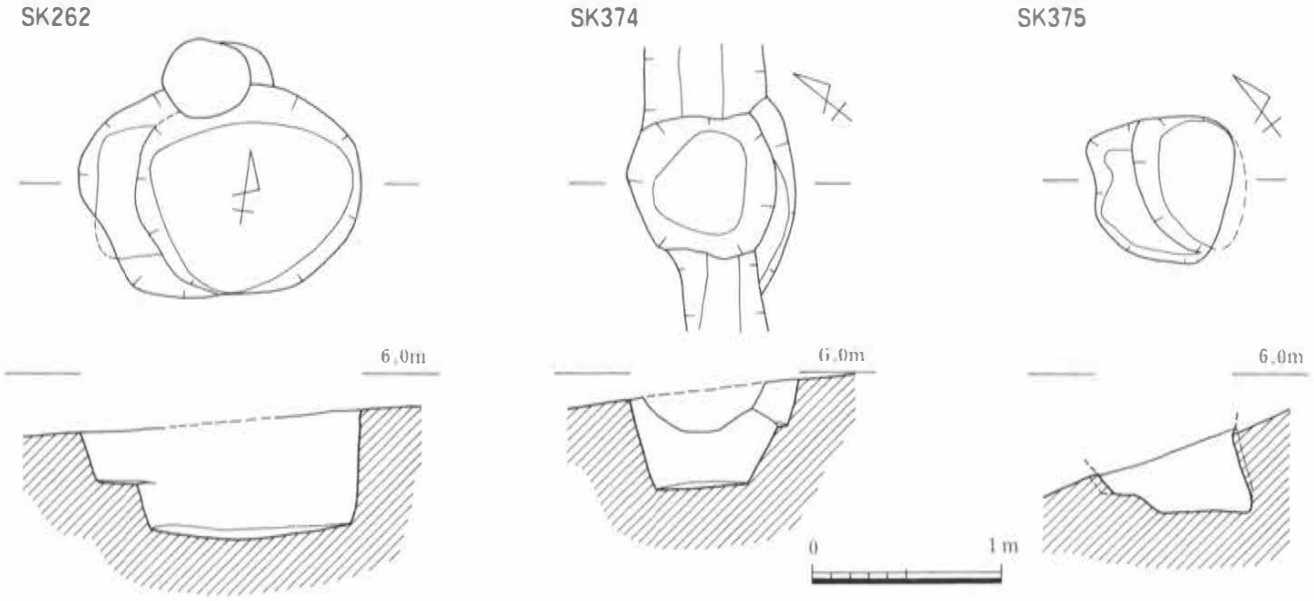


Fig.122　SK262・374・375　（S＝1/40）

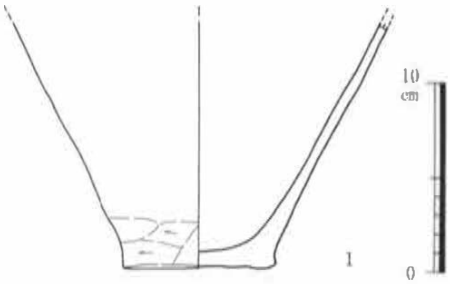


Fig.123　SK262出土遺物　（S＝1/4）

また、調査区の南側には遺構を全く確認できなかったが、これは東側調査区の調査結果や、開発地域の南部分となる山門郡瀬高町部分において、遺跡が確認されていないという結果と照らし合わせても問題のないところである。ただし、このことが、遺跡が南側に広がらないのか、後世の開発により削られた結果であるのかを結論する材料を得ることはできなかった。津島地区の弥生時代の遺跡の広がりを考える上で、このことは今後の課題として残される結果となった。

第8節　776-777工区の調査

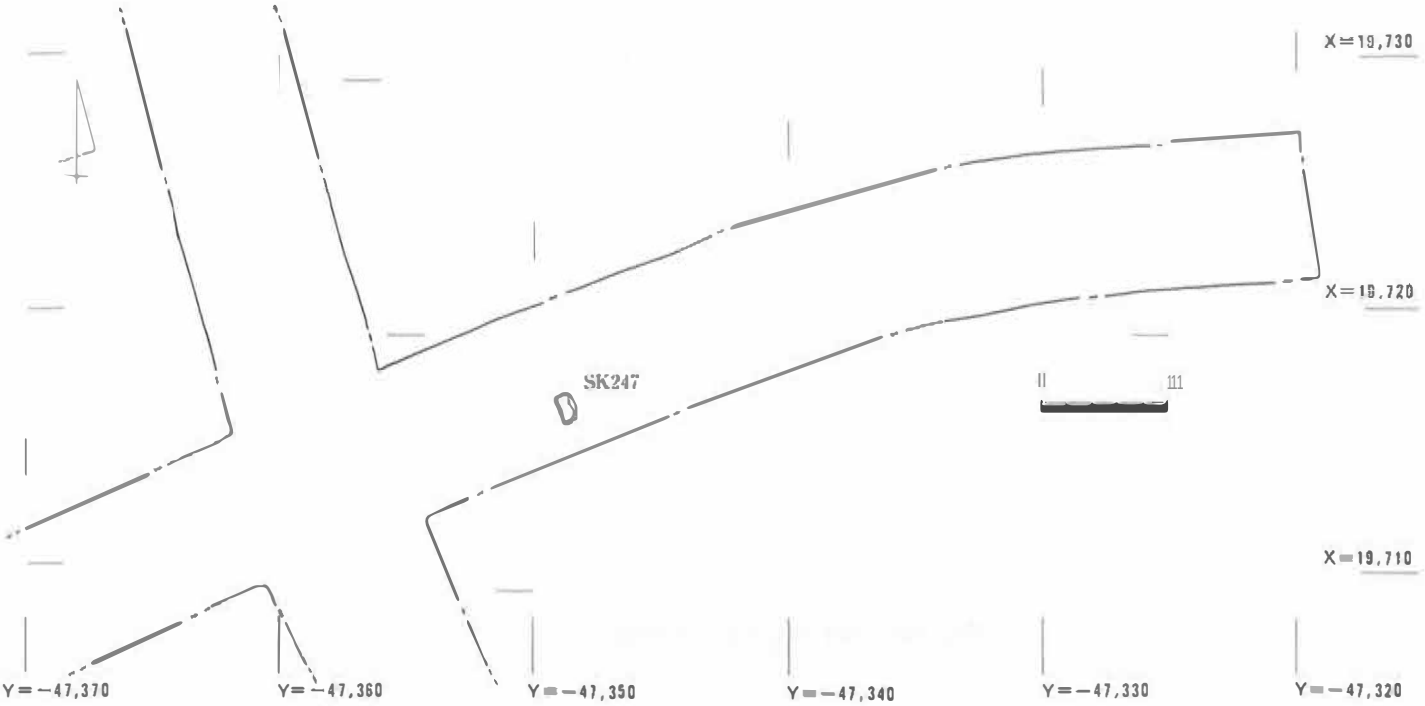


Fig.124　776-777工区　全体図　（S＝1/300）

1．概要

776-777工区は、筑後市大字津島字大曽里に所在する。調査面積は約260m²である。地山は黄橙色のローム土であり、検出時点では淡い褐色のシミが確認された。このため縄文時代の遺構の可能性をもって精査を行なったが、多くが風倒木痕などの撹乱であり、遺構として検出しえたのは土壙1基のみであった。調査は11月中に始められ、12月7日にこれを終了した。

2．検出遺構

SK247（Fig.125）

CS19～CT20グリットで検出された、ほぼ長方形の平面プランを有する土壙である。長軸約1.1m、短軸約0.6m、深さ約0.25m。主軸の傾きはN-16°-W。断面形は西側が深いがほぼ逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

3．小結

遺構の密度が南側へ向かい薄くなることは前節でも述べたが、遺構が全く見られなくなるのではないことが確認された。しかし、時期の特定が出来ず、削られたのか否かの確認も出来なかった。これは今後に残された課題である。

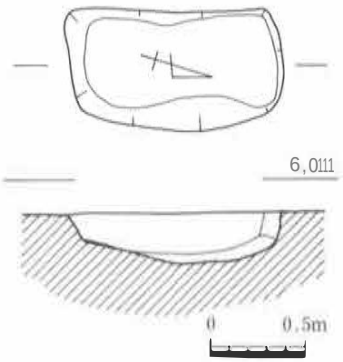


Fig.125　SK247
（S＝1/40）

第9節　773-786工区の調査

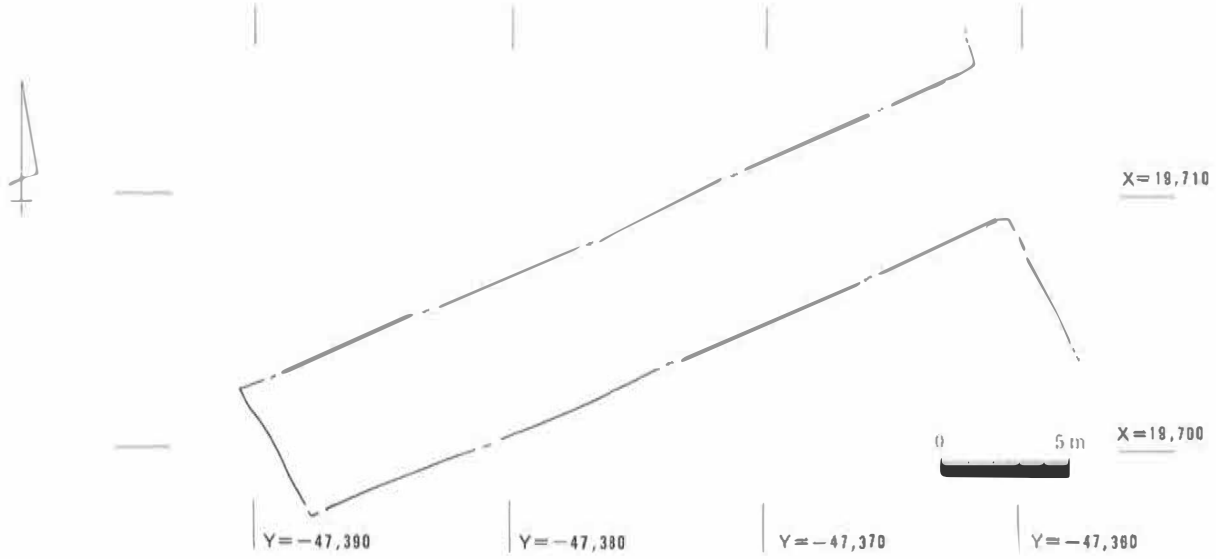


Fig.126　773-786工区　全体図　（S＝1/300）

1．概要

773-786工区は、筑後市大字津島字大曽里に所在する。調査面積は約177㎡である。地山は黄橙色のローム土である。この調査区からは遺構や地形の変化点などは確認されなかった。調査は11月28日に開始し、11月29日にこれを終了した。

第10節　773-782工区の調査

1．概要

773-782工区は、筑後市大字津島字大曽里に所在する。調査面積は約120㎡である。この調査区からは土壙2基を確認したが、時期の特定に至るような遺物の出土はなかった。調査は11月30日に始められ、12月7日にこれを終了した。

2．検出遺構

SK248（Fig.128）

CU13グリットから検出された楕円形の平面プランを有する土壙である。長軸約0.9m、短軸約0.6m、深さ約0.15m。主軸の傾きはN-4°-W。断面形は逆台形状となる。埋土は基本的には酸化鉄混じりの単一層であるが、下層へ行く程粘性が増していく。この遺構からの出土遺物はなかった。

SK251（Fig.128）

CU14グリットから検出されたほぼ円形の平面プランを有する土壙である。長軸約0.6m、短軸約0.5m、深さ約0.1m。主軸の傾きはN-9°-E。断面形は逆台形状となる。この遺構からの出土遺物はなかった。

3．小結

ここの遺構は、西側調査において最も南に位置するものである。遺構の密度が南側へ向かい薄くなることは前節でも述べた。しかし、時期の特定が出来ず、削られたのか否かの確認も出来なかった。これは今後に残された課題である。

Fig.127　773-782工区　全体図　（S＝1/300）

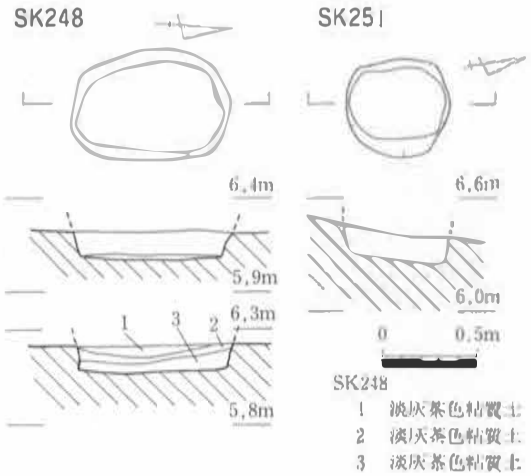


Fig.127　SK248・251　（S＝1/40）

第11節　778-782工区の調査

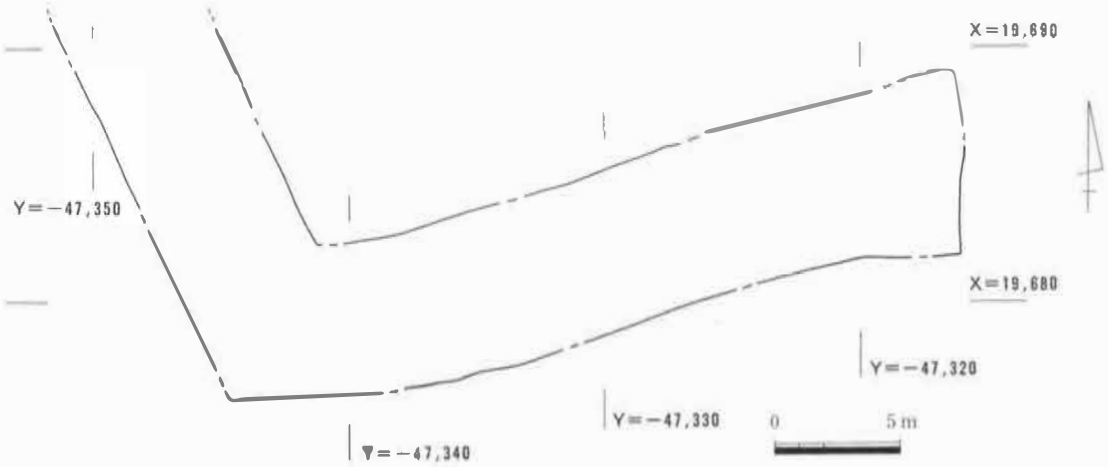


Fig.129　778-782工区　全体図　（S＝1/300）

1．概要

778-782工区は、筑後市大字津島字大曽里に所在する。調査面積は約105m²である。この調査区からは当初遺構らしき物を確認していたが、南側に近接していた水路からの水の流入や雨水によりヘドロが溜まり、再検出の時にはこれらは失われていた。調査は11月29日にこれを終了した。

第4章　結語

1.弥生前期土器出土の意義

今回の調査成果のうち、主としてSX150からの出土した弥生前期から中期初頭の土器群について、若干の問題点を拾い上げたい。まず、これまでの筑後市域における同時期の遺物出土例から整理したい。筑後市域において、弥生時代前期から中期初頭にあたる土器は概ね亀ノ甲式器が該当すると考えている。亀ノ甲式土器が市の南部に偏って分布することは既に論じたが(註1)、これを標高に置き換えると概ね8mから14mに出土地が分布することになる。(註2)概ねこれらの出土地では、当該期の竪穴式住居を主体とする集落等の存在が考えられるのも注意したい。佐々木隆彦氏は、弥生時代後期の集落をモデルに、標高16m附近の三潴郡三潴町高三潴遺跡を境界として附近を、竪穴式住居を主体とする集落と掘立柱建物を主体とする集落の別があったとする(註3)が、下林西田遺跡(註4)の評価を考えても亀ノ甲段階にも掘立柱建物を主体とする集落の存在を想定して良いものかどうか判断に迷うところである。

さて、今回報告する津島九反坪遺跡は標高6m前後に展開している。北西に隣接する津島皿ヶ町遺跡では当該期の遺物は確認しておらず、その位置付けも中期中葉以降の低平地への開発により集落が出現した(註5)としていた。今回は、その津島皿ヶ町遺跡よりもさらに低い土地の出土という点に意義がある。

今回の出土は、溜井とみられる施設からの出土であるが、他に当該期の遺構が見当たらない。何分にも線状の狭い調査区の設定を余儀無くされたため調査区外に集落が展開する可能性を完全には否定できないが、現地が湿潤で竪穴式住居設営に不向きな環境であることを考えあわせるならば、至近に集落の存在を想定することは難しい。溜井という生産関連施設の存在が注意されるが、一概には祭祀遺物とも片付けにくい。一つのモデルとして、集落ではなく作業のためのキャンプを提示したい。ここでいうキャンプには宿泊することを要件としないので注意されたい。類似例として、焼畑耕作における畑小屋や、タイなどに見られる水田の監視小屋での生活を挙げておきたい。これらは、明確な柱を設置しないものもあり、遺構として検出されない可能性も高い。

いずれにしても、今後低平地の調査事例が増加し、資料検討が充分に行われてから結論を導くべきであろう。特に有明海沿岸部での調査事例の増加が望まれる。

（永見　秀徳）

註1　永見秀徳　「筑後市内における弥生文化―集落の展開を中心に―」
『朝倉川・八女地方の古代を考える交流講演会資料　2000』所収

註2　もちろん、この数値は筑後市が矢部川の中流域下流にあたるために得られるものであって、河川からの比高差も重要であるので、下流域や中上流域にはそのままあてはまらない。

註3　佐々木隆彦　「おわりに」『大川市文化財報告書第2集　酒見貝塚　1994』所収

註4　福岡県教育委員会編　『福岡県文化財調査報告書第132集　下林西田遺跡　1998』

註5　永見秀徳　「考察」　『筑後市文化財報告書第26集　筑後西部第2地区遺跡群Ⅱ　2000』所収

2.周辺遺跡との関連性

津島九反坪遺跡の調査は、道路部分だけという事もあり、その全体像は明確ではない。周辺の遺跡調査（西部第2地区遺跡群）も用水路に関わるものが多く、不明な点が多いが、その中でも関連する可能性があるものについて若干見ていきたい。

767-769工区で確認された石組炉に関しては、志西野々遺跡（北東側約800m）、志前田遺跡（北東側約1,000m）が挙げられる。ここは縄文早期（約8,000年前）の遺物包含層を伴う遺跡で、それぞれに石組炉、多数の焼石を確認した。現状では志前田遺跡が包含層の東端、志西野々遺跡が西端となるが、志西野々遺跡の西側は削平を受けており、元来は丘陵状の地形が存在したと考えられる。今回検出された石組炉を同時代のものと考えるなら、この時期の矢部川流域での生活、開発以前の志・津島地区の地形

観する上での一助にできるであろう。しかし、本報告で述べたように、この時期と断定しうる遺物を伴っておらず、出土遺物も後世の遺構の切り合いによる混入である可能性が高い。近隣市町村も含め、今後の類例報告が期待される。

弥生後期～古墳時代初頭にかけての遺跡には、北側に広がる津島遺跡群が挙げられる。特に津島皿ヶ町遺跡（北東側約200ｍ）では検出柱根（礎板を有するもの）、遺物（SD130、SD275、SX300出土遺物）など、共通点が多い。しかし、津島九反坪遺跡のSD130、SD275が津島皿ヶ町遺跡と関連のある区画溝とは言えず、SX300における土器廃棄についても明確にはしえなかった。

いずれにしても、関連する可能性が指摘できるのみで、今後、この地域における発掘調査が行なわれた際に、問題点の一つとして留意されたい部分である。

【参考文献】

立石　真二	『筑後西部第２地区遺跡群Ⅰ』	筑後市教育委員会	1999
永見　秀徳	『筑後西部第２地区遺跡群Ⅱ』	筑後市教育委員会	2000

３．溜井状遺構の導水について

本報告内で、SX100が貯木場としても利用され、SX150はそうではない事を指摘した。が、溜井状遺構となりうる可能性をもつ遺跡として識者から教授された遺跡の大半が貯木施設としても利用されており、この点は問題なさそうである。ここでは導水についての問題点を明示しておく。

SX100については導水遺構としてはSD105があり、ここでは水口状遺構も確認されたが、SX150では未確認である。両遺構とも、全体の半分しか調査がされていないが、SX150の導水施設が確認されていないことは、生産施設である水田がそれぞれの時期において別の場所に設けられていたか、水田の場所は同じで主な導水施設は別の場所に設けられていたという２つの可能性がある。溜井群の調査が行なわれている福岡市の三苦永浦遺跡では、溜井の主な導水施設と溢水時の副次的な導水施設の2つが存在する事が確認されている。これは主に雨水を貯水し、谷下の水田に供給されたと仮定されている。津島九反坪遺跡ではSX100・SX150の南側は谷地形であり、SD105は反対の北側に設けられている。三苦永浦遺跡をモデルで復元すると、水田は南側の谷の延長状にあり、SD105は溢水時のための施設となる。しかしながら、津島九反坪遺跡では湧水を利用しており、これを水田に利用するためには十分にあたためる必要があることを指摘された。SD105は水をあたためるための施設への導水路、もしくは施設そのものとも考えられ、この場合は水田はSD105の延長上にあると仮定される。

SD105の水口状遺構がどのようなときに利用されたのかも含めて、溜井状遺構の調査報告の増加が期待される所である。

【参考文献】

埋蔵遺跡調査団	『端穂　―福岡市比恵台地遺跡―』	日本住宅公団	1980
吉留　秀敏・編	『比恵遺跡群（10）』	福岡市教育委員会	1991
吉留　秀敏・編	『三苦永浦遺跡』	福岡市教育委員会	1996
谷口　俊治・編	『長野ワンデ遺跡』	財団法人　北九州市教育文化事業団　埋蔵文化財室	2000

付　　出土遺物一覧表

Tab. 2　試掘調査区出土土器一覧

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
3	1	試掘	弥生土器	[illegible]		(8.5)		底部2/3	橙色／淡橙色	1~2mm大の砂粒多い。	良好	須玖II式
3	2	試掘	弥生土器	[illegible]		(6.5)		底部1/2	黒灰~橙色／淡橙色	1mm大の砂粒少し。	不良	須玖II式
3	3	試掘	土師器	[illegible]				肩部小片	淡橙色	精良。		

Tab. 3　東側調査区出土土器一覧

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
9	1	SD020		[illegible]				[illegible]小片	灰黄白色	2mm程の砂粒多い。	やや不良	
18	3	SD035		[illegible]				底部小片	淡灰黄色	1~2mm程の小砂粒。	不良	
18	4	SD035		高坏				口縁部小片	淡灰黒色／淡橙褐色	3mm程の小砂粒。	不良	
18	5	SD035	土師器	[illegible]				[illegible]	淡黄白色／淡灰黄色	1mm以下の小砂粒。	やや不良	
24	8	SK023		[illegible]				胴部	淡黄白色	1~2mm程の小砂粒。		
28	9	SK018		鉢	(21.6)	12.7	8.6	口縁・体部1/3欠	淡黄白色／淡橙白色	1mm程の小砂粒多い。	不良	
29	10	SK018		[illegible]				胴部	淡黄褐色	1~2mm程の小砂粒。	不良	
29	11	SX048		[illegible]		(5.6)		[illegible]~胴部	黒黄白色	1mm程度の小砂粒。		外面黒斑あり
30	12	SX012		[illegible]		(9.8)		底部~胴部1/5	淡黄白色	2~3mm程度の小砂粒多い。	不良	
30	13	SX016		[illegible]	(21.7)			口縁部1/3	淡黄白色	2mm程度の小砂粒多い。	不良	
30	14	SX016		[illegible]	(26.4)			底部欠、胴部1/4残	淡黄褐色	1~2mm程の小砂粒多い。角閃石含む。	不良	外面黒斑
30	15	SX016		[illegible]		9.2		底部	淡黄褐色	1~2mm程の小砂粒多い。	不良	黒斑有り
30	16	SX016		[illegible]		(12.0)		底部	淡茶褐色／淡黄白色	1~2mm程の小砂粒。	やや不良	
30	17	SX016		[illegible]	(26.8)			口縁部	淡黄白色	2mm程の小砂粒多い。	不良	
30	18	SX016		[illegible]				胴部一部	淡黄白色	1mm以下の小砂粒だが精良。	やや良好	
30	19	SX016		[illegible]				胴部小片	淡黄灰色／淡黄褐色	2mm程度の小砂粒。	良好	黒泥？
30	20	SX016		[illegible]				胴部小片	淡黄褐色／淡褐黄色	1~2mm程の小砂粒多い。	不良	
30	21	包含層		[illegible]	(25.7)			口縁部小片	淡黄白色	1~2mm程の小砂粒。	不良	
30	22	包含層		[illegible]	(26.4)			口縁部~胴部1/8	淡黄白色	2mm程度の小砂粒多い。	不良	
30	23	[illegible]	須恵器	坏	(10.3)	(2.6)	3.35	1/5	[illegible]	1mm程度の赤色粒子。	やや良好	[illegible]やや良好、ヘラ記号あり
30	24	[illegible]	青磁	碗				口縁部~胴部小片	淡緑白色	若干細粒子が入るがキメ細かい。	良好	龍泉窯系

Tab. 4　東側調査区出土石器一覧

Fig.	No	遺構	種別		全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	重量（g）	石材	[illegible]		備考
17	2	SP004	石包丁				0.5		頁岩	小片（刃部寄中部）		
18	6	SX035	石鏃		1.8	2.15	0.4		サヌカイト			
18	7	SX035	石鏃			1.65	0.45		サヌカイト	先端欠損		

Tab. 5　734-737工区出土土器一覧

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
40	1	SB350		紡錘車	5.3（径）		1.0（厚み）	完存	淡灰茶色	細砂粒少量、精良。	良好	
44	1	SD130 I 層	弥生土器	甕		(6.0)		底部1/2	黒灰色	微細砂粒含むがやや良。	やや良	
44	3	SD130 II 層	弥生土器	壺		(13.0)		底部細片	灰褐色	砂粒やや多い。角閃石、雲母片含む。	やや不良	
44	4	SD130 II 層	弥生土器	壺		7.4		底部のみ	淡灰褐色	砂粒やや多い。	やや良	
44	5	SD130 II 層	弥生土器	甕		(6.3)		底部1/4	暗茶褐色	[illegible]砂粒やや多い。角閃石含む。	やや良	弥生中期
44	6	SD130 II 層	弥生土器	高坏？				脚部細片	淡茶褐色	砂粒少量含む。	不良	穿孔。脚付鉢の可能性あり
44	7	SD130 II 層	弥生土器	手づくね甕		4.0		底部のみ	淡灰色	1~3mmの砂粒含むがやや良。	やや良	ミニチュア
44	8	SD130 II ~ III 層	弥生土器	壺	(18.0)			口縁部1/6	淡茶褐色	砂粒少なくほぼ良。赤色粒子含む。	やや良	
44	9	SD130 II ~ III 層	弥生土器	二重口縁壺	(11.5)			口縁部細片	淡茶褐色	砂粒多い。	やや不良	擬口縁径17.0。擬口縁端部刻目あり。
44	10	SD130 II ~ III 層	弥生土器	鉢				口縁部細片	淡灰茶色	細砂粒含む。	ほぼ良	
44	11	SD130 II ~ III 層	弥生土器	鉢？	(16.0)	(14.0)	4.5	細片	淡茶褐色	ほぼ良。	ほぼ良	
44	12	SD130 III 層	弥生土器	壺	(32.6)			口縁部細片	不明（灰褐色？）	1~3mmの砂粒含む。	不良	
44	13	SD130 III 層	弥生土器	壺		3.6		底部のみ	淡灰褐色	砂粒やや少なく、雲母片含む。	やや良	
44	14	SD130 III 層	弥生土器	鉢	(11.0)			口縁部1/6	明茶褐色	砂粒あまり含まず。	やや良	
44	15	SD130 III 層	弥生土器	甕				口縁部細片	淡灰茶色	[illegible]砂粒含む。	ほぼ良	弥生終末
44	16	SD130 III 層	土師器	脚付鉢		12.4		脚部のみ	茶褐色	[illegible]砂粒含む。	良	
44	17	SD130 III 層	土師器	高坏		(12.4)		脚部1/7	淡茶褐色	砂粒少なくほぼ良。	やや不良	
44	18	SD130 III 層	土師器	坩	(9.0)			口縁部細片	茶褐色	[illegible]含む。	やや良	
44	19	SD130 III 層	土師器	坩				胴部細片	茶褐色	[illegible]含む。	やや良	
44	20	SD130 III 層	不明	土製品				破片	淡茶褐色	精良。	やや良	土師質
44	21	SD130IV層	土師器	壺	(16.0)			口縁部1/8	淡茶褐色	細砂粒多い。	不良	
44	22	SD130IV層	土師器	壺	(20.0)			口縁部1/6	淡灰黄色	細砂粒含むがほぼ良。	ほぼ良	
44	23	SD130IV層	土師器	鉢	11.0	5.8	4~5.9	完存	淡灰褐色	細砂粒含む。	ほぼ良	口縁端部刻目有り
44	24	SD130	縄文土器	浅鉢				胴部1/2弱	暗茶褐色	精緻。	やや良	晩期後半（山ノ寺～夜臼期）
44	25	SD130	縄文土器	浅鉢				胴部細片	灰黒色	精選。	やや良	晩期後半（山ノ寺～夜臼期）
44	26	SD130	弥生土器	壺				肩部小片	暗茶褐色	砂粒少ない。	やや良	弥生中期（[illegible]ノ[illegible]）
44	27	SD130	弥生土器	二重口縁壺				口縁部細片	黒灰色	細砂粒多い。	不良	弥生後期後半
44	28	SD130	弥生土器	壺	(19.4)			口縁部1/2	淡茶褐色	砂粒少ない。	やや不良	弥生終末
44	29	SD130	弥生土器	壺	(15.0)			口縁部1/4	淡茶褐色	細砂粒含む。	不良	弥生終末
44	30	SD130	弥生土器	壺		(7.0)		底部1/5	暗褐色	細砂粒多い。	やや不良	弥生中期
44	31	SD130	弥生土器	壺				口縁部欠損	明茶褐色	精選。赤色粒子含む。	良	弥生後期～終末
45	32	SD130	弥生土器	壺	(16.0)			上半1/2	茶褐色	砂粒少なく良。	良	弥生後期後半
45	33	SD130	弥生土器	二重口縁壺				上半1/2（口縁部欠損）	明茶褐色	砂粒少なく良。	ほぼ良	弥生終末
45	34	SD130		大型壺				口縁部細片	灰茶褐色	砂粒多い。	やや良	口縁部刻目
45	35	SD130		大型壺				口縁部細片	黒灰褐色	細砂粒やや多い。	やや良	口縁部肥厚
45	36	SD130		大型壺	(40.0)			口縁部細片	茶褐色	細砂粒、赤色粒子、雲母片共に多い。	やや不良	口縁部刻目
45	37	SD130	弥生土器	[illegible]	(31.0)			口縁部1/6	[illegible]褐色	細砂粒含む。	ほぼ良	弥生前期後半～中期前半（亀ノ甲タイプ）
45	38	SD130	弥生土器	[illegible]	(32.0)			口縁部1/8	[illegible]	[illegible]少ない。	不良	弥生中期後半（須玖II式）
45	39	SD130	弥生土器	[illegible]	18.6		27.0	1/3欠損	[illegible]～[illegible]	[illegible]少ない。	やや良	弥生終末（[illegible]式）

口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
(29.0)			
(30.0)			
(29.0)			

5 4

10.0			
(10.0)			
(11.6)			
(13.0)			

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
53	72	SX100東層	弥生土器	器台		(13.4)		底部細片	淡橙～黄灰色	1mmの砂粒、雲母、角閃石多く、赤色粒子僅か。	良好	弥生中期
53	73	SX100東層	弥生土器	器台		(12.2)		底部1/4	黄灰色	1～2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
53	74	SX100東層	投弾		3.1（全長）	1.4（全幅）	1.2（器厚）	完存	黄灰～淡橙色	精良。	良好	重さ4.1g
54	78	SX100東西ベルト上層	弥生土器	壺				胴部1/5	黄灰色	2～3mm大の砂粒を多く含む。	不良	弥生後期
54	79	SX100東西ベルト上層	弥生土器	壺？				胴部	黄灰色	0.5mm大の砂粒、雲母を多く含む。	良好	弥生後期
54	80	SX100東西ベルト上層	弥生土器	壺		9.8		底部のみ	黄灰色	1～2mmの砂粒多く、雲母を少し含む。	良好	弥生後期
54	81	SX100東西ベルト上層	弥生土器	壺		10.0		底部のみ	橙～黄灰色	1mm大の砂粒多く、雲母を少し含む	良好	
54	82	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕	(20.2)			口縁部1/3	橙色／黄灰色	1～2mmの砂粒、雲母を多く含む。	良好	弥生中期後半（須恵Ⅱ式系）
54	83	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		6.3		底部のみ	黄灰色	1～2mm大の砂粒を多く含む。	良好	弥生中期
54	84	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		(8.2)		底部1/3	黄灰色	2mm大の砂粒を多く含む。	良好	弥生中期
54	85	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		(5.2)		底部1/3	黄灰色～淡橙色	精良。赤色粒子を多く含む。	やや良	
54	86	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		(5.6)		底部2/3	黄灰色	1mm大の砂粒を多く含む。	良好	
54	87	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		5.3		底部のみ	橙色（化粧土？）／灰茶色	1mmの砂粒多く、雲母を僅かに含む。	良好	
54	88	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		6.2		底部のみ	淡橙色	2～3mmの砂粒多く、赤色粒子、凝石？含む。	良好	弥生前期～中期
54	89	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		6.2		底部1/2	赤橙色／黄橙色	1～2mmの砂粒、雲母、角閃石多く含む。	良好	弥生中期
54	90	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		5.0		底部のみ	橙色	1mmの砂粒、雲母を多く含む。	良好	
54	91	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		6.3		底部1/2	黄灰色（底部赤色）	1～2mmの砂、凝石？、赤色粒子、雲母多い。	良好	弥生中期
54	92	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		6.0		底部1/2	明赤橙色／明赤茶色	1～2mmの砂粒、雲母、角閃石多く含む。	良好	弥生中期
54	93	SX100東西ベルト上層	弥生土器	甕		7.0		底部のみ	淡橙色	1～2mmの砂粒多く、赤色粒子、角閃石僅かに含む。	良好	弥生中期
54	94	SX100東西ベルト上層	土師器	甕	(17.2)			口縁部1/3	灰茶色／（縁）灰色	1～2mm大の砂粒多く、金雲母を大量に含む。	良好	口縁端部弱いつまみ上げ
54	95	SX100東西ベルト上層	弥生土器	高坏	(25.0)			坏部細片	黄灰色	精良。	良好	弥生中期～後期
54	96	SX100東西ベルト上層	弥生土器	高坏				軸部のみ	黄茶色～暗茶色	1～2mm大の砂粒、雲母、角閃石多く含む。	良好	
54	97	SX100東西ベルト上層	弥生土器	鉢	5.2			つまみ部分のみ	黄灰色～灰茶色	1～3mmの砂粒多く、雲母を含む。	良好	
54	98	SX100東西ベルト上層	弥生土器	鉢		6.0		底部のみ	黄灰色	2～3mmの砂粒少なく、雲母、角閃石多い。	良好	
55	101	SX100東西ベルト下層	弥生土器	袋状口縁壺	(20.0)			口縁部1/8	淡橙色／淡灰色	1～2mm大の砂粒、雲母を多く含む。	良好	弥生中期後半～後期前半
55	102	SX100東西ベルト下層	弥生土器	壺				肩部細片	丹塗り	1～2mm大の砂粒、雲母を多く含む。	良好	丹塗り
55	103	SX100東西ベルト下層	弥生土器	壺		11.1		底部のみ	黄灰色/黄灰～淡橙色	精良。	良好	
55	104	SX100東西ベルト下層	弥生土器	壺		(7.8)		底部1/5	暗黄灰色／黄灰色	0.5mmの砂少なく、雲母多い。	良好	
55	105	SX100東西ベルト下層	弥生土器	壺		6.1		底部（内面剥離）	暗赤色／？	1～2mmの砂、雲母を多く含む。	良好	
55	106	SX100東西ベルト下層	弥生土器	壺		(8.0)		底部2/3	黄灰色	1～2mmの砂、雲母を多く含む。	良好	
55	107	SX100東西ベルト下層	弥生土器	壺		(5.2)		底部1/3	丹塗り／明橙色	1～2mm大の砂粒、赤色粒子を多く含む。	良好	外面丹塗り
55	108	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕	(27.6)			口縁部1/10	黄灰～暗灰色／淡橙色	1～2mmの砂粒、赤色粒子を多く含む。	良好	弥生中期。煤付着？
55	109	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕	(28.2)			口縁部1/10	黄灰色	1～2mmの砂粒を多く含む。	良好	弥生中期後半（須恵Ⅱ式）。煤付着。
55	110	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕	(30.0)			口縁部1/5	暗赤灰色／黄橙～暗黄灰色	1mmの砂粒、赤色粒子、雲母を少し含む。	良好	弥生中期中頃。煤付着。
55	111	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕	(32.4)			口縁部1/8	淡橙色	精良。雲母多く、赤色粒子を少し含む。	良好	弥生中期中頃（須恵Ⅰ式）
55	112	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕	(32.1)			口縁部1/10	黄灰色	1～2mm大の砂粒を多く含む。	良好	弥生中期
55	113	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕	(29.0)			口縁部1/10以下	黄灰色	1～2mmの砂粒、雲母を多く含む。	良好	弥生中期（須恵Ⅱ式系、黒髪式？）
55	114	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕	(25.6)			口縁部1/10	黄灰色	精良。雲母を少し含む。	良好	弥生中期（須恵Ⅱ式系、黒髪式？）
55	115	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕	(31.6)			口縁部1/10	丹塗り	1～2mm大の砂粒、雲母を多く含む。	良好	弥生後期前半？丹塗り。
56	116	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕				口縁部細片	黄灰色	1mm大の砂粒、雲母を多く含む。	良好	弥生中期（須恵Ⅱ式系、黒髪式？）
56	117	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕				口縁部細片	黄灰色（化粧土？）	1～2mm大の砂粒、雲母を多く含む。	良好	弥生中期
56	118	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕		5.2		底部のみ	淡橙色	1～3mmの砂、雲母、赤色粒子を多く含む。	良好	弥生中期
56	119	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕		5.6		底部のみ	明黄土色／にぶい黄色	1mm大の砂粒を多く含む。	良好	弥生中期
56	120	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕		5.8		底部のみ	黄灰色	1mm大の砂粒、雲母、赤色粒子を多く含む。	良好	弥生中期
56	121	SX100東西ベルト下層	弥生土器	甕		5.8		底部のみ	黄橙色	1mm大の砂粒、雲母、赤色粒子を多く含む。	良好	弥生後期
56	122	SX100東西ベルト下層	弥生土器	鉢				口縁部細片	橙色／暗灰色	1～2mm大の砂粒を多く含む。	やや良	
56	123	SX100東西ベルト下層	弥生土器	鉢				口縁部細片	橙色	1～2mm大の砂粒を多く含む。	良好	
56	124	SX100東西ベルト下層	弥生土器	高坏				軸部のみ	暗黄灰色	1～2mmの砂少なく、雲母を多く含む。	良好	
56	125	SX100東西ベルト下層	弥生土器	高坏				軸部のみ	黄灰色	1～2mmの砂、雲母を多く含む。	良好	
56	126	SX100東西ベルト下層	弥生土器	高坏		(13.6)		脚部のみ	暗赤色	1～2mmの砂、雲母、赤色粒子を多く含む。	良好	
56	127	SX100東西ベルト下層	弥生土器	蓋	6.0			つまみ部分のみ	黄橙色	1mmの砂、雲母、角閃石を多く含む	良好	
56	128	SX100東西ベルト下層	弥生土器	蓋	4.8			つまみ部分のみ	黄灰～灰色	1mmの砂、雲母多く、角閃石、赤色粒子少ない。	やや良	
56	129	SX100東西ベルト下層	弥生土器	器台		(15.0)		底部1/4	黄灰色	1mmの砂を僅かに含み、雲母少ない。	良好	
56	130	SX100東西ベルト最下	弥生土器	二重口縁壺？	(28.0)			口縁部1/8	暗灰褐色	砂粒少ない。	良	弥生後期前半？
56	131	SX100東西ベルト最下	弥生土器	壺		7.0		底部のみ	暗茶褐色	1～2mmの砂粒やや少なく含む。	ほぼ良	
56	132	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕	(19.0)			口縁部1/8	暗茶褐色	細砂粒含む。	やや良	弥生中期前半（城ノ越式）
56	133	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕	(24.0)			口縁部1/6	淡茶褐色	細砂粒含む。角閃石少量。	ほぼ良	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
56	134	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕				口縁部細片	淡茶褐色	細砂粒やや多い。赤色粒子。	やや良	弥生中期中頃（須恵Ⅰ式？）
56	135	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕				口縁部細片	暗褐色	1～2mmの砂粒。	ほぼ良	弥生中期中頃（亀ノ甲タイプ）
56	136	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕	(23.0)			口縁部1/4	灰茶色	細砂粒やや少ない。	ほぼ良	弥生中期中頃（亀ノ甲タイプ）
56	137	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕	(33.0)			口縁部1/10	淡茶褐色	細砂粒含む。	やや良	弥生中期中頃（亀ノ甲タイプ）
56	138	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕	(30.0)			口縁部1/8	暗茶褐色	細砂粒、角閃石。	やや不良	弥生中期中頃（亀ノ甲タイプ）
56	139	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕		5.6		底部のみ	淡灰茶色	細砂粒やや多い。	ほぼ良	弥生中期
56	140	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕		6.0		底部のみ	淡紫褐色	1mm大の砂粒やや少ない。	やや良	弥生中期
56	141	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕	(40.0)			口縁部1/6	淡灰茶色	細砂粒含むがほぼ良。	やや良	弥生中期前半（城ノ越式）
56	142	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕	(32.0)			口縁部1/8	暗褐色	細砂粒、角閃石、雲母片。	やや良	弥生中期前半（城ノ越式）
56	143	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕		5.4		底部のみ	灰茶色	1～2mmの砂粒やや多く含む。	ほぼ良	弥生中期
56	144	SX100東西ベルト最下	弥生土器	甕		6.5		底部のみ	淡灰茶色	1mmの砂粒やや多い。	ほぼ良	弥生中期
56	145	SX100東西ベルト最下	弥生土器	高坏				坏部細片	淡灰茶色	細砂粒やや少なく含む。	ほぼ良	弥生中期
57	146	SX100東西ベルト最下	弥生土器	高坏？	(24.0)			坏部1/8	暗赤褐色	1～2mmの砂を多く含む。雲母片、角閃石。	不良	鉢？弥生中期
57	147	SX100東西ベルト最下	弥生土器	蓋	5.8			つまみ部分のみ	淡灰茶色	砂粒やや少ない。	やや良	
58	151	SX100	弥生土器	壺				肩部細片	茶褐色	砂粒やや多い。金雲母。	やや良	弥生中期前半（城ノ越式）
58	152	SX100	弥生土器	広口壺	(18.0)			口縁部1/3	淡灰茶色	1～5mmの砂粒。金雲母。	やや不良	弥生中期前半（城ノ越式）
58	153	SX100	弥生土器	広口壺？				口縁部細片	淡茶褐色	1mmの砂粒やや多い。	不良	弥生中期
58	154	SX100	弥生土器	広口壺	(19.0)			口縁部1/6	茶褐色	細砂粒やや少ない。	やや良	弥生中期中頃（須恵Ⅰ式）
58	155	SX100	弥生土器	広口壺	(28.1)			口縁部1/1	茶褐色	細砂粒やや多い。金雲母。	やや不良	弥生中期後半（須恵Ⅱ式系）
58	156	SX100	弥生土器	広口壺	(26.8)			3/4現存	茶褐色	1～3mmの砂粒やや多い。	ほぼ良	弥生中期前半（須恵Ⅰ式系）

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
58	157	SX100	弥生土器	広口壺	(40.0)	[illegible]		口縁部1/8	暗茶褐色	細砂粒少量。	ほぼ良	弥生中期。丹塗り。
58	158	SX100	弥生土器	広口壺	(38.0)			口縁部1/2	暗茶褐色	細砂粒、[illegible]色 子多い。	ほぼ良	弥生中期。櫛文。丹塗り。
58	159	SX100	弥生土器	広口壺	(33.0)			口縁部1/3	茶褐色	細砂粒少含む、円石多い。	ほぼ良	弥生中期。櫛文。
58	160	SX100	弥生土器	広口壺	(37.0)			口縁部1/4	褐色	細砂粒少量。角閃石。	良	弥生中期。櫛文。
58	161	SX100	弥生土器	広口壺	( )			頸部1/6	灰褐色	砂、金雲母、角閃石。	やや不良	弥生中期。櫛文。
58	162	SX100	弥生土器	広口壺				口縁部細片	灰黒	[illegible]	ほぼ良	丹塗り
58	163	SX100	弥生土器	広口壺	(14.8)			口縁部1/	暗褐色	砂粒少量。	やや良	弥生前期?
58	164	SX100	弥生土器	広口壺	(7.0)			口縁部1/8	明灰茶色	細砂粒、雲母片多い。	やや良	弥生前期
58	165	SX100	弥生土器	広口壺	(10.0)			口縁部3/4	暗灰茶色	細砂粒少量。	やや良	弥生前期
59	166	SX100	弥生土器	広口壺	(20.4)			上半1	明茶褐色	1~3mmの砂粒少量。	良好	[illegible]
58	167	SX100	弥生土器	短頸壺	(9.0)			口縁部1/8	暗褐色	砂粒。	良	弥生
59	168	SX100	弥生土器	短頸壺	(7.8)	(4.3)	8.8	1/2	灰黄色~明赤茶色	細砂粒、角閃石多い。	良	
59	169	SX100	弥生土器	短頸壺	(13.0)		14.1	3/4残存	明茶褐色	細砂粒少量。	良	
59	170	SX100	弥生土器	細頸壺	(9.6)			口縁部1/8	淡灰茶色	砂粒やや少ない。	やや不良	
59	171	SX100	弥生土器	壺	(15.0)			口縁部1/10	灰茶色	砂粒、角閃石。	やや良	
59	172	SX100	弥生土器	大型細頸壺	(32.0)			口縁部1/4	淡茶褐色	1~3mmの砂粒少量含む。	ほぼ良	
59	173	SX100	弥生土器	細頸壺	(14.0)			口縁部1/10	暗灰茶色	細砂粒やや少ない。	やや良	
59	174	SX100	弥生土器	細頸壺	(8.0)			口縁部細片	[illegible]褐色	1~2mmの砂粒やや多い。	やや良	弥生前期（肥厚系?）
59	175	SX100	弥生土器	細頸壺	(8.0)			口縁部1/5	灰黄褐	1~2mmの砂粒少量。	ほぼ良	弥生前期（肥厚系?）
59	176	SX100	弥生土器	二重口縁壺	14.3			口縁部のみ	暗灰茶色	1~2mmの砂粒。	ほぼ良	弥生後期終末（高三潴式）
58	177	SX100	弥生土器	口縁壺?				胴部細片	暗赤茶色	1~2mmの砂粒。角閃石。	良	弥生中期?
59	178	SX100	弥生土器	壺				胴部細片	暗灰茶色	砂粒少量。	ほぼ良	弥生前期（肥後系 ）?
59	179	SX100	弥生土器	壺				胴部1/4	灰褐色	砂粒少量。金雲母。	やや不良	
59	180	SX1	弥生土器	壺				胴部細片	淡茶褐色	細砂粒少量。	やや良	
59	181	SX100	弥生土器	壺				胴部[illegible]	淡灰茶色	砂粒少ない。	やや良	
59	182	SX100	弥生土器	壺				胴部細片	淡黄灰色	細砂粒。	やや良	
59	183	SX100	弥生土器	壺				胴部細片	淡灰褐色	細砂粒少量。	やや良	
60	184	SX100	弥生土器	壺				胴部細片	淡茶褐色	砂粒。	ほぼ良	外面丹塗り。Fig 58-162と同一?
60	185	SX100	弥生土器	壺				胴部細片	灰褐色	1~2mm 砂粒やや多い。角閃石。	やや良	
60	186	SX100	弥生土器	壺				胴部細片	灰赤褐色	砂粒少量の砂	ほぼ良	弥生前期。胴体まで丹塗り。
60	187	SX100	弥生土器	壺		(18.6)		底部1/3	明黄褐色/黄褐色	砂粒。	不良	
60	188	SX1 00	弥生土器	壺		(7.5)		底部のみ	灰黄茶色	細砂粒、角閃石。	やや良	
60	189	SX100	弥生土器	壺		7.8		底部のみ	淡灰茶色	細砂粒。	やや不良	
60	190	SX 00	弥生土器	壺		(8.0)		底部1/2	淡茶褐色	砂粒少量。赤色粒子。	ほぼ良	
60	191	100	弥生土器	壺		(10.0)		底部1/5	灰 色	砂粒やや多い。	やや良	
60	192	SX100	弥生土器	壺		6.8		底部のみ	灰褐色	1~2mmの砂粒やや多い。金雲母。	やや不良	
60	193	SX100	弥生土器	壺		6.2		底部のみ	淡茶褐色	細砂粒やや少ない。	やや良	
60	194	SX100	弥生土器	壺		(7.0)		底部1/3	暗灰黄色	1 mmの砂粒やや多い。	ほぼ良	
60	195	SX100	弥生土器	壺		6.8		底部のみ	灰褐色	砂粒多い。角閃石。	やや不良	
60	196	SX100	弥生土器	壺		(8.6)		底部1/4	暗褐色	細砂粒、角閃石。	やや良	
60	197	SX100	弥生土器	壺		5.0		底部のみ	淡黄灰色	1~2mmの砂粒多い。	やや不良	
60	198	SX100	弥生土器	壺		5.8		底部のみ	赤茶色	1~2mmの砂粒多い。角閃石。	やや良	
60	199	SX100	弥生土器	壺		(8.0)		底部1/2	茶褐色	細砂粒、雲母。	やや良	外面丹塗り
60	200	SX100	弥生土器	壺		(0.0)		底部1/4	明褐褐色	細砂粒少量。	やや不良	
60	201	SX100	弥生土器	壺		(7.0)		底部1/4	赤褐色	細砂粒やや多い。	ほぼ良	
60	202	SX100	弥生土器	壺		(10.0)		底部のみ	褐色/灰黒色	1~2mmの砂粒やや少なく、 石多い。	ほぼ良	底部穿孔1ヶ所
60	203	SX	弥生土器	壺		(9.6)		底部1/2	赤褐色	細砂粒。角閃	やや良	
60	204	SX 00	弥生土器	壺		(9.6)		底部1/2	茶褐色	1~3mmの砂粒。	ほぼ良	内面剥離
60	205	100	弥生土器	壺		(11.0)		底部1/3	黄灰色	細砂粒やや少ない。	やや良	
60	206	SX100	弥生土器	甕		9.0		底部のみ	灰黄茶色	1mmの砂粒やや多い。	やや良	
60	207	SX100	弥生土器	甕		(4.0)		下半部1/2	灰茶色	砂粒含まず。	やや良	弥生前期末~中期初頭
61	208	SX100	弥生土器	甕		9.4		下半部1/2	暗灰褐色	1~2mmの砂粒やや多い。	やや良	弥生後期
61	209	SX100	弥生土器	甕		(9.0)		底部1/3	淡灰黄色	細砂粒、角閃石。	やや良	弥生後期
61	210	SX 00	弥生土器	甕		7.0		底部のみ	灰茶色~明赤茶色	1 の砂粒多い。角閃石。	やや良	外面一部に煤付着
61	211	SX100	弥生土器	甕		(6.0)		底部1/3	暗茶褐色	1~2mmの砂粒少量。角閃石。	やや良	底部焼成後穿孔
61	212	SX100	弥生土器	甕		(7.0)		底部1/4	淡茶褐色	1~2mmの砂粒やや少ない。	やや良	
61	213	00	弥生土器	甕		(6.0)		底部1/3	暗灰茶色	1~3mmの砂粒やや多い。	ほぼ良	
61	214	SX100	弥生土器	甕	(27.4)			口縁部1/8	黄灰色	1~2mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
61	215	SX100	弥生土器	甕	(26.2)			口縁部1/15	黄灰色	2~3mmの砂粒多く、雲母少ない。	やや良	弥生中期前半（城ノ越式
61	216	SX100	弥生土器	甕				口縁部細片	黄灰色	~2mmの砂粒多い。	良好	弥生前期前半（亀ノ タイプ）
61	217	SX100	弥生土器	甕				口縁部細片	淡褐色	1~2mmの砂、雲母、角閃石多い。	不良	弥生前期後半（亀ノ甲タイプ）
61	218	SX100	弥生土器	甕				口縁部細片	赤黒色/赤褐色	1~2mmの砂粒多い。	やや良	弥 前期後半（亀ノ甲タイプ）
61	219	SX100	弥生土器	甕	(32.0)			口縁部1/6	黒 褐色	1~3mmの砂粒、角閃石多く、赤色粒子少ない。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
61	220	SX100	弥生土器	甕	(29.4)			口縁部1/6	黄灰色	1~2mmの砂粒多く、赤色粒子 ない。	やや良	弥生中期前半（城ノ越式）
61	221	SX100	弥生土器	甕	(34.0)			口縁部1/8	褐色	.5~1mmの砂多量。 雲母多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
61	222	SX100	弥生土器	甕	(34.2)			口縁部1/8	黄灰色/褐色	0.5~1mmの砂多く、雲母少ない。	良好	弥生中期前半（城 越式）
61	223	SX100	弥生土器	甕				口縁部細片	明黄茶色/黄 色	mmの砂粒、雲母多い。	良好	弥生前期後半~中期前半（亀ノ甲 イプ）
61	224	SX100	弥生土器	甕	(20.2)			口縁部1/8	暗茶色/灰褐色	1~2mmの砂粒多し。	良好	弥 前期後半~中期前半 亀ノ甲タイプ）
61	225	SX100	弥生土器	甕	(32.8)			口縁部1/8	灰褐色/黒 色	1~ mmの砂多く、雲母、赤色 子少ない。	良好	弥生前期後半~中期前半（亀 甲 イプ）
61	226	SX100	弥生土器	甕	(30.1)			口縁部1/8	黄灰~黒褐色/黄褐色	1~ mmの砂粒、雲母 く、赤色 子少ない。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
61	227	SX100	弥生土器	甕	(26.6)			口縁部1/10	黄土色/褐色	1mm大の砂粒。雲母多い。	良好	生中期前半（亀ノ甲タイプ）
61	228	SX100	弥生土器	壺	(28.0)			口縁部1/8	黄灰色/暗褐色	1~2mmの砂粒。雲母多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
61	229	SX100	弥生土器	甕	(22.1)			口縁部1/8	黄灰色	1mm大の砂粒を僅かに含む。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
61	230	SX100	弥生土器	甕	(20.4)			口縁部1/8	赤褐色/灰黄褐色	1mm大の砂粒多い。	良好	弥 中期前半（亀ノ甲タイプ）
62	231	SX100	弥生土器	壺	(24.0)			口縁部1/10	茶色/黄灰色	1mm大の砂粒。雲母多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
62	232	SX100	弥生土器	甕	(32.2)			口縁部1/8	黄灰色	0.5~1mmの砂粒多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
62	233	SX100	弥生土器	甕	(28.2)			口縁部1/8	黄土~灰黄色/黄灰~褐色	1~2mmの砂粒多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
62	234	SX100	弥生土器	壺	(32.4)			口縁部1/15	黄灰～茶灰色／茶灰色	0.5～1mm の砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
62	235	SX100	弥生土器	壺	(29.4)			口縁部1/10	淡黄橙色	1～2mmの砂粒多い。	やや良	弥生前期後半～中期前半（亀ノ甲タイプ）
62	236	SX100	弥生土器	壺	(28.0)			口縁部1/8	赤橙色	0.5mmの砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
62	237	SX100	弥生土器	壺	(29.6)			口縁部1/10	黒	2～3mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
62	238	SX100	弥生土器	壺	(33.4)			口縁部1/8	黄灰色／橙色	1mm 大の砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
62	239	SX100	弥生土器	壺	(27.0)			口縁部1/10	黄灰色／淡橙～黄灰色	1～2mmの砂粒多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
62	240	SX100	弥生土器	壺	(25.6)			口縁部1/15	茶灰色／橙灰色	0.5～2mmの砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
62	241	SX100	弥生土器	壺	(35.2)			口縁部1/8	黄灰色／暗灰色	1mm の砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）、煮炊き痕。
62	242	SX100	弥生土器	壺	(34.2)			口縁部1/8	黄橙色／暗灰～黒灰色	1mm 大の砂粒少し。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
62	243	SX100	弥生土器	壺	(35.8)			口縁部1/8	淡赤橙色／灰～黒灰色	1～2mmの砂粒多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
62	244	SX100	弥生土器	壺	(35.6)			口縁部1/6	黄灰～淡橙色	1～2mmの砂粒、赤色粒子多く、雲母少ない。	やや良	弥生中期前半（城ノ越式）
62	245	SX100	弥生土器	壺	(32.4)			口縁部1/8	丹塗り	0.5～1mmの砂粒少し。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）、全面丹塗り
62	246	SX100	弥生土器	壺	(45.2)			口縁部1/15	灰茶色／黄灰色	1～2mmの砂粒多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
63	247	SX100	弥生土器	壺	(29.8)			口縁部1/8	茶灰色／黄灰色	1～2mmの砂粒多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
63	248	SX100	弥生土器	壺	(35.4)			口縁部1/20	灰茶色／橙色	0.5～1mmの砂粒多い。	良好	弥生中期中頃（須玖Ⅰ式）
63	249	SX100	弥生土器	壺	(27.8)			口縁部1/8	暗黄灰色／茶灰色	1mm大の砂粒少し。	良好	弥生中期中頃（須玖Ⅰ式）？
63	250	SX100	弥生土器	壺	(28.0)			口縁部1/10	暗灰茶色／明黄灰色	1mm大の砂粒多い。	良好	弥生中期中頃（須玖Ⅰ式）
63	251	SX100	弥生土器	壺	(28.6)			口縁部1/10	橙色	1mmの砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期中頃（須玖Ⅰ式）
63	252	SX100	弥生土器	壺	(22.2)			口縁部1/4	暗褐色～赤橙色	1mmの砂粒、赤色粒子多く、雲母少ない。	良好	弥生中期中頃（須玖Ⅰ式）？
63	253	SX100	弥生土器	壺	(26.0)			口縁部1/6	黄灰色	1mmの砂粒少なく、雲母多い。	良好	弥生中期中頃（須玖Ⅰ式）？
63	254	SX100	弥生土器	壺	(27.0)			口縁部1/8	黄灰色	1～2mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生中期中頃（須玖Ⅰ式）
63	255	SX100	弥生土器	壺	(21.0)			口縁部1/6	淡赤橙色	1～2mmの砂粒少なく、雲母多い。	良好	弥生中期中頃（須玖Ⅰ式）？
63	256	SX100	弥生土器	壺	(27.8)			口縁部1/8	丹塗り／にぶい黄色	雲母、角閃石多い。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）、外面丹塗り
63	257	SX100	弥生土器	壺	(29.0)			口縁部1/8	赤橙色	1～2mmの砂粒、雲母、角閃石少なく、白色粒子多い。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）？
63	258	SX100	弥生土器	壺	(21.4)			口縁部1/10	暗茶灰色／茶灰色	1mm大の砂粒多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
63	259	SX100	弥生土器	壺	(27.6)			口縁部1/8	黄灰色	1～2mmの砂粒少なく、雲母多い。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）？
63	260	SX100	弥生土器	壺	(24.1)			口縁部1/6	淡橙～黄灰色／淡橙色	1mmの砂粒、雲母多く、赤色粒子僅か。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）？
63	261	SX100	弥生土器	壺	(30.0)			口縁部1/12	橙色	赤色粒子少し。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）
63	262	SX100	弥生土器	壺	(35.4)			口縁部1/8	淡橙色	1mmの砂粒、赤色粒子少し。	不良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）
63	263	SX100	弥生土器	壺	(31.8)			口縁部1/6	黄灰色	0.5～1mmの砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）
63	264	SX100	弥生土器	壺	(30.6)			口縁部1/7	淡橙色	1～2mmの砂粒、雲母、赤色粒子多い。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）
63	265	SX100	弥生土器	壺	(28.0)			口縁部	黄灰色	1mmの砂粒多く、雲母少し、赤色粒子は僅か。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
63	266	SX100	弥生土器	壺	(31.0)			口縁部1/8	黄灰色	2～3mmの砂粒僅かで、雲母多い。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）
64	267	SX100	弥生土器	壺	(24.2)			口縁部1/10	黄灰色	1～2mmの砂粒、雲母少し。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）
64	268	SX100	弥生土器	壺	(19.2)			口縁部1/8	橙色	精良。	不良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）？
64	269	SX100	弥生土器	壺	(20.0)			口縁部1/8	黄灰色／暗灰色	1mmの砂粒少し。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）？
64	270	SX100	弥生土器	壺	(24.1)			口縁部1/8	黄灰色／淡橙～暗黄茶色	1mm の砂粒、雲母少し。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	271	SX100	弥生土器	壺	(30.0)			口縁部1/8	白黄色／明赤茶色	2mmの砂粒、角閃石多く、赤色粒子少し。	やや良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	272	SX100	弥生土器	壺	(30.0)			口縁部1/10	淡橙色／黄灰色	1mm 大の砂粒多い。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	273	SX100	弥生土器	壺	(25.0)			口縁部1/8	淡橙色／黄灰色	1mm の砂粒、雲母少し。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	274	SX100	弥生土器	壺	(30.2)			口縁部1/10	暗黄灰色	1mm の砂粒少し。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	275	SX100	弥生土器	壺	(30.4)			口縁部1/8	黄灰色	1～2mmの砂粒多く、赤色、黒色粒子少し。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）？
64	276	SX100	弥生土器	壺	(30.0)			口縁部1/8	黄灰色	1～2mm 大の砂粒多い。	やや良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	277	SX100	弥生土器	壺	(29.0)			口縁部1/8	淡橙色／暗赤橙色	1mm の砂粒、赤色粒子少し。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	278	SX100	弥生土器	壺	(29.6)			口縁部1/8	淡黄橙色	1mm の砂粒、赤色粒子多い。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	279	SX100	弥生土器	壺	(25.2)			口縁部1/8	黄灰色	1mm の砂粒少し。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	280	SX100	弥生土器	壺	(22.0)			口縁部1/6	黄灰色／橙色	1～2mmの砂粒、雲母、赤色粒子多い。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	281	SX100	弥生土器	壺	(31.0)			口縁部1/8	灰色／黄灰色	1～2mmの砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	282	SX100	弥生土器	壺	(27.2)			口縁部1/8	橙色	2mm大の砂粒多い。	やや良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式、口縁部反り上がり）
64	283	SX100	弥生土器	壺	(25.6)			口縁部1/6	明黄灰色／橙色	1mmの砂粒多い。	良好	弥生後期前半（肥後系）
64	284	SX100	弥生土器	壺	(28.8)			口縁部1/10	黄灰色／淡赤橙色	1～2mm大の砂粒多い。	良好	弥生後期前半（肥後系）
64	285	SX100	弥生土器	壺	(28.7)			口縁部1/8	黄灰色	1mmの砂粒少なく、雲母多い。	良好	弥生後期前半（肥後系）
64	286	SX100	弥生土器	壺	(23.2)			口縁部1/8	黄灰色／明灰～暗灰色	0.5mmの砂粒、雲母少し。	良好	
64	287	SX100	弥生土器	壺	(15.4)	(8.4)	11.4	2/3現存	橙色	雲母多い。	やや良	
65	288	SX100	弥生土器	壺	(37.1)			口縁部1/10	暗茶色／淡橙色	1mmの砂粒少なく、赤色粒子多い。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
65	289	SX100	弥生土器	壺	(31.2)			口縁部1/8	黄灰色／淡橙色	1mmの砂粒、赤色粒子多い。	良好	弥生後期中頃（下大隈式）
65	290	SX100	弥生土器	壺	(35.0)			口縁部1/10	褐色／黄灰色	1～2mmの砂粒多く、雲母、赤色粒子少ない。	良好	弥生後期中頃（下大隈式）
65	291	SX100	弥生土器	壺	(30.2)			口縁部1/8	黄橙色	1～3mm の砂粒、雲母、赤色粒子多い。	良好	弥生後期中頃（下大隈式）
65	292	SX100	弥生土器	壺	(38.2)			口縁部1/8	淡橙～黄灰色／淡橙色	0.5～1mm の砂粒多く、雲母多量。	良好	弥生後期中頃（下大隈式）
65	293	SX100	弥生土器	壺	(26.2)			口縁部1/15	橙色	1～2mmの砂粒多く、雲母、赤色粒子少ない。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
65	294	SX100	弥生土器	壺	(25.0)			口縁部1/2	淡橙色／黒灰色	1～2 mm の砂粒、角閃石多い。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
65	295	SX100	弥生土器	壺	(19.0)			口縁部1/5	黄橙色	1～2mm 大の砂粒多い。	やや良	弥生後期前半（高三潴式）
65	296	SX100	弥生土器	壺	(23.0)			口縁部1/4	淡橙色	1mm の砂粒、赤色粒子多く、角閃石少ない。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
65	297	SX100	弥生土器	壺	(22.2)			口縁部1/8	淡橙～黄灰／赤橙～黄灰	1mm の砂粒、雲母多い。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
65	298	SX100	弥生土器	壺	(20.6)			口縁部1/15	淡橙色	1～3mm の砂粒、雲母、赤色粒子多い。	やや良	弥生後期前半（高三潴式）
65	299	SX100	弥生土器	壺	(24.0)			1/3現存	黄灰色／淡黄茶色	1～2 mm 大の砂粒少ない。	良好	弥生後期中頃（下大隈式）
65	300	SX100	弥生土器	壺	(26.6)			口縁部1/4	灰茶色／黄灰色	1～2 mm の砂粒、雲母多い。	良好	弥生後期中頃（下大隈式）
66	301	SX100	弥生土器	壺	(33.5)			口縁部1/6	灰茶色	1～2 mm の砂粒、雲母多い。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
66	302	SX100	弥生土器	壺	(26.2)			口縁部1/4	灰茶色／黄灰色	2 mm の砂粒、雲母少ない。	良好	弥生後期中頃（下大隈式）
66	303	SX100	弥生土器	壺	(17.2)			口縁部1/8	淡橙色／褐色	1 mm の砂粒多く、赤色粒子少ない。	やや良	弥生後期前半（高三潴式）
66	304	SX100	弥生土器	壺	(18.6)			口縁部1/6	黄灰色	1～2 mm 大の砂粒多い。	やや良	弥生後期前半（高三潴式）
66	305	SX100	弥生土器	壺	(17.2)			口縁部1/6	褐色／黄灰色	1mm の砂粒多い。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
66	306	SX100	弥生土器	壺	(17.0)			口縁部1/6	黄灰色	2～3mmの砂粒、雲母、赤色粒子少ない。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
66	307	SX100	弥生土器	壺	(19.5)	(7.0)	19.5	3/4現存	明茶～暗茶／明茶～黄灰	2～3mm の砂粒、雲母多い。	良好	弥生後期前半（高三潴式）？
66	308	SX100	弥生土器	壺	(17.2)			口縁部1/3	黄灰色	1～2mm の砂粒少なく、雲母多い。	やや良	弥生後期前半（高三潴式）？
66	309	SX100	弥生土器	壺	(19.8)			口縁部1/8	黄灰色	0.5mm の砂粒少ない。	良好	弥生後期前半（高三潴式）？
66	310	SX100	古式土師器	壺	(16.4)		25.1	ほぼ完形	淡橙色	1～2mm の砂粒、赤色粒子少ない。	良好	古相

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
66	311	SX100	古式土師器	甕	(17.2)			口縁部1/3	橙色／橙～明灰色	1～3mmの砂粒多く、[illegible]、角閃石、赤色粒子少し。	良好	古相
66	312	SX100	古式土師器	甕	(17.0)			口縁部1/4	[illegible]～黒灰色／明灰色	2mmの砂粒多い。	良好	古相
66	313	SX100	古式土師器	甕	(15.5)			口縁部1/3	黄灰色	1mmの砂粒[illegible]かで、雲母多い。	良好	古相
66	314	SX100	古式土師器	甕	(17.4)			口縁部1/4	黄灰色	2mmの砂粒、赤色粒子多い。	良好	古相
66	315	SX100	古式土師器	甕	(16.6)			口縁部1/4	[illegible]色	1～2mm大の砂粒多い。	良好	古相～新相
66	316	SX100	古式土師器	甕	(12.4)			口縁部1/4	黄橙色／赤橙色	0.5～1mm大の砂粒多い。	良好	新相
66	317	SX100	古式土師器	甕	(16.3)			口縁部1/6	淡赤橙色／黄灰色	0.5～1mm大の砂粒、雲母、赤色粒子多い。	良好	新相
66	318	SX100	古式土師器	甕	(15.6)			口縁部1/4	[illegible]黄色	1～2mm大の砂粒多い。	良好	新相
66	319	SX100	古式土師器	[illegible]?	(12.8)			口縁部1/3	黄灰色／明灰色	1～2mmの砂粒少なく、雲母多い。	良好	
67	320	SX100	古式土師器	甕	(15.8)			口縁部1/3	[illegible]橙色／[illegible]～黄灰色	1mmの砂粒多く、雲母[illegible]か。	良好	新相
67	321	SX100	古式土師器	甕?	(14.6)			口縁部1/4	[illegible]黄色／黄[illegible]～明灰色	1～2mm大の砂粒多い。	良好	
67	322	SX100	弥生土器	甕		(7.4)		底部1/3	黄白色	1mmの砂粒、雲母多く、赤色粒子[illegible]か。	やや[illegible]	底部焼成後穿孔
67	323	SX100	弥生土器	甕		(5.8)		底部1/4	橙色／黄灰色	1～2mm大の砂粒多い。	良好	弥生中期
67	324	SX100	弥生土器	甕		8.1		底部4/5	黄灰～茶灰色	2～3mmの砂粒多量、雲母少ない。	不良	弥生中期
67	325	SX100	弥生土器	甕		5.8		底部のみ	黄灰色／黒	1mmの砂粒多く、雲母少し。	良好	底部[illegible]。弥生中期。
67	326	SX100	弥生土器	甕		6.7		底部のみ	黄灰色／[illegible]灰色	0.5～1mmの砂粒少なく、雲母多い。	良好	弥生中期
67	327	SX100	弥生土器	甕		(6.2)		底部のみ	黄灰～灰褐／黄灰～暗灰	2mmの砂粒多い。	良好	弥生中期
67	328	SX100	弥生土器	甕		(5.2)		底部のみ	黄灰色	1mmの砂粒多く、雲母多量。	良好	弥生中期
67	329	SX100	弥生土器	甕		(8.0)		底部1/2	黄灰色／橙色	2mmの砂粒多く、雲母、赤色粒子少ない。	良好	弥生中期
67	330	SX100	弥生土器	甕		8.7		底部のみ	淡橙色	1～2mmの砂粒多量、赤色粒子少ない。	良好	弥生中期
67	331	SX100	弥生土器	甕		6.9		底部のみ	黒灰色	1～2mmの砂粒多く、雲母少ない。	やや良	弥生中期
67	332	SX100	弥生土器	甕		6.4		底部のみ	淡橙色／黄灰色	1～2mmの砂粒多く、雲母、赤色粒子少ない。	良好	弥生中期
67	333	SX100	弥生土器	甕		6.8		底部のみ	淡橙色／黄灰色	1～2mmの砂粒多く、雲母、赤色粒子少ない。	良好	弥生中期
67	334	SX100	弥生土器	甕		6.0		底部のみ	赤茶色	1～2mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生中期
67	335	SX100	弥生土器	甕		5.5		底部のみ	黄灰色／淡茶色	1～2mmの砂粒、雲母多く、赤色粒子少ない。	良好	弥生中期
67	336	SX100	弥生土器	甕		6.4		底部のみ	黄橙～黄灰色	1mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生中期
67	337	SX100	弥生土器	甕		(6.7)		底部のみ	淡赤橙色／黄灰色	1～2mmの砂粒多量、雲母少ない。	良好	弥生中期
67	338	SX100	弥生土器	甕		5.0		底部1/2	黄灰色／橙色	1mmの砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期
67	339	SX100	弥生土器	甕		6.3		底部のみ	[illegible]茶色	0.5～1mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生中期
67	340	SX100	弥生土器	甕		5.7		底部のみ	淡橙色	1～2mmの砂粒多量、赤色粒子少ない。	良好	弥生中期
67	341	SX100	弥生土器	甕		5.2		底部のみ	黄灰色／暗茶色	1mmの砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期
67	342	SX100	弥生土器	甕		6.5		底部のみ	淡黄橙色／[illegible]黄灰色	0.5mmの砂粒、雲母多い。	良好	弥生中期
67	343	SX100	弥生土器	甕		8.1		底部のみ	黄灰色／黄橙色	0.5～1mmの砂粒多量、雲母少ない。	良好	弥生中期
67	344	SX100	弥生土器	甕		6.2		底部のみ	茶灰～黄灰色	1～2mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生中期
67	345	SX100	弥生土器	甕		5.6		底部のみ	淡黄橙色	1mmの砂粒多く、雲母少ない。	やや良	弥生中期
67	346	SX100	弥生土器	甕		5.2		底部のみ	橙色	1～2mmの砂粒多い。	良好	弥生中期
67	347	SX100	弥生土器	甕		5.5		底部のみ	黄灰色／[illegible]茶灰色	0.5～1mmの砂粒多く、雲母多量。	良好	弥生中期
67	348	SX100	弥生土器	甕		5.9		底部のみ	黄灰色	1mmの砂粒多く、雲母多量。	良好	弥生中期
67	349	SX100	弥生土器	脚付[illegible]		8.6		底部のみ	黄灰～淡橙色	1～2mmの砂粒多い。	良好	弥生後期（肥後系）。丹タレ有。
67	350	SX100	弥生土器	脚付[illegible]		9.6		底部1/2	[illegible]～黄灰色／[illegible]（[illegible]）	1～2mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生後期（肥後系）、脚付[illegible]。
67	351	SX100	弥生土器	脚付[illegible]		7.8		底部のみ	橙～黄灰色	1～2mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生後期（肥後系）
67	352	SX100	弥生土器	脚付[illegible]		10.2		底部1/2	黄灰色	1～2mmの砂粒、雲母多い。	良好	弥生後期（肥後系）
67	353	SX100	弥生土器	脚付[illegible]		(10.6)		[illegible]2/3	黄橙色	2mmの砂粒多量。	良好	弥生後期（肥後系）
67	354	SX100	弥生土器	甕		6.7		底部のみ	黄灰色	0.5～1mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生後期前半
67	355	SX100	弥生土器	壺		(8.4)		底部1/8	黄灰～淡茶色／黄灰色	1～2mmの砂粒多く、雲母[illegible]か。	良好	弥生後期中頃（下大隈式）？[illegible]。
67	356	SX100	弥生土器	甕		8.4		底部のみ	黄灰色／暗灰色	0.5～1mmの砂粒多く、雲母少なく、赤色粒子[illegible]か。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
67	357	SX100	弥生土器	甕		(6.4)		底部2/3	[illegible]～黄灰／[illegible]～暗灰	0.5～1mmの砂粒少なく、雲母多く、赤色粒子[illegible]か。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
67	358	SX100	弥生土器	甕		(8.6)		底部2/3	橙色／暗茶色	1～2mmの砂粒多量、雲母多い。	良好	弥生後期前半（高三潴式）
67	359	SX100	弥生土器	鉢	14.8			口縁部3/4	茶褐色	[illegible]砂粒含む。	良	
67	360	SX100	弥生土器	鉢		8.8		底部のみ	[illegible]褐色／黒灰色	[illegible]砂粒[illegible]少量。	ほぼ良	
67	361	SX100	弥生土器	鉢	8.5	3.0	4.0～4.8	完存	淡茶褐色	砂粒少量含む。	良	
67	362	SX100	弥生土器	鉢	(30.0)			口縁部1/2	黄灰色	1～2mmの砂粒多い。	良好	弥生後期
67	363	SX100	弥生土器	鉢	(19.8)			口縁部1/4	黄灰～淡橙色	1～2mmの砂粒多い。	良好	弥生後期
67	364	SX100	弥生土器	鉢	(34.0)			口縁部1/8	黄灰色	1～2mmの砂粒多く、雲母少ない。	良好	弥生後期（肥後系）
68	365	SX100	弥生土器	鉢	(16.7)			口縁部1/7	暗灰茶色	[illegible]砂粒少量、赤色粒子多い。	良	弥生後期
68	366	SX100	弥生土器	鉢	(14.0)			口縁部1/3	黒色	砂粒少ない。	良	弥生後期
68	367	SX100	弥生土器	鉢	(17.0)			口縁部1/6	淡茶褐色	[illegible]砂粒、角閃石。	やや良	弥生後期
68	368	SX100	弥生土器	鉢	(15.8)	(6.6)	6.4	1/6残存	淡茶褐色	砂粒、赤色粒子含む。	不良	弥生後期
68	369	SX100	弥生土器	鉢	(24.0)			口縁部1/12	暗茶褐色	[illegible]砂粒やや少ない。	良	弥生後期
68	370	SX100	弥生土器	鉢		(5.0)		底部1/4	淡黒灰色	砂粒ほとんど含まず。雲母片。	ほぼ良	
68	371	SX100	弥生土器	鉢	(17.0)			口縁部1/4	[illegible]茶褐色／黒色	1～5mmの砂粒、角閃石多い。	やや良	
68	372	SX100	弥生土器	鉢	(14.8)		5.7	1/5残存	[illegible]茶褐色	[illegible]砂粒含む。	やや不良	
68	373	SX100	弥生土器	鉢	(19.0)		6.8	1/6残存	[illegible]茶褐色	砂粒、角閃石多い。	やや不良	
68	374	SX100	弥生土器	鉢	9.5		4.9	完存	淡灰茶色	1～3mmの砂粒やや多い。	良	
68	375	SX100	弥生土器	鉢	8.8		3.0	完存	[illegible]灰茶色	[illegible]砂粒含む。	やや良	
68	376	SX100	弥生土器	鉢	(11.0)		(2.4)	1/6残存	[illegible]灰色	砂粒少ない。	やや良	
68	377	SX100	弥生土器?	鉢	12.8		3.5	4/5残存	暗淡褐色	[illegible]砂粒含む。	やや不良	
68	378	SX100	弥生土器	脚付鉢	11.4			口縁一[illegible]、[illegible]部欠[illegible]	淡灰茶色	砂粒少量含む。	ほぼ良	
68	379	SX100	弥生土器	鉢	(15.6)		(5.4)	口縁部1/8	淡灰茶色	[illegible]砂粒少量、[illegible]片。	やや良	
68	380	SX100	弥生土器	鉢				[illegible]部1/4	淡茶褐色	[illegible]含む。	やや不良	
68	381	SX100	土師器	皿	(13.0)		6.7	1/3残存	淡茶褐色	[illegible]。	良	
68	382	SX100	土師器	坏	(14.0)			口縁部1/8	淡褐～灰茶色	砂粒ほとんど含まず。	不良	
68	383	SX100	土師器	坏	(13.0)		(8.6)	1/2残存	淡灰茶色	[illegible]粒含む。	やや良	
68	384	SX100	土師器	坏	(14.0)			口縁部1/6	[illegible]茶褐色	[illegible]。	良	
68	385	SX100	土師器	坏	(9.0)			上半部1/4	[illegible]灰茶色	[illegible]。	ほぼ良	
68	386	SX100	土師器	坏				口縁部[illegible]片	[illegible]灰茶色	[illegible]砂粒[illegible]か。	ほぼ良	
68	387	SX100	弥生土器	[illegible]				口縁部[illegible]片	淡灰茶色	[illegible]。	やや良	弥生中期

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
69	388	SX100	弥生土器	高坏	(26.0)			口縁部1/8	暗茶褐色	細砂粒少量含む。	ほぼ良	弥生中期。全面丹塗り。
69	389	SX100	弥生土器	高坏	(29.0)			口縁部1/8	明赤褐色	精選。	やや不良	弥生中期。口縁部線文、部分丹塗り残る。
69	390	SX100	弥生土器	高坏				坏部細片	橙赤色	1～2mm大の砂粒やや多い。	やや良	弥生中期。全面丹塗り（厚く塗布）。
69	391	SX100	弥生土器	高坏	(28.0)			口縁部1/10	淡灰茶色	細砂粒含む。角閃石少量。	やや良	弥生中期。
69	392	SX100	弥生土器	高坏	(26.0)			口縁部1/10	赤茶色	細砂粒、角閃石、赤色粒子。	不良	弥生中期。
69	393	SX100	弥生土器	高坏		20.0		脚部のみ	淡灰茶色	細砂粒少量含む。	やや良	外面丹塗り。
69	394	SX100	弥生土器	高坏	(27.0)			3/4現存	暗灰茶色	1～5mmの砂粒。	やや良	弥生後期。
69	395	SX100	弥生土器	高坏		16.0		脚部2/3	淡灰茶色	細砂粒やや多い。角閃石。	やや良	弥生後期。外面丹塗り。
69	396	SX100	弥生土器	高坏		16.4		脚部2/3	淡灰茶色	細砂粒少量。	やや良	
69	397	SX100	弥生土器	高坏				軸部のみ	淡茶褐色	細砂粒少量含む。	ほぼ良	外面黒色顔料？
69	398	SX100	弥生土器	高坏				軸部のみ	淡茶褐色	細砂粒やや多い。	やや良	
69	399	SX100	弥生土器	高坏		(15.4)		脚部1/3	茶褐色	精選。赤色粒子。	やや良	
69	398	SX100	弥生土器	高坏				軸部のみ	茶褐色	細砂粒やや多い。	良	
69	401	SX100	弥生土器	高坏		12.2		脚部のみ	灰茶色	細砂粒やや多い。	やや不良	
69	402	SX100	弥生土器	高坏				軸部のみ	暗灰茶色	精選。	ほぼ良	
69	403	SX100	弥生土器	高坏				軸部のみ	淡茶褐色	細砂粒含む。	ほぼ良	外面、坏内面丹塗り。
69	404	SX100	弥生土器	高坏		(18.0)		脚部のみ	茶褐色	細砂粒やや少なく含む。	やや不良	
69	405	SX100	弥生土器	高坏		(20.0)		脚部1/5	淡茶褐色	砂粒少量。角閃石。	やや不良	
69	406	SX100	弥生土器	壷	(5.2)			つまみ部分のみ	明茶褐色	微細粒含む。	ほぼ良	
69	407	SX100	弥生土器	壷	5.6			つまみ部分のみ	淡茶褐色	砂粒少ない。角閃石。	ほぼ良	
69	408	SX100	弥生土器	壷	4.8			つまみ部分のみ	暗紫褐色	細砂粒やや多い。角閃石。	やや良	
69	409	SX100	弥生土器	壷	5.7			つまみ部分のみ	淡茶褐色	細砂粒少量。角閃石。	ほぼ良	
69	410	SX100	弥生土器	壷	6.4			つまみ部分のみ	淡灰茶色／淡黒灰色	細砂粒やや多い。	やや不良	
69	411	SX100	弥生土器	壷	5.5			つまみ部分のみ	淡茶褐色	細砂粒多い。角閃石。	やや良	
69	412	SX100	弥生土器	壷	(4.0)			つまみ部分のみ	淡茶褐色	細砂粒やや少ない。	やや良	
69	413	SX100	弥生土器	壷	4.7			つまみ部分のみ	淡灰茶色／黒灰色	細砂粒含む。	やや良	
69	414	SX100	弥生土器	壷	4.9			つまみ部分のみ	淡灰褐色／黒灰色	細砂粒やや少ない。	ほぼ良	
69	415	SX100	弥生土器	壷	3.8			つまみ部分のみ	暗茶褐色	砂粒やや多い。角閃石。	やや良	
70	416	SX100	弥生土器	壷	5.2			つまみ部分のみ	淡灰茶色／黒灰色	細砂粒含む。	ほぼ良	
70	417	SX100	弥生土器	壷	5.5			つまみ部分のみ	淡灰茶色	細砂粒やや多い。	やや不良	
70	418	SX100	弥生土器	壷	(4.6)			つまみ部分のみ	淡茶褐色／黒灰色	細砂粒やや多い。	やや良	
70	419	SX100	弥生土器	壷	7.4			つまみ部分のみ	茶褐色	砂粒やや多い。	良	
70	420	SX100	弥生土器	壷		(30.0)		裾部1/5	茶褐色	細砂粒やや多い。	不良	
70	421	SX100	弥生土器	壷		(30.0)		裾部1/8	茶褐色	細砂粒少量。	ほぼ良	
70	422	SX100	弥生土器	器台	8.8	9.3	12.7	一部欠損	茶褐色	細砂粒含む。	良	弥生中期
70	423	SX100	弥生土器	器台	8.8	(9.4)	12.6	下半部1/2欠損	灰茶色	細砂粒含むがほぼ良。角閃石。	ほぼ良	弥生中期
70	424	SX100	弥生土器	器台	(10.8)	(10.8)	13.2	1/4現存	明茶褐色	細砂粒含む。	やや良	弥生中期
70	425	SX100	弥生土器	器台	9.4	(10.0)	12.5	裾部1/3欠損	明茶褐色	細砂粒含むが良。	良好	弥生中期
70	426	SX100	弥生土器	器台	(9.7)	10.0	12.5	上半部1/6現存	暗灰茶色	細砂粒含むがほぼ良。	良	弥生中期
70	427	SX100	弥生土器	器台	(12.8)	13.0	15.6	1/2現存	淡茶褐色	砂粒少量含む。	不良	弥生中期
70	428	SX100	弥生土器	器台	(10.4)			上半1/3	淡灰茶色	砂粒少ない。	ほぼ良	弥生中期
70	429	SX100	弥生土器	器台	(9.4)			上半1/3	明茶褐色	細砂粒少量含む。	良好	弥生中期
70	430	SX100	弥生土器	器台		(9.4)		下半1/2	淡灰茶色	細砂粒少量含む。	良好	弥生中期
70	431	SX100	弥生土器	器台		(9.6)		下半1/2	淡灰茶色	細砂粒、角閃石。	やや不良	弥生中期
70	432	SX100	弥生土器	器台		(11.0)		下半1/2	暗灰茶色	細砂粒少量含む。	良好	弥生中期
70	433	SX100	弥生土器	器台		9.8		下半部	淡灰茶色	細砂粒含む。	ほぼ良	弥生中期
70	434	SX100	弥生土器	器台	(11.0)			上半部1/3	淡茶褐色	細砂粒、角閃石。	やや不良	弥生中期
70	435	SX100	弥生土器	器台	(10.6)			上半部1/3	淡茶褐色	細砂粒少量。	ほぼ良	弥生後期
70	436	SX100	弥生土器	器台	12.5	14.8	16.1～16.7	ほぼ完存	淡赤茶～淡茶褐色	細砂粒多く含む。	良	弥生後期
70	437	SX100	弥生土器	器台	(14.0)			上半部1/3	淡灰茶色	砂粒少ない。良。	良	弥生後期
70	438	SX100	弥生土器	大型壷（甕）	(30.7)			口縁部細片	黄灰色	雲母多い。	良好	
70	439	SX100	弥生土器	大型壷（甕）	(34.8)			口縁部細片	暗黄灰色	1mmの砂粒、雲母多い。	良好	
70	440	SX100	弥生土器	大型壷（甕）	(37.6)			口縁部細片	黄灰色	3mmの砂粒、雲母多い。	良好	
70	441	SX100	弥生土器	大型壷（甕）				口縁部細片	黄灰色	雲母少ない。	良好	
70	442	SX100	弥生土器	大型壷（甕）				口縁部細片	橙～黄灰色	2mmの砂粒、雲母多い。	良好	
70	443	SX100	弥生土器	大型壷（甕）		(17.2)		底部細片	黒／黄灰～灰色	1～2mmの砂粒、雲母多い。	良好	
71	444	SX100	弥生土器	大型壷（甕）				胴部細片	黄灰色／橙色	1～2mmの砂粒、雲母少ない。	良好	
71	445	SX100	弥生土器	小壷				胴部細片	茶褐色	1～3mmの砂粒少量。	ほぼ良	弥生中期前半？表面線刻。
71	446	SX100	弥生？					胴部細片	淡茶褐色	細砂粒含む。	やや良	SD130-98と同時期？
71	447	SX100	弥生土器	無頸壷？	(5.6)			口縁部1/8	淡灰茶色	2mm大の砂粒少量含む。角閃石。	やや良	ミニチュア
71	448	SX100	弥生土器	無頸壷？	(3.4)			細片	淡灰茶色	微細粒。角閃石。	やや良	ミニチュア
71	449	SX100	弥生土器	鉢	(7.0)	(2.4)	3.2	1/4現存	明茶褐色	微細粒極少量。	やや良	ミニチュア
71	450	SX100	弥生土器	鉢	(6.0)	1.6	3.0	1/3現存	淡黒灰色	細砂粒やや多い。角閃石。	ほぼ良	ミニチュア
71	451	SX100	弥生土器	脚付鉢		(5.1)		底部のみ	黄灰色／暗黄灰色	1mmの砂粒、雲母少ない。	良好	ミニチュア
71	452	SX100	弥生土器	高坏？				軸部のみ	淡茶褐色	良。	ほぼ良	ミニチュア
71	453	SX100	弥生土器	皿？	5.5～	4.0～	1.3～2.0	1/2現存？	淡茶褐色～淡黒灰色	良。	良	ミニチュア
71	454	SX100	弥生土器	？				胴部細片	暗黒褐色	細砂粒やや多い。	ほぼ良	線刻
71	455	SX100	弥生土器	ジョッキ型	7.6	9.8	7.0	1/6現存	淡茶褐色	細砂粒やや少ない。	不良	
71	456	SX100	弥生土器	？				口縁部細片	淡茶褐色	細砂粒やや少ない。	やや不良	外面丹塗り
71	457	SX100	弥生土器	？				把手	黄灰色	1mmの砂粒、雲母多い。	良好	外面丹塗り
71	458	SX100	弥生土器	粘土塊					淡茶褐色	砂粒含まず。		
75	1	SD105Ⅰ層	弥生土器	壷				胴部細片	茶褐色	砂粒少ない。	ほぼ良	
75	2	SD105Ⅰ層	弥生土器	壷		7.0		底部のみ	灰褐色	砂粒少なく、やや良。	やや良	
75	3	SD105Ⅰ層	弥生土器	甕				口縁部細片	淡灰茶色	微細粒多い。	やや不良	弥生中期前半（須玖Ⅰ式）
75	4	SD105Ⅰ層	弥生土器	高坏	(20.4)			口縁部1/8	明赤褐色	細砂粒やや多い。	やや良	弥生後期前半
75	5	SD105Ⅲ層	弥生土器	甕	(24.0)			口縁部細片	淡灰褐色	細砂粒やや多い。	やや不良	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
75	6	SD105水口	弥生土器	甕				口縁部細片	黒灰色	細砂粒、角閃石少量含む。	ほぼ良	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）

					口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
						5.4		底部のみ	淡赤褐色	細砂粒やや多い。	やや不良	弥生中期
								口縁部細片	暗赤褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	やや良	
						(12.0)		底部細片	淡茶褐色	細砂粒含むが、やや良。	やや良	
								口縁部細片	淡黄茶色	細砂粒多い。	やや不良	弥生中期前半（城ノ越式）
								口縁部細片	淡赤褐色	1～2mmの砂粒やや多し	不良	弥生中期前半（城ノ越式）？
								口縁部細片	淡茶褐色	細砂粒含む	不良	弥生中期後半（須玖II式）？
												？
												反り上が
												プ）？
												須玖I式に近い
												イプ）
												イプ）？
												イプ）？
												イプ）
												イプ）
												縁反り上がり
												イプ）
												イプ）
										1～2mm大の砂粒やや少なく、ほぼ良。	ほぼ良	弥生前期後半（亀ノ甲タイプ）、仕上げ雑。
										1～3mmの砂粒多い。	不良	弥生前期後半（亀ノ甲タイプ）
										1mm大の砂粒やや多い。	良	弥生前期後半（亀ノ甲タイプ）
										砂粒やや少ない。	やや良	弥生中期前半（城ノ越式）
77	32	SX150 I 層	弥生土器	甕	(22.0)			口縁部細片	暗褐色	細砂粒少量。ほぼ良。	ほぼ良	弥生前期後半（亀ノ甲タイプ）
77	33	SX150 I 層	弥生土器	甕	(22.0)			口縁部1/8	灰茶色	細砂粒含むが、ほぼ良。	ほぼ良	弥生前期後半（亀ノ甲タイプ）？
77	34	SX150 I 層	弥生土器	甕	(24.0)			口縁部1/12	暗褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	やや良	弥生前期後半（亀ノ甲タイプ）
77	35	SX150 I 層	弥生土器	甕？	(29.0)			口縁部1/3	明茶褐色	1mm大の砂粒やや多い。	不良	弥生前期後半（亀ノ甲タイプ）
77	36	SX150 I 層	弥生土器	甕	(20.0)			口縁部1/3	暗褐色／淡茶褐色	1mm大の砂粒。	やや不良	弥生後期前半（高三瀦式）
77	37	SX150 I 層	弥生土器	甕		6.0		底部のみ	暗褐色／淡茶褐色	1～3mmの砂粒多い。	やや不良	
77	38	SX150 I 層	弥生土器	甕		7.0		底部のみ	淡茶褐～黄褐色	1～2mm大の砂粒多い。	不良	
77	39	SX150 I 層	弥生土器	甕		7.0		底部のみ	暗茶褐色	1mm大の砂粒少量、ほぼ良。	ほぼ良	
77	40	SX150 I 層	弥生土器	甕		(6.4)		底部1/2	淡褐色	細砂粒少量、ほぼ良。	良	
77	41	SX150 I 層	弥生土器	壺				胴部細片	灰褐色	1mm大の砂粒やや多い。	やや不良	
77	42	SX150 I 層	弥生土器	鉢	(8.0)	2.5	3.5	口縁部ほぼ欠損	淡茶褐色	砂粒少量、ほぼ良。	やや良	ミニチュア
77	43	SX150 I 層		紡錘車	5.7（幅）		0.9（厚み）	完存	灰茶色	微細砂粒少量、角閃石含む、良。	良	
78	45	SX150 II 層	弥生土器	壺	(48.0)			口縁部1/5	明茶褐色	砂粒少ない、ほぼ良。	ほぼ良	弥生前期、内側に突帯（中国地方系?）
78	46	SX150 II 層	弥生土器	甕	(27.0)			口縁部1/6	淡灰褐色	砂粒少なく、良。	良	弥生前期後半（板付II式）？
78	47	SX150 II 層	弥生土器	甕				口縁部細片	暗褐色／明茶褐色	微細粒、ほぼ良。	やや良	
78	48	SX150 II 層	弥生土器	高坏		(22.0)		脚部細片	淡茶褐色	微細粒、角閃石含む、やや良。	やや良	外面丹塗り
78	49	SX150底部直上	弥生土器	高坏		(8.0)		脚部細片	暗褐色	1～2mm大の砂粒やや多い。	やや良	
78	50	SX150	縄文土器	深鉢				胴部細片	淡灰茶色	細砂粒、角閃石多い。	やや良	縄文後期（鐘ヶ崎式）
78	51	SX150	縄文土器					細片	淡灰茶色	1～2mm大の砂粒多い。	やや良	縄文後期（鐘ヶ崎式）
78	52	SX150	縄文土器	壺	(16.0)			口縁部細片	淡茶褐色	精選。	良	縄文晩期？
78	53	SX150	弥生土器	壺				胴部細片	淡茶褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	ほぼ良	弥生前期後半（板付II式）
78	54	SX150	弥生土器	壺	(10.4)	6.3	18.0	2/3残存	茶褐色	精選。	良好	弥生前期後半、文様は角丸削具（高橋式？）
78	55	SX150	弥生土器	壺	(12.0)			口縁部1/4	淡乳茶色	細砂粒やや多い。	やや不良	弥生中期前半（城ノ越式）
78	56	SX150	弥生土器	甕	(11.6)			口縁部1/5	淡灰茶色	1～2mm大の砂粒少量、ほぼ良。	ほぼ良	弥生中期前半（城ノ越式）
78	57	SX150	弥生土器	甕	(17.0)			口縁部1/6	暗褐色	砂粒少量、ほぼ良。	良	弥生中期前半（城ノ越式）
78	58	SX150	弥生土器	甕	(10.0)			口縁部1/6	黒褐色	1～5mmの砂粒。	やや良	弥生中期前半（城ノ越式）
78	59	SX150	弥生土器	甕	(16.0)			口縁部1/8	淡茶褐色	砂粒少ない。	ほぼ良	弥生中期前半（城ノ越式）
78	60	SX150	弥生土器	甕	(23.0)			口縁部1/6	淡灰茶色	1～2mmの砂粒。	不良	弥生中期前半（城ノ越式）
78	61	SX150	弥生土器	甕				口縁部細片	暗褐色	砂粒、雲母片含む。	やや良	弥生中期前半（城ノ越式）
78	62	SX150	弥生土器	甕				口縁部細片	黒褐色	砂粒少ない。	ほぼ良	
78	63	SX150	弥生土器	無頸壺	(14.0)			口縁部1/8	淡黒灰色	砂粒少なく、良。	ほぼ良	口縁部穿孔
78	64	SX150	弥生土器	壺	(13.0)			口縁部1/8	暗茶褐色	砂粒少なく、やや良。	やや良	
78	65	SX150	弥生土器	甕	(16.0)			口縁部1/8	淡乳茶色	砂粒少ない。	不良	

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
79	66	SX150	弥生土器	壺	(38.0)			口縁部細片	淡灰茶色	1～3mmの砂粒含む。	不良	表面剥離
79	67	SX150	弥生土器	二重口縁壺	(16.0)			口縁部1/6	淡茶褐色	砂粒ほとんど含まず。良。	やや良	弥生後期。外来品？
79	68	SX150	弥生土器	壺		(4.0)		底部1/4	暗灰茶色	細砂粒。角閃石含む。	ほぼ良	
79	69	SX150	弥生土器	壺		7.6		底部のみ	淡灰褐色	砂粒やや多い。	不良	風化激しい
79	70	SX150	弥生土器	壺		7.2		底部のみ	黒褐色／黒色	砂粒少ない。角閃石含む。	ほぼ良	
79	71	SX150	弥生土器	壺		7.4		底部のみ	淡灰茶色	良	良	
79	72	SX150	弥生土器	壺		7.5		底部のみ	暗褐色	1～2mmの砂粒やや多い。	やや良	
79	73	SX150	弥生土器	壺		6.2		底部のみ	暗茶褐色	1～2mmの砂粒。	ほぼ良	
79	74	SX150	弥生土器	壺		10.0		底部のみ	灰茶色	1～5mmの砂粒。角閃石。	ほぼ良	内面剥離
79	75	SX150	弥生土器	壺		7.8		底部のみ	淡茶褐色	1～2mmの砂粒。	やや不良	
79	76	SX150	弥生土器	壺		(8.0)		底部1/5	黒灰色／淡茶褐色	砂粒多い。雲母片。	不良	
79	77	SX150	弥生土器	壺		7.0		底部のみ	淡灰茶色	砂粒少なく、良。	良	
79	78	SX150	弥生土器	壺		6.0		底部のみ	茶褐色	細砂粒やや多い。	やや良	
79	79	SX150	弥生土器	甕	(20.0)			上半部1/2	暗茶褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	良	弥生前期前半（夜臼式）
79	80	SX150	弥生土器	甕	(20.0)			口縁部細片	茶褐色	砂粒やや少なく、ほぼ良。角閃石。	ほぼ良	弥生前期後半（板付Ⅱ式）
79	81	SX150	弥生土器	甕	(28.0)			口縁部1/2	暗茶褐色	砂粒少量、ほぼ良。	ほぼ良	弥生前期後半（板付Ⅱ式）
79	82	SX150	弥生土器	甕	(24.0)			口縁部1/8	淡茶褐色	1～5mmの砂粒（一片岩の粒）少量。	ほぼ良	弥生前期後半（板付Ⅱ式）
79	83	SX150	弥生土器	甕	(18.0)			口縁部1/8	暗褐色	1～2mmの砂粒、雲母片、角閃石含む。	やや良	弥生前期後半～中期前半（板付Ⅱ～城ノ越式）
79	84	SX150	弥生土器	甕				口縁部細片	暗褐色	砂粒少ない。	ほぼ良	弥生前期後半（板付Ⅱ式）？
79	85	SX150	弥生土器	甕	(22.0)			口縁部1/10	暗褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	良	弥生前期後半～中期前半（亀ノ甲タイプ）
79	86	SX150	弥生土器	甕				口縁部細片	淡灰茶色	細砂粒含む。	やや良	弥生前期後半～中期前半（亀ノ甲タイプ）
79	87	SX150	弥生土器	甕				胴部細片	淡灰茶色	砂粒やや少ない。	ほぼ良	
79	88	SX150	弥生土器	甕				胴部細片	暗褐色／茶褐色	細砂粒やや少ない。	やや良	
79	89	SX150	弥生土器	甕	(42.0)			口縁部細片	暗茶褐色	細砂粒多い。	やや不良	弥生前期後半～中期前半（亀ノ甲タイプ）
79	90	SX150	弥生土器	甕	(20.0)			口縁部1/8	茶褐色	細砂粒多い。	やや不良	弥生前期後半～中期前半（亀ノ甲タイプ）
79	91	SX150	弥生土器	甕	(33.0)			口縁部細片	暗茶褐色	砂粒やや少ない。	ほぼ良	弥生前期後半～中期前半（亀ノ甲タイプ）
79	92	SX150	弥生土器	甕	(26.0)			口縁部1/7	茶褐色	細砂粒やや少ない。	やや良	弥生前期後半～中期前半（亀ノ甲タイプ）
80	93	SX150	弥生土器	甕	(22.0)			口縁部細片	淡灰茶色	砂粒少ない。ほぼ良。	やや不良	弥生前期後半～中期前半（亀ノ甲タイプ）
80	94	SX150	弥生土器	甕	(22.0)			口縁部1/5	茶褐色	1～3mmの砂粒やや多い。	良	弥生中期？
80	95	SX150	弥生土器	甕				口縁部細片	茶褐色	1mmの砂粒含む。	良	弥生前期後半～中期前半（亀ノ甲タイプ）
80	96	SX150	弥生土器	甕				口縁部細片	淡赤褐色	1mmの砂粒やや少ない。	良	弥生中期前半（城ノ越式）
80	97	SX150	弥生土器	甕				口縁部細片	淡灰茶色	微細砂粒含む。	やや不良	弥生中期前半（城ノ越式）
80	98	SX150	弥生土器	甕				口縁部細片	淡灰茶色	細砂粒やや多い。	不良	弥生中期前半（城ノ越式）
80	99	SX150	弥生土器	甕	(18.0)			口縁部1/4	暗茶褐色	細砂粒やや少ない。	ほぼ良	弥生後期前半（高三隅式）
80	100	SX150	弥生土器	甕	(22.0)			口縁部1/8	淡灰茶色	砂粒少ない。	やや良	弥生後期前半（高三隅式）
80	101	SX150	弥生土器	甕		8.6		底部のみ	明赤褐色	砂粒やや多い。	良	底部圧痕？
80	102	SX150	弥生土器	甕		(8.0)		底部1/4	淡灰褐色	細砂粒やや多い。	やや不良	
80	103	SX150	弥生土器	甕		(8.0)		底部1/4	茶褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	良	
80	104	SX150	弥生土器	甕		(8.4)		底部1/5	淡茶褐色	砂粒やや少ない。	良	
80	105	SX150	弥生土器	甕		(8.0)		底部1/4	灰褐色	砂粒やや少ない。	やや不良	
80	106	SX150	弥生土器	甕		(7.0)		底部1/5	灰茶色	砂粒少量。	ほぼ良	
80	107	SX150	弥生土器	甕		(7.0)		底部1/4	茶褐色	1～2mmの砂粒やや多い。	不良	
80	108	SX150	弥生土器	甕		8.5		下半部現存	暗茶褐色	1～5mmの砂粒。	ほぼ良	
80	109	SX150	弥生土器	甕		8.0		底部3/4	暗灰褐色	砂粒少なく、良。	良	全面ミガキ
80	110	SX150	弥生土器	甕		(8.4)		底部1/2	暗茶褐色	2mm大の砂粒やや多い。	良	
80	111	SX150	弥生土器	甕		6.2		底部のみ	淡茶褐色	細砂粒やや多い。	やや不良	
80	112	SX150	弥生土器	甕		6.3		底部のみ	淡赤褐色	細砂粒やや多い。	良	
80	113	SX150	弥生土器	甕		5.8		底部のみ	淡茶褐色	細砂粒含む。	ほぼ良	
80	114	SX150	弥生土器	甕		7.0		底部のみ	淡赤褐色	細砂粒やや多い。雲母片含む。	ほぼ良	
80	115	SX150	弥生土器	甕		7.8		底部のみ	茶褐色	細砂粒やや多い。角閃石少量。	良	
80	116	SX150	弥生土器	甕		6.2		底部のみ	淡灰茶色	1mmの砂粒やや多いが、ほぼ良。角閃石含む。	良	
80	117	SX150	弥生土器	甕		5.9		底部のみ	灰茶色	細砂粒多い。	やや不良	
80	118	SX150	弥生土器	甕		(6.2)		底部1/2	淡赤褐色	細砂粒やや多い。	やや良	
80	119	SX150	弥生土器	鉢？				口縁部細片	淡灰褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	ほぼ良	
80	120	SX150	弥生土器	高坏				口縁部細片	淡茶褐色	良。	やや不良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）
80	121	SX150	弥生土器	高坏	(24.0)			坏部1/2	明赤褐色	精選。	やや不良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）
80	122	SX150	弥生土器	高坏				軸部のみ	灰褐色	砂粒多い。	やや不良	
80	123	SX150	弥生土器	高坏？		(8.5)		脚部のみ	茶褐色	砂粒ごく僅か。良。	やや良	外面丹塗り痕。
80	124	SX150	弥生土器	高坏		(12.0)		脚部/14	灰褐色	細砂粒少量。良。	良	
81	125	SX150	弥生土器	蓋	(7.0)			つまみ部1/4	茶褐色	細砂粒やや多い。	良	
81	126	SX150	弥生土器	器台		(11.0)		底部1/4	淡黄褐色	微細砂粒含むが、ほぼ良。	やや良	
81	127	SX150	弥生土器	器台	(8.0)			受け部1/4	淡黄褐色	微細砂粒やや多い。	やや良	
81	128	SX150	弥生土器	手づくね鉢	(8.0)		2.6	1/2現存	灰茶褐色	砂粒含まず、良。	ほぼ良	ミニチュア
82	1	SP102	弥生土器	甕	(29.0)			口縁部1/8	茶褐色	細砂粒多い。	やや良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）口縁部反り上がり
82	2	SP102	弥生土器	甕				口縁部細片	茶褐色	細砂粒含む。	やや良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）口縁部反り上がり
82	3	SP106	弥生土器	甕				口縁部細片	淡茶褐色	微細砂粒含む。ほぼ良。	やや不良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）口縁部反り上がり
82	6	SP109	弥生土器	鉢				口縁部細片	淡灰茶色	微細砂粒赤色粒子多い。	やや不良	
82	7	SP154	弥生土器	甕	(19.0)			口縁部1/8	茶褐色	細砂粒やや多い。	ほぼ良	弥生中期中頃（須玖Ⅰ式）
82	8	SP154	弥生土器	甕				口縁部細片	淡灰茶色	細砂粒やや少ない。	やや不良	弥生中期前半（城ノ越式）
82	12	SP140c	弥生土器	甕	(24.0)			口縁部1/10	淡茶褐色	1mmの砂粒少量。角閃石。	良	弥生前期前半？（亀ノ甲タイプ）
83	15	SP140f	弥生土器	短頸壺	(13.0)			口縁部1/6	淡茶褐色	微細砂粒含むがほぼ良。	やや良	弥生中期。外面丹塗り。
83	16	SP140f	弥生土器	甕				口縁部細片	淡茶色	細砂粒多い。	やや不良	
84	19	SP198	弥生土器	壺	(18.0)			口縁部細片	淡灰褐色	細砂粒多い。角閃石。雲母片多い。	不良	
84	20	SP198	弥生土器	手づくね鉢	(9.0)		(3.6)	1/2現存	淡灰褐色	細砂粒含まず、良。	やや不良	ミニチュア
84	22	SP202	弥生土器	甕	(29.0)			口縁部1/8	淡灰褐色	砂粒やや少ない。	やや良	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
84	23	SP202	弥生土器	甕				口縁部細片	淡灰茶色	砂粒やや多い。	やや不良	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
84	24	SP202	弥生土器	鉢	(16.0)			口縁部1/8	淡灰茶色	細砂粒多い。	不良	

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
84	27	SP211	弥生土器	短頸壷	(12.4)			口縁部細片	淡茶褐色	砂粒多い。	やや不良	
84	28	SP211	弥生土器	壺		5.2		底部のみ	淡茶褐色	細砂粒、角閃石少量。	やや良	
84	29	SP211	弥生土器	鉢				口縁部細片	淡茶褐色	砂粒ごく少量。	やや不良	

Tab. 6 734-737工区出土石器一覧

(——は計測不能)

Fig.	No	遺構	種別		全長(cm)	全幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	石材	遺存度		備考
44	2	SD130 I層	砥石		(4.0)	(4.3)	3.3	92.8	砂岩	破片		4面に使用痕
47	94	SD130 II	敲石		5.3	3.0	2.7	65.7	安山岩	完存		
47	95	SD130	砥石		(5.0)	(3.4)	0.8	24.6	砂岩	破片		3面に使用痕
47	96	SD130	砥石		12.0	8.5	5.8	——	砂岩	ほぼ完存		4面に使用痕
53	75	SX100 III層	砥石		(8.4)	(6.8)	4.7	——	砂岩	破片		2面に使用痕
53	76	SX100 III層	有柄石剣		(7.4)	(3.4)	(0.81)	24.8	頁岩	基部~柄部		柄部両側に抉りあり
53	77	SX100 II層	石剣		(2.4)	(3.2)	(0.6)	3.1	頁岩	基部（剥離片）		上面2ケ所、下面に1ケ所の凹み
56	99	SX100黒色 上~下層	凹み石		8.8	9.2	5.3	——	安山岩	完存		
55	100	SX100黒色 上~下層	敲石		11.3	6.8	6.0	——	安山岩	完存		全面に煤付着
57	148	SX100黒色ベルト最下	スクレイパー		5.1	3.4	1.4	29.2	サヌカイト	完存?		
57	149	SX100黒色ベルト最下	二次加工剥片		6.1	3.5	1.2	28.5	サヌカイト	完存		
57	150	SX100黒色ベルト最下	砥石		(9.3)	(10.7)	11.7	——	玄武岩	破片		2面に使用痕
71	459	SX100	砥石		42.0	12.5	15.8	——	玄武岩	完存		3面に使用痕
72	460	SX100	石包丁		(9.5)	4.0	0.65	49.2	[illegible]	2/3残存		弥生中期後半~弥生後期前半
72	461	SX100	磨製石斧		(8.0)	(7.4)	(3.2)	——	安山岩	基部のみ		
72	462	SX100	石剣?		(7.8)	(3.5)	0.6	16.8	頁岩	先端部（摩滅著しい）		
72	463	SX100	石剣?		(2.9)	(3.8)	0.55	8.7	頁岩	先端部（摩滅著しい）		
72	464	SX100	片刃石斧		(2.9)	(7.2)	1.0	9.4	[illegible]	先端部細片		
78	3	SD106水口	砥石		16.0	7.2	5.0	——	砂岩	完存		2面に使用痕
77	44	SX150 I層	砥石		(6.8)	(7.0)	(2.8)	——	砂岩	破片		2面に使用痕
81	129	SX150	管玉		1.1	0.45~0.52		0.3	碧玉	風化著しい		色調は半透明の緑色。
81	130	SX150	石鏃		4.1	2.7	0.9	8.1	サヌカイト			未製品
81	131	SX150	二次加工剥片		(3.3)	2.4	1.2	9.7	サヌカイト	破片		
81	132	SX150	砥石		(8.0)	(5.7)	(3.2)	187.1	砂岩	破片		2面に使用痕
81	133	SX150	敲石?		9.7	5.0	3.4	——	安山岩	完存		叩き痕は弱い
81	134	SX150	石皿		9.0	7.1	3.4	277	安山岩	完存		
81	135	SX150	敲石?	磨り石?	(9.3)	(6.1)	(3.3)	——	安山岩	破片		両端部は叩き痕?上面は磨滅

Tab. 7 734-737工区出土木製品一覧

Fig.	No	遺構	種別	器種	全長(cm)	全幅(cm)	最厚(cm)	断面形	木材	遺存度		備考
41	2	SB350 P140d	建築部材	柱	(34.0)	14.5×12.6		多角形	ブナ科クリ属クリ	柱根のみ		周囲面取り、底部中央切り込み（組合式）
42	3	SB350 P206	建築部材	礎板	54.0	9.8	5.0	カマボコ状		完存		中央部両側切り込み（組合式）
42	4	SB350 P140d	建築部材	礎板	56.8	11.5	4.5	カマボコ状		完存		中央部両側切り込み（組合式）
42	5	SB350 P140e	建築部材	礎板	54.0	12.3	6.5	カマボコ状	クワ科クワ属	完存		中央部両側切り込み（組合式）
42	6	SB350 P218	建築部材	礎板	55.5	9.3	5.5	カマボコ状		ほぼ完形		中央部両側切り込み（組合式）
43	7	SB350 P214A	建築部材	主礎板	56.0	12.5	9.6	カマボコ状		完存		中央部3面切り込み（組合式）
44	8	SB350 P214B	建築部材	副礎板	50.0	7.5	3.5	カマボコ状		完存		
44	9	SB350 P214C	建築部材	副礎板	48.0	7.0	4.0	カマボコ状		完存		
44	10	SB350 P214D	建築部材	副礎板	56.0	7.5	7.0	円形（無加工）		完存		
47	93	SD130		杭	(21.0)	4.5		円形		先端部のみ		ほぼ炭化、先端加工は1面のみ
73	465	SX100		杭	(56.8)	5.4		円形		先端部のみ		先端加工は4面以上
73	466	SX100	建築部材?		(81.0)	(10.0)		円形				側面部に抉り有り
73	467	SX100	建築部材?		(56.8)	(5.8)						抉り有り
73	468	SX100	建築部材?		(68.0)	(17.3)		円形				抉り有り
74	469	SX100	什器	椀	(14.5)				イヌガヤ属イヌガヤ	1/4残存		椀か、皿
74	470	SX100		椰子?	3.0	1.9	2.1		椰（種子）	完存		両端切り、げっ歯類のかじりの可能性もあり
81	136	SX150		杭	(52.5)	6.3						ほぼ炭化
82	4	SP106	建築部材	柱	(29.0)	15.5		円形?	ブナ科クリ属クリ	柱根のみ		底面斜めに伐採
82	5	SP106	建築部材	礎板	8.0	3.8	2.4			残存		
82	9	SP140b	建築部材	礎板	52.5	11.0	6.5	カマボコ状	クワ科クワ属	完存		中央部両側切り込み（組合式）
82	10	SP140c	建築部材	柱	(28.5)	17.2			ブナ科クリ属クリ	柱根のみ		周囲面取り?底部中央切り込み（組合式）
82	11	SP140c	建築部材	礎板	50.0	12.0	8.0	カマボコ状		完存		中央部両側切り込み（組合式）
83	13	SP140e	建築部材	柱	(30.5)	16.5×14.6			ブナ科クリ属クリ	柱根のみ		周囲面取り?底部中央切り込み（組合式）
83	14	SP140e	建築部材	礎板	54.2	12.0	6.5	カマボコ状		完存		中央部両側切り込み（組合式）
83	17	SP140f	建築部材	礎板	54.3	12.5	7.7	カマボコ状	クワ科クワ属	完存		中央部両側切り込み（組合式）
83	18	SP147	建築部材	礎板	41.0	12.0	7.0	分厚い板状		完存		[illegible]
84	21	SP198	建築部材	礎板	46.5	11.7	5.5	カマボコ状		完存		中央部両側切り込み（組合式）
84	25	SP202	建築部材	礎板	56.5	12.0	5.0	カマボコ状	クワ科クワ属	完存		中央部3面切り込み（組合式）
84	26	SP203	建築部材	礎板	36.0	7.5	6.2	カマボコ状		完存		中央部両側切り込み（組合式）
84	30	SP217	建築部材	礎板	43.8	4.2				完存		自然木転用
84	31	SP219	建築部材	礎板	(27.5)	6.2		円形		約1/2		自然木の一面だけ切断

Tab. 8 737-738工区出土土器一覧

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
89	1	SE295	弥生土器	甕	(12.6)			口縁部1/4	淡茶褐色	1mm大の砂粒含む。	やや良	弥生後期後半（西新町式）
89	2	SE295	弥生土器	甕				口縁部細片	淡茶褐色	1mm大の砂粒やや少ない。	やや良	
89	3	SE295	弥生土器?	甕	(16.0)			口縁部1/6	暗茶褐色	細砂粒やや少なく。	やや良	弥生後期末期
89	4	SE295	弥生土器	甕		4.3		底部のみ	淡灰茶色	細砂粒少量。	やや良	弥生終末期
89	5	SE295	弥生土器	壺	(24.0)			口縁部1/8	橙褐色	1mm大の砂粒やや多い。	やや不良	弥生後期
89	6	SE295	弥生土器	壺				口縁部細片	淡茶褐色~黒灰色	細砂粒やや少ない。	不良	弥生終末
89	7	SE295	弥生土器	鉢				口縁部細片	淡灰茶色	細砂粒。	やや不良	弥生終末

Fig	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
89	8	SE296	古式土師器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	[illegible]少量。	やや良	
89	9	SE296	古式土師器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	[illegible]。角閃石含む。	やや不良	[illegible]
89	10	SE296	古式土師器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	[illegible]。	ほぼ良	
89	11	SE296	弥生土器	[illegible]		(7.3)		底部1/4	[illegible]色	[illegible]含む。	やや不良	[illegible]
89	12	SE296	弥生土器	高坏	(22.0)			口縁部細片	[illegible]色	[illegible]の[illegible]少量。赤色粒子。	やや不良	弥生[illegible]
89	13	SE296	土師器	高坏		(11.0)		底部1/8	[illegible]色	砂粒含まず。	ほぼ良	
89	14	SE296	土師器	[illegible]				[illegible]細片	[illegible]色	砂粒含まず。	ほぼ良	
89	15	SE296	土師器	[illegible]				[illegible]細片	[illegible]色	[illegible]少量。赤色粒子。	やや不良	
89	16	SE296	弥生土器	鉢	(12.0)			口縁部1/8	[illegible]色	[illegible]少量。	ほぼ良	[illegible]
89	17	SE296	弥生土器	手づくね鉢	(4.1)	4.0	4.0	[illegible]1/2欠損	[illegible]色	砂粒含まず。赤色粒子含む。	ほぼ良	[illegible]
90	1	SD275	弥生土器	[illegible]	(20.3)			口縁部1/8	[illegible]色	1～2mm大の砂粒	不良	
90	2		弥生土器	[illegible]				[illegible]1/8	[illegible]色	1mm大の砂粒。 [illegible]粒子。	やや良	[illegible]
90	3	SD275	弥生土器	[illegible]	(15.4)			口縁部1/8	[illegible]色	砂粒少量。 [illegible]	[illegible]	弥生終末（[illegible]式）
90	4	SD275	弥生土器	[illegible]	(18.0)			口縁部1/6	[illegible]色	[illegible]。 [illegible]多い。	やや不良	弥生終末（[illegible]式）。[illegible]
90	5	SD275	弥生土器	[illegible]	13.3			上半部1/7残存	[illegible]色	～2mm大の砂粒やや多い。	[illegible]	弥生終末 [illegible]式）
90	6	SD275	弥生土器	[illegible]		(7.0)		底部1/3	[illegible]色	[illegible]ない。赤色粒子含む。	ほぼ良	弥生[illegible]
90	7	SD275	弥生土器	大型壺？	(50.0)			口縁部1/6	[illegible]色	[illegible]の砂粒 [illegible]多いが、ほぼ良。	やや良	
90	8	SD275	弥生土器	大型壺	(56.0)			口縁部1/6	[illegible]色	[illegible]。[illegible]やや多い。	やや不良	二重口縁
90	9	SD275	弥生土器	大型壺？	(44.0)			口縁部1/6	[illegible]色	1～3mm [illegible]やや多い。角閃石。	ほぼ良	
90	10	SD275	弥生土器	大型壺？				口縁部細片	[illegible]色	[illegible]少量。赤色粒子。	やや良	
91	11	SD275	弥生土器	大型壺	(44.0)			口縁部1/8	[illegible]色	[illegible]多い。	ほぼ良	口[illegible]
91	12	SD275	弥生土器	大型壺				口縁部細片	[illegible]色	[illegible]多い。	ほぼ良	
91	13	SD275	弥生土器	大型壺				口縁部細片	[illegible]色	[illegible]やや多い。	不良	二[illegible]口縁
91	14	SD275	弥生土器	大型壺				口縁部細片	[illegible]色	[illegible]やや多し。	不良	[illegible]口縁
90	10	SD275	弥生土器	大型壺？				口縁部細片	[illegible]色／[illegible]色	[illegible]少量。	やや良	
91	16	SD275	弥生土器	小型壺	(6.2)			1/4残存	[illegible]色	砂粒少量。角閃石多い。	ほぼ良	
91	17	SD275	弥生土器	[illegible]	(22.0)			口縁部1/8	[illegible]色	[illegible]やや多い。	やや不良	中期前半（亀ノ甲タイプ）
91	18	SD275	弥生土器	[illegible]	(22.0)			口縁部1/6	[illegible]色	[illegible]やや少ない。	ほぼ良	弥生終末（[illegible]式）
91	19	SD275	弥生土器	[illegible]	(26.0)			口縁部1/8	[illegible]色	[illegible]粒子含む。	やや不良	弥生終末 [illegible]式）
91	20	SD275	弥生土器	[illegible]	(21.0)			口縁部1/10	[illegible]色	1～3mmの砂粒やや少なく含む。	やや良	弥生[illegible]
91	2	SD275	古式土師器	[illegible]	(17.0)			口縁部細片	[illegible]色	[illegible]少量。	ほぼ良	古相？ [illegible]
91	22	SD275	古式土師器	[illegible]	(17.0)		(27.0)	1/2残存	[illegible]色	[illegible]多い。	やや良	古相
91	23	SD275	古式土師器	[illegible]	(15.0)			口縁部1/4	[illegible]色	2mm大の砂粒や [illegible]多い。赤色粒子。	やや不良	[illegible]
91	24	SD275	古式土師器？	[illegible]	(23.0)			口縁部1/6	[illegible]色	[illegible]多い。角閃石。	やや不良	27と同一個体？
91	25	SD275	[illegible]	[illegible]		(6.2)		底部のみ	[illegible]色	[illegible]多い。	やや不良	
91	26	SD275	弥生土器	[illegible]		4.5		底部のみ	[illegible]色	1～[illegible]む。	ほぼ良	
91	27	SD275	弥生土器	[illegible]		(4.5)		底部のみ	[illegible]色／[illegible]色	[illegible]多い。角閃石。	やや不良	24と同一個体？弥生後期中頃（下大隈式）
91	28	SD275	弥生土器	大型壺				口縁部細片	[illegible]色／[illegible]色	[illegible]少量。	ほぼ良	
91	29	SD275	弥生土器	鉢	24.0		9.6	口縁部1/4欠損	[illegible]色	1～2mm大の砂粒多い。赤色粒子。	やや良	[illegible]
91	30	SD275	[illegible]	鉢				口縁部細片	[illegible]色	[illegible]。赤色粒子含む。	ほぼ良	[illegible]
91	31	SD275	弥生土器	鉢	11.7		12.4	口縁部一部欠損	[illegible]色	[illegible]。赤色粒やや多い。	ほぼ良	[illegible]
91	32	SD275	弥生土器	鉢		3.7		底部のみ	[illegible]色	[illegible]含む。	ほぼ良	[illegible]
91	33	SD275	土師器	高坏		(11.0)		脚部のみ	[illegible]色	[illegible]。	やや良	円形透かし3ケ所
92	1	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]		(6.0)		口縁部、[illegible]欠損	[illegible]色	[illegible]を多く含む。	良好	
92	2	SK265 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
92	3	SK265 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
92	4	SK265 [illegible]	弥生土器	[illegible]	(28.0)			口縁部1/6	[illegible]色	1mmの砂少ない。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
92	5	SK265 [illegible]	弥生土器	[illegible]	(13.2)			口縁部1/5	[illegible]色	0.5～1mmの砂多い。	良好	
92	6	SK265 [illegible]	弥生土器	[illegible]		(6.5)		底部1/3	[illegible]色	1mmの砂少なく、[illegible]か。	良好	
92	8	SK265 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色／[illegible]色	1mmの砂少なく、[illegible]か。	良好	[illegible]中[illegible]（亀ノ甲タイプ）
92	9	SK265 [illegible]	弥生土器	[illegible]	(27.2)			口縁部1/3	[illegible]色／[illegible]色	1mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
92	10	SK265	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色／[illegible]色	1～2mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
92	1	SK265	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1～2mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
92	12	SK265	弥生土器	[illegible]	(24.1)			口縁部1/6	[illegible]色／[illegible]色	1～2mmの砂多い。	良好	弥[illegible]期前半（[illegible]ノ甲タイプ）
92	13	SK265	弥生土器	[illegible]	(10.8)			口縁部1/6	[illegible]色	1～2mmの砂少ない。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
92	14	SK265	弥生土器	[illegible]		(6.8)		底部1/3	[illegible]色	[illegible]少ない。	良好	弥生中期
92	15	SK265	弥生土器	[illegible]		6.4		底部のみ	[illegible]色／[illegible]色	1mmの[illegible]多い。	良好	弥[illegible]中期
92	16	SK265	弥生土器	[illegible]		(6.2)		底部のみ	[illegible]～[illegible]色／[illegible]色	2～3mmの砂多い。	良好	弥生中期
93	1	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1mmの砂多い。	やや良	
93	2	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]		(8.5)		底部1/2	[illegible]～[illegible]／[illegible]～[illegible]	1mmの砂、[illegible]多い。	良好	
93	3	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1mmの砂、赤色粒子多い。	良好	弥[illegible]中期前半（亀ノ甲タイプ）
93	4	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1～3mmの砂多く、赤色粒子[illegible]か。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
93	5	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1mmの砂多い。	良好	[illegible]生中期前半（亀ノ甲タイプ）
93	6	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色／[illegible]色	1mmの砂多い。	良好	弥[illegible]期前半（亀ノ甲タイプ）
93	7	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1～2mmの砂多い。	良好	[illegible]期前半（亀ノ甲タイプ）
93	8	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1mmの砂多い。	良好	弥[illegible]中期前半（亀ノ甲タイプ）
93	9	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1～3mmの砂多く、赤色粒子少ない。	良好	弥生[illegible]期前半（[illegible]ノ[illegible]式）
93	10	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
93	1	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	[illegible]多い。	不良	[illegible]中期 [illegible]（[illegible]式）
93	1	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]		(6.0)		底部1/5	[illegible]色／[illegible]色	1mmの砂[illegible]多い。	良好	弥生中期
93	13	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]		6.2		底部のみ	[illegible]～[illegible]色／[illegible]色	1～2mmの[illegible]多い。	良好	弥[illegible]中期
93	14	SK264 [illegible]	弥生土器	鉢				口縁部細片	[illegible]色／[illegible]色	[illegible]。	やや良	[illegible]
93	15	SK264 [illegible]	弥生土器	鉢	11.4	(5.6)	(7.1)	1/3残存	[illegible]色／[illegible]色	1～2mmの[illegible]。	良好	
93	16	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]	(29.0)			口縁部細片	[illegible]色／[illegible]色	1mmの砂少ない。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
93	17	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]				口縁部細片	[illegible]色	1mmの砂多い。	良好	弥[illegible]期前半（亀ノ甲タイプ）
93	18	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]		(6.2)		底部1/2	[illegible]～[illegible]／[illegible]～[illegible]	1mmの砂、[illegible]多い。	良好	弥生中期
93	19	SK264 [illegible]	弥生土器	[illegible]		(6.4)		底部のみ	[illegible]／[illegible]～[illegible]	1mmの砂少ない。	良好	弥生中期

Fig	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)
93	20	SK266 II層	弥生土器	壺			
93	21	SK266 II層	弥生土器	器台	(5.6)		
93	22	SK266 II層	弥生土器	器台		8.6	
93	23	SK266 II層	弥生土器	器台		7.8	
93	25	SK266	弥生土器	広口壺	(22.6)		
93	26	SK266	弥生土器	壺		(7.0)	
93	27	SK266	弥生土器	壺			
93	28	SK266	弥生土器	壺			
93	29	SK266	弥生土器	壺			
93	30	SK266	弥生土器	壺	(46.6)		
93	31	SK266	弥生土器	甕			
93	32	SK266	弥生土器	壺		5.6	
93	33	SK266	弥生土器	壺		6.5	
93	34	SK266	弥生土器	壺		6.1	
93	35	SK266	弥生土器	壺		7.4	
94	36	SK266	弥生土器	壺		6.8	
94	37	SK266	弥生土器	器台		9.7	
94	38	SK266	弥生土器	器台		8.0	
95	1	SK320	弥生土器	壺	(29.6)		
95	2	SK320	弥生土器	壺	(29.6)		
95	3	SK320	弥生土器	壺			
95	4	SK320	弥生土器	壺		(7.0)	
95	5	SK320	弥生土器	鉢	(23.6)		
96	1	SK280 I層	弥生土器	壺		(10.0)	
96	2	SK280 I層	弥生土器	壺			
96	3	SK280	縄文土器?	鉢			
96	4	SK280	弥生土器				
96	5	SK280	弥生土器	壺		(12.5)	
96	6	SK270 I層	弥生土器	壺		(8.8)	
96	7	SK270 II層	弥生土器	壺?			
96	8	SK270 II層	弥生土器	壺			
96	9	SK270	弥生土器	壺	(16.0)		
96	10	SK270	弥生土器				
96	11	SK270	弥生土器	壺		(6.6)	
96	12	SK270	弥生土器	壺		6.4	
96	13	SK270	弥生土器	壺	(15.0)		
96	14	SK306 I層	弥生土器	広口壺	(21.0)		
96	15	SK306 I層	弥生土器	壺			
96	16	SK306	弥生土器	鉢	(17.0)	(8.8)	6.8
96	17	SK290	弥生土器	壺	(20.0)		
96	18	SK290	弥生土器	甕			
96	19	SK290	弥生土器	甕			
96	20	SK290	弥生土器	甕			
96	21	SK290	弥生土器	鉢		(6.0)	
96	22	SK290	弥生土器	鉢			
96	23	SK290	弥生土器	鉢	(8.4)	(3.0)	6.1
97	1	SX300	弥生土器	壺			
97	2	SX300	弥生土器	壺			
97	3	SX300	弥生土器	広口壺?			
97	4	SX300	弥生土器	壺	(14.0)		
97	5	SX300	弥生土器	壺	(16.0)		
97	6	SX300	弥生土器	壺	(14.6)		
97	7	SX300	弥生土器	壺	(9.0)		
97	8	SX300	古式土師器	壺	(17.6)		
97	9	SX300	古式土師器	壺	(18.0)		
97	10	SX300	古式土師器	壺			
97	11	SX300	古式土師器	壺	(18.0)		
97	12	SX300	古式土師器	壺	(19.6)		
97	13	SX300	古式土師器	壺	(16.0)		
97	14	SX300	古式土師器	壺			
97	15	SX300	古式土師器	壺			
97	16	SX300	古式土師器	二重口縁壺	(18.0)		
97	17	SX300	古式土師器	二重口縁壺	(24.2)		
97	18	SX300	古式土師器	二重口縁壺?			
97	19	SX300	弥生土器	壺			
97	20	SX300	弥生土器	壺		6.0	
97	21	SX300	弥生土器	壺		(10.0)	
97	22	SX300	弥生土器	壺		4.0	
97	23	SX300	弥生土器	壺		4.8	
97	24	SX300	弥生土器	壺		(6.0)	
97	25	SX300	土師器	壺		4.5	
97	26	SX300	弥生土器	大型壺			
98	27	SX300	弥生土器	壺			
98	28	SX300	弥生土器	壺			
98	29	SX300	弥生土器	壺			
98	30	SX300	弥生土器	壺	(33.0)		
98	31	SX300	弥生土器	壺			

部位	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
底部破片	赤色／赤褐色	2~3mmの砂多い。	良好	
上半1/3	赤橙色／暗色	1mmの砂多い。	良好	弥生中期
下半のみ	黄土色／暗色	1mmの砂多い。	良好	弥生中期
2/3現存	黒褐色	1mmの砂多い。	良好	弥生中期
口縁部1/3	淡橙色	1~2mmの砂多い。	不良	弥生中期
底部1/3	明黄灰色	精良。	良好	外面丹塗り
口縁部破片	黒褐灰色	1mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
口縁部破片	灰色	1~7mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
口縁部破片	黒褐色／暗色	1mm以下の砂少ない。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
口縁部1/4	淡橙色	1~2mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（城ノ越式）
口縁部破片	橙色	1~2mmの砂少ない。	良好	弥生中期
底部のみ	暗褐~淡茶色／黄灰色	1mmの砂多い。	良好	弥生中期
底部のみ	灰茶色／淡橙色	1~2mmの砂多い。	良好	弥生中期
底部のみ	橙色／黄灰色	1~2mmの砂多い。	良好	弥生中期
底部2/3	白黄色／茶~橙色	1~7mmの砂多い。	不良	弥生中期
底部のみ	赤橙色／赤茶色	2~3mmの砂多い。	良好	弥生中期
下半1/4	淡黄灰色	1mmの砂少ない。	良好	弥生中期
下半1/4	淡黄灰色	精良。	良好	弥生中期
口縁部1/5	橙色／黄灰色	1mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
口縁部1/4	灰茶色／黄灰色	1~2mmの砂多く、赤色粒子少ない。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
口縁部破片	橙色／黄灰色	1~2mmの砂多い。	良好	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
底部1/2	橙色／橙色	1~2mmの砂多い。	良好	弥生中期
口縁部破片	黄灰色	1~2mmの砂少なく、赤色粒子個か。	良好	弥生中期
底部1/6	灰茶色	砂粒ややあり。	やや不良	
底部破片	黒灰茶色	砂粒ややあり。	不良	
口縁部破片	赤褐色	細砂粒少量、角閃石含む。微母片。	やや良	
胴部破片	暗赤褐色	砂粒、角閃石含む。	やや良	
底部1/3	赤褐色	1~3mmの砂粒。	やや良	弥生前期
底部1/3	茶褐色	1~2mmの砂粒。	やや不良	
口縁部破片	黒褐灰色	砂粒含まず、黒色粒子含む。	やや不良	口縁部内外面に黒い炭素1条づつ。
口縁部破片	淡茶褐色	1~3mmの砂粒ややあり。	不良	
口縁部1/4	明茶褐色	砂粒ややあり。	不良	弥生前期後半（福岡II式系）
胴部破片	茶褐色	砂粒少ない。	やや不良	弥生前期？
底部1/2	明茶褐色	砂粒少なく、良。	ほぼ良	弥生前期後半（福岡II式系）
底部のみ	暗褐色	1mmの砂粒ややあり。	やや不良	
口縁部1/12	黒褐色	1mmの砂粒少量。	ほぼ良	弥生前期後半（福岡II式系）
口縁部1/2	茶褐色	1~2mmの砂粒ある。金雲母。	やや不良	
口縁部破片	暗茶褐色	細砂粒多い。	やや不良	弥生中期中頃（須玖I式）
1/2現存	茶褐色	1~3mmの砂粒含む。	やや良	
口縁部破片	灰茶褐色	砂粒含まず。	やや不良	弥生中期中頃~後半（須玖I~II式）
口縁部破片	暗茶褐色	細砂粒多い。	不良	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
口縁部破片	暗茶褐色	細砂粒ややあり。	不良	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
口縁部破片	暗茶褐色	細砂粒ややあり。	不良	弥生中期中頃（須玖I式）
底部1/6	暗茶褐色	1~2mmの砂粒多い。	不良	
口縁部破片	灰茶色	細砂粒ややあり。	やや不良	
1/4現存	茶褐色	細砂粒ややあり。	良	
胴部破片	灰茶色	砂粒ややあり。	やや良	弥生中期？
底部1/6	灰茶色	砂粒ややあり。	ほぼ良	弥生後期
口縁部破片	明茶褐色	細砂粒多い。	やや良	
口縁部1/3	暗黄褐色	細砂粒含む。	やや不良	
口縁部1/5	茶褐色	微細粒、角閃石ややあり。	やや不良	
口縁部破片	茶褐色	微細粒少量。	やや良	
口縁部破片	淡灰茶色	細砂粒少量、微母片ややあり。	良	
口縁部1/2	灰白色	砂粒少量、ほぼ良。	不良	
口縁部破片	黒灰茶色	細砂粒僅かに、角閃石含む。	良	
胴部破片	明茶褐色	砂粒少量、微母、角閃石。	やや良	
胴部破片	暗茶褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	良	
口縁部破片	明茶褐色	砂粒少ない。	やや良	胴部
口縁部破片	暗褐色	細砂粒を少量、角閃石多い。	ほぼ良	胴部
胴部破片	暗褐色	砂粒少量、良。	良好	
底部破片	淡灰茶色	砂粒ややあり。	やや良	
底部のみ	赤茶褐色	1~5mmの砂粒少量。	ほぼ良	
底部1/2	茶褐色	1~2mmの砂粒多い。	やや良	
底部のみ	暗黒褐色	細砂粒少量、角閃石ややあり。	ほぼ良	
底部のみ	淡灰茶色	砂粒多い。	やや不良	
底部1/2	淡黒灰色	砂粒含まず、良。	良	
下半1/4	暗茶褐色	砂粒少ない。	やや良	
口縁部破片	暗茶褐色	砂粒、微母片ややあり。	ほぼ良	
口縁部破片	茶褐色	砂粒少なく、黒色粒子ややあり。	やや不良	弥生前期？
口縁部破片	淡灰茶色	細砂粒含む。	やや良	弥生前期後半（亀ノ甲タイプ）
口縁部破片	灰黒茶色	微細粒ややあり。	やや不良	弥生中期前半（亀ノ甲タイプ）
口縁部破片	淡茶褐色	1~4mmの小石少量含む。がほぼ良。	ほぼ良	弥生中期中頃（須玖I式），外面丹塗り
口縁部破片	暗茶褐色	細砂粒含む。	不良	弥生中期中頃（須玖I式）

Fig	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
98	32	SX300	弥生土器	甕				口縁部細片	暗茶褐色	砂粒、角閃石やや多い。	不良	弥生中期
98	33	SX300	弥生土器	甕				口縁部細片	赤褐色	細砂粒、赤色粒子多い。	やや不良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）、口縁部反り上がり
98	34	SX300	弥生土器	甕				口縁部細片	茶褐色	細砂粒やや多い。	やや不良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）、口縁部反り上がり
98	35	SX300	弥生土器	甕	(29.0)			口縁部1/8	暗褐色	細砂粒含む。	ほぼ良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）、口縁部反り上がり
98	36	SX300	弥生土器	細頸壺	(20.0)			口縁部細片	淡灰茶色	細砂粒含む。	ほぼ良	弥生中期、2ケ所に焼成前穿孔
98	37	SX300	弥生土器	甕	(28.0)			口縁部1/12	暗褐色	細砂粒含む。	やや良	弥生後期
98	38	SX300	弥生土器	甕	(28.0)			口縁部1/8	茶褐色	細砂粒含む、雲母微多い。	ほぼ良	弥生後期
98	39	SX300	弥生土器	甕	(17.0)			口縁部1/4	淡灰茶色	細砂粒含む。	やや不良	弥生後期
98	40	SX300	弥生土器	甕	(27.0)			口縁部1/6	黄黒灰色	細砂粒やや多い。	やや良	弥生後期
98	41	SX300	弥生土器	甕				口縁部細片	淡茶褐色	細砂粒含む。	不良	弥生後期
98	42	SX300	弥生土器	甕				口縁部細片	暗褐色	細砂粒少量。	やや良	弥生後期
98	43	SX300	弥生土器	甕				口縁部細片	明褐色／淡灰茶色	砂粒少ない。ほぼ良。	ほぼ良	弥生終末？
98	44	SX300	弥生土器	甕	(32.0)			口縁部細片	暗褐色／淡灰茶色	砂粒やや少なく、角閃石少量。	ほぼ良	弥生終末？
98	45	SX300	弥生土器	甕		(6.5)		底部1/3	淡灰茶色	1～3mmの砂粒含む。	やや不良	弥生前期
98	46	SX300	弥生土器	甕		(7.0)		底部1/2	淡灰茶色	細砂粒含む。	やや良	弥生前期
98	47	SX300	弥生土器	甕		6.0		底部1/2	淡灰色	細砂粒、角閃石含む。	不良	弥生中期
98	48	SX300	弥生土器	甕		6.0		底部のみ	暗茶褐色	細砂粒やや多い。	やや良	弥生中期
98	49	SX300	弥生土器	甕		6.7		底部のみ	灰茶色	砂粒やや多い。	ほぼ良	弥生中期
98	50	SX300	弥生土器	甕		5.5		底部のみ	茶褐色	細砂粒含む。	ほぼ良	弥生中期
98	51	SX300	弥生土器	甕		(6.0)		底部1/2	淡灰褐色	細砂粒多い。	やや良	弥生中期
98	52	SX300	弥生土器	甕		5.4		底部のみ	淡灰茶色	砂粒多い。	やや不良	弥生中期
98	53	SX300	弥生土器	甕		8.4		底部のみ	茶褐色	細砂粒多い、雲母片多い。	やや良	弥生中期後半（肥後系）
98	54	SX300	弥生土器	甕		8.2		底部のみ	淡茶褐色	細砂粒やや多い。	やや不良	弥生中期後半（肥後系）
98	55	SX300	弥生土器	甕		(12.0)		底部1/4	灰茶色	砂粒含まず	ほぼ良	弥生後期（肥後系）
98	56	SX300	弥生土器	甕		4.0		底部のみ	淡灰茶色	細砂粒少量含む。	やや良	弥生後期中頃（下大隈式？）
98	57	SX300	弥生土器	大型壺	(37.0)			口縁部細片	淡茶褐色	砂粒少ない。	やや不良	
98	58	SX300	弥生土器	大型壺				口縁部細片	淡茶褐色	細砂粒少量含むがほぼ良、角閃石も。	ほぼ良	
99	59	SX300	弥生土器	大型壺	(44.0)			口縁部1/6	内側 淡灰茶色	細砂粒少量含むがほぼ良、角閃石含む。	ほぼ良	
99	60	SX300	弥生土器	大型壺	(42.0)			口縁部1/6	淡灰茶色	細砂粒やや多い。	やや不良	
99	61	SX300	弥生土器	大型壺				口縁部細片	淡灰茶色	細砂粒含む。	やや良	
99	62	SX300	弥生土器	大型壺				口縁部細片	淡茶褐色	細砂粒少量。	ほぼ良	
99	63	SX300	弥生土器	大型壺				口縁部細片	淡灰茶色	砂粒やや多い。	ほぼ良	
99	64	SX300	弥生土器	大型壺				口縁部細片	淡灰茶色	細砂粒含む。	ほぼ良	
99	65	SX300	弥生土器	大型壺				口縁部細片	淡灰色	細砂粒やや多い。角閃石少量。	ほぼ良	
99	66	SX300	弥生土器	大型壺				口縁部細片	黒灰色	細砂粒やや多い。	ほぼ良	
99	67	SX300	弥生土器	大型壺				口縁部細片	明赤褐色	細砂粒少量。	やや不良	
99	68	SX300	弥生土器	器台				脚部細片	茶褐色	細砂粒含む。	ほぼ良	
99	69	SX300	弥生土器	大型壺				胴部細片	明茶褐色	細砂粒やや少ない。	ほぼ良	
99	70	SX300	弥生土器	大型壺				胴部細片	淡茶褐色	砂粒少ない。やや良。	やや良	
99	71	SX300	古式土師器	甕	(17.6)			上半部1/3	暗灰褐色	1～4mmの砂粒を含むが、ほぼ良。	ほぼ良	古相
99	72	SX300	古式土師器	甕	(17.0)			口縁部1/4	茶褐色／灰褐色	砂粒少なく、やや良。	やや不良	古相
99	73	SX300	古式土師器	甕	(18.0)			口縁部1/6	茶褐色	細砂粒少量。	ほぼ良	古相
99	74	SX300	古式土師器	甕	(16.6)			上半部1/4	暗褐色	細砂粒含む。やや良。	ほぼ良	古相
99	75	SX300	古式土師器	甕	(15.0)			口縁部1/4	暗茶褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	ほぼ良	古相
99	76	SX300	古式土師器	甕	(18.0)			口縁部1/4	暗灰茶色	細砂粒少量。	ほぼ良	古相
99	77	SX300	古式土師器	甕	(16.0)			口縁部1/4	暗褐色	細砂粒少量。	ほぼ良	古相
99	78	SX300	古式土師器	甕	17.0			2/3残存	茶褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	良	古相、煤付着。
99	79	SX300	古式土師器	甕	(18.2)			細片	淡灰茶色	細砂粒含む。	やや良	古相
99	80	SX300	古式土師器	甕	(18.0)			口縁部1/4	茶褐色	細砂粒少量。	やや不良	古相
99	81	SX300	古式土師器	甕				口縁部細片	茶褐色	砂粒少量。	やや不良	古相
100	82	SX300	古式土師器	甕	17.5			上半部のみ	淡灰茶色	砂粒含む。	良	古相
100	83	SX300	古式土師器	甕	(16.6)			口縁部1/2	淡茶褐色	細砂粒含む。	やや良	古相
100	84	SX300	古式土師器	甕	(17.6)			口縁部1/6	淡茶褐色	細砂粒、5mmの小石少量。	ほぼ良	古相
100	85	SX300	古式土師器	甕	(17.0)			上半部1/2	淡灰茶色	1～6mmの砂粒含む。	ほぼ良	新相
100	86	SX300	古式土師器	甕	(16.6)			上半部1/4	赤茶褐色	細砂粒含む。	ほぼ良	新相
100	87	SX300	古式土師器	甕	(17.0)			口縁部1/6	淡灰褐色	細砂粒少量含む。	やや不良	新相
100	88	SX300	古式土師器	甕	(16.0)			上半部1/4	赤茶褐色	砂粒少なく、ほぼ良。	ほぼ良	新相
100	89	SX300	古式土師器	甕	(19.0)			口縁部1/4	暗褐色	細砂粒少量。	ほぼ良	新相
100	90	SX300	古式土師器	甕	(19.0)			上半部1/3	暗茶褐色／灰茶色	細砂粒少量含む。	ほぼ良	新相
100	91	SX300	古式土師器	甕	(18.0)			口縁部1/4	淡灰茶色	1～2mmの砂粒含む。	ほぼ良	
100	92	SX300	古式土師器	甕	(17.0)			口縁部1/4	淡茶褐色	細砂粒含む。	やや不良	古相、煤付着。
100	93	SX 300	古式土師器	甕	(18.0)			口縁部1/4	暗茶褐色	細砂粒含む。	やや不良	古相、煤付着。
100	94	SX300	古式土師器	甕	(18.0)			口縁部1/4	暗褐色	砂粒少ない。	やや良	古相、煤付着。
100	95	SX300	古式土師器	甕	(15.6)			上半部1/4	明灰褐色	細砂粒やや多い。	やや不良	新相、煤付着。
100	96	SX300	古式土師器	甕	(19.0)			口縁部1/6	淡灰茶色	細砂粒含む。	やや不良	新相
100	97	SX300	古式土師器	甕	(15.0)			口縁部1/6	淡灰茶色	1～4mmの砂粒を含む。	やや良	新相
100	98	SX300	古式土師器	甕	(14.0)			口縁部1/6	淡茶褐色	細砂粒少量、角閃石も。	やや良	新相
100	99	SX300	古式土師器	甕	(13.0)			口縁部1/6	淡茶褐色	良。	やや良	新相
100	100	SX300	古式土師器	甕	(18.0)			口縁部1/5	暗褐色	砂粒少なく、良。	良	新相
100	101	SX300	古式土師器	甕	(16.0)			口縁部1/4	淡茶褐色	細砂粒やや少なく含む。	ほぼ良	新相
100	102	SX300	古式土師器	甕	(14.0)			口縁部1/8	淡灰茶色	細砂粒少量、雲母片多く含む。	やや良	新相
100	103	SX300	古式土師器	甕	(14.0)			口縁部1/4	暗茶褐色	1～6mmの砂粒含む。	ほぼ良	新相
100	104	SX300	古式土師器	甕	(17.0)			口縁部1/4	暗灰褐色	砂粒少ない、ほぼ良。	ほぼ良	新相
100	105	SX300	古式土師器	甕	(16.0)			口縁部1/8	暗褐色	砂粒少量含む。	やや良	新相
100	106	SX300	古式土師器	甕				底部のみ	淡灰茶色	細砂粒、角閃石。	やや良	
100	107	SX300	弥生土器	甕		3.0		底部のみ	淡茶褐色	細砂粒含む。	やや良	弥生後期中頃（下大隈式？）
100	108	SX300	弥生土器	甕		3.5		底部のみ	淡黄灰色	1～2mmの砂粒含む。	やや良	

Fig	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
100	109	SX300	弥生土器	甕				口縁部細片	茶褐色	砂粒少ない。	ほぼ良	煤付着
101	110	SX300	弥生土器	鉢				口縁部細片	淡灰茶色	細砂粒少量。	やや不良	弥生中期
101	111	SX300	土師器	鉢	(15.8)			胴部細片	暗茶褐色	細砂粒少量。	やや良	
101	112	SX300	弥生土器	鉢		(4.0)		1/2残存	茶褐色	砂粒含まず。赤色粒子多い。	ほぼ良	底部穿孔
101	113	SX300	弥生土器	鉢				底部のみ	茶褐色	良。	良	底部穿孔途中（未穿孔）
101	114	SX100	土師器	鉢	(12.6)			口縁部1/8	茶褐色	細砂粒少量。	やや不良	
101	115	SX200	弥生土器	鉢				口縁部細片	暗赤褐色～暗灰茶色	細砂粒少量。	やや不良	
101	116	SX300	弥生土器	鉢	(14.0)			口縁部1/8	淡灰茶色	砂粒少ない。	ほぼ良	弥生後期
101	117	SX300	弥生土器	鉢		(4.2)		底部1/2	淡灰茶色	細砂粒少量。	やや良	
101	118	SX300	弥生土器	鉢		(3.6)		底部1/2	暗茶褐色	細砂粒少量。	良	
101	119	SX300	弥生土器	鉢		(2.5)		底部のみ	淡灰色	1～4mmの砂粒少量。	ほぼ良	底部焼成前穿孔
101	120	SX300	弥生土器	鉢		(6.8)		底部1/6	茶褐色	細砂粒。角閃石含む。	良	底部欠損（意図的？）
101	121	SX300	弥生土器	脚付鉢？		(12.0)		底部1/3	明茶褐色	細砂粒少量含む。	ほぼ良	
101	122	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	(12.0)		(3.4)	口縁部1/8	暗茶褐色	細砂粒含む。	やや不良	
101	123	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	(16.0)			口縁部細片	暗茶褐色	細砂粒少量。	やや良	
101	124	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	(14.0)			口縁部1/3	淡灰茶色	砂粒含まず。角閃石含む。	やや良	
101	125	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	11.4		2.2～3.1	ほぼ完存	暗茶褐色	砂粒少ない。ほぼ良。	ほぼ良	
101	126	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	(11.0)		(2.8)	1/4残存	淡赤褐色	細砂粒少量。角閃石。	やや良	
101	127	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	(13.0)		(2.9)	口縁部1/6	茶褐色	砂粒含まず。	ほぼ良	
101	128	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	12.0		3.3	3/4残存	赤褐色～暗灰色	1～3mmの砂粒含む。	やや不良	
101	129	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	(12.0)			口縁部1/8	暗茶褐色	細砂粒少量。	やや良	
101	130	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	(10.0)			口縁部1/8	淡灰茶色	1mmの砂粒含む。	やや良	
101	131	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	10.0		3.1	3/4残存	暗灰茶色	精良。	良	
101	132	SX300	古式土師器	浅鉢（皿）	(11.0)			口縁部1/6	茶褐色～黒褐色	砂粒含まず。	やや良	手づくね
101	133	SX300		鉢	(16.6)		7.4	1/2残存	茶褐色～暗赤褐色	1～3mmの砂粒少量含む。	良	
101	134	SX300	土師器	鉢	17.4		(7.8)	1/2残存	暗茶褐色	砂粒含む。	良	
101	135	SX300		鉢	(14.6)		6.8	1/2残存	茶褐色	1～3mmの砂粒少量含むが、ほぼ良。	良	
101	136	SX300	土師器	鉢	(17.0)		(5.8)	1/3残存	明赤褐色	1～2mmの砂粒少量含む。	やや不良	内外面化粧土？
101	137	SX300		鉢	(17.0)			1/4残存	明茶褐色	細砂粒少量。	やや不良	
101	138	SX300		鉢	(15.6)			口縁部1/4	茶褐色	良。	ほぼ良	
101	139	SX300		鉢		5.7		底部のみ	淡茶褐色～黒灰色	砂粒含まず。	ほぼ良	底部粘土を抉り取る。
101	140	SX300	弥生土器	手づくね鉢	(6.4)	3.9	4.0	1/2残存	灰茶色	砂粒含まず。	ほぼ良	ミニチュア
101	141	SX300	弥生土器	手づくね鉢	(6.0)			口縁部1/6	茶褐色	1mm砂粒やや多い。	やや良	ミニチュア
101	142	SX300	弥生土器	手づくね鉢	(4.6)		2.2	1/2残存	灰茶色	砂粒含まず。	やや良	ミニチュア
101	143	SX300	弥生土器	手づくね鉢	(4.6)		1.9	1/2残存	茶褐色	砂粒含まず。	やや良	ミニチュア
101	144	SX300	弥生土器	手づくね鉢	6.6	3.0	2.2～2.6	ほぼ完存	灰茶色	砂粒含まず。	ほぼ良	ミニチュア
101	145	SX300	弥生土器	手づくね鉢	4.4		2.0	2/3残存	灰茶色	砂粒含まず。	やや良	ミニチュア
101	146	SX300	土師器	坩	8.0		7.7	口縁部一部欠損	暗灰褐色	細砂粒、角閃石やや多い。	良	
101	147	SX300	土師器	坩	8.7		7.9	4/5残存	暗茶褐色	砂粒含まず。良。	良	
101	148	SX300	土師器	坩	(8.0)			上半部1/6	茶褐色	精選。	良	
101	149	SX300	土師器	坩				胴部細片	茶褐色	良。	良	
101	150	SX300	土師器	坩	12.6		6.8	ほぼ完存	明赤褐色	1～2mmの砂粒少量。	やや不良	
101	151	SX300	土師器	坩	11.6			口縁部のみ	橙茶褐色	砂粒含まず。赤色粒子含む。	ほぼ良	
101	152	SX300	土師器	坩	(12.0)			上半部1/6	明茶褐色	1mmの砂粒やや多い。	ほぼ良	
101	153	SX300	土師器	坩	(12.4)		11.2	2/3残存	茶褐色	細砂粒少量。	ほぼ良	
101	154	SX300	土師器	坩	(11.0)			上半部1/3	暗茶褐色	1～3mmの砂粒少量。	良	
101	155	SX300	土師器	坩				胴部細片	明赤褐色／暗灰茶色	精選。	ほぼ良	
101	156	SX300	土師器	坩	(13.0)		(6.6)	1/3残存	淡茶褐色	1～2mmの砂粒少量。	ほぼ良	
101	157	SX300	土師器	坩	(13.0)		(7.1)	1/2残存	淡茶褐色	微細粒少量。良。	やや良	
101	158	SX300	土師器	坩	(13.0)			口縁部1/4	暗茶褐色	微細粒少量。	ほぼ良	
102	159	SX300	土師器	壺	(12.5)			1/3残存	茶褐色	ほぼ良。	ほぼ良	
102	160	SX300	古式土師器	甕？	(13.4)			上半部1/4	暗茶褐色	砂粒含まず。良。	ほぼ良	新相
102	161	SX300	古式土師器	甕？	(13.0)			細片	灰茶色	細砂粒やや多い。角閃石含む。	ほぼ良	新相
102	162	SX300	古式土師器	甕？	(13.0)			上半部1/4	灰茶色	砂粒。角閃石やや多い。	ほぼ良	新相
102	163	SX300	古式土師器	甕？				胴部1/4	茶褐色	細砂粒少量。	やや良	壺となる可能性有り
102	164	SX300	古式土師器	甕？				胴部細片	灰茶色	細砂粒少量含む。	やや不良	
102	165	SX300	古式土師器	甕？				胴部細片	黒灰～灰褐色	良。	ほぼ良	
102	166	SX300	弥生土器	高坏	(27.6)			口縁部1/5	赤褐色	1mmの砂粒少量。	やや不良	
102	167	SX300	弥生土器	高坏				口縁部細片	明茶褐色	精選。	やや良	
102	168	SX300	弥生土器	高坏				坏部細片	暗灰茶色	細砂粒含む。	やや良	丹塗りの可能性有り
102	169	SX300	弥生土器	高坏				脚部のみ	明茶褐色	良。	やや良	円形透かし3ケ所（復元で4ケ所）
102	170	SX300	弥生土器	高坏				脚部のみ	淡灰茶色	良。	やや良	
102	171	SX300	弥生土器	高坏		(17.0)		脚部細片	淡灰茶色	微細粒。角閃石。	やや不良	
102	172	SX300	弥生土器	高坏		(22.0)		脚部1/8	茶褐色	細砂粒少量。	ほぼ良	透かし有り
102	173	SX300	弥生土器	高坏		(18.0)		脚部1/8	暗茶褐色	細砂粒ごく少量。	ほぼ良	
102	174	SX300	弥生土器	高坏				脚部のみ	明赤茶色	砂粒ほとんど含まず。良。	やや不良	
102	175	SX300	土師器	高坏	(13.0)	(7.0)	(7.0)	1/2残存	暗灰茶色	細砂粒ごく少量。	やや良	
102	176	SX300	土師器	高坏	(14.2)	11.1	7.2	3/4残存	暗茶褐色	細砂粒少量。良。	良	
102	177	SX300	土師器	高坏	(13.0)			坏部1/2	暗茶褐色	細砂粒少量。良。	ほぼ良	
102	178	SX300	土師器	高坏（椀？）				脚部のみ	淡灰茶色	砂粒含まず。	やや不良	ミニチュア
102	179	SX300	土師器	高坏				坏部、脚裾部欠損	暗赤褐色	砂粒含まず。良。	良	ミニチュア。脚部4ケ所穿孔
102	180	SX300	土師器	高坏				脚部のみ	淡灰色	砂粒ほとんど含まず。ほぼ良。	不良	ミニチュア
102	181	SX300	土師器	高坏				脚部のみ	淡茶褐色	細砂粒少量。	ほぼ良	ミニチュア
102	182	SX300	土師器	高坏				脚部のみ	淡茶褐色	精選。	やや良	ミニチュア。脚部2ケ所穿孔（復元で4ケ所）
102	183	SX300	土師器	高坏		(15.6)		脚部1/2	淡灰茶色	砂粒含まず、良。	やや良	ミニチュア。内面に煤付着
102	184	SX300	土師器	高坏		(15.0)		脚部1/2	暗茶褐色	砂粒含まず。良。	ほぼ良	ミニチュア
102	185	SX300		高坏		(10.6)		脚部1/4	暗茶褐色	砂粒少ない。	やや不良	ミニチュア

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
102	186	SX300		高坏		(8.2)		脚部1/3	茶褐色	砂粒含まず。	ほぼ良	ミニチュア
102	187	SX300		高坏		(8.2)		脚部2/3	茶褐色	砂粒含まず。	ほぼ良	ミニチュア
102	188	SX300		高坏?		(8.0)		脚部破片	暗茶褐色	砂粒含まず。	良	ミニチュア
102	189	SX300		高坏?		(6.0)		脚部細片	暗灰茶色	砂粒含まず。	ほぼ良	ミニチュア
102	190	SX300	弥生土器	器台	(13.0)			受け部1/4	茶褐色	細砂粒含む。	やや良	
102	191	SX300	弥生土器	器台	(14.0)			受け部細片	淡茶褐色	1~2mmの砂粒。	やや不良	
102	192	SX300	弥生土器	器台	(17.6)			受け部1/6	茶褐色	1~3mmの砂粒。	良	
102	193	SX300	土師器	器台				脚部細片	茶褐色	細砂粒。	良	2ケ所に透かし（推定で4ケ所）
102	194	SX300	土師器	器台		(14.8)		脚部1/3	明茶褐色	細砂粒少量。	やや良	
102	195	SX300	弥生土器	壺	4.4	(11.0)	6.3	1/2残存	茶褐色	砂粒含まず。	ほぼ良	
102	196	SX300	弥生土器	蓋	(6.0)			つまみ部分のみ	暗茶褐色／淡灰茶色	細砂粒含む。	ほぼ良	
102	197	SX300	弥生土器	甕				胴部細片	淡灰茶色	砂粒含まず。	やや良	内面煤付着
103	198	SX300	弥生土器	甕?				胴部細片	明赤褐色／淡灰色	細砂粒やや多い。	やや良	外面沈線文
103	199	SX300	弥生土器	壺?				胴部細片	明橙褐色	細砂粒やや多い。	やや良	外面沈線文
103	200	SX300	弥生土器	手づくね土器	(5.8)			細片	淡茶褐色	砂粒含まず。良。	やや良	ミニチュア
103	201	SX300	弥生土器	手づくね土器	(6.2)			細片	灰～淡灰色	砂粒含まず。	やや良	ミニチュア
103	202	SX300	弥生土器	手づくね土器	4.3	3.4	3.6	ほぼ完存	茶褐色	砂粒含まず。	やや良	ミニチュア
103	203	SX300		[illegible]	6.3（[illegible]）		2.3（厚）	完存	淡茶褐色／黒灰色	砂粒含まず。精良。	ほぼ良	ミニチュア、[illegible]
104	1	SD272	弥生土器	甕				口縁部細片	明灰褐色	1mm大の砂粒含む。	やや良	弥生中期中頃（亀ノ甲タイプ）
104	2	SD272	弥生土器	甕				口縁部細片	明赤褐色	砂粒含まず。	不良	弥生中期後半（須玖Ⅱ式）

Tab. 9　737-738工区出土石器一覧

（――は計測不能）

Fig.	No	遺構	種別		全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	重量（g）	石材	遺存量		備考
89	18	SE295	石包丁		(5.2)	(3.6)	0.6	15.7	粘板岩	1/2[illegible]		
89	19	SE295	スクレイパー		2.8	1.7	0.5	3.2	[illegible]石	完存		縄文後期?
92	7	SK265	スクレイパー		3.2	2.5	0.9	5.7	[illegible]石	完存		
93	24	SK266	砥石		(4.0)	(4.0)	(1.5)	(16.0)	砂岩	破片、使用痕は1面のみ確認		使用痕は1面のみ確認
94	39	SK266	スクレイパー		5.7	3.7	1.7	17.7	サヌカイト	完存		
103	204	SX300	二次加工剥片		3.1	1.9	0.45	2.6	黒曜石	完存?		
103	205	SX300	砥石		25.6	14.0	5.9	――	砂岩	完存		使用痕は4面
104	1	SD272	石鏃		2.1	1.9	0.35	(0.9)	黒曜石	両脚部先端欠損?		アメリカ式石鏃

Tab. 10 737-738工区出土木類一覧

Fig.	No	遺構	種別	種類	全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	断面形	木材	遺存量		備考
103	206	SX300	板材	ヘラ?	(6.5)	(2.2)	(0.6)			先端部のみ		
103	207	SX300	板材							破片		
103	208	SX300	板材							破片		

Tab. 11 766-767工区出土土器一覧

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
112	3	SD240	弥生土器					口縁部細片	明橙褐色	微細粒。	不良	弥生中期
112	4	SK263	弥生土器	鉢	(33.0)			口縁部1/10	茶褐色	細砂粒やや多い。	不良	弥生後期
112	5	SK264	弥生土器	壺		(10.0)		底部1/4	黄褐色	微細粒含む。	やや不良	外面丹塗り
112	6	SK258	弥生土器	甕		(9.6)		底部1/3	明赤褐色	細砂粒多い。	やや良	弥生後期
112	7	SK257	弥生土器	甕		9.4		底部のみ	暗赤褐色	微細粒、良。	良	弥生後期

Tab. 12 766-767工区出土石器一覧

（――は計測不能）

Fig.	No	遺構	種別		全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	重量（g）	石材	遺存量		備考
112	1	SD190	石鏃		3.0	1.7	0.5	――	サヌカイト	完存		長脚鏃（[illegible]）
112	2	SK233	石鏃		(2.7)	(1.2)	0.5	1.0	白濁黒曜石	先端部、一方の脚部欠損		長脚鏃、[illegible]?

Tab. 13 767-769工区出土土器一覧

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
120	1	SK242	弥生土器	鉢	(30.0)			口縁部細片	灰褐色	細砂粒含む。	やや不良	弥生中期
120	2	SK237	弥生土器	鉢	(26.0)			口縁部1/4	淡灰茶色	細砂粒含む。	やや不良	弥生後期
120	3	SK264	弥生土器	壺				胴部細片	明赤褐色	細砂粒含む。	不良	弥生後期
120	4	SK241	弥生土器	鉢	(28.0)			口縁部1/6	淡灰茶色	細砂粒含む。	やや不良	弥生中期
120	5	SK241	弥生土器	甕	12.4			底部のみ	淡灰茶色	細砂粒含む。	やや不良	弥生後期、[illegible]か
120	6	SK236	弥生土器	甕	8.7			底部のみ	明赤褐色	細砂粒やや多い。	やや不良	弥生後期
120	7	SK252	弥生土器	壺				口縁部細片	淡茶褐色	細砂粒含む。	不良	弥生中期?
120	8	SK252	弥生土器	甕	(18.0)			口縁部1/8	明茶褐色	砂粒多い。	不良	弥生中期
120	9	SK252	弥生土器	壺				胴部細片	淡茶褐色	細砂粒、雲母片多い。	不良	
120	10	SK252	古式土師器	甕				胴部細片	明赤褐色	砂粒やや多い。	不良	
120	11	SK252	弥生土器	高坏				脚部細片	淡灰褐色	砂粒少ない。	やや不良	弥生[illegible]期?
120	12	SK239	弥生土器	器台（高坏）		(18.0)		脚部1/8	灰茶色	細砂粒、角閃石。	やや不良	

Tab. 14 767-769工区出土石器一覧

Fig.	No	遺構	種別		全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	重量（g）	石材	遺存量		備考
120	13	SK236 I層	スクレイパー		6.7	3.2	0.55	14.2	サヌカイト	完存		

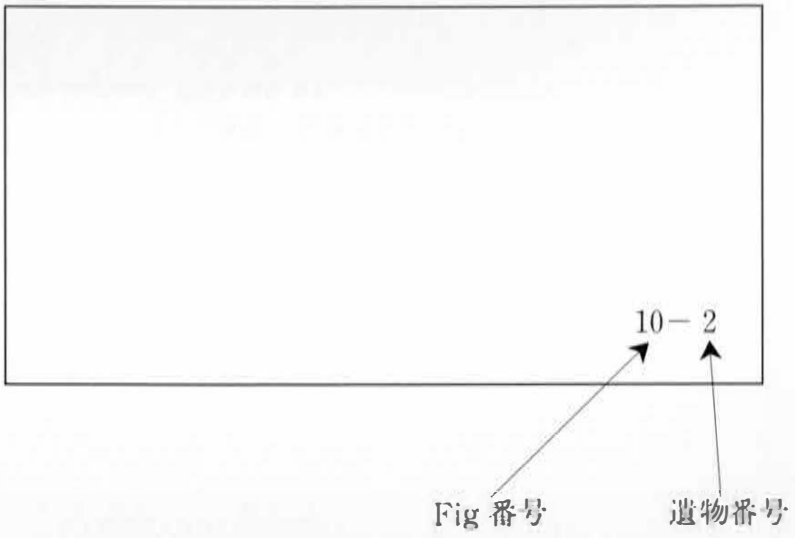
Tab. 15 770-772工区出土土器一覧

Fig.	No	遺構	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	色調（外/内）	胎土	焼成	備考
123	1	SK262	弥生土器			8.0		底部3/4	灰褐色	細砂粒、良。	良	弥生後期

PLATE

凡　例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。



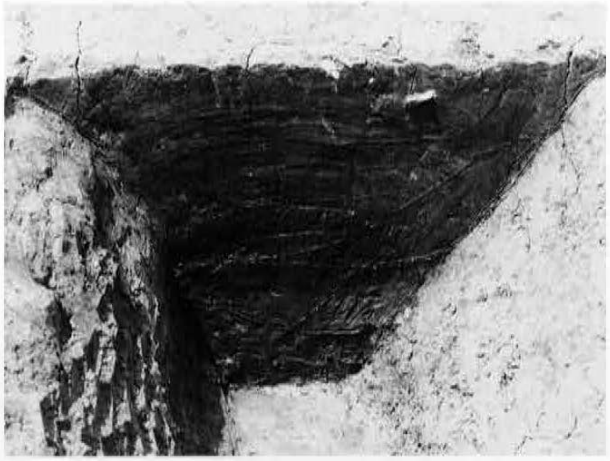
PL.1

津島九反坪遺跡調査前風景（北東から）

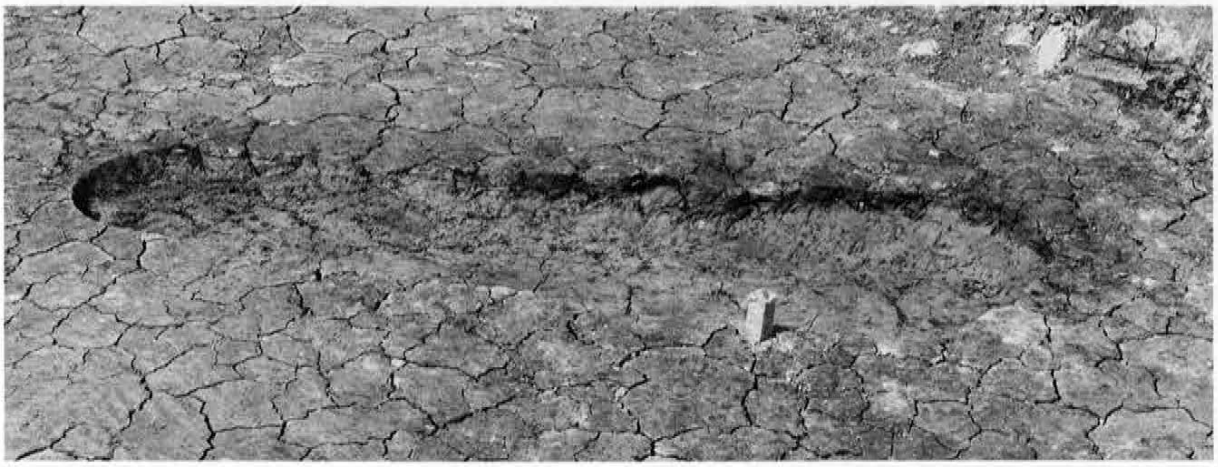
東側調査A・B・C区全景（北から）

東側調査 SD010・SD015完掘状況（北東から）

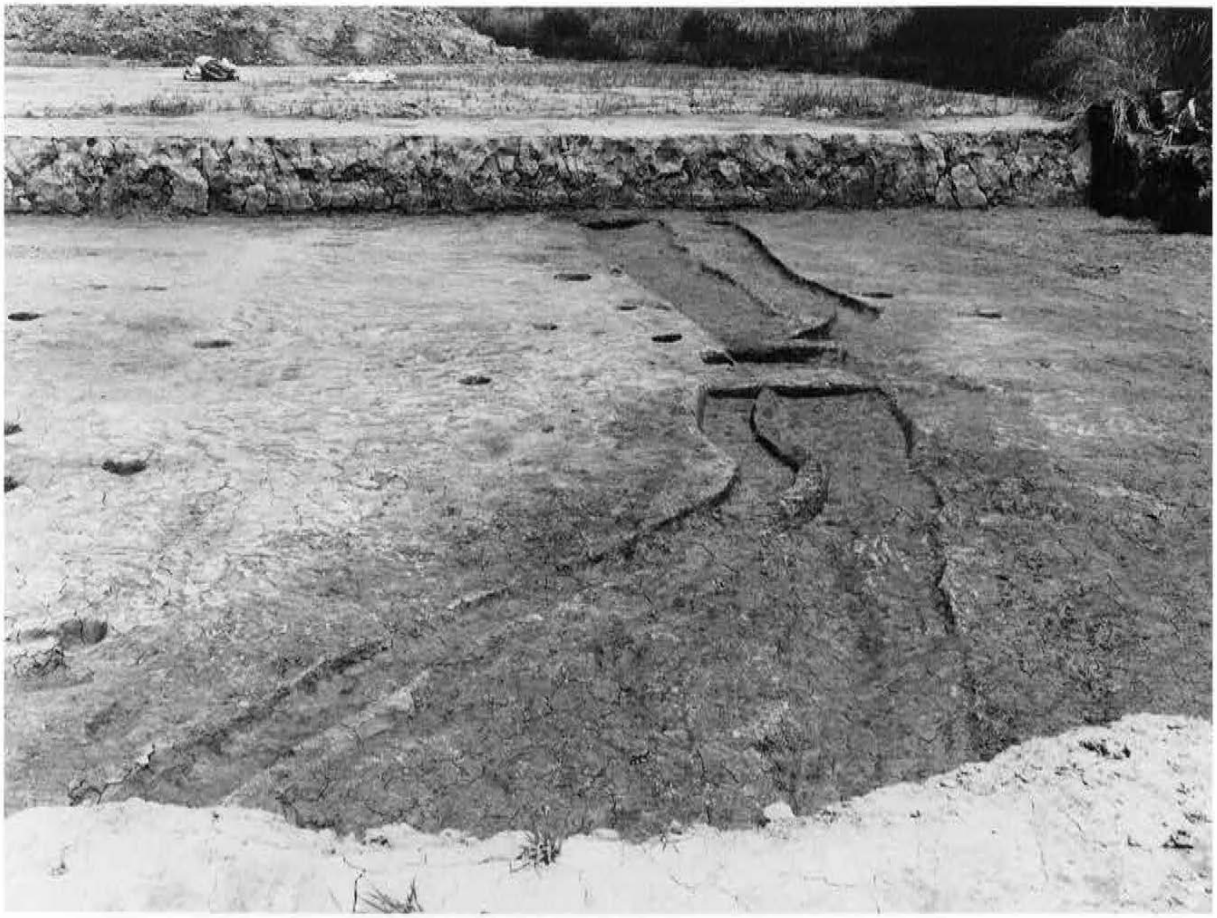
SD010土層観察（北東から）



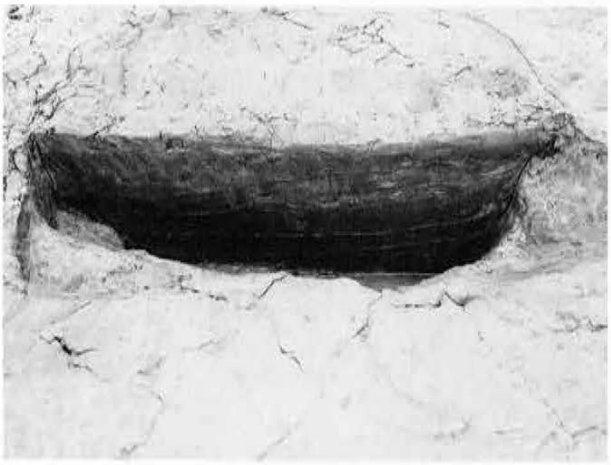
SD010土層観察（北東から）



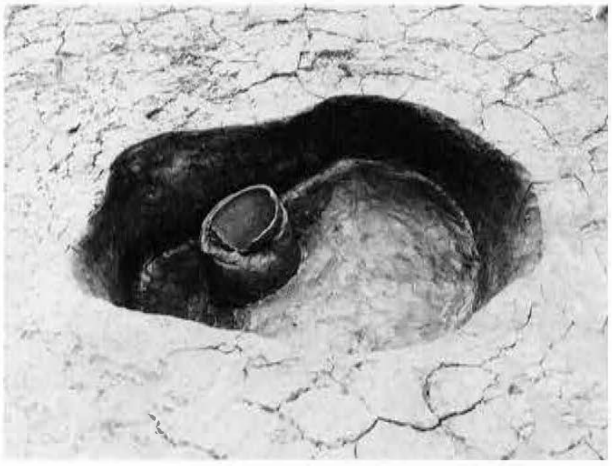
東側調査 SK005完掘状況（東北から）



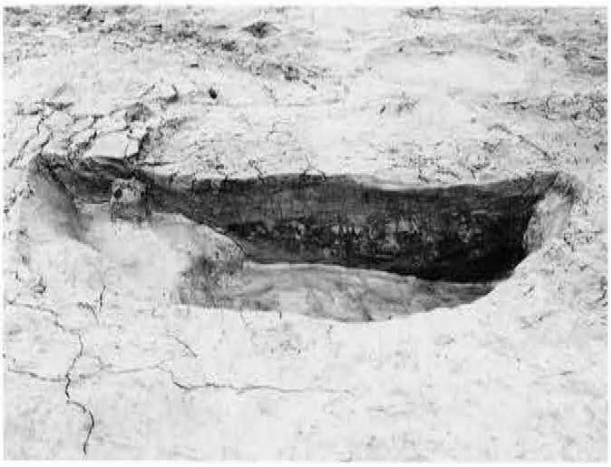
SD025・030完掘調査（西から）



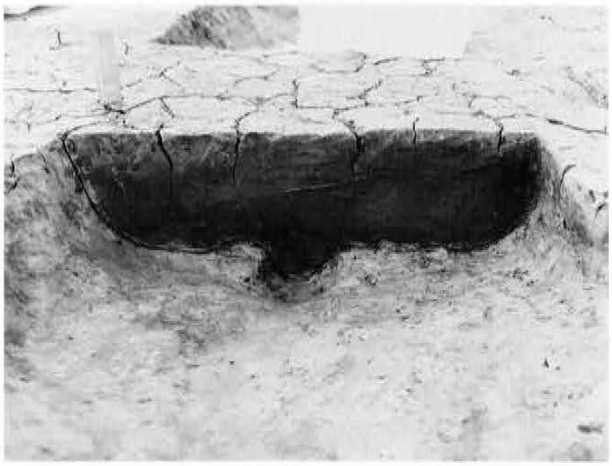
SK017土層観察（東南から）



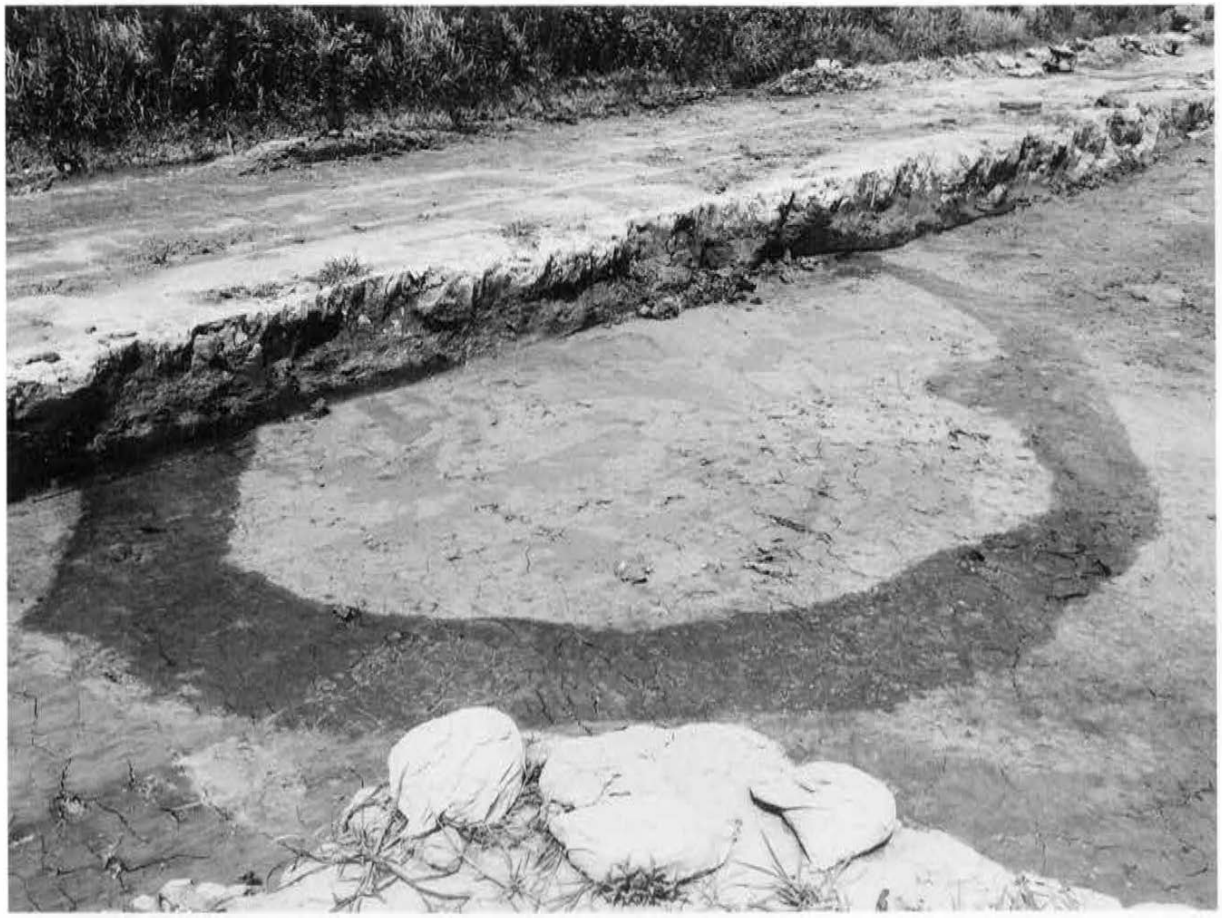
SK011土層観察（西から）



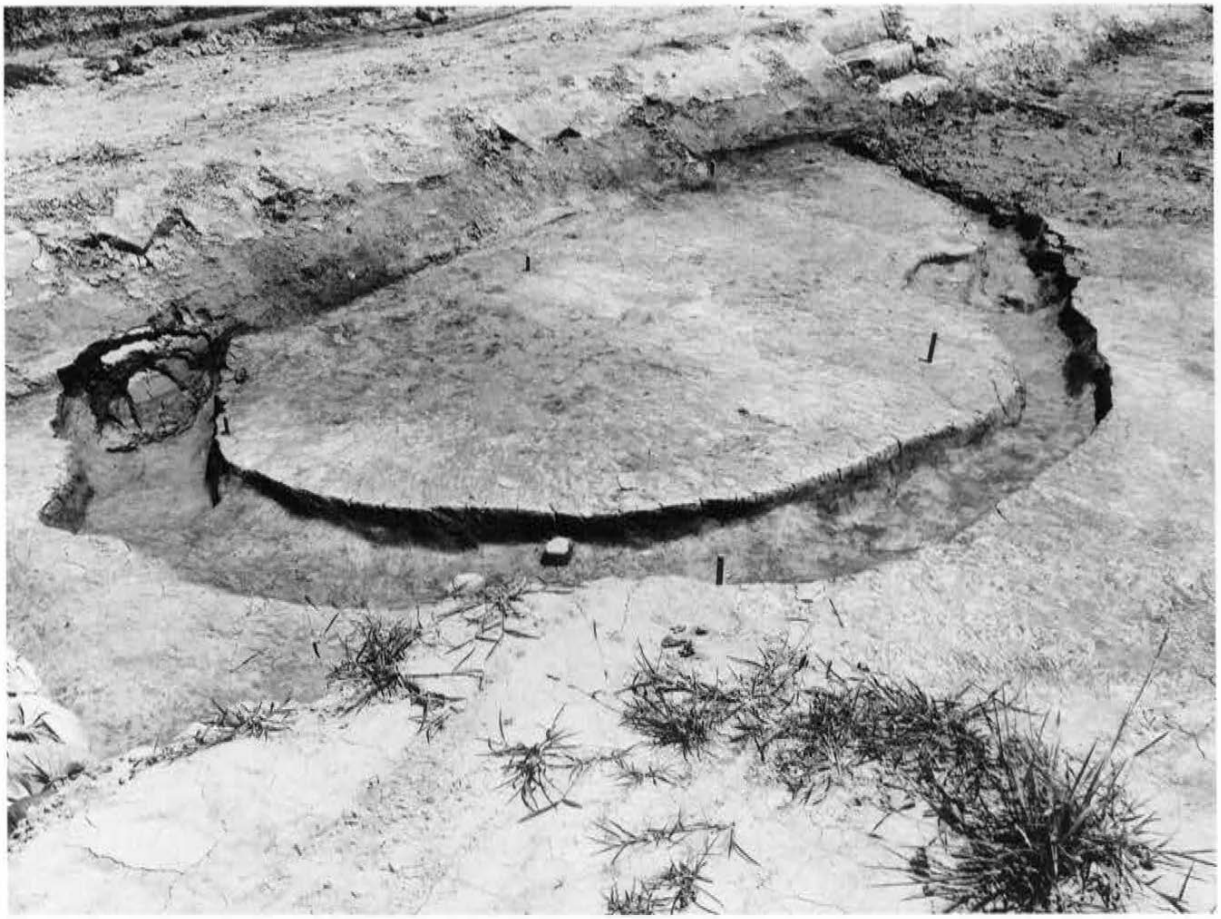
SK021土層観察（西から）



SX045土層観察（西から）

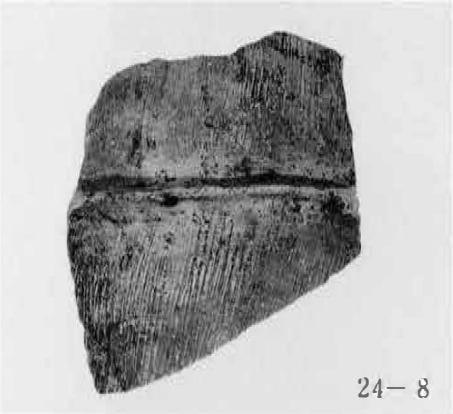


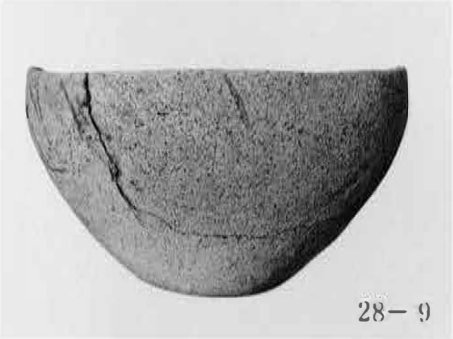
SX045検出状況（西南から）



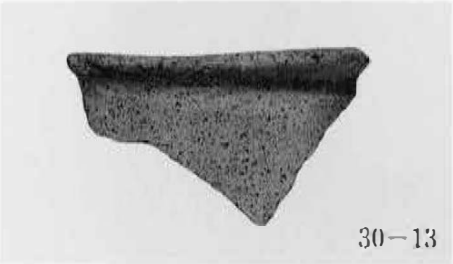
SX045完掘状況（西南から）

PL.5

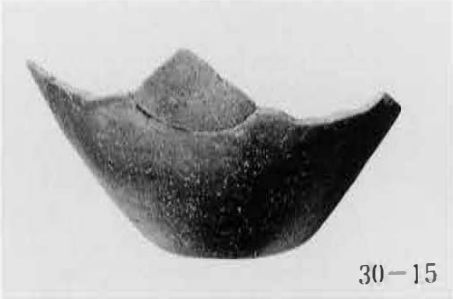

24－8

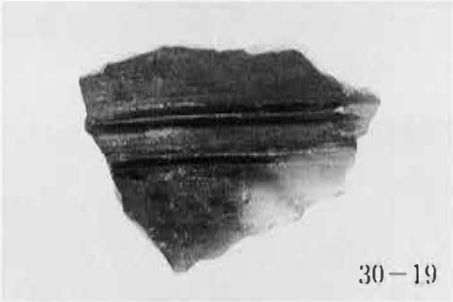

28－9

29－11


30－13

30－14


30－15

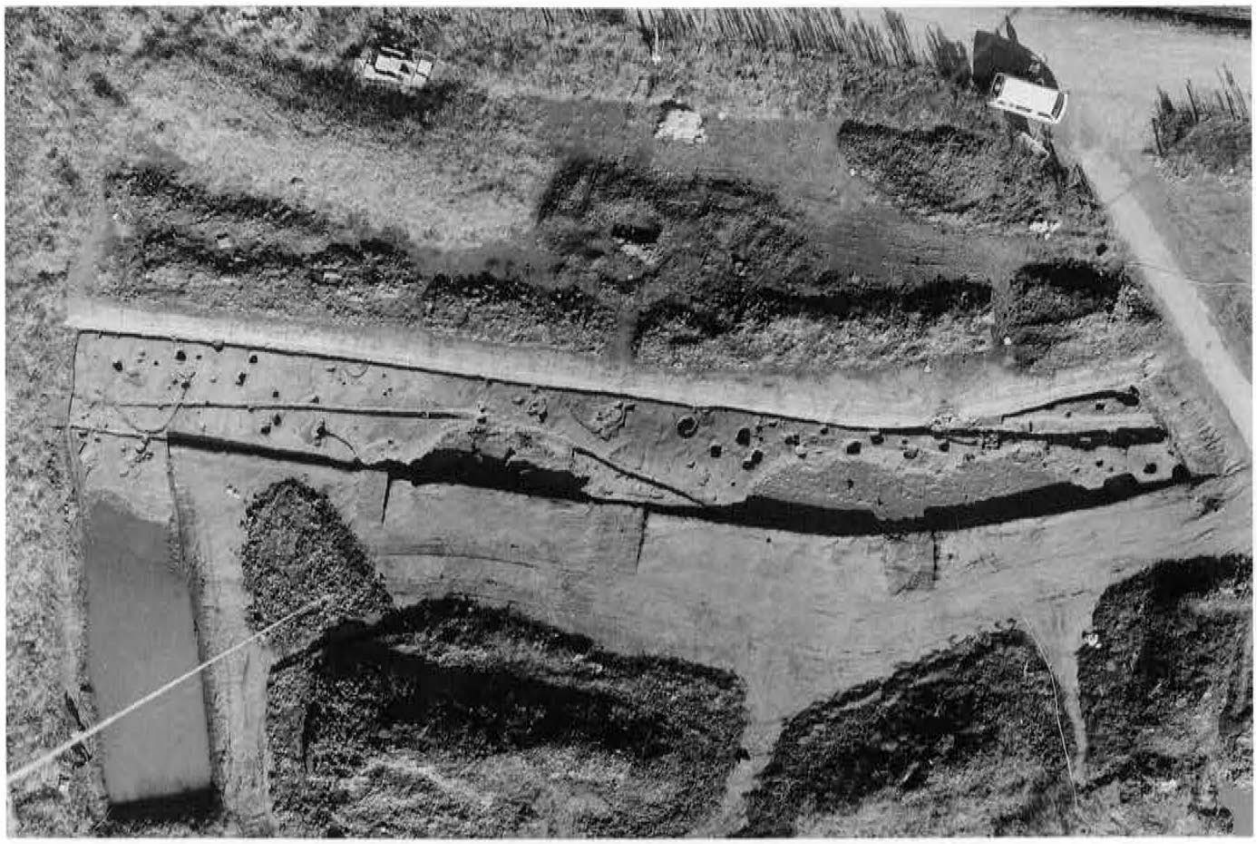

30－19

30－20

30－22

30－23

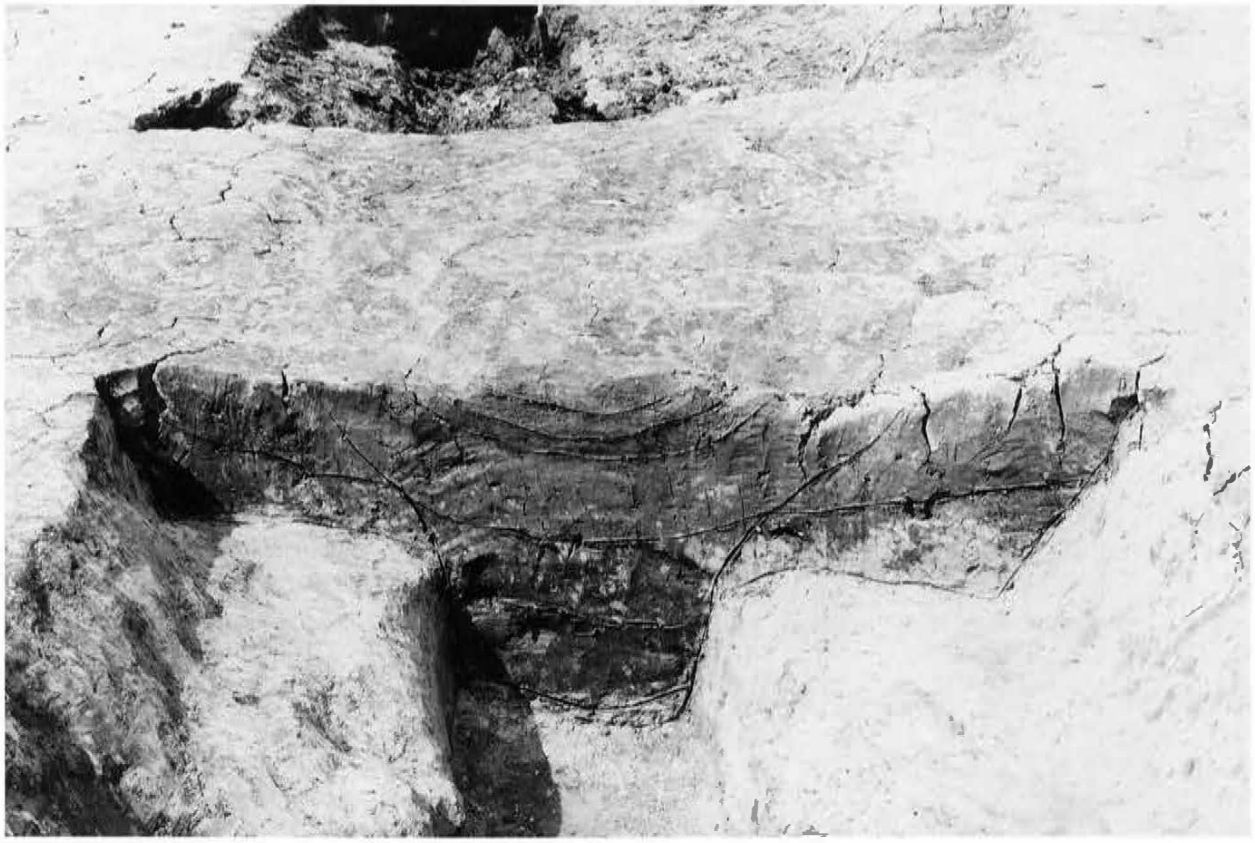
30－24



1　734-737工区　全景　（上から）

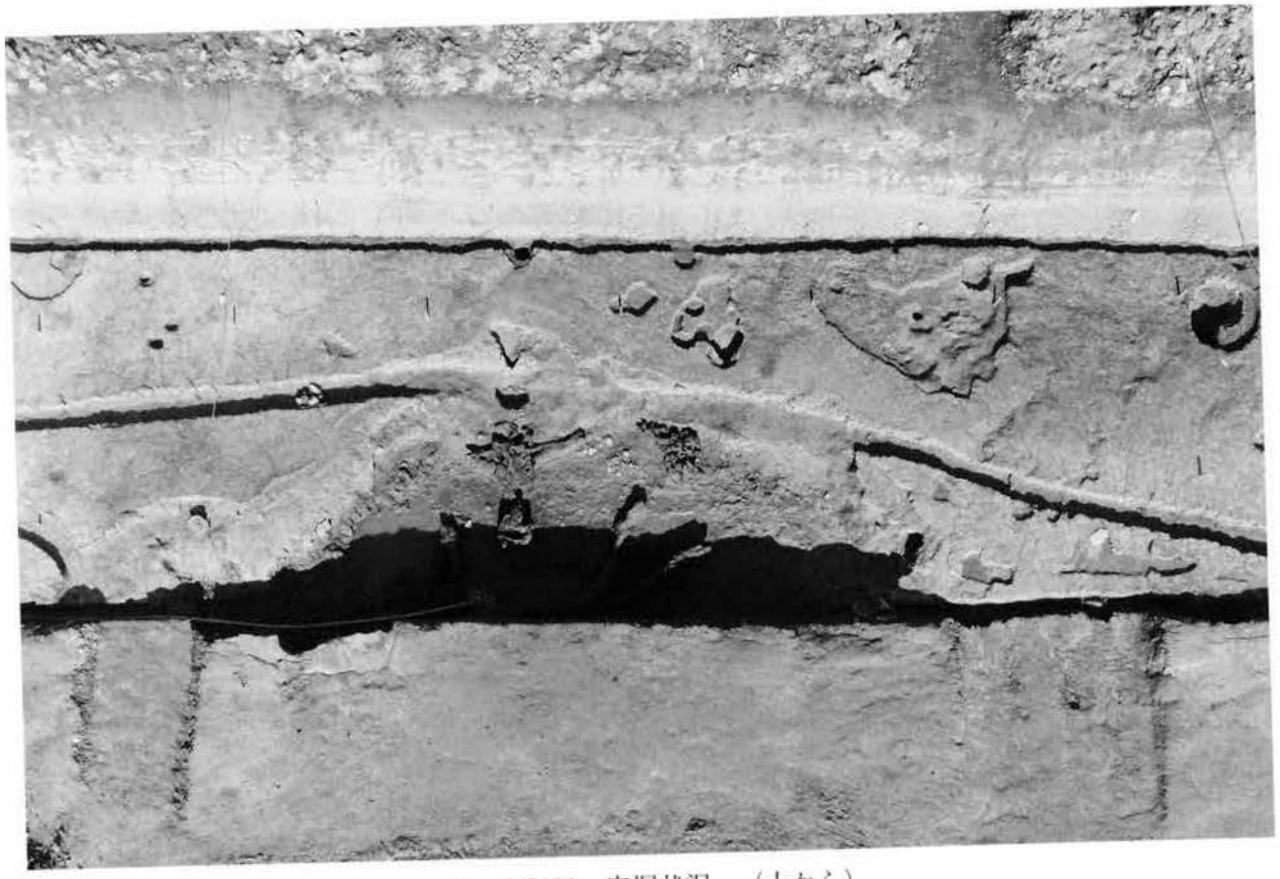
2　SB350　P140d　柱根・礎板出土状況　（北から）

1　SD130　完掘状況　（東から）



2　SD130　土層断面　（東から）

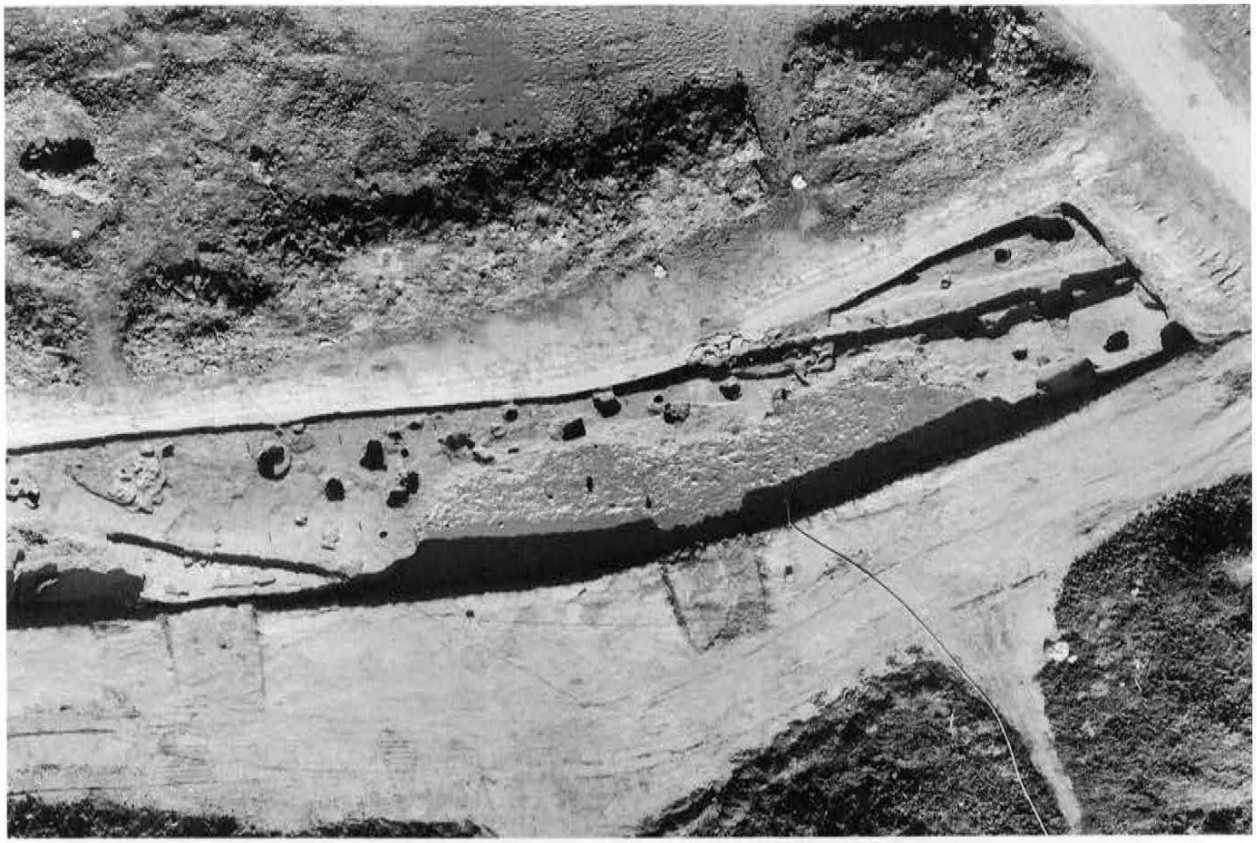
1　SD130　北側試掘部分　遺物出土状況　（北から）



2　SX100　完掘状況　（上から）

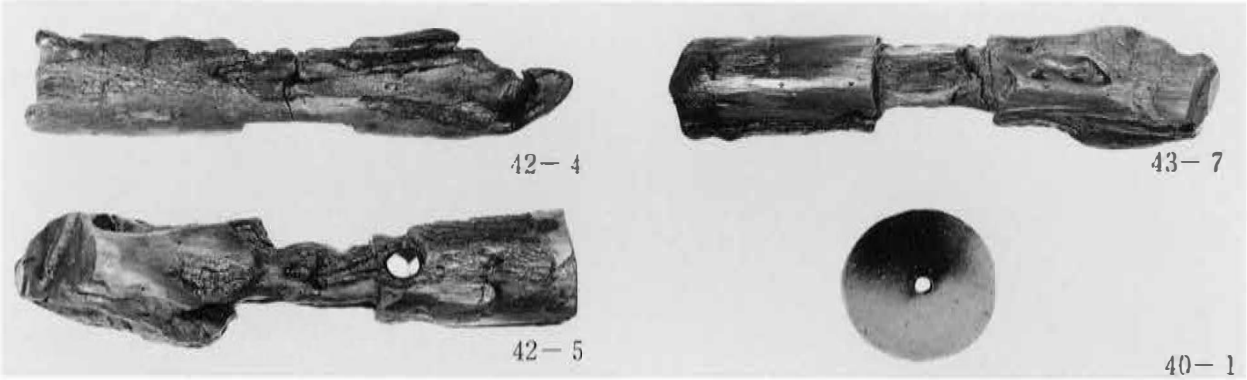
1　SX100　貯木状況　（北から）

2　SX100　貯木状況　（東から）



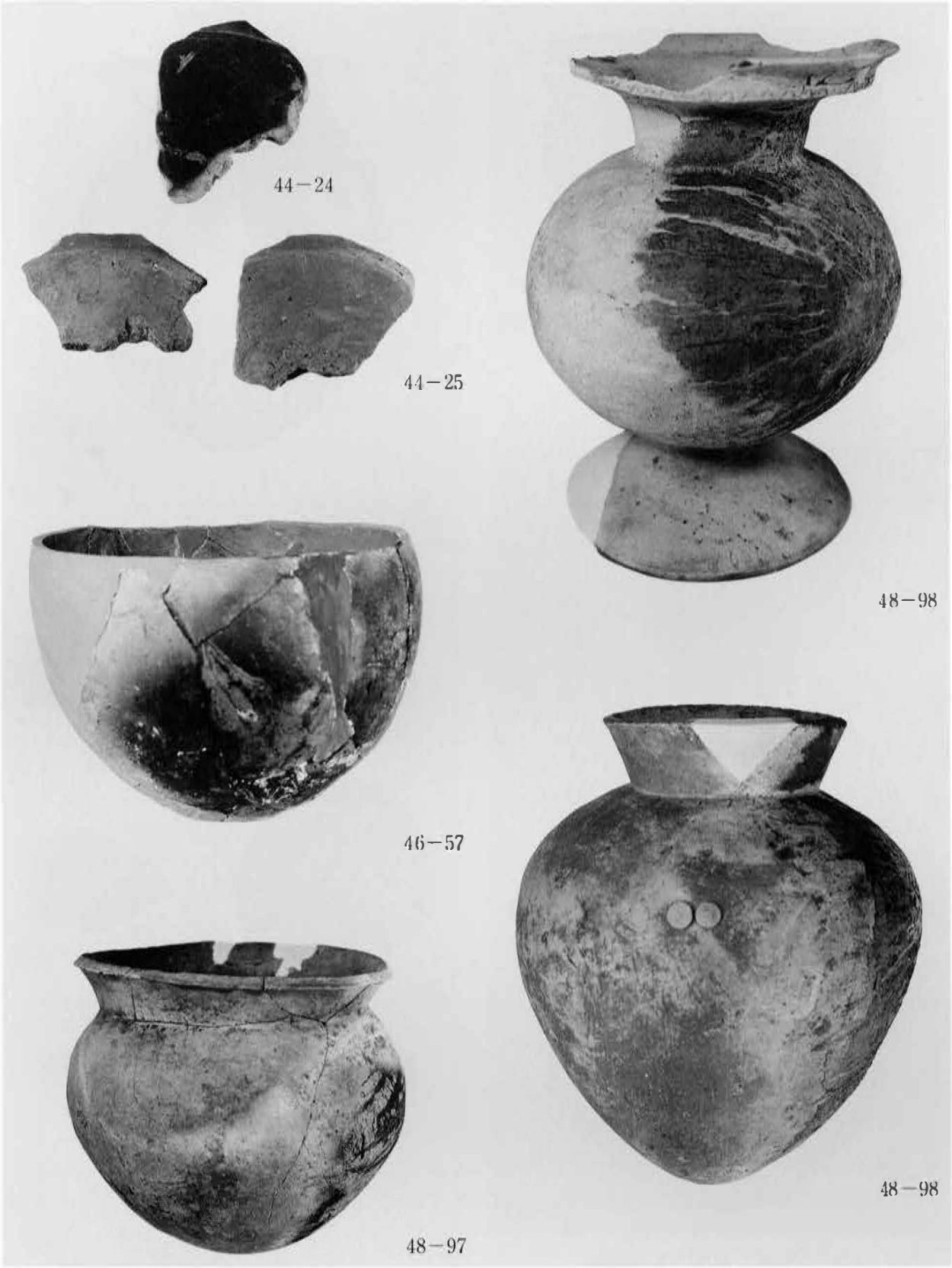
1　SX150　完掘状況　（上から）

2　SX150　東ベルト　土層断面　（西から）



1　SB350　出土遺物

2　SD130　出土遺物（1）

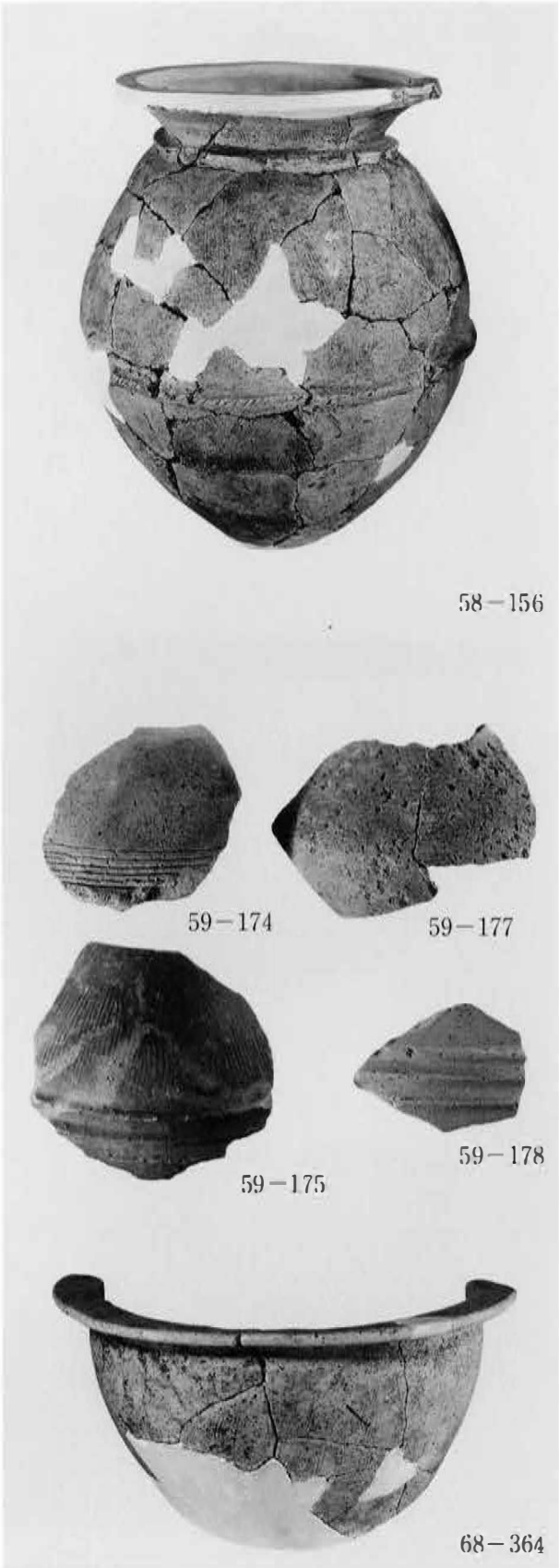


1　SD130　出土遺物　（2）

PL.13

1　SX100　I 層　出土遺物

2　SX100　II 層　出土遺物



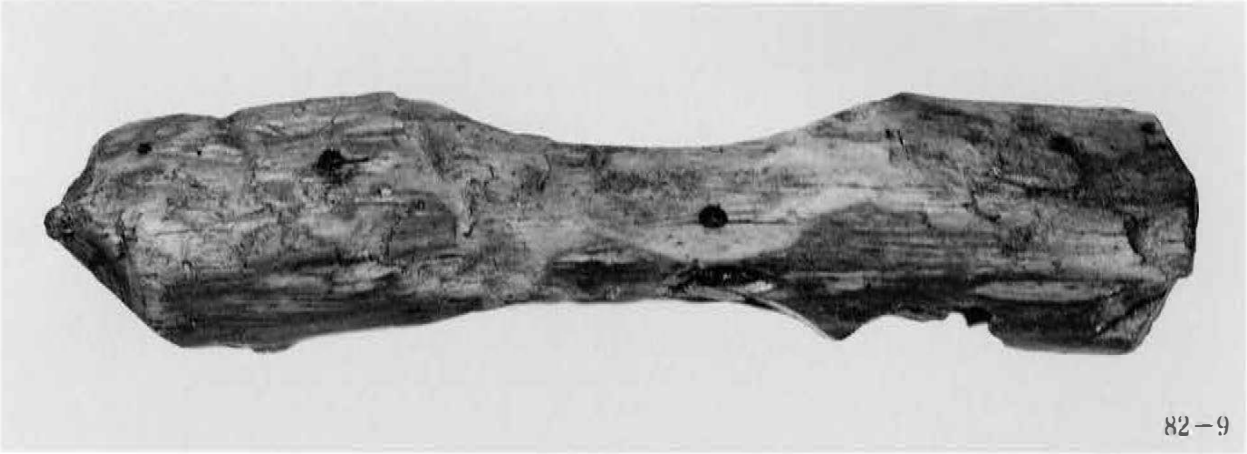
3　SX100　出土遺物　（1）

1　SX100　出土遺物　（2）

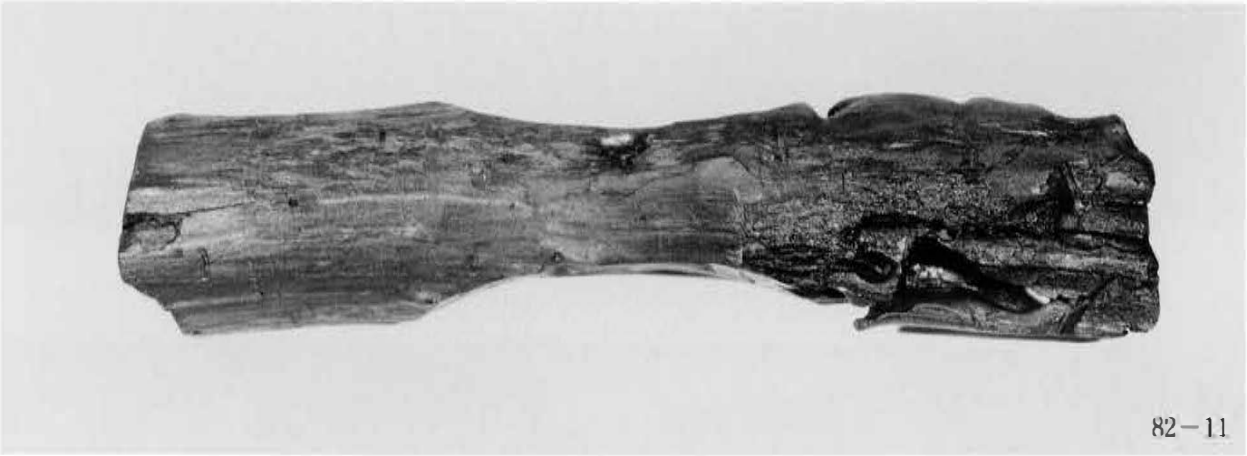
PL.15

1　SX150　I層　出土遺物

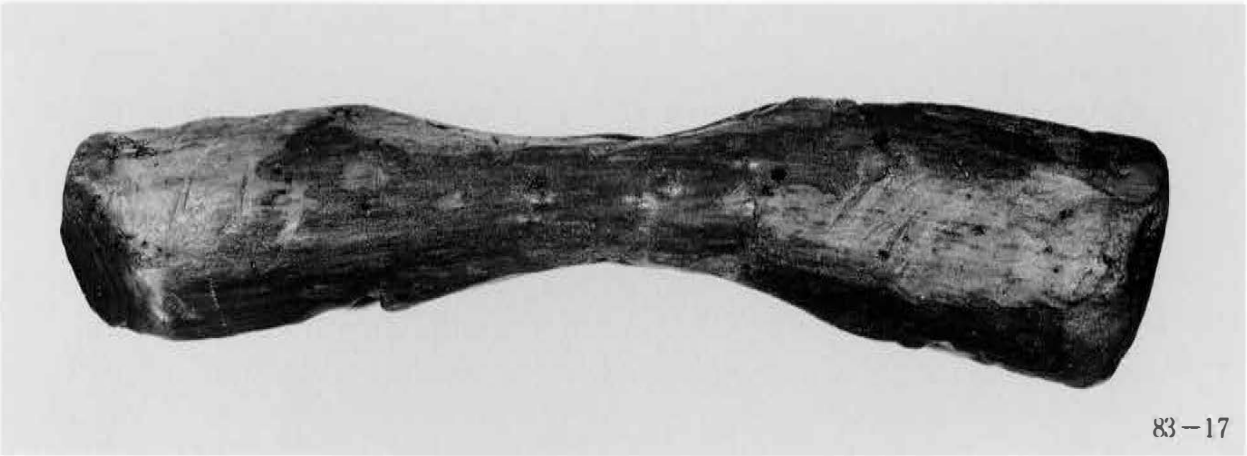
2　SX150　出土遺物



1　SP140b　出土遺物



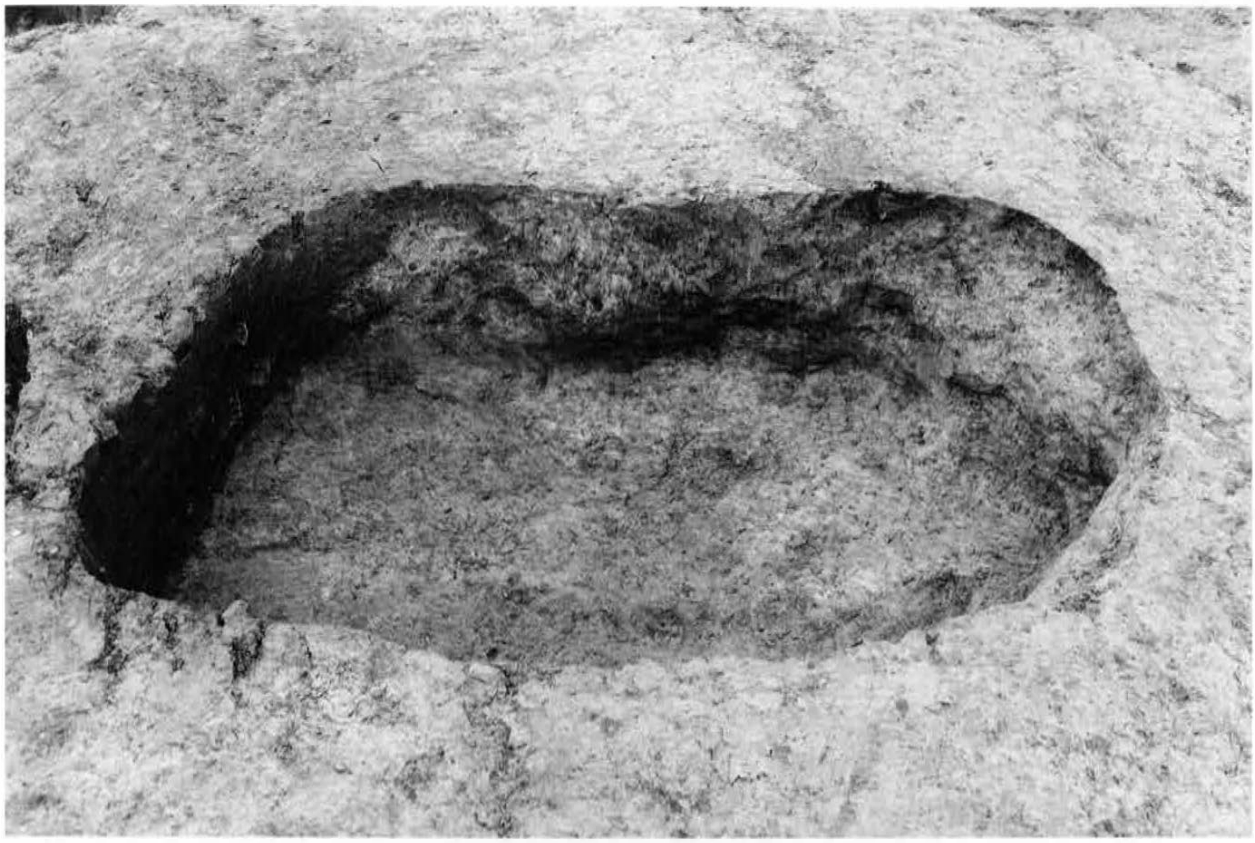
2　SP140c　出土遺物



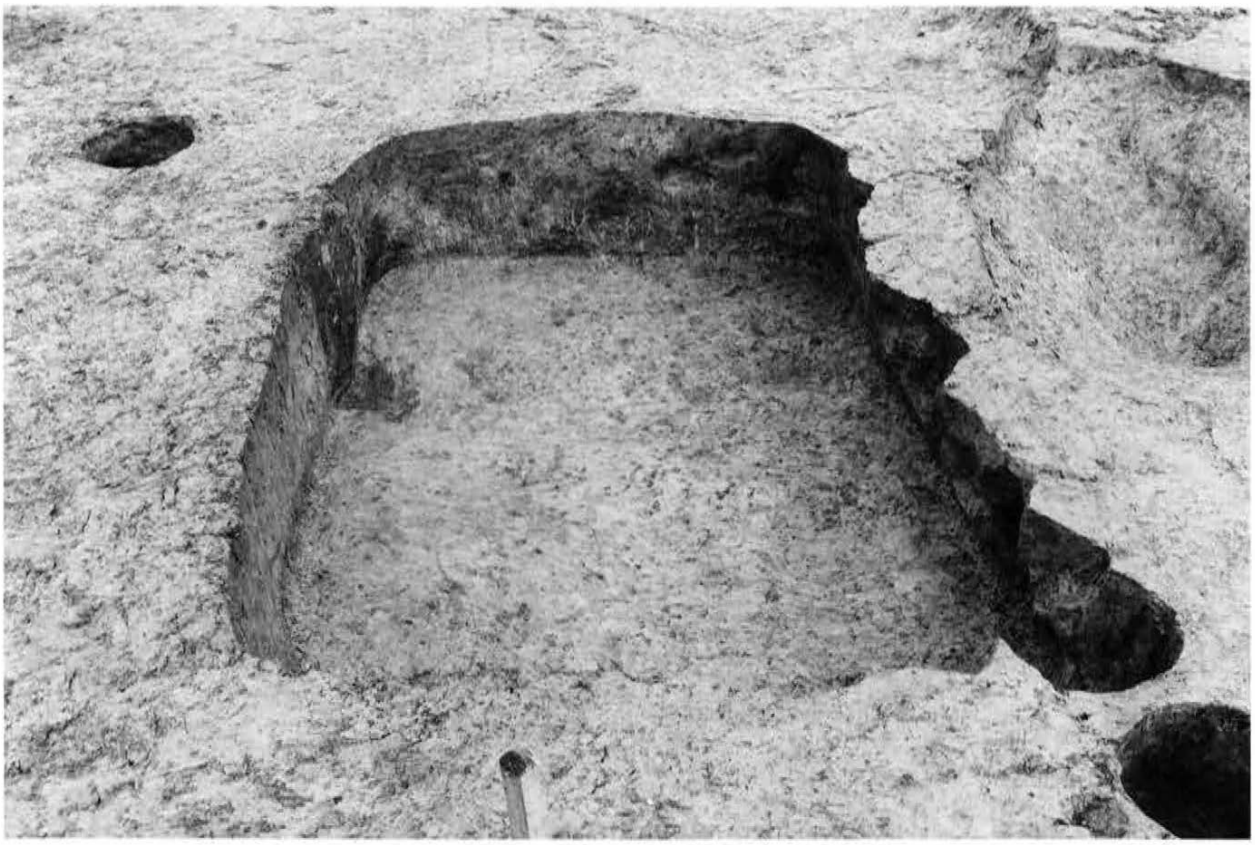
3　SP140f　出土遺物

1　737-738工区　全景　（上から）

2　SE295　木材出土状況　（南から）



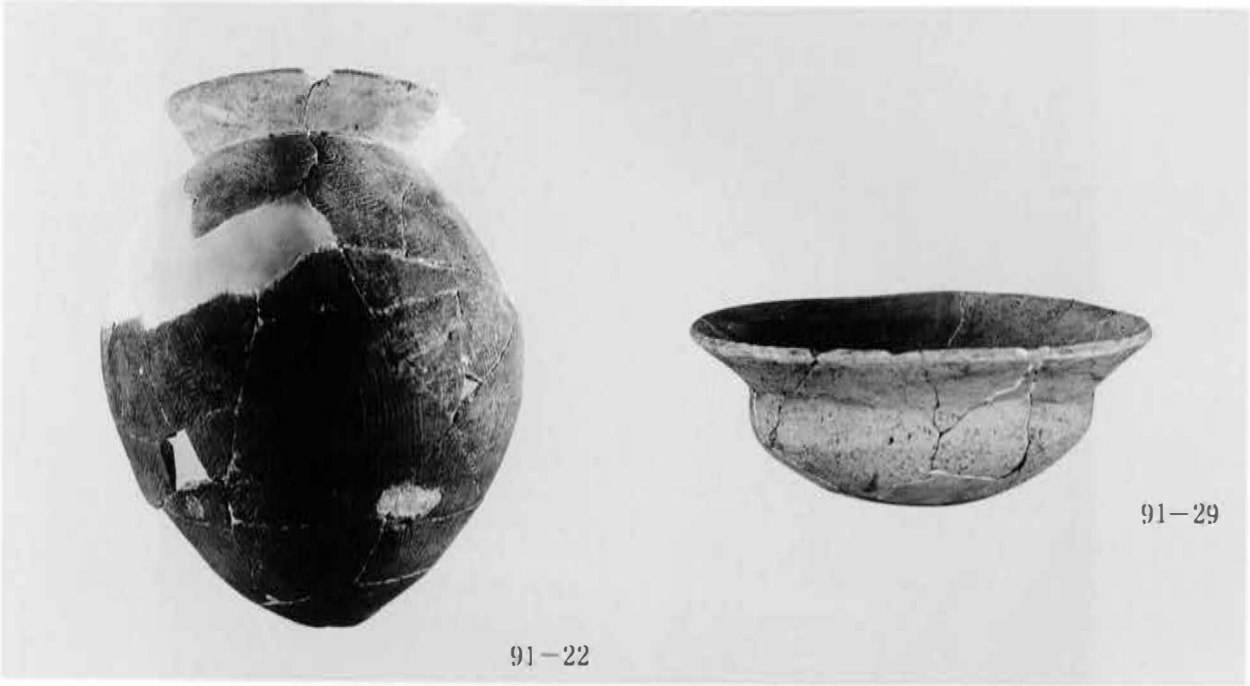
1　SE265　完掘状況　（北東から）



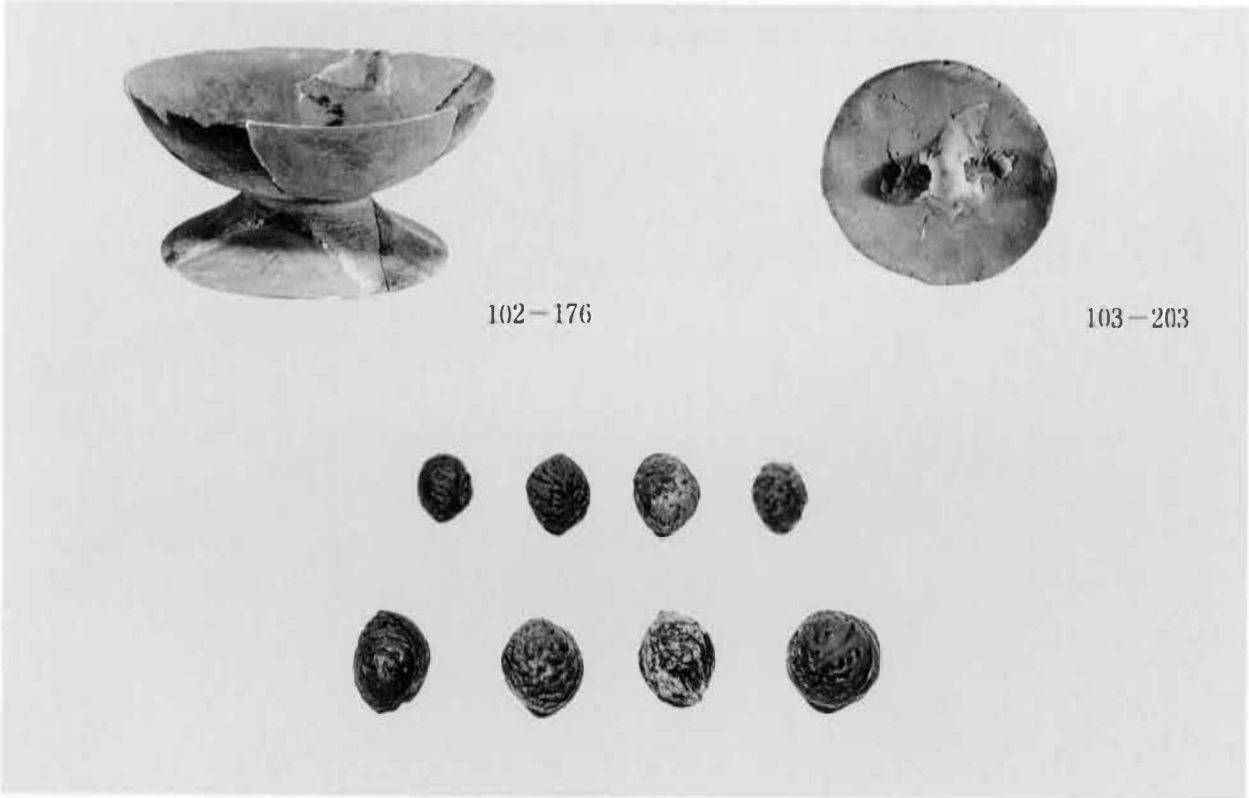
2　SE280　完掘状況　（北西から）

1　SX300　完掘状況　（上から）

2　SX300　木材出土状況　（南から）



1　SD275　出土遺物



2　SX300　出土遺物

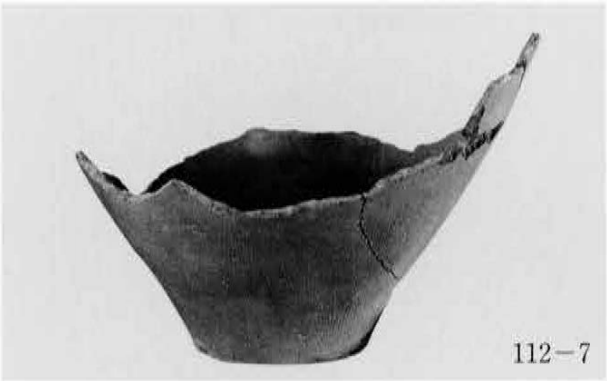
1　津島九反坪遺跡　西側調査区　南部分　全景　（上から）

2　SK233　完掘状況　（南東から）

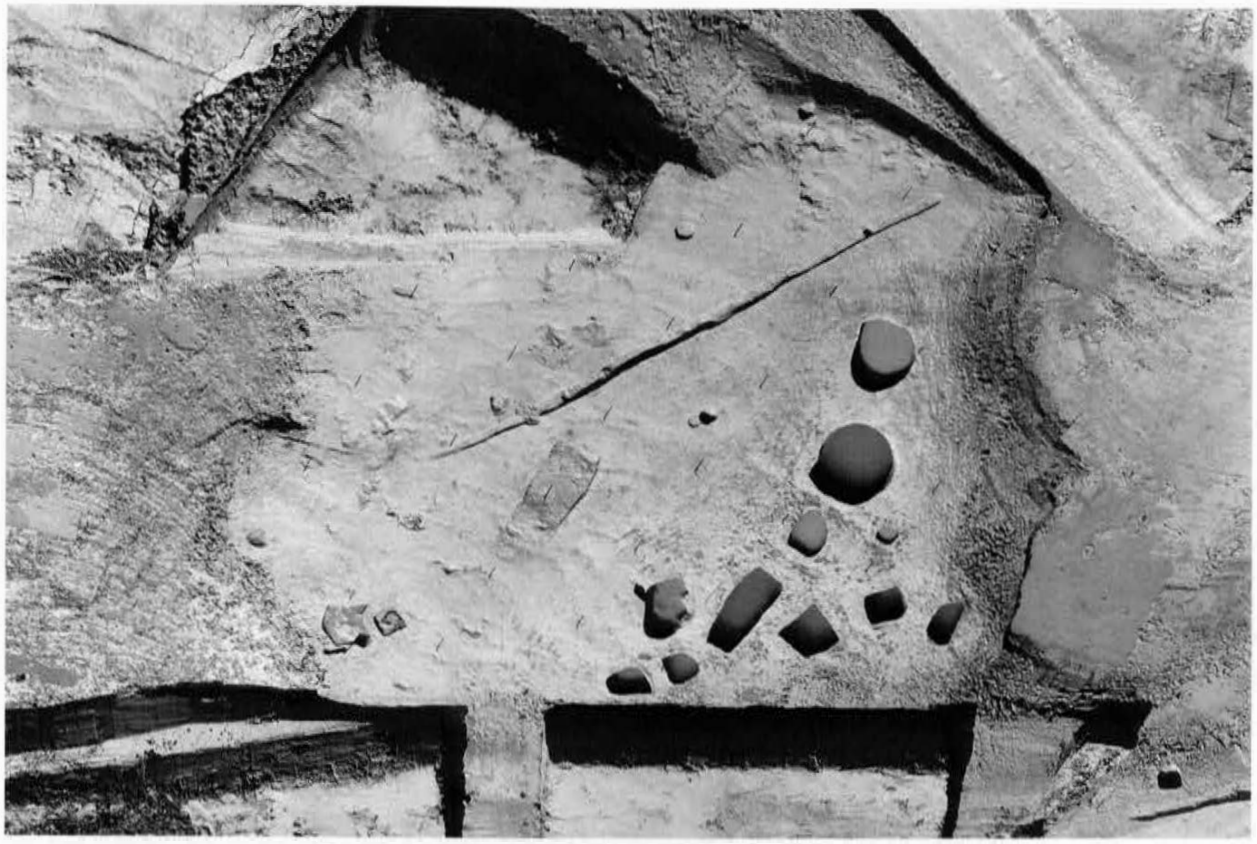
1　SK257　遺物出土状況　（北から）

2　SD190　完掘状況　（北西から）

1　SX155　完掘状況　（南東から）



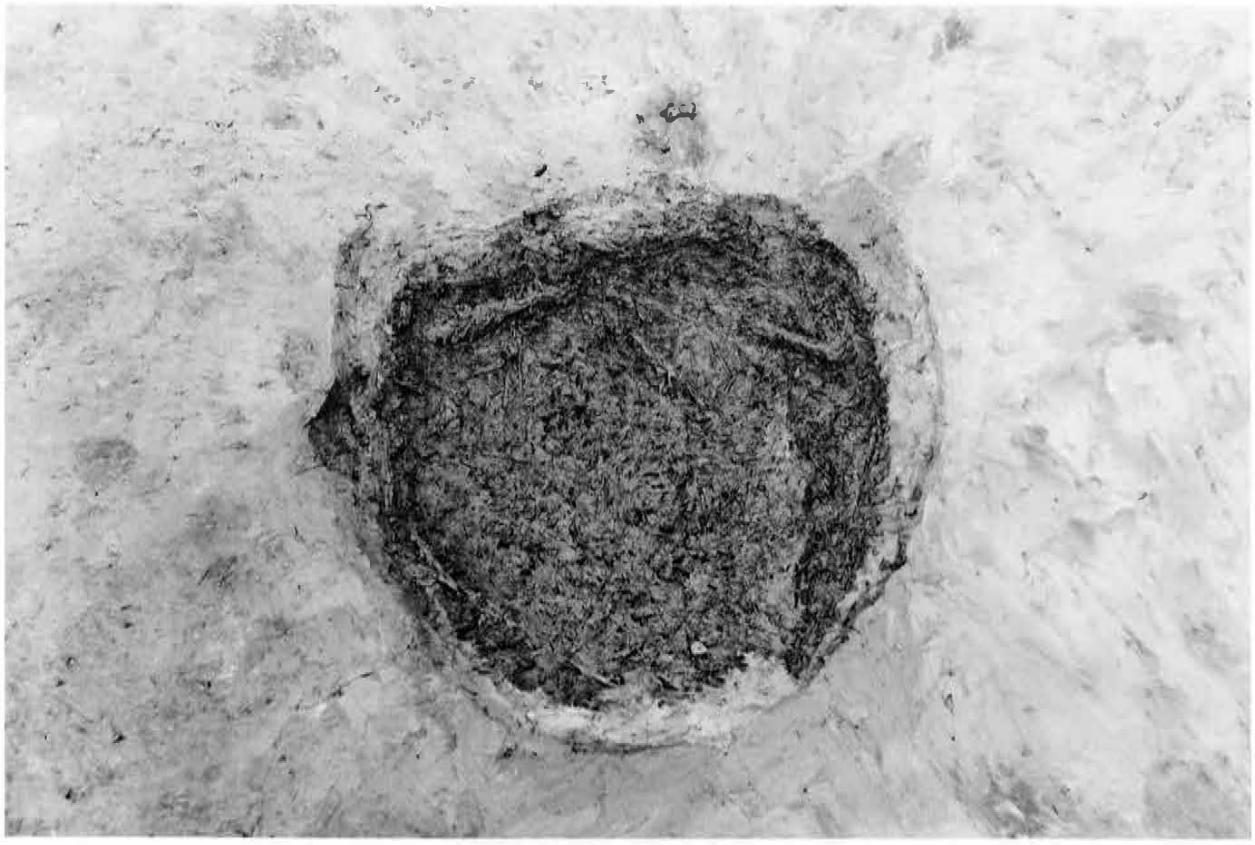
2　SK257　出土遺物



1　767-769工区　土壙群　（上から）

2　SK241　遺物出土状況

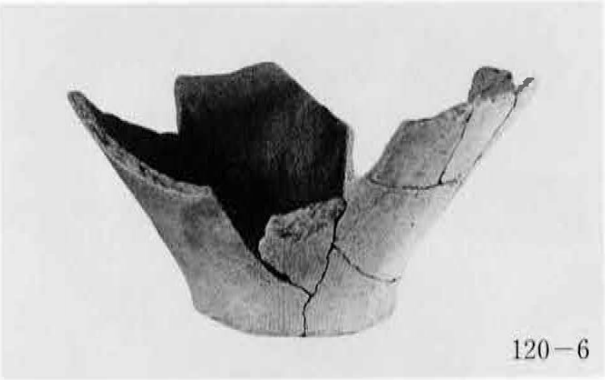
1　SK255　植物遺体出土状況（第１面）　（西から）



2　SK255　植物遺体出土状況（第２面）　（南西から）

1　SK252　焼石出土状況　（西から）

2　SK260　焼石出土状況　（北から）



1　SK235　出土遺物

2　SK262出土遺物

津島九反坪遺跡

筑後市文化財調査報告書　第42集

平成14年3月31日

発　行　筑後市教育委員会
福岡県筑後市大字山ノ井898

印　刷　大同印刷株式会社
佐賀市天神一丁目1番32号
☎(0952)24-8450㈹